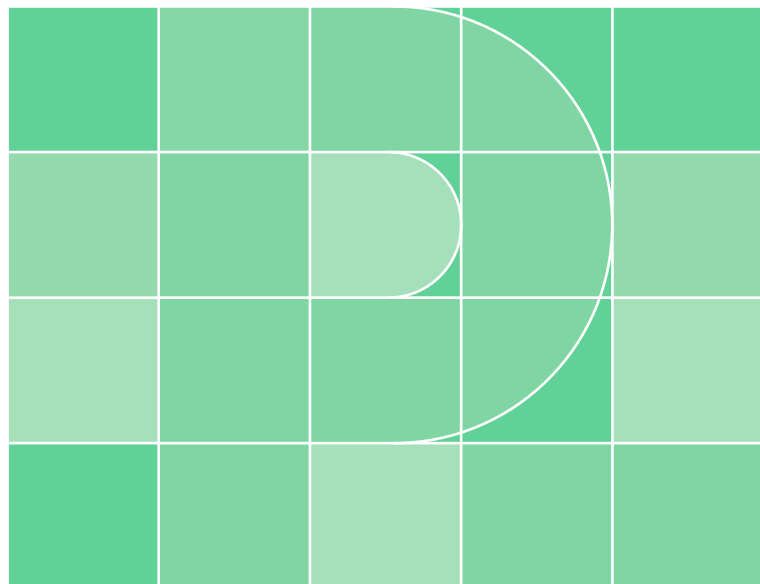


歯科補綴学 専門用語集

第6版

2023 The Glossary of
Prosthetic Terms 6th ed.

公益社団法人
日本補綴歯科学会 編



医歯薬出版株式会社

This book is originally published in Japanese
under the title of :

SHIKAHOTETUGAKU SENMON-YOUGOSYU
(The Glossary of Prosthodontic Terms)

Editor :
Japan Prosthodontic Society

© 2001 1st ed.

© 2023 6th ed.

ISHIYAKU PUBLISHERS, INC.

7-10, Honkomagome 1 chome, Bunkyo-ku,
Tokyo 113-8612, Japan

歯科補綴学専門用語集

目次

「歯科補綴学専門用語集 第6版」の発刊に寄せて	— ii
第6版 序	— iv
「歯科補綴学専門用語集 第5版」の発刊に寄せて	— vi
第5版 序	— viii
「歯科補綴学専門用語集 第4版」の発刊に寄せて	— x
第4版 序	— xii
「歯科補綴学専門用語集 第3版」の発刊に寄せて	— xiv
第3版 序	— xvi
歯科補綴学専門用語集の第2版の発刊に寄せて	— xviii
改訂版 序	— xx
歯科補綴学専門用語集の発刊に寄せて(初版)	— xxii
序(初版)	— xxiii
執筆者一覧	— xxvi
凡例	— xxix
歯科補綴学専門用語	— 1
同義語一覧	— 120
日本語索引	— 135
外国語索引	— 175
人名索引	— 191

「歯科補綴学専門用語集 第6版」の発刊に寄せて

ここに、公益社団法人日本補綴歯科学会による「歯科補綴学専門用語集 第6版」が上梓されました。この「歯科補綴学専門用語集」は2001年に第1版が刊行されて以来、ほぼ4年毎に改訂され、22年を経て本年「第6版」が無事発行されたこととなります。まずは、多大なご尽力をいただきました近藤尚知用語検討委員会委員長をはじめとする委員会委員の諸先生方へ感謝を申し上げます。

今期の用語検討委員会は、公益社団法人としての社会貢献と本会が推進するデジタル・トランスフォーメーションの一環として、新たな試みとして2019年に発行された「歯科補綴学専門用語集 第5版」の電子化を行い、2022年1月には同用語集のPDF版を学会ホームページ (<https://hotetsu.com/>) に公開しました。無料ダウンロードできるため歯学部学生、歯科領域の研究者、臨床家、教育者は言うに及ばず一般市民の皆様にも自由に参照して頂いております。

さらに新たな試みとして、この「第6版」は製本された書籍の販売と同時に学会ホームページ (<https://hotetsu.com/>) よりPDF版を無料ダウンロードすることが可能となっております。つまり、最新版の用語集が発行直後からどなたにでも参照頂けるようになりました。本件についても利用者の利便性を鑑みて用語検討委員会から提案され学会として決定いたしました。書籍としての販売数はかなり少なくなりますので、学会としての予算措置を講じております。会員の皆様のご理解には心より感謝申し上げます。

前述のように日本補綴歯科学会による「歯科補綴学専門用語集」の歴史は古く、他の歯科学会に先駆けて整備され、定期的に改訂を重ねてきましたが、常に、歯科医学教育要項、歯科医師国家試験出題基準、歯学教育モデル・コア・カリキュラム等で公的に使用されてきております。「第1版」で述べられているように言葉は生き物です。学術用語とはいえ補綴歯科の多様性や進化に伴い専門用語も常に変化し続けております。この度の改訂でも、現在では使用頻度が低くなった用語を削除し、歯科補綴分野において使用頻度が増え重要度が増したデジタル歯科、口腔インプラント、摂食嚥下リハビリテーション領域の用語を新たに収載しました。今回の近藤先生を委員長とする用語検討委員会により実現した出版形態が定着すれば今後改訂作業において細かな対応が可能になると期待しております。会員の皆様におかれましては本専門用語集をさらに利用価値の高いものにするために是非ご利用していただき引き続きご意見を頂戴できれば幸いと存じます。

最後に、「歯科補綴学専門用語集 第6版」の完成に向けてご尽力いただいた用語検討委員会の関係者、またパブリックコメントを積極的に寄せてくださった多くの皆様にもう一度深く感謝を申し上げて、結びとさせていただきます。

2023年3月

公益社団法人日本補綴歯科学会

理事長 馬場一美

第6版 序

2019年に発刊された「歯科補綴学専門用語集第5版」は、米国のAcademy of ProsthodonticsのThe Glossary of Prosthodontic Terms: Ninth Edition (GPT-9)に準拠した非常に完成度の高い用語集であり、今回の改訂はGPT-10の発行後と考えていました。一方で、馬場一美理事長の掲げる“デジタルトランスフォーメーション”というキーワードに後押しされ、歯科補綴学の潮流は急速に方向を変えつつあり、専門用語集にも変革の時がきたことを感じ、用語検討委員会の委員一同、限られた時間の中で、全力で改訂作業にあたりました。

今回の「歯科補綴学専門用語集」の改訂にあたり、新たな取り組みとして、用語集のPDF版発刊を検討しました。そのトライアルとして、現行の第5版のPDF版をホームページ上に掲載したところ、ソフトウェア上での検索機能が使用できることから、目的の用語を検索するスピードが格段に上がり、かなり好評でした。この結果を受け、委員長会と理事会でさらなる検討が行われ、第6版はPDF版も冊子と同時に発刊されることとなりました。また、馬場一美理事長の英断により、PDF版は日本補綴歯科学会公式ホームページから、無料ダウンロードすることも可能となりました。日本補綴歯科学会が、社会貢献をひとつの大きな目的としていること、そして本学会のプレゼンスを示すという観点からも、この取り組みの意義は大きいと考えます。

具体的な改訂の内容は、各領域のトレンドを鑑みながら、デジタルデンティストリー、インプラント、摂食嚥下リハビリテーション、顎顔面補綴等の領域の用語を充実させるべく、数多くの関連用語を新規収載しました。また、会員の先生方から頂いたパブリックコメントを参考に、現行の用語についても、修正を行いました。とりわけGPT-9との整合性をとるために、多くの時間を割きました。そのような過程を経て完成した「歯科補綴学専門用語集第6版」は、内容はもとより利便性の点からも、より完成度の高い専門用語集となったものと委員一同、自負しております。また、歯科補綴学の益々の発展に貢献できることを祈念しております。

末筆となりましたが、膨大な数のパブリックコメントを寄せてくださったボランティア精神にあふれる会員の先生方、新規用語の執筆ならびに現行用語の改訂にご協力いただいた先生方に深甚なる感謝の意を表します。

2023 年 3 月
公益社団法人日本補綴歯科学会
用語検討委員会 委員長 近藤尚知

2021～2022 年度 用語検討委員会

委員長 近藤 尚知
副委員長 古屋 純一
委員 古地 美佳
羽鳥 弘毅
村上 格
吉岡 文
幹事 高藤 恭子

2019～2020 年度 用語検討委員会

委員長 岡崎 定司
副委員長 鱒見 進一
委員 北川 昇
古地 美佳
村上 格
横山 正起
幹事 山本さつき

「歯科補綴学専門用語集 第5版」の発刊に寄せて

ここに、公益社団法人日本補綴歯科学会による『歯科補綴学専門用語集 第5版』が上梓されました。この『歯科補綴学専門用語集』は2001年に第1版が刊行されて以来、ほぼ4年毎に改訂され、18年を経て本年、第5版が無事発行されました。まずは、多大なご尽力をいただきました西村正宏用語検討委員会委員長をはじめとする委員会委員の諸先生方へ感謝を申し上げます。同時にこの第5版は、松村英雄前理事長期の南 弘之前委員長とその委員会の活動の上にてできあがったものであることも忘れてはなりません。

学術用語は学問に関する事柄を記述するために用いられる用語ですが、その定義がはっきりしていなければ、議論を進める上でも、論理を展開し結論を導く上でも、相手に理解させる上でも、支障が出てきます。したがって、学術用語の制定は学問の質を向上させるためには非常に重要な意味を持ちます。

日本補綴歯科学会による『歯科補綴学専門用語集』は、他の歯科学会に先駆けて整備されてきました。一方、様々な用語集、基準、指針などが制定されておりますが、歯科補綴学関連用語においては、本専門用語集が最上流に位置するものであり、またそれを担保するだけの学会、委員会の見識と努力により編集が進められてきたものと信じております。

この度の改訂では、3つのことを柱としました。1つ目は前版の英語表記に対応させた The Glossary of Prosthodontic Terms Eighth edition (GPT-8) が改訂されており、新版である Ninth Edition (GPT-9) との整合を取ることでした。2つ目に補綴歯科領域の拡大に伴い摂食嚥下、CAD/CAM、インプラント、再生の用語を充実させたことでした。補綴歯科の多様性を考えれば、用語の数はどんどん膨れあがるわけで、出版における用語数の制限と用語の充実の狭間で委員会は苦労されたと思います。3つ目にこれまでの用語についても、学問の進歩の観点からその解釈を再度見直したことです。

これまでも何度も述べられてきたように、言葉、用語は生き物といわれており、時代とともにその定義も用語も変わっていくことは避けられません。そのために診療ガイドラインと同様に、定期的な改訂が必要です。GPT-9も大きく変わっており、戸惑うことも多くあったと聞いております。

会員の皆様におかれましては、本専門用語集をさらに利用価値の高いものにするために是非熟読していただき、引き続きご意見を頂戴できれば幸いと存じます。

最後に、『歯科補綴学専門用語集 第5版』の完成に向けてご尽力いただいた2代にわたる用語検討委員会の関係者にもう一度深く感謝を申し上げて、結びとさせていただきます。

2019年3月
公益社団法人日本補綴歯科学会
理事長 市川哲雄

第5版 序

『歯科補綴学専門用語集 第5版』を出版するにあたり、本改訂版の作業過程とその背景についてご説明いたします。

本改訂は市川哲雄理事長のご指示の下、①国際的観点に立って“The Glossary of Prosthodontic Terms (GPT)”との整合性をとること、②高齢者歯科学、摂食嚥下リハビリテーション学、デジタル歯科学、歯科インプラント学等、歯科補綴学の学問領域の拡大に伴って広がった守備範囲を網羅するための用語を追加すること、③用語は生き物と言われ、学問の発展とともにその定義も用語そのものも変化していくものであることから、一つひとつの用語の定義についても改めて見直すこと、の大きく3点を念頭に作業にあたりました。

まず前委員会（南 弘之委員長）からは、多くの要追加、要削除用語とGPT-8との和英対比ファイルを引き継ぎました。今回の改訂では国家試験や共用試験の出題基準、最近改訂された教科書内の用語との整合性をとることに配慮いたしました。時期を同じくして、『日本歯科医学会学術用語集』の改訂作業が進んでいたことから、今回の改訂においては、『日本歯科医学会学術用語集』の用語選定にも目を配る必要性が生じました。しかし一方で、他の基準に迎合して補綴の矜持を忘れることのないよう、あくまで本用語集が歯科補綴学の最上流に位置することを念頭に、特に用語の選定には慎重を期しました。前述のGPTは米国のThe Academy of Prosthodonticsが編纂している用語集ですが、これがちょうど委員会を引き継いだ2017年5月に第8版から第9版(GPT-9)として改訂されたことから、改めて委員全員でGPT-9との整合性を確認、反映する作業も行いました。続いて本社員に対してパブリックコメントを広く募集して内容を整理後、一つひとつの用語の定義について各専門家に再検討を依頼して内容の精緻化を進めました。最後にもう一度パブリックコメントを求め、集まったご意見を元に委員会内で修正を行いました。幹事の村上 格先生には多くの意見の集約、関連用語の整合性の修正、索引用語の抽出等において本当に多くの仕事をしていただきました。また医歯薬出版編集部には緻密な編集作業をしていただき感謝申し上げます。

上記の作業は本委員会と前委員会の4年間の作業によって行われたことから、両委員会でご尽力いただいた先生方に感謝申し上げます。特に精力的に編集作業にあたっていただいた本委員会の委員各位と、大所高所から温かく見守っていただいた市川理事長に深く御礼申し上げます。

また今回の改訂作業に際しては、多くの社員と各分野の専門家の御協力を賜ったことに深甚なる感謝を申し上げます。

この『歯科補綴学専門用語集 第5版』が本学会はじめ、歯科界で活躍する皆様に広く活用されることを願っております。

2019年3月

公益社団法人日本補綴歯科学会
用語検討委員会 委員長 西村正宏

2017～2018年度 用語検討委員会

委員長 西村 正宏
副委員長 岡崎 定司
委員 木本 克彦
木本 統
秋葉 陽介
古地 美佳
幹事 村上 格

2015～2016年度 用語検討委員会

委員長 南 弘之
副委員長 黒岩 昭弘
委員 岡崎 定司
川口 智弘
鬼原 英道
古地 美佳
幹事 村原 貞昭

「歯科補綴学専門用語集 第4版」の発刊に寄せて

歯科補綴学専門用語集は2001年に第1版が刊行され、その後2004年に第2版、2009年に第3版が発刊されました。それぞれの版の序文に述べられているように、歯科補綴学専門用語集の刊行は日本補綴歯科学会に置かれた歴代の用語検討委員会が中心となって進められてきました。今回の第4版の出版にあっても、これまでと同様に第3版の刊行後すぐに用語検討委員会において改訂に向けて準備が進められました。すなわち、2009-2010年期には佐々木啓一理事長・魚島勝美用語検討委員会委員長のもので、2011-2012年期には古谷野潔理事長・二川浩樹用語検討委員会委員長のもので改訂作業が進められ、さらに2013-2014年期には佐藤 亨用語検討委員会委員長を中心に精力的に改訂作業が推し進められ、その強力なリーダーシップの下でついに改訂作業が完了し、6年ぶりによく第4版の刊行を迎えることができました。まずは、佐藤委員長ならびに用語検討委員会の諸先生方に満腔の謝意を表したいと思います。

私が公益社団法人日本補綴歯科学会理事長を拝命するにあたりまして佐藤亨用語検討委員会委員長に依頼したことは、高齢者に対する歯科補綴に関する用語の充実を図ることおよび年々進む国際化に対応するため用語の英語表記をできるだけThe Glossary of Prosthodontic Terms Eighth Edition (GPT-8)と整合させることの2点でした。超高齢社会となった我が国では今後ますます高齢者や全身疾患をもつ者の増加が見込まれることから、この領域に関連した歯科補綴学用語を新たに加えるとともに英語表記は常にGPT-8に掲載されている用語とその定義を参考に修正を加えていただきました。

学術用語は、その学問分野の発展に欠かせないツールとなるものであり、専門用語集の果たす役割はきわめて大きいと言えます。さらに歯科領域における専門用語集は、我が国における歯学教育の根幹をなす歯科医学教授要綱、歯学教育モデル・コア・カリキュラムおよび歯科医師国家試験出題基準の3つで使用される学術用語のソースとなる役割も担っています。私も今期の用語検討委員会にはほぼ出席させていただき、その責任の重さを双肩に感じながら改訂作業を微力ながらお手伝いさせていただいたことを大変にうれしく思います。

用語はまさに生き物であり、時代の変化とともに使用される学術用語も変わっていくことが予想されます。したがって、専門用語集の編纂には終わりはありません。この第4版の発行の後もし引き続き用語検討委員会において第5版

の作成に向けて活動を開始していただかなければなりません。会員諸氏におかれましては、本専門用語集をさらに利用価値の高いものにするために引き続きご意見を頂戴できれば幸いと存じます。

最後に、歯科補綴学専門用語集第4版の完成に向けてご尽力いただいた3代にわたる用語検討委員会諸氏にもう一度厚く感謝を申し上げて結びとさせていただきます。

2015年1月
公益社団法人日本補綴歯科学会
理事長 矢谷博文

第4版序

歯科補綴学専門用語集第3版1刷は2009年3月に発行、2013年2月には5刷が発行され、当該学術分野に不可欠な専門用語集として利用されてきました。

矢谷博文理事長の「出版に寄せて」にもありますとおり第3版1刷発刊後、魚島勝美委員長（2009-2010年度）、二川浩樹委員長（2011-2012年度）のもと改訂作業が進められ、2013年度に発足しました本委員会において第4版を発刊する運びとなりました。

今回の改訂作業の原則は第2版、第3版と同じですが、あわせて矢谷理事長からの「高齢者への歯科補綴学治療に関する用語の充実を図る」、「英語表記をできるだけ The Glossary of Prosthodontic Terms Eight Edition (GPT-8) に整合させる」というご指示のもと、第4版の改訂作業を行いました。

本委員会で実施した主な改訂編集作業は以下の通りです。

1) 第3版の照査

「解説用語は簡潔かつ的確に体言止めで表記」「歯科補綴専門医レベルまでの専門用語の解説」を基本原則として、用語とその解説の確認修正を行いました。併せて第3版における表現、関連用語との整合性等について再検討を行いました。

また英語表記をできるだけ The Glossary of Prosthodontic Terms Eight Edition (GPT-8) と整合させました。

2) 新規採用用語の追加

前委員会から引き継いだ新規採用用語案の確認と協議を行い、これらについて本学会代議員に対してパブリックコメントを求め、新規採用用語および解説文を作成しました。また、既記載用語との統一性、整合性を取るべく、既記載用語の見直しを行いました。

3) 同義語、索引の整理

同義語、索引に新規採用用語を含めるとともに、それらの確認、修正を行いました。

上記の作業は委員長・委員の交代を経つつ6年間の長きにわたり引き継がれて行われて参りました。歴代の委員長であります魚島勝美先生、二川浩樹先生と、そのもとで作業にあられた委員の御努力に報いることができましたことを嬉しく存じますとともに、感謝申し上げます。また、精力的に編集作業に取り組んでくださいました本委員会の委員各位と、絶えず御指導いただきました矢谷博文理事長に深く御礼申し上げます。

また今回の改訂作業に際して、多くの会員の皆様の御協力を賜り、また、沢山の御意見・御指摘を頂戴しました。ここに、深甚なる感謝を申し上げます。

最後に発刊にあたり多大な便宜を図っていただいた医歯薬出版株式会社関係各位に厚く御礼申し上げます。

2015年1月

公益社団法人日本補綴歯科学会

用語検討委員長 佐藤 亨 記

公益社団法人日本補綴歯科学会 用語検討委員会

2013年度～2014年度委員

委員長 佐藤 亨

副委員長 越野 寿

委員 萩原 芳幸

佐藤 利英

田上 直美

幹事 野本俊太郎

2011年度～2012年度委員

委員長 二川浩樹

副委員長 岡崎定司

委員 隅田由香

萩原芳幸

松山美和

幹事 玉本光弘

2009年度～2010年度委員

委員長 魚島勝美

副委員長 前田芳信

委員 小出 馨

塩山 司

谷口 尚

幹事 富塚 健

「歯科補綴学専門用語集 第3版」の発刊に寄せて

ここに、われわれの社団法人日本補綴歯科学会による標記書籍が上梓されました。先ずは、多大なご尽力をいただきました谷口 尚・用語検討委員会委員長をはじめとする委員会委員の諸先生へ感謝を申し上げます。

本学会における用語の整理は1980年代の半ばに開始されました。そして1997年4月、小林義典・会長、田中貴信・用語検討委員会委員長のもとで「歯科補綴学専門用語集」の発刊へ向けての作業が開始されました。当時の200名を超える評議員に対するアンケート調査を踏まえて、2001年2月に田中久敏・会長、田中貴信・委員長（2期連続担当）のもとで、医歯薬出版株式会社から「第1版」が発行されました。これは、数千語の中から歯科補綴学の専門用語として使用される719語を厳選し、専門学会として明確な解説を加えた140頁からなる書籍でした。その後、2003年2月に川添堯彬・会長、井上 宏・委員長のもとで、101語を収録した小冊子「歯科補綴学専門用語集—疾患・病名・検査編」が発行され、2004年10月に大山喬史・理事長、田中貴信・委員長のもとで、新しい用語を追加した944語とその解説文を収録した「第2版」が発行され、今日に至っております。

2001年の「第1版」の出版以来、「歯科補綴学専門用語集」は歯科医学教授要綱、歯科医師国家試験出題基準、歯学教育モデル・コア・カリキュラム：教育内容ガイドライン、共用試験CBT問題・同OSCE課題などで公的に使用されております。最近、医歯薬出版株式会社から相次いで5つの歯科専門学会から専門用語集が発刊されましたが、その意図、内容、体裁などの多くの点で、われわれの補綴歯科学会がその先鞭を付けたといえます。

「第1版」にも記載されている通り、言葉は生き物です。学術用語であっても時代とともに変化すべきものであり、たゆまぬ見直しが必要です。そこで、2007年4月に小生が理事長を拝命するにあたり、用語検討委員会に対して「第2版」の改訂への着手をお願いいたしました。そして2年間にわたるご苦勞をいただき、ここに「第3版」の発刊に至った次第です。

「第3版」では、インプラントならびに顎顔面補綴学関連用語などが新たに追加され、1,005語が収録され、その各々に解説が記載されております。「同義語として認める用語」も若干増えて121語となりました。また日本語および外国語索引数が3,400語を超えております。改めて歯科補綴学の奥の深さと補綴歯科治療の守備範囲の広さを痛感いたします。

本書の発刊と時をほぼ同じくして、「Journal of Prosthodontic Research」と「日本補綴歯科学会誌」が従来からの和文誌（補綴誌）と英文誌（Prosthodont Res Pract）に変わりました。両機関誌は学会の最新の学術的知識と技術についての情報を公開し、それらを共有する重要な役割を担うこととなります。これらの中で使用される用語を統一する意味で、本用語集は不可欠な資料の一つになるはずであります。また、本書が歯科界のみばかりではなく、さらに広い諸分野で利用されることを期待します。

2009年2月
社団法人日本補綴歯科学会
理事長 平井敏博

第3版序

私たちの学会が発行してきた歯科補綴学専門用語集は、第1版および第2版とも、田中貴信・委員長のもとで、一貫した方針のもとにさまざまな修正がなされ、さらに充実したものとなっております。

専門用語は当該学術分野の進歩・発展を促すために必要な情報交換のツールとして不可欠であります。そのため、学術分野の専門用語集は当該分野ならびに関連分野の進歩・発展に追隨して、可能な限り早期に見直し、修正がなされなくてはなりません。

今回、平井敏博・理事長から歯科補綴学関連の用語について、教育・診療・研究・国民生活を包含する観点から全体的に見直し、関連分野との整合性を踏まえて整理・統合・発展させるよう命じられました。特に、今期用語検討委員会においては、「歯科補綴学専門用語集 第3版」の発刊を軸に活動することとなり、第1版、第2版での経緯を十分反映させ、ここに第3版の発刊となりました。今回の改定で実施しました編集内容は以下の通りです。

1) 第1版、第2版の照査

必要に応じて第1版を含め、第2版における誤植、不適切な表現、関連用語との整合性、凡例との整合性などに関して再検討を行い、会員ならびに社員からの指摘、要請を踏まえ、可及的に用語の掲載順序および文言の修正、ならびに削除を行いました。

2) 新規用語の追加

収載用語は解説文付き用語と解説文のない同義語から構成されています。第2版では、解説文付き用語848語、同義語96語の計944語が収載されましたが、第3版では、解説文付き用語884語、同義語121語の計1005語を収載しました。

同義語に関しては、今回の新規追加に伴い追加されたものと、会員の要請により使用が望ましくない用語から復帰させたものがあります。

3) 「補綴物」関連用語

第2版では、「補綴物」関連用語を解説文付き用語、「補綴装置」関連用語を同義語としましたが、第3版では、「補綴装置」関連用語を解説文付き用語、

「補綴物」関連用語を同義語としました。

4) 索引の整理

- (1) 同義語に解説文付き用語番号を付与しました。
- (2) 付録番号をすべて反映させました。
- (3) 人名索引を別途設けました。

最近、学術分野の専門用語集が相次いで発刊されており、類似した体裁のもので、その内容は相違する点が散見されます。本用語集が、関連する他の学術分野の専門用語集の動向と協調しながら、機会あるごとに修正・充実され、歯科医学の進歩に多大な貢献をすることを願いつつ、委員一同、今回の改定作業に際して、ご指摘、ご意見、ご要請などさまざまご協力いただきました会員の皆様に心から感謝申し上げます。また、発刊にあたり多大なる便宜を図っていただきました医歯薬出版株式会社関係各位に厚く御礼を申し上げます。

2009年2月

日本補綴歯科学会用語検討委員会（2007年度～2008年度委員）

委員長 谷口 尚

副委員長 尾関雅彦

委員 久保吉廣

永井栄一

依田正信

幹事 隅田由香

歯科補綴学専門用語集の第2版の発刊に寄せて

先ずは、『第2版 歯科補綴学専門用語集』の発刊に際して多大なご尽力を頂きました田中貴信用語検討委員会委員長はじめ委員の先生方に心よりお礼を申し上げます。

本用語集の編纂が企画されましたのはかなり前と伺っておりますが、具体的に始動したのは小林義典元日本補綴歯科学会会長時代で、その作業は次代田中久敏日本補綴歯科学会会長に引き継がれ、ようやく2001年「歯科補綴学専門用語集」として上梓されるに至りました。この背後には、その二代の会長に仕え、当該委員会委員長として率先励行の労を執られ、奮迅の努力をされた田中貴信先生の強いリーダーシップと委員会委員の努力があったことを忘れることはできません。それまでは、本来共用されているべき専門用語に同義語、同意語が多々あり、必ずしも共通の理解・了解が得られなく混沌としていた時期が続いていたと言えましょう。そのような状況の中で、田中貴信用語検討委員会が勇気と決断をもって初版本を発刊したところであります。この刻苦に補綴学会員として心より敬意を表するものであります。風聞ではありますが、その初版本がきっかけで他の学会でも専門用語集の編纂に踏み切ったと伺いました。もしそうだとしたら、大変うれしい話です。

その後、川添堯彬前日本補綴歯科学会会長時代、井上 宏用語検討委員会により、見直し検討がなされてきました。最近では、こうして整理・精査された専門用語も日本補綴歯科学会機関誌、学術大会において、立派に共通語として市民権を得てきたように思います。

2003年、わたくしが日本補綴歯科学会会長を仰せつかるにあたり、再度田中貴信先生に用語検討委員会委員長をお願いし、改訂版としての第2版の発刊に向けて、井上 宏前委員会の検討事項を踏まえたところで、引き続き見直し検討をお願いしたところであります。そしてこの度、井上 宏前委員会、田中貴信現委員会の活発な委員会活動と粉骨砕身のご努力により、ここに改訂版としての第2版が出版される運びになりました。殊に、専門用語の統一の至難さもさることながら、時の流れとともに変遷を辿るのが常なるが故に難しい専門用語の統一・選択とその解釈付け、これには委員会の並々ならぬ刻苦勉勵の賜物と心より敬意を表したいと思えます。歯科医学の主流でもある歯科補綴学会がいち早くこの編纂を手がけたこと、また生きた専門用語を厳選・網羅し、かつ平易に詳解がほどこされた歯科補綴学専門用語集を、ここに手に出来たことは

日本補綴歯科学会員としてこのうえもない喜びであり，また誇りであります。長きに渡り，誠心誠意ご尽力頂いた用語検討委員会の委員長，委員の先生方に心より感謝申し上げます。

おわりに，この歯科補綴学専門用語集がたゆみなく見直し・検討がなされ，時に応じ日本補綴学会の研究結果も追補され，歯科界で活躍する関係者に広く日常的に活用されることを期待して止みません。

平成 16 年 9 月

日本補綴歯科学会
会長 大山喬史

改訂版序

初版の歯科補綴学専門用語集は平成13年2月に刊行されたが、日本補綴歯科学会会員はもちろん、多くの臨床家からも比較的高い評価を得てきた。また、専門用語に限定して専門学会として責任ある解説も加えられた実用性の高い用語集として、他の専門学会からも注目され、その中の幾つかの学会では、現在それぞれ本書に準じた用語集の編纂が企画されていると聞く。

しかし初版本では、編集時間の制約から、日本補綴歯科学会の保有する用語資料の一部の検討・掲載を断念せざるを得なかった経緯があり、また、前期用語委員会から内部資料として報告された、疾患・病名・検査・診察・経過観察などに関する用語の整理も必要であった。もちろん、多くの利用者から指摘された沢山の疑問箇所の蓄積もあった。

大山喬史会長から本用語集の再検討を命ぜられた今期の用語検討委員会においては、上記の懸案事項の処理を主眼とした編集作業を行った。その具体的な内容は以下の通りである。

1) 初版本の照査

従来用語集に関して、単純ミス、不適切な表現、関連用語との整合性、などに関して全面的な再検討を行い、可及的に語句の修正を行った。また、会員から寄せられた各所の疑義に関しても十分な検討を行った結果、大幅な修正を行った用語は52語となった。

2) 追加

下記の資料について委員会で審議の結果、新規採用として126語を選択し、それらの解説文に関しては、委員自身で分担執筆した。

- (1) 歯科補綴学用語集資料(坂東永一委員長、平成9年発行)の「古語、新語、固有名詞等」の239語
- (2) 歯科補綴学専門用語集(井上 宏委員長、平成14年発行)、Ⅰ疾患・病名・検査編の229語、Ⅱ診察・検査・経過観察編の101語
- (3) 評議員のアンケートとして、追加希望;14名からの114語、修正希望;15名からの71語

3) 英語表記の確認

初版本の用語も含め、英語表記の全面的チェックを行ったが、これに関しては、当時海外に留学中の、沢山の若手会員の協力を仰いだ。

4) 索引の整理

従来の日本補綴歯科学会としての用語資料のすべてに関する検討が修了したため、本書に採用した以外の用語は、すべて索引から除去した。

本用語集が今後も機会あるごとに修正・充実され、歯科医学の進歩に多大な貢献をすることを願いつつ、委員一同、今回の編集作業に関してさまざまなご協力をいただいた関係者に、心から感謝申し上げます。

平成 16 年 9 月

日本補綴歯科学会用語検討委員会（平成 15 年度～平成 16 年度委員）

委員長 田中貴信

副委員長 三浦宏之

委員 清野和夫 豊田 實

長岡英一 坂東永一

幹事 金澤 毅

歯科補綴学専門用語集の発刊に寄せて（初版）

この度、日本補綴歯科学会が用語検討委員会を中心として、歯科補綴学ならびに関連用語について整理を行い、共通の土俵で補綴学を考えることのできる用語集を出版する運びとなりました。

数千語に及ぶ補綴学用語から厳選し、専門用語として用いられるものを明確に解説を加えた編集業務の影には、十数年に及ぶ用語検討委員会ならびに関係各位の幾多の労力が秘められております。

言葉は現実社会の鏡でもあり、文化、教養を高めるためのツールでもあります。同様に、補綴学の発展には用語の整合性が必須であり、それが達成された時に専門性が発揮されることになると信じます。補綴用語も新しい言葉が生まれるまでには多くの研究と医療の長い歴史があり、おいそれと整えることは至難の業です。特に訳語に至っては全能の指揮官の息のかかった用語を変更しようとしても、なかなかうまく変えることができず、一見あきらめムードさえ感じる場面もありました。また、用語の中には未消化どころか、噛み（いや失礼咬み）砕かれていないまま医療現場に浸透したものもあり、地球規模(Globalization)の学术交流の叫ばれる今日に至っても、感覚的に統一見解を得るのが難しいのが現状です。したがって、未だ多くの整合性の不十分な箇所も多くみられるものと推察されます。

今回、簡にして要を得た日本語をモットーに手際良く整理することができたのも偏に用語検討委員会委員長田中貴信教授のリーダーシップのもとで、委員会各位のご努力により達成されたものと敬意を表します。

今後の発展に向けて学会員諸氏の御批判と御指導を賜れば幸いと存じます。

最後になりますが、本学会員ならびに委員会諸氏の御援助と御努力に対し、厚く御礼申し上げます。

平成 13 年 2 月

日本補綴歯科学会
会長 田中久敏

序（初版）

日本補綴歯科学会において、歯科補綴学専門用語の検討は発会当初より随時試みられてきたであろうが、現在のような用語検討委員会が組織され、総合的な用語の整理が始まったのは、昭和59年の三谷春保委員長下の第一期用語検討委員会としての活動が端緒である。それ以降に限っても、本件に関しては実に長期間、幾多の先人の多大なエネルギーが注がれてきたことになる。

これらの委員会のご努力の結晶として選別された膨大な数の歯科補綴関係用語は、山下敦委員長により「中間報告」として、また、それを引き継いだ坂東永一委員長により「用語集資料」として、それぞれ会員に提示された。それらの経緯と我々を取り巻く昨今の社会環境を考慮して、本委員会は、今こそ専門学会としての責任の下に編纂され、実用性も備えた「専門用語集」が必要であると考え、新用語集としての具体的内容について検討してきた。この機会に、あるいは性急に、またあるいは強引に、我々なりに具体的な一つの形を提示して、今後はそれを骨子として本学会の用語集を順次充実させてゆくことが最良であろうと判断したものである。特に今回は、これまでのように単なる学会の内輪の資料に留めず、日本補綴歯科学会の公式見解として、広く世に公表することとした。幸い医歯薬出版(株)のご協力も得て、一般書籍として立派な体裁で刊行できたことは、委員一同にとっても望外の喜びである。

本書が末永く諸兄の座右に置かれ、日々ご活用戴けることを心から願うものである。

本用語集出版に関して、本用語検討委員会における編纂作業の大筋は以下の通りである。

1) 用語の整理

一般的に用語集の類はその語集数を誇る傾向がある。あたかも、それがその専門分野のレベルの高さを表示するが如き評価をする者もいる。しかし、たとえ我々が専門的な意味を有しない用語をどのように整理しようとも無意味である。また、用語は所詮符号であり、コミュニケーションの手段に過ぎない。国文学者でもない我々にとっては、用語そのものに意味があるのではなく、それをういて何を伝えるかが重要である。さらに、複雑怪奇な専門用語は学術活動にとってマイナスでこそあれ、その益するところは少ない。今我々に必要なものは、高度な学術情報を誤解なく伝達できる、簡便な専門用語である。

このような基本理念に基づいて、本委員会の最初の作業は、関係用語の分類に主眼を置いた。まず、たとえ我々の臨床・研究現場で頻用される用語であっても、特別な解説を必要とせず、誰にでも正しく理解されるはずの用語は、一般用語として専門用語のリストから削除した。次に、解剖用語、保存・矯正用語などは、それぞれの専門学会の責任において管理されるべきものとして、歯科補綴専門用語からは除いた。さらに、多くの材料関係の用語もまた、歯科理工学会などの判断に委ねるべきであると判断した。

要するに、本用語集での掲載用語は、日本補綴歯科学会として責任を持てるもの、あるいは責任を負うべきものに限定した、と言うことである。結果として、本用語集には主項目として719語を採用したが、当学会にとっては現時点が未だ専門用語の整理期であることを考慮して、過去の本学会用語集に掲載された約3,000語の用語についても、そのすべてを索引欄に掲載した。

2) 同義語の整理

たとえば文学の世界では、微妙な季節の移ろいの様相などを多様に表現することが評価される。また、同じ表現の繰り返しは退屈であると批判される。しかし、自然科学の分野では、そのようなデリケートな表現はむしろ有害である。我々にとっては事象をただ端的にかつ正しく表現することが、必要かつ十分であると考えられる。

従来認められてきた歯科補綴用語の中には、10種に近い同義語を有するものも散見された。これは教える側、学ぶ側のいずれにとっても無駄でしかなく、学術大会の場においても混乱の原因となる。しかし、個々の用語にはそれぞれ大きく重い背景もあるため、それらの取捨選択は容易でないことは自明であり、過去の委員会においてもそこが作業上の大きな関門であった。

今回はこの積年の問題点を、評議員によるアンケート調査という方法で処理したが、今後若干の問題を残す可能性も否定できない。しかし、関係者によってそれが建設的かつ前向きに評価され、我々の意図を正しく理解していただけるなら、比較的多数の専門家の支持を得た用語が、それぞれ最も正当な用語として、時の経過とともに自然に定着するものと確信している。

なお、同義語のアンケート調査結果については、付録として改めて巻末にその一覧表を提示した。

3) 解説文の充実

専門用語を選択しても、それぞれの意味合いについて専門家同士の合意が得られていなければ、それをういた情報交換において誤解が生ずることになる。

また、この種の用語集を誰がどのような場合に利用するかを考えた場合、単に用語を羅列しただけのものでは、その実用性が極めて低いことも認めざるを得ない。そこで、本用語集においては、すべての用語に関して現在最も妥当と思われる定義、あるいはその臨床的意義などに関する解説文を付与した。英語表記に関しても、幾多の表現の中から、最も妥当と思われるものを選出した。これらはいずれも、特に学生や若い臨床家にとって有用なものとなろう。

なお、その意味合いに諸説があるものについては、解説文に項目番号を設けて併記した。

古くから言われるように、言葉は生き物であり、基本的に日々変化する可能性を含んでいる。すなわち、いかなる用語集も辞書・辞典も、まさに発行の日から、内容の見直しを迫られる宿命を負うことになる。用語検討委員会の作業に終わりはない。とは申せ、当面この用語集の価値が広く認識され、今後の編集委員会などにおける用語規制に関する基盤となり、いずれはより公的な教授要綱や国家試験の出題基準に関する基本資料ともなることを願っている。

今回は時間の制約上、日本補綴歯科学会用語検討委員会報告書（歯科補綴学用語集資料：平成9年度発行）の中の、古語、新語、固有名詞の項は検討対象から割愛せざるをえなかった。これらについては、今後の委員会による継続的かつ詳細な検討に基づいて、順次整理されることを期待する。

最後に委員一同、これまで用語検討にご尽力された歴代の委員会各位のご努力に深甚なる敬意を払うとともに、今般本用語集の出版という事業を高く評価され、終始多大なご協力とご鞭撻を賜った小林義典前会長、田中久敏現会長を始めとする日本補綴歯科学会の理事各位、アンケート調査や原稿執筆にご協力いただいた評議員各位、および、多忙の中鋭意ご尽力いただいた医歯薬出版(株)の担当諸氏に、衷心より感謝申し上げる次第である。

平成13年2月

日本補綴歯科学会用語検討委員会 平成9年度～平成12年度委員（2期）

委員長 田中貴信

委員 甘利光治 木村幸平 小林喜平

清野和夫 寺田善博 平井敏博

細井紀雄 安田 登 山縣健佑

幹事 金澤 毅

【執筆者一覧】（五十音順：所属は執筆時）

赤川安正	（広島大学歯学部）	河野文昭	（徳島大学大学院ヘルス
熱田 充	（長崎大学歯学部）		バイオサイエンス研究
天野秀雄	（明海大学歯学部）		部）
甘利光治	（松本歯科大学）	川和忠治	（昭和大学歯学部）
五十嵐順正	（松本歯科大学）	岸 正孝	（東京歯科大学）
五十嵐孝義	（日本大学歯学部）	木村幸平	（東北大学歯学部）
石上友彦	（日本大学歯学部）	草刈 玄	（新潟大学歯学部）
石神 元	（朝日大学歯学部）	久保吉廣	（徳島大学病院・歯科）
石橋寛二	（岩手医科大学歯学部）	窪木拓男	（岡山大学大学院医歯薬
市川哲雄	（徳島大学大学院口腔科		学総合研究科）
	学教育部）	河野正司	（新潟大学歯学部）
伊藤 裕	（愛知学院大学歯学部）	越野 寿	（北海道医療大学歯学部）
井上 宏	（大阪歯科大学）	腰原 好	（東京歯科大学）
上田貴之	（東京歯科大学）	小林喜平	（日本大学松戸歯学部）
内田康也	（九州歯科大学）	小林義典	（日本歯科大学歯学部）
大川周治	（明海大学歯学部）	小正 裕	（大阪歯科大学）
大久保力廣	（鶴見大学歯学部）	小峰 太	（日本大学歯学部）
大畑 昇	（北海道大学歯学部）	小宮山彌太郎	（東京都）
大山喬史	（東京医科大学歯学部）	古谷野 潔	（九州大学歯学部）
	部）	近藤尚知	（岩手医科大学歯学部）
小川 匠	（鶴見大学歯学部）	坂口邦彦	（北海道医療大学歯学部）
尾関雅彦	（昭和大学歯学部）	櫻井 薫	（東京歯科大学）
小野高裕	（新潟大学大学院医歯学	佐々木啓一	（東北大学大学院歯学研
	総合研究科）		究科）
鹿沼晶夫	（東北大学歯学部）	佐藤隆志	（岡山大学歯学部）
金子一芳	（東京都）	佐藤 亨	（東京歯科大学）
川口豊造	（愛知学院大学歯学部）	佐藤博信	（福岡歯科大学）
川崎貴生	（北海道大学歯学部）	佐藤裕二	（昭和大学歯学部）
川添堯彬	（大阪歯科大学）	澤瀬 隆	（長崎大学生命医科学域

	(歯学系)	羽鳥弘毅	(奥羽大学歯学部)
志賀 博	(日本歯科大学生命歯学部)	馬場一美	(昭和大学歯学部)
芝 燁彦	(昭和大学歯学部)	羽生哲也	(福岡歯科大学)
新谷明一	(日本歯科大学生命歯学部)	坂東永一	(徳島大学歯学部)
末瀬一彦	(大阪歯科大学)	疋田一洋	(北海道医療大学歯学部)
菅沼岳志	(昭和大学歯学部)	平井敏博	(北海道医療大学歯学部)
鈴木哲也	(東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科)	福島俊士	(鶴見大学歯学部)
清野和夫	(奥羽大学歯学部)	藤井輝久	(朝日大学歯学部)
高藤恭子	(岩手医科大学)	藤井弘之	(長崎大学歯学部)
田中貴信	(愛知学院大学歯学部)	藤澤政紀	(明海大学歯学部)
田中久敏	(岩手医科大学歯学部)	藤田忠寛	(神奈川歯科大学)
谷口 尚	(東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科)	古地美佳	(日本大学歯学部)
津賀一弘	(広島大学大学院医歯薬保健学研究院)	古屋純一	(昭和大学歯学部)
寺田善博	(九州大学歯学部)	古屋良一	(昭和大学歯学部)
豊田 實	(神奈川歯科大学)	細井紀雄	(鶴見大学歯学部)
永井栄一	(日本大学歯学部)	細川隆司	(九州歯科大学)
中尾勝彦	(広島県)	保母須弥也	(東京都)
長岡英一	(鹿児島大学歯学部)	松村英雄	(日本大学歯学部)
長澤 亨	(朝日大学歯学部)	松元 誠	(東京医科歯科大学歯学部)
中野雅徳	(徳島大学歯学部)	松山美和	(徳島大学大学院医歯薬学研究部)
野首孝祠	(大阪大学歯学部)	三浦宏之	(東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科)
長谷川成男	(東京医科歯科大学歯学部)	皆木省吾	(岡山大学大学院医歯薬学総合研究科)
畑 好昭	(日本歯科大学新潟歯学部)	水口俊介	(東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科)
服部正巳	(愛知学院大学歯学部)	南 弘之	(鹿児島大学大学院医歯学総合研究科)
服部佳功	(東北大学大学院歯学研究科)	峯 篤史	(大阪大学大学院歯学研究科)
		村上 格	(鹿児島大学学術研究

村田比呂司	院) (長崎大学大学院医歯薬学総合研究科)	山縣健佑	究科) (昭和大学歯学部)
村山 長	(広島大学大学院医歯薬保健学研究院)	山口泰彦	(北海道大学大学院歯学研究院)
守川雅男	(九州歯科大学)	山下 敦	(岡山大学歯学部)
森田修己	(日本歯科大学新潟歯学部)	山下秀一郎	(東京歯科大学)
森戸光彦	(歯科医療情報推進機構)	横塚繁雄	(日本歯科大学歯学部)
森谷良彦	(日本大学歯学部)	吉岡 文	(愛知学院大学歯学部)
安田 登	(東京都)	依田正信	(東北大学大学院歯学研究科)
矢谷博文	(大阪大学大学院歯学研	渡辺 誠	(東北大学歯学部)

【凡 例】

1. 選定用語には、五十音順に用語番号を付けて実用性を高めた。
2. 【鑑】，【蝨】，【囁】に関しては、仮名表記を採用した。すなわち、鑑⇨ろう，蝨⇨ろう，囁む⇨かむ
ただし、仮名書きにすると文中で判別しにくい場合に限って、漢字書きを認めるという意味で、「ろう（鑑）付け」のように表記した。
3. 初版において採用した略字【頸】，【弯】に関しては、会員の希望により、本来の表記に変更した。すなわち、「歯頸部⇨歯頸部」，「弯曲⇨彎曲」とした。【頬】に関しては、『日本歯科医学会学術用語集 第2版』の表記に従い、「頬」とした。
4. 【定義】と【解説文】とは混在するが、今回は敢えてその区分の表示は割愛した。
5. 複数の意味合いを持つ用語、あるいは現時点で定義が確定していない用語に関しては、
 - 1)
 - 2)
 - ・
 - ・として、解説項目を併記する体裁をとった。
6. 索引には頁に代えて用語番号を付けた。
7. 英語表記に関しては、他の表現を否定するものではないが、現在最も一般的と思われるものに限定して掲載した。
基本的には、The Glossary of Prosthodontic Terms Ninth Edition : *J Prosthodont Dent*, 117 (5S) : e1~e105, 2017. に準じた。その他に関しては、可及的に native speaker のチェックを受けた。
8. 選定用語に採用されていなくとも、解説文中で使用された歯科用語は索引に掲載し、選定用語の用語番号を付与することで検索を容易にした。
9. 機器の部分の名称、各種の術式、形態や材料に基づく補綴装置の名称などは、関連用語として可及的に解説文中に記載し、索引に加え、選定用語の用語番号を付記した。
10. 付録としての同義語一覧は、評議員を対象としたアンケート調査の結果を忠実に示した。結果として、関係する用語間の整合性に欠けるものも存在

するが、これについては、引き続き、今後の検討課題とした。

例：線鉤， 鋳造鉤 ⇔ クラスプ

切歯指導釘・板 ⇔ アンテリアガイダンス

11. 〔同義語〕は，索引において，選定用語の用語番号をアンダーラインをつけて付記した。
12. 索引において，付録番号をすべての関連用語に付記した。
13. 人名がつく用語については，第4版まではカタカナ表記であったものをすべて欧文表記とした。

あ

1 アーライン

vibrating line

口蓋の可動部と不動部との境界線。“アー (Ah)” と発音すると、口蓋帆張筋に続き口蓋帆挙筋が収縮するために軟口蓋は挙上する。発音を中止すると、これらは元に戻るが、アーラインはこの運動時における可動部の最前方を示していることから、上顎の義歯床後縁を設定するための基準として利用される。

2 アーリーローディング→「早期荷重」

参照

3 RPI クラスプ あーるぴーあー

RPI clasp

近心レスト、隣接面板、Iバーの3部分から構成される支台装置。3者が互いに拮抗的に働き、支持・把持・維持機能を発揮する。遊離端義歯の垂直方向の動きに対する考え方の違いにより Kratochvil 型と Krol 型の2種類がある。

4 RPA クラスプ あーるぴーえー

RPA clasp

RPI クラスプのIバーに代えて、Akers クラスプ型の鉤腕を組み合わせた支台装置。

支台歯付近のRPIクラスプにおけるIバーの走る粘膜部において、小帯の付着部が高い、あるいは顎堤粘膜のアンダーカット域の位置が高い場合に用いる。ニアゾーンでは、維持腕の上縁をサバイラインに一致させ、その下のアンダーカットはブロックアウトして、アームを支台歯に接触させない。これは床の回転、沈下に際して支台歯に力を伝達させないためである。

5 I. R. V. あいあーるぶい

closure of the interdental space
(C. I. S.)

Interdentalraumverschluss (独語)

テレスコープクラウンの一種で、鼓形空隙を閉塞した可撤性の装置。内冠と外冠で鼓形空隙をなくして、食物残渣の停滞を防ぎ清掃しやすい形状に設計された装置で、Gaerny (1969) により発表された。

6 Eichner 分類

あいひなーぶるい

Eichner classification

歯列の欠損形態の分類法の1つ。上下顎の咬合状態を重視して表示したもので、左右の小白歯部および大白歯部の4ブロックの咬合支持域に分けて、それぞれに安定した咬合関係が存在するか否かによって3型に分類したもの。

すなわち、4支持域すべてに咬合接触を有するもの〔A型〕、4支持域すべてには咬合接触のないもの〔B型〕、対合歯との咬合接触がまったくないもの〔C型〕で、いずれの型も類型を含む。Eichner (1955) により提唱された。

7 アクセスホール

access hole

インプラント体やアバットメントに上部構造(クラウン、ブリッジ、アタッチメント)がスクリューで固定される場合に、連結スクリューを挿入するために上部構造に形成される穴。前歯部では審美性を考慮して舌側面に、また臼歯部では力学的観点から咬合面の中心窩に位置することが望ましい。

8 アタッチメント

attachment

可撤性義歯に使用される支台装置の1

つ、マトリックスとパトリックスとから構成され、一方は支台歯に固着され、他方は義歯に組み込まれる。この両者が互いに嵌合することにより、維持・支持・把持力が発揮される。

歯冠内アタッチメント、歯冠外アタッチメント、根面アタッチメント、バーアタッチメントなどに分類される。

9 Adams クラスプ あだむすー

Adams clasp

1本のワイヤーを屈曲して製作するアローヘッドクラスプを改良した、頬側隣接面のアンダーカットを利用するクラスプ。Adams (1950) により考案された。頬側の近心と遠心の隣接面歯頸部のアンダーカット部に入る半円形状の屈曲部、近心と遠心で垂直に立ち上がった縦走部、咬合面部で水平に屈曲した隣接面(鼓形空隙)横断部、これに続く口蓋側の鉤脚部、近心と遠心の頬側半円形状屈曲部を連絡する頬側横走部により構成される。頬側や舌側にアンダーカットのない歯に有効で、小児のスピーチエイドの支台装置として有用である。

10 圧印金冠 あついでんきんかん

metal crown with swaged cusp

〔同義語〕 Morrison クラウン

帯環金属冠の一種で、咬合面は22Kの金板をメロットメタルなどの易溶合金製の模型(陰陽型)の間に挟み、プレス(圧印)して成形し、帯環とろう(鑢)付けして完成させたクラウン。

咬合面を圧印して作るので薄くなり、咬耗により破損、穿孔しやすいため、帯環は22Kの金板を用いて作り、咬合面は24Kの金板を圧印し、内面に金ろう(鑢)を流して充実させた嚙面充実金冠(Peeso クラウン)や、咬合面を鑄造し、

帯環とろう(鑢)付けした嚙面鑄造冠が考案された。鑄造冠の登場でいずれも過去のものとなった。

11 圧印床 あついでんしょう

swaged plate

金属板を陽型上で槌打、または陰型との間でプレスにより圧接成形した義歯床。金合金、ステンレス鋼合金、チタン合金などの金属が用いられる。

12 圧負担能力 あついでんたんのうりよく

stress-bearing ability

- 1) 機能時に受ける力や緊張、圧力に抵抗する力。
- 2) 支台歯や粘膜における咬合圧負担域での、義歯を支持する力。

13 後ろう(鑢)付け法 あとーづーほう

post ceramic soldering method

陶材焼付冠の固定性連結部の製作法の1つで、陶材を金属冠に焼き付けた後に行うろう(鑢)付け。

14 アバットメント

abutment

インプラント体に連結するコンポーネント。上部構造のための支台となる部分。

15 アバットメントアナログ

abutment analogue (analog)

口腔内のアバットメントの複製。インプラントをアバットメントレベルでピックアップ印象し、作業用模型を作る際に必要となる。

16 アバットメントスクリュー

abutment screw

インプラント体とアバットメントを直接連結するためのネジ。

17 アブフラクション

abfraction

生体力学的な荷重により生じた歯の硬組織の病的な欠損。実際の加重点から離

れた位置にひずみが生じ、エナメル質と象牙質の化学的疲労により発生する。

18 アベックス【ゴシックアーチの】

apex [of gothic arch tracing]

ゴシックアーチの頂点。左右の側方下顎限界運動路が交わる点。

19 アメリカ式埋没法

—しきまいぼつほう

American flasking technique

人工歯、支台装置、連結子のすべてをフラスク上部に固定するろう義歯のフラスク埋没法。レジン填入は容易であるが、支台歯部の石膏を歯頸部で切断することから、義歯床粘膜面に対して支台装置や連結子などが浮き上がる危険があることが欠点とされる。

20 アメリカ・フランス併用式埋没法

—へいようしきまいぼつほう

American-French flasking technique

人工歯をフラスク上部に、支台装置や連結子は下部に固定するろう義歯のフラスク埋没法。レジン填入が容易で、支台装置や連結子の義歯床粘膜面に対する浮き上がりの危険もない。人工歯の浮き上がりは重合後の削合で対応可能であり、現在、最も一般的なフラスク埋没法である。

21 アルコン型咬合器

—がたこうごうき

arcon articulator

上弓に顎路指導部をもち、下弓に顎頭球(コンダイル)を備えた構造の咬合器。「アルコン」は articulator と condyle を縮めた造語。

22 アルジネート印象 —いんしょう

alginate impression, irreversible hydrocolloid impression

アルギン酸ナトリウムあるいはアルギン酸カリウムを主成分とする不可逆性ハイドロコロイド印象材による印象。粉末には水を、ペーストには石膏を加えて練和すると、流動性のあるゾルから弾性をもつゲルに変化する。

23 アルミナサンドブラスト処理→「サンドブラスト処理」参照

24 アルミナスポーセレン→「アルミナ陶材」参照

25 アルミナスポーセレンジャケットクラウン

aluminous porcelain jacket crown

長石-石英系陶材に40~60%の酸化アルミニウム(アルミナ)を含有させたコア陶材の上に、歯冠色陶材を築盛・焼成したジャケットクラウン。アルミナ陶材は長石-石英系陶材に比べ強度が1.5~2倍で、急激な温度変化にも強い。デンティン用陶材には10~15%の酸化アルミニウムが添加されているが、透明度が減少するため、エナメル用陶材中には結晶度の小さい酸化アルミニウムが少量だけ(5%)添加されている。

26 アルミナ陶材 —とうざい

aluminous porcelain

〔同義語〕アルミナスポーセレン

酸化アルミニウム(アルミナ)の微細粒子をガラスで結合させた、あるいはガラス中に分散させた複合組成の陶材。酸化アルミニウムの添加量が増すにつれて曲げ強さは増大し、例えば50%添加で長石-石英系陶材の2倍以上の強度となる。

27 アルミナブラスト処理→「サンドブラスト処理」参照

28 鞍状型ポンティック

あんじょうがた—
saddle pontic

基底面が鞍状に顎堤を覆っている形態のポンティック。その中で、特に欠損部顎堤の吸収が著しい場合に適用され、人工歯の基底面に床をつけた形態のものを、有床型ポンティックと呼ぶ。可撤性のポンティックにすることが多い。

29 安静空隙 あんせいくうげき

interocclusal rest space (free way space)

下顎安静位における上下顎の歯列間距離。その値は正常者において前歯部で2~3mmである。咬合高径決定の目安になる。

30 アンダーカット

undercut

1) 義歯の着脱方向に対して、歯や顎堤などの最大豊隆部よりも下方の陥凹した部分。模型の歯や顎堤に描記されたサバイラインに囲まれた領域をアンダーカット域 (undercut area, infrabulge area)、その他の領域を非アンダーカット域 (nonundercut area, suprabulge area) という。

2) 歯冠補綴装置の適合性を悪化させる支台歯軸面の陥凹。

31 アンダーカットゲージ

undercut gauge

サバイヤーの付属品の1つで、水平的なアンダーカット量を計測するジグ。通常、0.25 mm、0.50 mm、0.75 mm の3種が用いられる。

32 Ante の法則 あんてーほうそく

Ante's Law

固定性ブリッジにおいて、支台歯の歯根表面積の総和は補綴される欠損歯のそれと同等以上でなければならないとする概念。Ante (1926) により提唱された。

33 アンテリアガイダンス

anterior guidance

〔同義語〕 前方誘導 (指導)

下顎滑走運動時における歯の指導要素。後方の顎関節による指導要素 (ポステリアガイダンス) に対する前方指導要素の意。

34 アンテリアハイパーファンクションシンドローム → 「コンビネーションシンドローム」参照

35 アンテリアリファレンスポインター
anterior reference pointer

フェイスボウトランスファーの際に、その先端を前方基準点 (アンテリアリファレンスポイント) に一致させるためのフェイスボウの一部品。

→ 「フェイスボウ」, 「前方基準点」参照

36 燂法 あんぼう

fomentation, poultice, compress

身体の一部を布などで覆って寒冷あるいは温熱刺激を与える治療法。冷燂法と温燂法がある。冷燂法は、寒冷刺激による皮膚温の低下、血管収縮により消炎、鎮痛効果をもたらすため、種々の急性炎症、特に打撲などの初期の外傷性炎症に適応がある。温燂法は、患部を温め血管を拡張させることで、循環改善により亜急性あるいは慢性病変による疼痛の軽減を意図する。筋緊張弛緩による効果も期待される。

い

37 移行義歯 いこうぎし

ransitional denture

比較的早期に、抜歯とそれに伴う義歯の修理や新製が予測された場合、その間

の機能と形態とを確保するために使用される義歯。旧義歯に増歯などの改修を施して使用することもある。

38 維持 いじ

retention

〔同義語〕保持

補綴装置に加わる離脱力に抵抗する作用。

39 維持格子 いじこうし

retentive latticework

小連結子の一種で、大連結子と義歯床を連結する装置。フレームワークの義歯床に入る部分が格子状に製作されることがあることから維持格子と呼ばれているが、実際の臨床ではスケルトン型、メッシュ型など種々の形態がある。

40 維持歯→「支台歯」参照

41 維持装置→「支台装置」参照

42 維持力 いじりょく

retentive force

補綴装置に加わる離脱力に抵抗し、それを装着された位置に保つ力。すなわち、装着された補綴装置を離脱させるのに必要な力。歯冠補綴装置の場合には保持力ともいう。

43 維持腕 いじわん

retentive arm

部分床義歯を維持する目的で設計された鉤腕。通常、鉤尖がその役割を果たす。→「拮抗腕」参照

44 一次固定 いちじこてい

primary splinting

連結した固定性補綴装置の装着により、支台歯相互の連結固定効果を発現させる方法。

45 一塊鑄造法→「ワンピースキャスト法」参照

46 イミディエートローディング→「即

時荷重」参照

47 インサイザルテーブル→「切歯指導板」参照

48 インサイザルピン→「切歯指導釘」参照

49 印象 いんしょう

impression

歯、顎堤、顔面などの形態を再現するために採得された対象物の陰型。

50 印象圧 いんしょうあつ

impression pressure

印象採得を行うときに対象に加わる圧力。その大小により、積極的に圧を加える加圧印象と、可及的に圧を加えない無圧印象とに分類される。

51 印象域 いんしょういき

impression area

印象に記録すべき範囲。

52 印象採得 いんしょうさいとく

impression taking

歯、顎堤、顔面などの形態を再現するためにその陰型を製作する一連の操作。

53 印象用コーピング

いんしょうようー

impression coping

〔同義語〕インプレッションコーピング

口腔内のインプラント体の位置を印象採得し、作業用模型に転記する目的で用いられるコンポーネント。オープントレー法とクローズドトレイ法のそれぞれに対応するコーピングが用意されている。

54 印象用トレイ いんしょうようー

impression tray

印象材を運び、保持するための器具。通常、柄部、体部、辺縁部からなる。材質には金属やプラスチックなどがあり、既製トレイと個人トレイとがある。

55 インターオクルーザルレコード

interocclusal record

上下顎歯列または顎堤間の相互的位置関係の記録。

56 インターナルコネクション

internal connection

顎骨内のインプラント体とアバットメントや上部構造（クラウン、ブリッジ、アタッチメント）との連結部分において、インプラント体が凹に、支台装置や上部構造が凸になっている連結様式。これとは逆に、インプラント体が凸に、支台装置や上部構造が凹になっている連結様式を、エクスターナルコネクションという。

57 インフラバルジクラスプ→「歯肉型クラスプ」参照

58 インプラント

implant

生体の欠損部を補填するために、生体材料あるいは非生体材料を移植または移植する形成術、およびそれらの移植物、移植物の総称。主要なもの1つに口腔インプラント（dental implant）がある。

59 インプラントアナログ

implant analogue (analog)

〔同義語〕インプラントレプリカ

口腔内のインプラント体の複製。一般にステンレスなどの金属でできており、インプラントの上部構造を製作するための作業用模型を作る際に必要となる。

60 インプラント義歯 一ざし

implant prosthesis

〔同義語〕インプラント補綴、インプラント上部構造

顎骨内に埋入されたインプラント体を支台装置とする義歯。インプラント義歯と支台との連結方法には、固定式、患者可撤式、術者可撤式の3種類がある。

61 インプラント周囲炎

一しゅういえん

peri-implantitis

インプラント周囲組織（骨、粘膜）に生じた炎症。過重負荷に加えて、細菌感染が原因となることが多く、進行するとインプラント体と周囲骨組織との骨結合が喪失して、インプラント体の脱落に及ぶ。特に、炎症病変がインプラント周囲の粘膜に限局しているものを、インプラント周囲粘膜炎（peri-implant mucositis）という。

62 インプラント上部構造→「インプラント義歯」参照

63 インプラント体 一たい

implant body

〔同義語〕フィクスチャー

オッセオインテグレートッドインプラントにおいて顎骨内に埋入され、骨組織と結合を図る部分。

64 インプラント体支持 一たいしじ

implant-supported

〔同義語〕顎骨支持

機能時にインプラント義歯に加わる力をインプラント体周囲骨で負担するという概念。

65 インプラント体-粘膜支持

一たいねんまくしじ

implant and tissue-supported,

implant-assisted and tissue-

supported

〔同義語〕顎骨-粘膜支持

機能時に補綴装置（オーバーデンチャー）に加わる力をインプラント体周囲骨と粘膜の両者に負担させる概念。インプラントオーバーデンチャーにおける負担様式。

66 インプラントプラットフォーム→
「プラットフォーム」参照

67 インプラント補綴→「インプラント
義歯」参照

68 インプラントレプリカ→「インプラ
ントアナログ」参照

69 インプレッションコーピング→「印
象用コーピング」参照

う

70 Williams の 3 基本形

ういりあむすーさんきほんけい

**three fundamental anterior tooth
contours classified by Williams**

Williams (1914) は正面からみた顔面の輪郭を方型(square), 尖型(tapering), 卵円型(ovoid)に分類し, 上顎中切歯の唇側面形態が顔面輪郭を上下逆にした形態に相似することを提唱した。これら3形態を基本として前歯部人工歯が製作されている。

71 Wilson の彎曲

ういるそんーわんきよく

curve of Wilson

〔同義語〕側方咬合彎曲, 側方歯牙彎曲, 側方歯列彎曲

天然歯列を前頭面に投影したときに観察できる, 咬合平面の側方的な彎曲。上顎臼歯の歯軸が頰側に傾斜し, 下顎臼歯の歯軸が舌側に傾斜しているため, 咬合平面に対して, 上顎臼歯の舌側咬頭は頰側咬頭より低位に, 下顎臼歯の舌側咬頭は頰側咬頭より低位になる。この結果, 咬合平面は下方に凸な彎曲を描く。

72 ウォッシュインプレッションテク ニック

wash impression technique

1) 有床義歯の印象採得において, 微圧のもとで印象材をゆきわたらせ, 印象圧による顎堤粘膜の変形をできるだけ小さく, 細部の精密な形態を再現する無圧印象法の1つ。

2) クラウンブリッジ支台歯の連合印象採得において, 一次印象内面に流れの良い印象材を盛り上げて細部の精密な形態を再現する連合印象法の1つ。

→「連合印象」参照

73 運動障害性嚙下障害→「機能性嚙下
障害」参照

74 運動論的顎頭点

うんどうろんてきかとうてん

kinematic condylar point

側方運動を含むあらゆる顎運動を行ったとき, 下顎頭の運動路が最も収束する点。下顎運動に対しては両側の下顎頭の中央部付近に求まり, 相補下顎運動に対しては相補運動論的顎頭点(complementary kinematic condylar point)が両側の関節結節の中央付近に求まる。

え

75 永久固定 えいきゅうこてい permanent splinting

動揺歯をインレーやクラウンなどで恒久的に連結, 固定することにより, 各種機能時に加わる圧を複数歯に分散し, その安定を図ることを目的とした処置。固着式固定法と可撤式固定法とがある。

76 栄養サポートチーム

えいようー

nutrition support team (NST)

低栄養(栄養障害)への対応を目的とし, 医師, 看護師, 管理栄養士, 薬剤師などの多職種が参加し栄養管理を行う医

療チーム。近年、義歯などによる口腔機能の改善が経口摂取状況の改善に有効であることが報告され、公的保険においても歯科医師が栄養サポートチームに参加することが評価されている。

77 Akers クラスプ えーかーすー

Akers clasp

レスト付き二腕鉤に相当する鑄造鉤。欠損側に設置された咬合面レストと2本の鉤腕からなり、強固な支持・把持・維持が確保できる。Akers (1925) により考案された代表的な環状鉤。

78 SAS→「睡眠時無呼吸症候群」参照

79 S 字状隆起 えすじじょうりゅうき

S-curve

上顎義歯の歯肉形成時に前歯部口蓋側に付与される、矢状断面形態がS字状の隆起。呼気流を整え構音機能の回復などを目的とする。

80 STL えすていーえる

stereolithography, standard triangulated language, standard tessellation language

三次元形状を表現するデータを保存するファイルフォーマットの1つで、歯科用CAD/CAMシステムで最も利用され互換性の高いファイル形式。三次元形状を三角形パッチ(面)の集合体として表現する。

81 エステティックプレーン

esthetic plane

〔同義語〕 エステティックライン

側貌の審美的基準となる鼻尖とオトガイを結んだ線。鼻、口唇、オトガイのバランスを示し、バランスの良い側貌は、この線に近接した下唇の後方に上唇が位置し、口唇がこの線より突出すると審美不良になるといわれているが、その位置

関係には人種差がみられる。義歯患者では人工歯の切縁部の前後の位置に影響され、義歯によるリップサポート回復程度の評価に用いることができる。

82 エステティックライン

esthetic line

→「エステティックプレーン」参照

83 S 発音位 えすはつおんい

“s” position

[s] 音を発音するときの顎位。[s] 発音時には下顎が前下方に移動し、下顎中切歯切縁が上顎中切歯切縁の1~2mm内側に位置する。発音中に上下顎の歯が互いに最も接近する顎位(最小発音空隙; closest speaking space)として、前歯部人工歯の位置の決定や排列後の位置の判定に利用される。

84 SPA 要素 えすぴーえーようそ

SPA factor

前歯部の人工歯を選択するとき、審美的な観点から参考にすべきとされる3つの要素。SPAは、患者の性別(sex)、性格(personality)、年齢(age)の頭文字を表す。FrushとFisher(1956)によって提唱された。

85 FGP テクニック えふじーぴーー

functionally generated path technique (FGP technique)

〔同義語〕 機能的運動路法

下顎の機能運動に調和した咬合面形態を備えた補綴装置を製作するため、対合歯の機能運動経路を口腔内で直接ワックスに印記させたものに石膏を注入した機能的模型と、解剖学的な対合歯模型の2種類によってワックスアップを行う術式。

86 エマージェンスプロファイル

emergence profile

天然歯、歯冠補綴装置、インプラントのアバットメントおよび上部構造の歯肉溝内から歯冠部歯頸部側 1/3 付近までのカントウアや立ち上がり角度などの形態。

87 MMA系レジンセメント

えむえむえーけいー

MMA-based luting agent

メチルメタクリレート (MMA) のモノマーを液剤の主成分、ポリマーを粉末の主成分とする装着材料。成分中に接着機能性モノマーを含む。

88 MPD症候群

えむびーでいーしょうこうぐん

myofascial pain dysfunction syndrome (MPD syndrome), neuromuscular dysfunction, myalgia

咀嚼筋の機能異常により引き起こされる、顎関節、咀嚼筋および関連組織の疼痛や機能障害を主症状とする症候群。顎関節症の1つの病態。

89 L*a*b*表色系 えるすたーえーすたーびーすたーひょうしょくけい

Commission Internationale de l'Éclairage 1976 (L*, a*, b*) color space (CIELAB)

国際照明委員会 (Commission Internationale de l'Éclairage, 略称 CIE) が 1976 年に推奨した三次元の近似的な均等色空間。CIE では、これらを CIE (1976) L* a* b* 色空間と呼ぶ。

90 Elbrecht クラスプ えるぶれひとー Elbrecht clasp

(同義語) T字クラスプ

欠損の反対側隣接面から鉤体が発し、頬・舌側面を鉤腕が走行して欠損側隣接面に鉤尖が終わり、レストは鉤体から咬合面の中央溝を通して欠損側に向かい、

そのまま鉤脚となる形態の環状鉤。Elbrecht (1961) により考案された。

91 嚥下位 えんげい

swallowing position

嚥下動作の第1相における顎位。通常、正常有歯顎者では嚥下時に咬頭嵌合位付近で咬合接触する。このことから無歯顎患者の垂直的、水平的顎位の設定に利用される。

92 嚥下障害 えんげしょうがい

swallowing disorder, dysphagia

摂食嚥下障害とほぼ同義。口腔期以降の障害を示すこともある。多くは反射性嚥下障害をいう。口腔期、咽頭期、食道期における器質障害によるものと、嚥下にかかわる末梢神経 (舌咽神経、迷走神経、三叉神経、顔面神経) および中枢神経 (延髄、網様体、大脳皮質) の障害によるものがある。

→「摂食嚥下障害」参照

93 嚥下造影検査

えんげぞうえいけんさ

videofluorography (VF)

(同義語) 嚥下透視検査、ビデオ嚥下造影、ビデオレントゲン検査

摂食嚥下障害の診断のため、嚥下造影剤とエックス線透視装置を用いて、口腔、咽頭、食道内での食塊の動きを観察することによって嚥下機能を評価する検査。嚥下運動は一連の早い動きなので、ビデオに記録して評価され、現在、誤嚥の有無の検査法として最も有効な方法であるが、誤嚥と窒息の危険性に注意が必要である。

94 嚥下透視検査 → 「嚥下造影検査」参照

95 嚥下内視鏡検査

えんげないしきょうけんさ

videoendoscopic evaluation of swallowing (VE), videoendoscopic examination of swallowing (VE)

摂食嚥下障害を診断するため、鼻咽腔内視鏡を用いて行う検査法。目的は形態異常、誤嚥、喉頭侵入、咽頭残留などを動的画像で診断することである。本検査法の利点はシステムが安価で小さく、患者への被曝もないことからベッドサイドで行えることである。しかし、欠点として咀嚼時の評価ができない、嚥下の瞬間が確認できないという問題がある。

96 嚥下法 えんげほう

swallowing method [of vertical relation]

無歯顎患者あるいは残存歯による咬合支持の欠如した患者や、咬頭嵌合位が顎頭安定位と一致していない患者などに対して、嚥下位を利用して顎間関係を決定する咬合採得法の1つ。垂直的ならびに水平的顎間関係の決定に応用されるが、前者においては、低位咬合になりやすいため、軽く嚥下させるのが良いとされる。

97 嚥下補助装置 えんげほじょそうち

prosthetic appliance for swallowing disorder

先天的あるいは後天的な形態や機能の異常による嚥下障害に対する治療目的で使用する補綴装置。

→「バルブ型鼻咽腔補綴装置」, 「舌接触補助床」参照

98 延長ブリッジ えんちょうり

cantilever fixed dental prosthesis

(同義語) 遊離端ブリッジ

ポンティックの近遠心側の1側のみに支台装置をもつブリッジ。片持ち梁構造のため、ポンティックに加わる咬合力に

対する支台歯の負担は通常の両端支持のブリッジより大きくなる。

99 延長腕鉤 えんちょうわんこう

extended arm clasp

二腕鉤の頬・舌側鉤腕を支台歯の隣接歯まで延長したクラスプ。支台歯に有効なアンダーカット域が存在しない場合や側方力を2歯に分散する目的などで適用されるが、実際の臨床での使用頻度は低い。

100 円板整位 えんぱんせい

disc repositioning, disc recapturing

前方転位などのように偏位していた関節円板が、オクルーザルアプライアンス療法や外科処置によって正常な位置に戻された状態。

101 円板転位 えんぱんてん

disc derangement, disc displacement, internal derangement

関節円板が下顎頭、下顎窩、あるいは関節結節に対して異常な位置関係にある状態。

102 円板復位 えんぱんふくい

disc reduction

前方転位などのように位置が正常でない関節円板が、開口時に正常な位置に戻ること。

お

103 OSAS 治療用口腔内装置 おーさす

ちりょうようこうぐないそうち

mandibular advancement splint

主に軽度あるいは経鼻の持続陽圧呼吸療法が困難な場合のOSASに用いる歯科の治療器具。オーラルアプライアンスの1つに分類される。睡眠時に着用して、

下顎を前進させた状態を固定することにより、上気道の閉塞を防ぐ。

→「睡眠時無呼吸症候群」, 「経鼻的持続陽圧呼吸療法」参照

104 オーバークロージャー

overclosure

上下顎間距離が減少した咬合状態（咬合高径の低下）。上下歯列が接触した状態では、歯槽間距離の減少が認められる。

105 オーバージェット

horizontal overlap, overjet

〔同義語〕水平被蓋

咬頭嵌合位で上顎前歯の切縁と上顎臼歯の頬側咬頭が下顎歯に対して水平的に被蓋している関係。通常は上顎中切歯切縁から下顎中切歯唇面までの水平的距離で表し、上顎が前方に位置する場合をプラス（+）、反対のものをマイナス（-）と表示する。

106 オーバーデンチャー

overdenture, overlay prosthesis

〔同義語〕残根上義歯

歯根あるいはインプラントを被覆する形態の可撤性義歯。

口蓋裂症例などの低位歯、開咬、鋏状咬合などでは、稀に天然歯冠をそのまま被覆することもあるが、通常は少数残存歯症例などでは、歯冠部を切除した根面に、根面板、根面アタッチメント、磁性アタッチメントなどを適用した後に本形態の義歯を設計する。後者の場合、負担能力に劣る残存歯の歯冠歯根比の改善、抜歯による顎堤吸収の防止、歯根膜感覚の活用などを期待した補綴装置である。

107 オーバーバイト

vertical overlap, overbite

〔同義語〕垂直被蓋

咬頭嵌合位で上顎前歯の切縁と上顎臼

歯の頬側咬頭が下顎歯に対して垂直的に被蓋している関係。通常は上顎中切歯切縁と下顎中切歯切縁との垂直的距離で表し、上顎の切縁が下方に位置する場合をプラス（+）、反対のものをマイナス（-）と表示する。

108 オーラルディアドコキネシス

oral diadochokinesis

舌や口唇の巧緻性と速度を評価する方法。被験者に「パ」「タ」「カ」の単音節をそれぞれ10秒間または5秒間ずつ、できるだけ速く繰り返し発音させて、1秒あたりの発音回数を測定する。口腔機能低下症における舌口唇運動機能低下の検査法である。

109 オーラルディスキネジア

oral dyskinesia

支配神経あるいは筋の障害により下顎、舌、口唇などに出現する反射性、情動性の不随意運動。咬合異常や口腔内の疼痛、違和感などの末梢入力の変異が誘因や増悪因子となることがある。

110 オーラルフレイル

oral frailty

加齢変化や疾病、廃用によって生じる口腔の器質的・機能的な変化に加えて、口腔の健康に対するリテラシーの低下、全身の予備能力低下などが重なり、口腔機能が低下した状態。口腔の脆弱性が増加し、虚弱になった状態で、ささいな口腔機能の低下から摂食嚥下障害や咀嚼障害までの一連の状態を意味しており、フレイルや要介護のリスクを増悪すると考えられている。

→「口腔機能低下症」参照

111 オーラルリハビリテーション

oral rehabilitation

〔同義語〕咬合再構成

1) ナソロジー学派が提唱した一連の臨床術式の総称であり、蝶番軸に基づいて咬合位を定め、臼歯離開咬合か犬歯誘導咬合を追究する治療法。

2) 比較的多数歯の関与する咬合異常による顎口腔系の障害に対して、歯列全体に固定性または可撤性補綴装置を適用することで咬合を再構築し、顎口腔系の形態・機能・審美性の回復を図る方法。

112 Oリングアタッチメント おー

O-ring attachment

ゴム製で断面が円形のOリングをマトリックスとし、このマトリックスを受け入れるように形成された半円形の頸部を有するスナップ状のマトリックスを組み合わせた根面アタッチメント。オーバーデンチャーの支台装置として応用される。ゴムリングが劣化するため、交換する必要がある。

113 オールセラミッククラウン

ceramic crown, all ceramic crown

高強度のファインセラミックス単体あるいはフレームとレイヤリングセラミックスで前装された全部被覆冠。シリカ系、ジルコニア系あるいはアルミナ系セラミックスをCAD/CAM技法、プレス成形、築盛法あるいは削り加工で加工する。

114 オールセラミックブリッジ

all ceramic fixed partial denture

高強度のファインセラミックス単体あるいはフレームとレイヤリングセラミックスで前装されたブリッジ。シリカ系、ジルコニア系あるいはアルミナ系セラミックスをCAD/CAM技法、プレス成形あるいは築盛法で加工する。

115 オクルーザルアプライアンス

occlusal device, occlusal

appliance

〔同義語〕 オクルーザルデバイス

暫間的に歯列の咬合面を被覆し、咬合の改善や診断に用いられる可撤性の口腔内装置。スタビリゼーションアプライアンス (stabilization appliance)、リラクゼーションアプライアンス (relaxation appliance)、リポジショニングアプライアンス (repositioning appliance) などがある。

116 オクルーザルテーブル

occlusal table

天然歯や補綴装置の臼歯部の咬合面、すなわち咬合の保持や咀嚼に直接関与する面。

117 オクルーザルデバイス→「オクルーザルアプライアンス」参照

118 オクルーザルランプ

occlusal ramp

〔同義語〕 パラタルランプ

外科処置などにより下顎偏位が生じた場合、咬頭嵌合位を保持するために上顎義歯や口蓋板に付与された咬合面の機能を担うテーブル様の構造物。通常、人工歯や残存歯の口蓋側に付与されるのでパラタルランプ (palatal ramp) ともいう。

119 オッセオインテグレーション

osseointegration

骨組織とインプラント体との界面に炎症所見が認められず、かつ、骨のリモデリングを妨げずに良好な接触関係が維持される状態。骨組織とインプラント体界面の光学顕微鏡像において、界面に軟組織が介在せず、直接接触していることが必要条件とされる。

120 オッセオインテグレートッドインプラント

osseointegrated implant

〔同義語〕骨結合型インプラント

インプラントの1つで、その下部構造が骨組織に密着した結合状態を呈し、インプラント体に加わった力を直接骨に伝達する様式のもの。

121 オッセオインテグレートドブリッジ
ジ→「ボンアンカードブリッジ」

参照

122 オトガイ唇溝 ーしんこう
mentolabial sulcus

下唇とオトガイ部との境界の皮膚を横走る弓形の浅い溝。老人様顔貌の評価、咬合高径の評価、下顎義歯の前歯部人工歯排列位置、義歯床翼の豊隆などの指標となる。

123 オベイト型ポンティック ーがたー
ovate pontic

外科的な補綴前処置により形成した顎堤粘膜の凹みに、球面状の基底面が入り込み接触する形態のポンティック。審美性を重視した形態であるが、ブリッジ装着までの期間プロビジョナルブリッジで凹みを圧迫して維持しておく必要があり、基底面の清掃にも注意が必要など、問題も残されている。

124 オルタードキャスト法 ーほう
altered cast technique

義歯の機能時における床と粘膜との適合を図るため、解剖学的印象により製作した模型の欠損部のみを機能印象による模型に置き換える方法。

125 Orton クラウン おるとんー
Orton crown

歯型の全周に適合させた純金製のマトリックスの歯頸部に、22K金板で幅の狭い帯環をろう（鐳）付けし、歯冠形態をワックスアップ後、鋳造して製作する全部被覆冠。金属の鋳造収縮をマトリック

ス箔使用により防ぐために考案された。ガス抜きがうまくないと鋳造が困難であり、鋳造冠の登場で過去のものとなった。

か

126 加圧印象 かあついんしょう
pressure impression

有床義歯の機能時の状態を想定し、顎堤粘膜を加圧下で採得する印象。咬合圧印象、ダイナミック印象などがある。

127 外冠 がいかん
outer cap, outer crown

テレスコープクラウンの一部であり、可撤性補綴装置に設置される金属冠。内冠との接触面に生じる摩擦力あるいはくさび効果は可撤性義歯の維持力として効果的に働く。外冠によって歯冠外形を再現する。

128 概形印象 がいけいしんしょう
preliminary impression

歯および欠損部顎堤などの口腔内諸組織を予備的に採得する印象。この印象から研究用模型を製作し、咬合関係の検査、床縁の位置の判定、義歯の仮設計、個人トレーの製作などを行う。

129 開口障害 かいこうしょうがい
mandibular trismus, limitation of mouth opening, limited mouth opening

顎口腔系組織・器官が一過性あるいは持続的に障害を受け、開口運動に制限が生じた病態。一般的に最大開口量の測定によって診断されるが、顎関節の障害によるものと、筋などの軟組織の異常によるものがある。

130 外斜線 がいしやせん
external oblique ridge

下顎骨筋突起前線から下方へ走り、白後三角の頬側を通り、下顎体の臼歯部外面に移行する骨の隆線。内斜線とともに臼歯部義歯床縁の位置を設定する際に解剖学的指標として用いられる。

131 外傷性咬合 がいしょうせいこうごう
traumatic occlusion

- 1) 顎口腔系に損傷を引き起こす咬合。
- 2) 歯周組織に損傷を引き起こす咬合。

132 外側バー がいそくー
external bar

残存歯部の口腔前庭に設置される大連結子。前歯部に用いられるものを唇側バー (labial bar)、臼歯部に用いられるものを頬側バー (buccal bar) という。

133 改訂水飲みテスト
かいていみずのー

modified water swallowing test
(MWST)

摂食嚥下障害をスクリーニングする検査法の1つ。水飲みテストの原法は、30 mLの水を口に含んでもらい、嚥下時間・回数やむせの有無を観察する方法である。しかし飲水量が多く重症例に用いることが困難であることから、変法され3 mLの冷水を使って評価するよう改訂された。口底に冷水を注ぎ嚥下を指示し評価する方法。誤嚥の有無を予測する感度・特異度が確認されており、簡便さと安全性から有用性が高い検査法である。

134 ガイドグループ
guiding groove, orientation
groove

支台歯形成の始めに、歯質の切削量を規定するために設けられる溝。

135 ガイドプレート
guide plate

インプラント体埋入手術において、イン

プラント体の埋入位置、方向などを規定するために使用される誘導装置。CAD/CAMによって製作されたガイドプレートと専用ドリルを使用することもある。

136 ガイドプレーン
guiding plane

〔同義語〕誘導面

支台歯側面に義歯の着脱方向と平行に形成された平面。隣接面板やクラスプなどとの組み合わせで、義歯と支台歯の間隙を少なくし、支台歯の保護と義歯の動揺を規制する機能を発揮する。

137 開鼻声 かいびせい
hypernasality

鼻咽腔閉鎖機能不全などにより、鼻腔に流れる音声気流が多く鼻に抜け、非鼻音の構音時においても鼻腔が共鳴腔のように働くことにより産生される音声のこと。

138 解剖学的印象
かいぼうがくてきいんしょう
anatomic impression

顎口腔諸組織の解剖学的形態をできるだけ静的な状態で採得する印象。特に、軟組織部では「無圧印象」と同義語として用いられる。

139 解剖学的咬合器
かいぼうがくてきこうごうき
anatomical articulator

〔同義語〕顎路型咬合器

関節部の構造が生体の顎関節に類似している咬合器の総称。顎路の再現を重視し、咬合器の運動を顎路を主体として行わせようとするもの。

140 解剖学的歯冠
かいぼうがくてきしかん
anatomic crown

天然歯のセメント-エナメル境から切

縁あるいは咬合面までの部分、

→「臨床的歯冠」参照

141 解剖学的人工歯

かいはうがくてきじんこうし

**anatomic artificial teeth,
anatomic teeth**

第一大臼歯の咬頭傾斜角が 30° 以上の人工歯。咀嚼能率の向上、咬合面による義歯の咬頭嵌合位への誘導機能、天然歯に近い審美性などの利点があるが、偏心位での咬合調整に時間がかかるなどの欠点がある。

142 過蓋咬合 かがいこうごう

excessive vertical overlap, deep bite

咬頭嵌合位において上顎前歯が下顎前歯唇面の $1/4\sim 1/3$ 以上を被覆する咬合状態。上下顎歯列弓の垂直的咬合関係の異常の1つ。

143 下顎安静位 かがくあんせいゐ

physiologic rest position

上体を起こして安静にしているときの顎位。通常、咬頭嵌合位の $2\sim 3$ mm下方の位置とされる。

144 下顎安静位利用法

かがくあんせいゐりようほう

**maxillomandibular registration
using physiologic rest position**

下顎安静位を利用して咬合高径を決定する咬合採得法。上下顎の皮膚上に設定した標点間の距離を計測し、下顎安静時のものから平均的な安静空隙量($2\sim 3$ mm)を減じた値となる顎位を中心咬合位とするもの。

145 下顎位 かがくい

mandibular position

頭蓋を基準とした場合の下顎の空間的な位置。数学的には互いに独立な6個の

パラメータで定義できる。このパラメータは直交座標系で例を示すと、座標値(x, y, z)と各軸の周りの回転($\theta_x, \theta_y, \theta_z$)となる。

146 下顎運動 かがくうんどう

mandibular movement

上顎を基準としてみた場合の顎運動。

147 下顎運動記録

かがくうんどうきろく

mandibular tracing, mandibular movement record

- 1) 生理学的な研究、あるいは顎口腔機能の診断や咬合器の調節などの臨床的な目的で行われる下顎の運動に関する記録。解剖学的方法、写真法、映画法、描記法、電気的測定法などがある。
- 2) 下顎運動の軌跡。

148 下顎運動記録装置

かがくうんどうきろくそうち

mandibular movement recording device

下顎運動の記録、分析を目的とする種々の測定解析装置の総称。主要な商品として、MKG、シロナソグラフ、MM-J2、トライメット、ナソヘキサグラフなどがある。

149 下顎運動障害

かがくうんどうしょうがい

mandibular movement disorders

下顎運動が滑らかに行われぬ、あるいは下顎運動が制限された病態。

150 下顎運動要素

かがくうんどうようそ

elements of mandibular movement

三次元的な下顎運動を3点で表示するための6要素。これには方向、距離、経路の彎曲が含まれている。運動方向は基

準平面に対する実角で、また、運動距離は投影距離または実距離で表示される。運動経路の彎曲は、運動方向を示す直線に対する経路の彎曲の深さによって表示されることもある。

151 下顎限界運動 [路]

かがくげんかいうんどう [ろ]

mandibular border movement
[path]

骨、顎関節、歯、筋、靭帯などにより規制された三次元的な下顎の限界での運動(路)。切歯点の限界運動路を表示した Posselt の図形が有名である。また、ある定められた垂直的顎位における水平面上では、前方・後方・側方の下顎限界運動路が描記される。特に、後方・側方下顎限界運動路を描記したものはゴシックアーチと呼ばれる。

152 下顎後退位 かがくこうたいい

mandibular retruded position

咬頭嵌合位に相当する顎位より後方に位置するすべての顎位。

153 下顎後退咬合位→「下顎後退接触位」

参照

154 下顎後退接触位

かがくこうたいせつしょくい

retruded contact position

〔同義語〕下顎後退咬合位

咬頭嵌合位から上下顎の歯を接触させた状態で、下顎を後方へ滑走させたときのすべての咬合位。

155 下顎最後退位

かがくさいこうたいい

posterior border position of mandible

下顎後退位の中で最も後方に位置する顎位。Posselt (1962) が用いた用語で、関節包を構成する靭帯の緊張により決定

される下顎のとりうる最後方位で、ゴシックアーチの頂点に一致する。

156 下顎最後退咬合位→「下顎最後退接触位」参照

157 下顎最後退接触位

かがくさいこうたいせつしょくい

most retruded contact position

〔同義語〕下顎最後退咬合位

下顎頭が下顎窩内で最も後方に位置する状態での咬合位。

158 下顎前方保持装置

かがくぜんぼうほじそうち

anterior mandibular positioner

閉塞型睡眠時無呼吸症候群やいびきの治療に用いられる口腔内装置。下顎前方整位タイプと舌位矯正タイプに分けられ、下顎あるいは舌を前方に位置づけることで上気道を拡張する。

159 下顎頭 かがくとう

mandibular condyle

〔同義語〕顎頭

下顎枝の後方の長楕円形の突起。下顎頭とともに関節突起を構成する。顎関節の関節頭として働く。

160 下顎頭位 かがくとうい

condylar position

〔同義語〕顎頭位

下顎窩に対する下顎頭の位置関係。

161 下顎隆起 かがくりゅうき

mandibular torus

下顎骨の臼歯部舌側面、特に第二小臼歯部に好発する、骨質の局所的過剰発育によって生ずる骨隆起。通常は無症状であるが、有床義歯の適用時には床外形の設定に障害となることが多い。

162 下弓 [咬合器の]

かきゅう [こうこうきー]

lower bow [of articulator]

咬合器の下部構造で下顎模型を装着する金属製の体部。

163 顎位 がくい

mandibular position, jaw position

上顎と下顎との相対的な位置関係。上顎を基準とした場合を下顎位、逆に下顎を基準とした場合を相補下顎位と呼び、その両者を総称したもの。

164 顎運動 がくうんどう

mandibular movement, jaw movement

上顎と下顎の相対的な運動。上顎を基準とした場合を下顎運動、逆に下顎を基準とした場合を相補下顎運動と呼び、その両者を総称したもの。

165 顎運動検査 がくうんどうけんさ

examination of mandibular movement, examination of jaw movement

下顎の運動記録から、上下顎の顎間関係や咬合器調節のための運動要素の情報を得たり、顎口腔機能状態の診断を行うための検査。上顎を基準にとり下顎の運動を検査する下顎運動検査と、下顎を基準にとり上顎の相対的な運動を検査する相補下顎運動検査とがある。描記法に加え、最近では各種センサーを用いた電気的検査法も普及してきている。

166 顎間関係 がくかんかんけい

maxillomandibular relationship

上顎に対する下顎の、または下顎に対する上顎の空間的位置関係。上下顎間の水平・垂直方向のすべての位置関係を含む。

167 顎間関係記録→「顎間記録」参照

168 顎間距離 がくかんきょり

vertical dimension

下顎がある特定の位置にあるときの、

上顎と下顎に設定した2点間の距離。上下顎が中心咬合位で咬合しているときの顎間距離を咬合高径という。

169 顎間記録 がくかんきょろく

maxillomandibular relationship record

〔同義語〕顎間関係記録

上下顎間の垂直的・水平的位置関係の記録。

170 顎関節エックス線撮影

がくかんせつせんさつえい

temporomandibular joint radiography

顎関節部の骨形態や顎関節隙を検査するためのエックス線撮影。顎関節疾患の診断や治療効果、および顎関節腔造影法との併用による関節円板の形態異常や機能異常の検査に用いられる。

171 顎関節雑音 がくかんせつざつおん

temporomandibular joint noise

顎運動に伴って顎関節部に生ずる異常音。顎関節症の主症状の1つで、初発症状として高頻度に出現する。その音質はクリッキング(弾撥音)とクレピテーション(捻髪音、摩擦音)とに大別される。

172 顎関節疾患 がくかんせつじっかん

temporomandibular joint diseases

顎関節部の病変で、その病態あるいは原因により、①発育異常、②外傷、③炎症、④退行性関節疾患あるいは変形性関節症、⑤腫瘍および腫瘍類似疾患、⑥全身性疾患に関連した顎関節異常、⑦顎関節強直症、⑧顎関節症の8つに分類される。

173 顎関節症 がくかんせつしょう

temporomandibular disorders

顎関節や咀嚼筋の疼痛、関節雑音、開口障害ないし顎運動異常を主要症状とする

慢性疾患群の総括的診断名。その病態には咀嚼筋障害、関節包・靭帯障害、関節門板障害、変形性関節症などが含まれる。

→「顎機能障害」参照

174 顎関節痛 がくかんせつづつう

temporomandibular arthralgia

顎関節部あるいはその周囲の疼痛。関節痛は関節内部の円板、滑膜、関節包などの障害によっても生じるが、関節周囲の組織、例えば筋、筋膜、腱、靭帯などの障害によっても起こる。

175 顎関節内障 がくかんせつないしょう

internal derangement of temporomandibular joint

顎関節症の病態の1つ。関節門板の位置や形態異常によって引き起こされる顎関節の機能障害。

176 顎顔面補綴 がくがんめんほてつ

maxillofacial prosthetics

腫瘍、外傷、炎症、先天奇形などが原因で、顔面または顎骨とその周囲組織に生じた欠損に対し、非観血的に、あるいは再建やインプラント手術との併用により人工物で補填・修復し、失われた機能と形態の回復を図ること。その処置部位により、顎補綴と顔面補綴とに大別される。

177 顎顔面補綴装置

がくがんめんほてつそうち

maxillofacial prosthesis

顎顔面補綴に用いられる装置。その適用部位により、顎補綴装置（口腔内補綴装置；intraoral prosthesis）と顔面補綴装置（口腔外補綴装置；extraoral prosthesis）とに大別される。

178 顎義歯 がくぎし

maxillary prosthesis, denture for defected jaw, obturator,

mandibular prosthesis

腫瘍、外傷、炎症、先天奇形などによる顎骨または口腔軟組織の欠損に適用され、欠損部の補填・閉塞を図るとともに、人工歯を備え、義歯に準ずる形態と機能を有する補綴装置。上下の顎欠損を補填する場合、栓塞部（obturator）を備えている。

179 顎機能障害 がくきのうしょうがい

temporomandibular disorders

顎関節雑音、顎関節や咀嚼筋の疼痛、顎運動障害を主徴とする症候群。ときには顎口腔領域にとどまらず全身や、精神心理面に種々の障害をもたらす。日本顎関節学会は顎関節症を正式な名称として採用しているが、この顎機能障害の用語は、咀嚼筋症状だけで顎関節に症状を認めない症例を含む本症候群の疾患名として適切であるという主張に基づいている。

→「顎関節症」参照

180 顎欠損 がくけつそん

jaw defect

腫瘍摘出や先天奇形などによる顎骨の部分あるいは全部の欠損。これにより顔面の審美性の障害を含む多様かつ重篤な口腔機能障害が引き起こされる。特に上顎では口腔と鼻腔の病的交通による飲食物や空気の漏洩、下顎では残存セグメントの三次元的変位による咬合の崩壊などが代表的なものであり、いずれも顎補綴処置の対象となる。

181 顎口腔系 がくこうくうけい

stomatognathic system, masticatory system

摂食、咀嚼、嚥下および発音に関係する顎・口腔・顔面領域の組織と器官の共同体。

182 顎骨支持→「インプラント体支持」

参照

183 顎骨-粘膜支持→「インプラント体-粘膜支持」参照

184 顎舌骨筋線 がくぜつこつきんせん
mylohyoid ridge

下顎体の内面を、後方より前下方に斜走し、顎舌骨筋が付着する隆線。下顎床義歯の臼歯部における舌側床縁は、この隆線を越えた位置に設定するのが妥当とされる。ただし、当該部の粘膜面にはリリーフが必要である。

185 顎堤 がくてい
residual ridge

歯の喪失によって生じる骨吸収の後に、残留した歯槽骨あるいは顎骨と顎堤粘膜によって形成される堤状の高まり。無歯顎の場合にはその形態から顎堤弓(residual ridge arch, alveolar arch)と呼ばれる。

186 顎堤吸収 がくていきゅうしゅう
residual ridge resorption

歯槽骨の吸収によって起こる欠損部顎堤の形態の変化。顎堤は義歯を支持する役割を担うが、顎堤の形態や顎堤粘膜の被圧変位量などは義歯の維持と安定に大きく関与する。

187 顎堤粘膜 がくていねんまく
residual mucous membrane

顎堤を被覆する粘膜。上皮は厚く、角化しており、薄い粘膜下組織によって骨と結合している。義歯に加わる咬合力を支持するのに適した組織構造を有している。

188 顎補綴 がくほてつ
prosthetics for defected jaw

腫瘍、外傷、炎症、先天奇形などによって生じた顎骨とその周囲組織の欠損に対し、非観血的に、あるいは再建やイ

ンプラント手術との併用により人工物で補填・修復し、顎口腔の失われた機能と形態の回復を図ること。

189 顎補綴装置 がくほてつそうち
prosthesis for defected jaw, appliance for defected jaw, maxillary prosthesis

腫瘍、外傷、炎症、先天奇形などが原因で、顎骨とその周囲組織に生じた欠損に対し、非観血的に、あるいは再建やインプラント手術との併用により、顎口腔の失われた機能と形態の回復を図るために用いられる人工物。

190 カスタムアバットメント
custom made abutment

既製アバットメントに対し、より歯冠形態やエマージェンスプロファイルを考慮したフリーデザインのアバットメント。以前はUCLAアバットメントにワックスアップをし金合金で鋳接して製作したが、近年では、チタンあるいはジルコニアを素材としてCAD/CAMにより製作されることが多い。

191 仮想咬合平面
かそうこうごうへいめん
tentative occlusal plane

最終義歯の咬合平面の基準となる、咬合堤上に表現される平面。

192 型ごと埋没法 かたーまいぼつほう
die investing method

作業用模型から複製された耐火模型上でワックスアップし、ワックスパターンを模型から外さずに、そのまま同一埋没材で埋没して鋳造体を製作する方法。使用埋没材には、石膏系やリン酸塩系などがあるが、一般的に通常の埋没材より結合材の量を多くして、強度を与えている。

193 仮着 かちやく**provisional cementation,
temporary cementation**

プロビジョナルクラウンなども含めた
歯冠補綴装置を支台歯に一時的に装着す
ること。最終補綴装置の場合には、その
状態で暫時患者に使用させ、審美性や咬
合機能の回復程度および装着感などを観
察し、問題点があれば改善し、異常がな
ければ耐久性の高い材料を用いて合着す
る。

194 滑走運動 かっそううんどう**mandibular translation**

咬合接触を保持した状態で行う前方、
後方、または側方への顎運動。それぞれ、
前方滑走運動、後方滑走運動、側方滑走
運動と呼ばれ、咬合の検査や咬合様式の
確認に利用される。特に側方滑走運動は
咀嚼運動と密接な関係にあることから、
各種の顎運動の中で最も重要視され、こ
の方向、距離および彎曲は咬合器の設計
や咬合器での顎運動の再現あるいは合理
的な咬合面形態の付与や咬合調整のため
の最も重要な検査対象となる。

195 可撤歯型式模型→「歯型可撤式模型」
参照**196 可撤性義歯** かてつせいぎし**removable denture**

患者あるいは術者が任意に着脱可能な
義歯。有床義歯、可撤性ブリッジなどが
ある。

197 可撤性ブリッジ かてつせい—**removable dental prosthesis**

患者あるいは術者によって装置の一部
が着脱可能な、支台歯歯根膜で支持され
るブリッジ。支台歯間の平行性が十分で
ないときや、有床型や鞍状型ポンティッ
クなどの非自浄型ポンティックを適用し

た場合に設計される。

198 可撤性補綴装置

かてつせいほてつそうち

removable dental prosthesis

補綴装置のうち、全部床義歯、部分床
義歯、可撤性ブリッジなど、患者あるい
は術者による着脱が可能な装置。

199 可撤性連結 かてつせいれんけつ**removable connection**

装置の一部が、随時着脱しうる構造を
もつ連結様式。

200 顎頭→「下顎頭」参照**201 顎頭安定位** かとうあんてい**stabilized condylar position**

下顎頭が下顎窩の中で緊張なく安定す
る位置(大石忠雄, 1967)。正常歯列者の
咬頭嵌合位では下顎頭は顎頭安定位にあ
る。

202 顎頭位→「下顎頭位」参照**203 顎頭間距離** かとうかんきょり**intercondylar distance**

顎頭間軸上にある左右の顎頭点間の距
離。臨床では、皮膚上の顎頭点をフェイ
スポウにより計測している。したがって
真の顎頭間距離は、これより片側で平均
約 12 mm 差し引いた距離とされる。
Bonwill (1859) は顎頭間距離を 4 インチ
(約 10 cm) とし、Bonwill 三角の一辺と
して補綴学的に意義づけ、咬合器に応用
した。

204 顎頭間軸 かとうかんじく**condylar axis, intercondylar axis**

下顎が回転運動するときの左右の顎頭
を結んだ仮想軸。

205 顎頭球 かとうきゅう**condylar ball**

生体の下顎頭に相当する咬合器の球状
の部分。咬合器の上弓あるいは下弓に取

り付けられ、顎路指導板に対して回転あるいは滑走し、咬合器の開閉運動、側方運動を規制する。

206 顎頭点 かとうてん

condylar point

顎運動の原点として利用される下顎頭を代表する基準点。一般に、下顎頭の平均的な形態に基づいて皮膚上に求められた平均的顎頭点、あるいは終末蝶番軸上の蝶番点もしくは全運動軸上の全運動軸点を指す。

207 可動粘膜 かどうねんまく

unattached mucous membrane

咀嚼、発音、嚥下などの機能時に、筋の動きに伴って移動、変形する粘膜。

208 下部構造 (体) [インプラントの]

かぶこうぞう (たい)

substructure [of implant prosthesis]

〔同義語〕 サブストラクチャー

インプラント体のこと。それに連結されたアバットメントを含めて呼ぶこともある。

→「上部構造 (体)」、「中間構造 (体)」参照

209 ガム模型→「人工歯肉付模型」参照

210 カラーレスマージン

collarless metal ceramic restoration

陶材焼付冠において辺縁部のコーピングを除去し、陶材によって直接被覆して審美性の向上を図ったマージン。

211 ガラス浸透型セラミックス

ーしんとうがたー

glass-infiltrated ceramics

アルミナ・コア材に低粘度のガラスを浸み込ませたもの。毛細管現象によってガラスが多孔性の酸化アルミニウム (ア

ルミナ) に引き込まれ、非常に強固で濃密なアルミナ・ガラス複合体となる。

212 顎路 かる

condylar path

顎運動時に下顎頭が示す運動経路。特に滑走運動時の運動経路をいう。一般に下顎頭を代表する顎頭点の運動軌跡として表す。切歯路とともに顎運動の重要な要素であり、種々の顎運動に対応してさまざまな経路をとるが、その限界運動路を矢状面、水平面、前頭面に投影して矢状顎路と側方顎路とに区別し、咬合器の顎路調節などに利用する。

213 顎路型咬合器

condylar path articulator

→「解剖学的咬合器」参照

214 顎路指導板 かるしどうばん

condylar guidance

咬合器の関節部で顎頭球を一定方向に誘導し、一般的に矢状顎路傾斜角および側方顎路角を規制する部分。その機構からボックス型とスロット型とに分類される。

215 顎路調節機構

かるちようせつつきこう

adjustable posterior guidance

調節性咬合器における顎路を再現するための調節機構。顎路指導部を調節することにより、各個人の矢状顎路および側方顎路が設定できる。

216 冠→「クラウン」参照

217 緩圧型アタッチメント

かんあつがたー

stress-breaking attachment, resilient attachment

義歯に機能圧が加わった場合に、支歯歯に伝達される力が過大となるのを防止する目的で、緩圧機構が付与されている

アタッチメントの総称。緩圧方法には蝶番、スプリング、スペース付与の3種類がある。

218 緩圧型維持装置→「緩圧型支台装置」参照

219 緩圧型支台装置

かんあつがたしだいそうち

stress-breaking retainer

〔同義語〕緩圧型維持装置

義歯に加わる機能圧を制御して、支台歯の負担を軽減する構造と作用をもつ支台装置。

220 緩圧装置 かんあつそうち

stress director, stress breaker

支台歯などに伝達される咬合力の一部または大部分を軽減し、それらの力の方向を他の支台装置や咬合圧負担域へ変更する装置、あるいはシステム。支台装置自体が緩圧作用を有するもの（緩圧型支台装置）と、連結子に緩圧作用をもたせるもの（スプリットバーなど）がある。

221 眼窩下点 がんかかてん

infraorbital point

眼窩骨縁の最下点と定義される眼点（orbitale；眼窩点）に相当する皮膚上の計測点。前方を直視させたときの瞳孔の直下で、眼窩下縁と交わる点を触診によって求める。フェイスボウトランスファー時の前方基準点の1つとして用いられる。

222 感覚異常→「感覚障害」参照

223 感覚障害 かんかくしょうがい

dysesthesia, paresthesia, sensory disturbance

〔同義語〕感覚異常、知覚異常

感覚障害は主に、体性感覚の障害を示す状態あるいはそれを表す病名。体性感覚は触覚、温度感覚、痛覚の皮膚感覚と、

筋や腱、関節などに起こる深部感覚からなる。口腔内には鬱状態のときの過剰感覚、セネストパチーにおける錯覚あるいは妄想に似た異常感覚が起こることがある。知覚異常ともいわれ、舌痛症にみられる。

224 嵌合効力 かんごうこうりょく

interlocking force

〔同義語〕嵌合力

修復物の着合材として用いられる泥状のセメントが、窩壁や修復物の粗造面の微細な凹凸の中に入り込んで硬化し、その面に沿った滑りを阻止する力。リン酸亜鉛セメントの場合では、修復物の維持力の主体をなす。

225 嵌合力→「嵌合効力」参照

226 緩衝腔 かんしょうくう

relief area

義歯床下粘膜に過度の圧力が加わらないように、リリーフを目的として義歯床粘膜面と顎堤粘膜との間に作られる空隙。臨床的には、作業用模型上で緩衝部に絆創膏、金属箔などを貼付する方法、あるいは完成した義歯床粘膜面の当該部位を削除する方法などがある。

227 環状鉤 かんじょうこう

circumferential clasp

鉤腕が支台歯の歯冠をとりまく形態のクラスプの総称。鉤腕、鉤体、鉤脚から構成される。単純鉤、二腕鉤などの鉤腕の数による分類、ヘアピンクラスプ、リングクラスプ、双子鉤、延長腕鉤、連続鉤などの形態による分類、Akers クラスプ、Jackson クリブクラスプなど考案者の名による分類など、多様な分類がある。

228 間接維持装置→「間接支台装置」参照

229 間接支台装置

かんせつしたいそうち

indirect retainer

〔同義語〕間接維持装置

部分床義歯の支台装置の1つ。欠損部から離れた歯に設定され、主に支台歯間線を軸とした義歯の回転に抵抗するものをいう。

230 完全自浄型ポンティック

かんぜんじじょうがたー

hygienic pontic

自浄性、清掃性に基づくポンティック形態の1つ。最も自浄性に優れた形態とされ、離底型ポンティックがこれに相当する。

231 寒天アルジネート連合印象

かんでんーれんごういんしょう

agar alginate combined impression

シリンジ用寒天印象材を支台歯に注入し、その上からトレーに盛ったアルジネート印象材で印象する印象法の1つ。

232 寒天印象 かんてんいんしょう**agar impression, reversible hydrocolloid impression**

寒天印象材による印象。コンディショナーで加熱して印象材をゾル状にしておき、シリンジを用いて印象材を支台歯と歯列に注入し、冷却用チューブの付いた専用のトレーにトレー用印象材を盛ってその上に被せた後、水冷して採得する印象。

233 カントゥア〔歯の〕 — 〔はー〕**contour〔of tooth〕**

歯冠の軸面形態。特に頬・舌側の豊隆形態を指すことが多いが、本来は歯冠形態の外形を意味する。適正なカントゥア(normal contour)より豊隆が大きなもの

をオーバーカントゥア(over contour)、逆に、豊隆が不足しているものをアンダーカントゥア(under contour)という。

234 Camper 平面 かんべるへいめん**Camper's plane**

水平基準面の1つであり、左右側いずれかの鼻翼下縁と両側の耳珠上縁によって形成される平面。なお、側貌エックス線写真などの骨組織上では、鼻棘点(前鼻棘底尖端部)と外耳道の中央を通る平面をいう。この平面は正常有歯顎者の咬合平面とほぼ平行であることから、咬合床に付与する仮想咬合平面の決定に利用される。なお、左右側いずれかの鼻翼下縁と耳珠上縁とを結ぶ線は鼻聴道線(Camper線, ala-tragus line)と呼ばれる。

235 顔面印象 がんめんいんしょう**facial impression**

顔面補綴装置(顔面エピテーゼ)製作のために採得された対象物の陰型。その採得方法は通常、アルジネート印象材(顔面表面側)と石膏(代替トレー)の積層印象法などにより行われる。印象材と石膏の保持にはガーゼやポリウレタンシートなどが用いられる。印象時、患者の鼻あるいは口には呼吸用チューブが装着される。

236 顔面インプラント がんめんー**facial implant**

顔面補綴装置(顔面エピテーゼ)の維持源のために頭蓋顔面骨に生体材料あるいは非生体材料を移植または嵌植する形成術、またはそれらの移植体、嵌植物の総称。

237 顔面エピテーゼ がんめんー**facial prosthesis**

腫瘍、外傷、炎症、先天奇形などが原

因で生じた顔表面を含む実質欠損に対し、非観血的に、あるいは手術との併用により補填修復し、その形態的・審美的改善とともに、発語などの失われた機能の回復を図るために用いる人工物、独語 Epithese に由来。

238 顔面計測法 がんめんけいそくほう
facial measurement method

形態的根拠に基づく垂直的顎間記録法。咬合高径（鼻下点・オトガイ間距離）に近似する顔面上の標点を計測する方法で Willis 法（瞳孔・口裂間距離）、McGee 法（眉間・鼻下点、瞳孔・口裂、左右口角間距離）、Bruno 法（手掌の幅）などがある。

→「咬合高径」参照

239 顔面欠損 がんめんけつそん
facial defect

腫瘍摘出や外傷に後遺する顔面部の欠損。審美障害はもちろんであるが、開口部が存在する場合には、鼻腔や口腔の慢性的乾燥、構音障害、流涎などの機能障害も発現する。審美障害と機能障害の改善のためには、皮膚移植などの外科的再建手術や顔面補綴装置（顔面エピテーゼ）の装着あるいは両者の併用が適用される。

240 顔面補綴 がんめんほてつ
facial prosthetics

腫瘍、外傷、炎症、先天奇形などが原因で生じた顔表面を含む実質欠損を非観血的に、あるいは再建やインプラント手術との併用により人工物で補填・修復し、その形態的審美的改善とともに、発語などの失われた機能の回復を図ること。この補綴装置を顔面エピテーゼと称する。

き

241 キーアンドキーウェイ
key and keyway

主として半固定性補綴装置に用いるスライド型連結装置の1つ。一般に支台歯の隣接面歯冠内にレール状に設けられたキーウェイ（マトリックス）と、これと嵌合するようにポンティック部に設けられたキー（パトリックス）から構成される。

242 キーパー
keeper

磁石の保磁子。磁性ステンレス鋼などを材料とした板状の形態を有する歯科用磁性アタッチメントの構成要素の1つであり、磁石構造体に吸着して閉磁路を構成する。

243 キール
keel

フレンジテクニクにおいて人工歯排列位置と義歯床研磨面の形態を決定する際に、咬合の支持とワックスの保持を目的として基礎床の臼歯部に設けられた柱。舌や頬粘膜など、義歯周囲組織の生理的な運動を阻害しないように、ニュートラルゾーン内に設置される。

→「フレンジテクニク」参照

244 義顎 ぎがく
template for defected jaw

腫瘍、外傷、炎症、先天奇形などによる顎骨または口腔軟組織の欠損に適用され、人工歯を備えず、欠損部の補填、閉塞などを目的とした補綴装置。

245 義歯 ぎし
denture

歯およびその周囲組織の喪失による審

美障害と機能障害の改善を目的として製作・装着される人工装置。残存歯に固着される固定性補綴装置と、患者や術者が任意に着脱できる可撤性補綴装置とがある。その他にも目的、材料、形態などに基づいて多様に分類される。

246 義歯安定剤 ぎしあんていざい
denture stabilizer

維持、安定の不良な義歯の改善を目的として使用する材料。粘着力の増強を図るための水溶性の粉状材料、適合不良の間隙を補填して辺縁封鎖の向上を図る不溶性のペーストやシート状の材料などがある。

247 義歯刻印→「デンチャーマーキング」
参照

248 義歯床 ぎししょう
denture base

義歯の構成要素の1つで、欠損部顎堤や口蓋部を覆い、人工歯が排列される部分。咬合力を顎堤に伝達し、全部床義歯では維持にも働く。金属を使用した金属床 (metal base) と、アクリリックレジンや射出成形レジンを使用したレジン床 (resin base) とがある。

249 義歯床下粘膜
ぎししょうかねんまく
basal seat mucosa

義歯床によって覆われた粘膜。義歯の支持・維持に関与する。

250 義歯床下粘膜異常
ぎししょうかねんまくいじょう
abnormality of basal seat mucosa

〔同義語〕義歯性口腔粘膜症

義歯装着に起因した義歯床下粘膜の組織的・形態的異常。咬合力が負荷されることにより義歯床下粘膜が機械的刺激を受け、粘膜に発赤、び爛、潰瘍、腫脹な

どが生じる場合や、義歯床が沈下して粘膜に圧痕が形成される場合がある。

251 義歯床研磨面
ぎししょうけんまめん
polished denture surface, cameo surface

義歯床の唇・頬側面、舌側面、および人工歯の咬合面を除いた側面を含む義歯床外表面。口腔内の可動粘膜が接触し、その機能圧が加わる。そのため義歯の安定性や使用感に影響を及ぼす。

252 義歯床後縁 ぎししょうこうえん
posterior denture border

義歯の後方の床縁。上顎の全部床義歯では一般にアラインに一致させ、下顎ではレトロモラーパッドの前方部 (線維部) を越え、後方部 (腺部) 上に設定するのが良いとされる。

253 義歯床支持域→「義歯床負担域」
参照

254 義歯床粘膜面
ぎししょうねんまくめん
denture basal surface, impression surface of denture, intaglio surface

顎堤や口蓋の粘膜に接触する義歯床の内面。印象により外形が決定され、義歯の支持・維持・安定に関与する。

255 義歯床負担域
ぎししょうふたんいき
denture bearing area, denture foundation, stress-bearing region

〔同義語〕義歯床支持域

義歯に加わる咬合圧を負担する義歯床下支持組織の領域。顎堤粘膜の厚さ、被圧縮度、骨面の状況により圧負担能力が異なるため、印象時の圧調整や義歯床粘

膜面のリリーフなどが必要な部位もある。

256 義歯性潰瘍 ぎしせいはいよう

denture ulcer

義歯による圧迫や摩擦などの機械的刺激のため、口腔粘膜組織の循環障害や上皮剝離によって生じる炎症を伴う有痛性の潰瘍で、義歯床下粘膜異常の1つ。

257 義歯性口腔粘膜症→「義歯床下粘膜異常」参照

258 義歯性口内炎

ぎしせいこうないえん

denture stomatitis

義歯床下粘膜異常の中の *Candida albicans* の感染などで生じる非特異的炎症。以前は義歯による外傷（機械的刺激）が主因と考えられたが、今日では、機械的刺激が原因と考えられる局所的炎症は除外されている。

259 義歯性線維腫 ぎしせいせんいしゅ
epulis fissuratum,

so-called denture fibroma

義歯床の機械的慢性刺激による粘膜の炎症反応性の増生物。上顎歯肉唇移行部に好発するが、口蓋や下顎にも生ずることがある。

病理組織学的に毛細血管や細胞成分の多い肉芽型、線維化が進んで細い線維組織が密に排列した線維型、それらの中間型に分類されている。肉芽型は義歯の適正化により消退する可能性があるが、線維型は消退しないため、必要に応じて外科的に切除する。

260 義歯洗浄剤 ぎしせんじょうざい

denture cleanser

酸化剤や酵素によって、義歯の汚れやデンチャープラークを化学的に清掃し、義歯床内に入り込んだ微生物を除菌する化学製剤。

261 基礎床 きそしょう

record base

咬合床の一部で、咬合堤を支える仮の義歯床。

262 拮抗作用【義歯の】 きっこうさよう
[ぎしー]

reciprocation

〔同義語〕 対抗作用

部分床義歯の支台歯において、鉤腕などの特定の部分で発生した力を、他の部分によって相殺させること。

263 拮抗腕 きっこうわん

reciprocal clasp, reciprocal arm

〔同義語〕 把持腕

二腕鉤で、一方の維持腕により支台歯に加わる側方力に対抗するための鉤腕。維持腕の維持力を適切に發揮させるとともに、義歯の着脱時あるいは機能時に支台歯に加わる側方力を相殺する。

264 希土類磁石 きどるいじしゃく

rare-earth magnet

磁石構造体に用いられる磁石。ネオジム磁石 (neodymium magnet) とサマリウム・コバルト磁石 (samarium cobalt magnet) がある。

265 機能印象 きのういんじょう

functional impression

義歯の機能時に義歯床下粘膜に咬合圧をできるだけ均等に負担させるために、被圧変位量に応じた力で加圧し、さらに顎堤周囲可動組織の動的状態をも記録することを目的とした印象。

266 機能咬頭 きのうこうとう

functional cusp

咀嚼運動中に対合歯の咬合面窩あるいは辺縁隆線部にかみ込み、食物を咬断・粉碎・臼磨する咬頭。

267 機能性嚥下障害

きのうせいえんげしょうがい

functional dysphagia

〔同義語〕 動的嚥下障害, 運動障害性嚥下障害

嚥下器官(舌, 咽頭, 舌骨上・下筋群, 食道など)に器質的欠損がないにもかかわらず, 正常な嚥下運動が遂行できない状態。脳血管障害や神経・筋疾患による麻痺性嚥下障害などが代表的である。

268 機能的運動路法→「FGP テクニク」参照**269 機能的人工歯**

きのうてきじんこうし

functional artificial teeth

第一大臼歯の咬頭傾斜角が 20° の人工歯。解剖学的形態から著しく逸脱せず, 咀嚼能率も比較的優れているが, 側方分力が過大とならないように設計されている。

270 機能的正常咬合

きのうてきせいじょうこうごう

normal functioning occlusion

解剖学的に正常でなくても, 機能的には異常が認められない咬合。

271 機能的不正咬合

きのうてきふせいこうごう

functional malocclusion

解剖学的所見とは関係なく, 何らかの機能異常が認められる咬合。

272 基本的下顎運動

きほんてきかがくうんどう

fundamental mandibular movement

咀嚼, 発音, 嚥下などに伴う顎運動や, ブラキシズムなどの異常習癖による顎運動とは別に, 下顎の運動機能を評価するために被検運動として用いられる顎運

動。前方・後方・側方・閉開口運動がある。

273 キャスタブルセラミックス**castable ceramics**

高温で流動化し鑄造可能となる非結晶質のガラスセラミック材料。鑄造後, セラミングによって結晶化して強度を増す。ジャケットクラウンとして用いる場合には, 材料自体が単色のため, 表面着色剤を用いたり, 従来型のポーセレンを焼き付けて審美性の向上を図る。

274 キャスティングライナー**casting liner, ring liner**

〔同義語〕 リングライナー

鑄造用リングに内張りする帯状の繊維質耐火材。鑄造収縮補償に必要な埋没材の硬化膨張と加熱膨張を引き出すためのクッション材となる。

275 キャストサポート**cast support**

フェイスボウトランスファーの操作中に, 上顎模型や固定用の石膏の重量によってフェイスボウがたわまないようにバイトフォークの下面を支える装置。

276 キャップクラスプ**cap clasp**

臼歯咬合面の全面を覆う形態の支台装置。支持能力に優れ, 支台歯の二次固定効果が期待できる。キャップの辺縁を歯冠頬舌面の最大豊隆より 0.1 mm のアンダーカットに設置して維持を求める。

277 CAD/CAM アバットメント

きやど/きやむー

CAD/CAM abutment

コンピュータ支援による設計と製作を行ったアバットメント。形状や歯肉縁下部の立ち上がり, フィニッシュラインなどをコンピュータ上で設計 (computer-

aided design : CAD) し、そのデータを専用の加工装置に伝達し、チタンやジルコニア製のアバットメントを切削加工によって製作 (computer-aided manufacturing : CAM) する。

→「カスタムアバットメント」参照

278 CAD/CAM 冠 → 「CAD/CAM クラウン」参照

279 CAD/CAM クラウン

きゃど/きゃむー

CAD/CAM crown

〔同義語〕 CAD/CAM 冠

コンピュータによる補綴装置の設計 (computer-aided design : CAD) と加工装置 (computer-aided manufacturing : CAM) とにより製作されたクラウン。鋳造操作や前装材料の築盛によらないため、物理的特性の優れた、均一かつ高品質な補綴装置を製作できる。チタン、コバルトクロム、陶材、コンポジットレジン、ジルコニアなど多様な材料が用いられる。

280 CAD/CAM デンチャー → 「デジタルデンチャー」参照

281 臼後三角 きゅうごさんかく
retromolar trigone

下顎骨の最後方大臼歯のすぐ後方に位置し、頂点を後方に底辺を前方に向けた小さな三角形の骨面。

→「レトロモラーパッド」参照

282 臼歯離開咬合
きゅうしりかいこうごう

disclusion, disocclusion

〔同義語〕 ディスクルージョン

下顎偏心運動中、下顎をガイドしている前歯以外の臼歯間に離開が認められる咬合様式。即時離開咬合 (immediate disocclusion) と遅延離開咬合 (delayed

disocclusion) とがある。

283 頬棚 きょうだな

buccal shelf

下顎骨の大臼歯部の頬側に位置し、外斜線と下顎歯槽頂とに囲まれた平坦な部位。骨組織は緻密であり、咬合平面に対してほぼ平行の面であるので、垂直的咬合力の方向に直交しており、義歯床負担域として有効な部位である。

284 頬粘膜圧痕 きょうねんまくあつこん
pressure mark on cheek mucosa

臼歯部咬合平面相当部の頬粘膜にみられる歯列の圧痕。不適切な咬合関係やクレンジングによって生じるといわれている。

285 局部床義歯 → 「部分床義歯」参照

286 局部床義歯補綴学 → 「部分床義歯補綴学」参照

287 筋圧維持 きんあつじ
muscular retention

口唇・頬・舌などの筋圧を義歯床の維持に積極的に利用すること。

288 筋圧形成 きんあつけいせい

border molding, muscle trimming

〔同義語〕 筋形成、辺縁形成

有床義歯において、機能時の頬・口唇・舌の動きに調和した義歯床縁形態を得るために、それらの動的な状態を、モデリングコンパウンドなどを用いて記録する印象操作。

289 近遠心鉤 → 「隣接面鉤」参照

290 筋形成 → 「筋圧形成」参照

291 筋触診法 きんしょくしんぼう
muscle palpating method

1) 顎口腔系の診察、検査の1つとして、また、顎顔面部や頭頸部に疼痛や違和感を訴える患者におけるその部位と痛みの程度を確認することを目的として、筋を

触診する方法。Krogh-Poulsen (1968) の方法が有名である。

2) 咬合採得において、咬筋あるいは側頭筋の緊張状態を触診によって判定し、水平的顎位を決定する方法。この場合には、「筋把握法」が同義語となり、咬筋前縁部を利用する咬筋触診法（咬筋把握法；Gysi）、側頭筋前部を利用する側頭筋触診法（側頭筋把握法；Green）とがある。

292 金属アレルギー きんぞくー metal allergy

主にIV型アレルギー（遅延型アレルギー）の典型的な反応として発現する、金属に対するアレルギー。金属元素がイオン化し、生体の蛋白質と結合することによって、抗原となる。症状は金属が接触した部分に発現する接触性皮膚炎と、遠隔の皮膚に発現する全身性接触皮膚炎とがあるが、口腔外での発現は口腔内に比べ約10倍の頻度がある。感作性の強い金属の種類は水銀、ニッケル、クロム、コバルト、スズ、パラジウムなどである。

293 金属冠 きんぞくかん metal crown

齶蝕やその他の原因で歯冠が広範囲に崩壊した場合に、歯冠を金属で被覆し、形態と機能の回復とともに、齶蝕の再発を防止する歯冠補綴装置。製作法は現在は鑄造法が一般的であるが、古くは板金加工法があり、近年では焼結法や切削加工法（CAD/CAM）なども応用されている。

294 金属歯 きんぞくし metal occlusal surface, metal teeth

咬合面の一部（metal occlusal surface）または全体（metal teeth）を金属で製作

した床用人工歯。上下の顎堤間距離が小さく既製人工歯が使用しにくい場合や、微妙な咬合面形態の追及、あるいはレジン歯と陶歯との中間の適度な耐摩耗性を求める場合などに、鑄造して製作した自家製の金属歯が白歯に使用されることがある。また、特殊な理論に基づいて作られている既製の金属歯も用いられる。

295 金属床 きんぞくしょう metal base

義歯床粘膜面の一部、あるいは全部を形作る義歯床の金属部分。鑄造床（cast plate）および圧印床（swaged plate）がある。

296 金属床義歯 きんぞくしょうぎし metal base denture, metal plate denture

主要な構成要素に金属を使用して、強度、装着感、設計の自由度などを高めた義歯。

297 筋電図検査 きんでんすけんさ electromyographic examination

筋が収縮するときに発生する活動電位を針電極や表面電極を用いて記録した筋電図による検査。歯科補綴領域では、顎口腔機能評価や補綴装置の評価に用いられることが多い。

298 筋肉位 [下顎の] きんにくい [かがくー] muscular contact position [of mandible]

咀嚼筋群が協調活動した状態で、下顎安静位から閉口することによって得られる咬合位。Brill (1959) によって提唱された。


299 屈曲バー くつきよくー

wrought bar

既製のバー用線を屈曲して製作される大連結子。

300 グラインディング
grinding

ブラキシズムの1つ。空口状態で上下顎の歯を強く接触させながら無意識に側方あるいは前後方向に動かし、こすり合わせる運動。

301 クラウン
crown

〔同義語〕冠

練成充填物、インレー以外の歯冠補綴装置の総称。修復の程度により、全部被覆冠、部分被覆冠などの被覆冠と、ポストクラウンとに大別される。

302 クラウンブリッジ補綴学
 ーほてつがく

crown and bridge prosthodontics

歯科補綴学の一分科で、歯冠部の形態異常や実質欠損、あるいは歯の欠損に対し、クラウンやブリッジで修復・整形し、口腔の形態および機能と外観を回復するとともに、顎口腔系の健康維持を図るために必要な理論と技術を考究する学問。

303 クラスプ
clasp

〔同義語〕鉤

部分床義歯の支台装置の1つ。その一部をなす鉤腕が支台歯に全面あるいは一部で接触することによって、義歯における支持・把持・維持の役割を果たす。製作法により鑄造鉤と線鉤、また形態により環状鉤とパークラスプとに大別される。

304 グラフィック法〔下顎運動の〕

ーほう [かがくうんどー]

graphic record

弾筆を応用した口外描記法によって、下顎運動を記録・測定する方法。

305 クリアランス
clearance

物体が障害なしにすれ違える状態。また、その物体間の距離をいう。特に、修復物の適切な厚みを得るために形成により削除された量を interocclusal clearance という。

306 Christensen 現象

くりすてんせんげんしょう

Christensen's phenomenon

無歯顎患者に上下顎の咬合堤を平坦にした咬合床を装着して下顎の滑走運動を行わせたときに、咬合堤間にくさび状の空隙が生じる現象。前方滑走運動時に後方に開いたくさび状の空隙が生じる矢状 Christensen 現象と、側方滑走運動時に非作業側に開いたくさび状の空隙が生ずる側方 Christensen 現象とがある。Christensen (1905) により提唱された。

307 クリックング
clicking

関節円板の移動によって発生するとされる顎関節雑音の一種。明瞭な短い音で、「カクン」、「ポキポキ」、「バキバキ」などと表現される。弾撥音ともいわれる。

308 グループファンクション
group function

下顎の前方滑走運動時には前歯が接触して臼歯部を離開させ、側方滑走運動時には作業側の複数の歯が接触し、非作業側では咬合接触のない咬合様式。有歯顎者に望ましい咬合様式の1つとされている。

309 グレージング**glazing**

陶材表面の製作時の仕上げとして、焼成してつやを出すこと。低溶融のうわぐすりを陶材削成面に塗布、焼成して光沢を出す方法と、陶材を高温で焼成して陶材自体を溶融させる方法がある。

310 クレピタス**crepitus**

→「クレピテーション」参照

311 クレピテーション**crepitation**

〔同義語〕クレピタス

不明瞭な長い音の顎関節雑音。「ギシギシ」、「ザラザラ」、「ジャリジャリ」などと表現される。捻髪音、摩擦音ともいわれる。

312 クレンチング**clenching**

上下顎の歯の強いかみしめ。感情的・精神的ストレス、あるいは肉体的ストレス、緊急事態における緊張動作時、全身運動時に発現する。ブラキシズム時にも発現することがある。

け

313 継続歯→「ポストクラウン」参照**314 経鼻的持続陽圧呼吸療法** けいびて

きじぞくようあつこきゅうりょうほう

continuous positive airway pressure

〔同義語〕CPAP 療法

OSASの経鼻的治療法。主に中等度～重度のOSASに対して適用する。鼻マスクから圧力を加えた空気を送り込むことによって、気道の閉塞を取り除く。

→「睡眠時無呼吸症候群」、「OSAS治

療用口腔内装置」参照

315 欠損歯列 けっそんしれつ**partially edentulous arch**

歯の欠損がある歯列。

316 Kennedy の分類

けねでい——ぶんるい

Kennedy classification of removable partial dentures

部分的な歯の欠損を有する歯列の分類法の1つ。4型に分類され、両側性遊離端欠損〔I級〕、片側性遊離端欠損〔II級〕、片側性中間欠損〔III級〕、両側にまたがる前歯中間欠損〔IV級〕がある。IV級以外は類型をもつ。Kennedy (1923, 1925, 1928) により提唱された。

317 Kennedy バー けねでい——**Kennedy bar**

鉤腕が前歯の基底結節上を波状に走行する連続鉤、もしくは大連結子の1つで、義歯の安定、間接維持、残存歯の固定などに役立つ。通常、リングルバーと併用されるため、2本をあわせてダブルリングルバーとも呼ばれる。Kennedy (1928) により提唱された。

318 Kelly's 症候群→「コンビネーションシンドローム」参照**319 研究用模型** けんきゅうようもけい**diagnostic cast, study cast**

〔同義語〕スタディモデル

顎口腔系の診察、検査、診断、治療方針の決定の資料として、あるいは治療記録として準備される上下顎石膏模型。

320 犬歯臼後隆起線→「Pound 三角」参照**321 犬歯誘導咬合**

けんしゅうどうこうごう

canine protected articulation, cuspid protected articulation

(occlusion)

下顎の側方滑走運動時，作業側犬歯の咬合接触によって下顎を誘導し，臼歯部は離開する咬合様式。

こ

322 コア**core**

適切な支台歯形態を構築するために歯冠部に築造された構造体。

323 鉤→「クラスプ」参照**324 構音** こうおん**speech articulation, articulation**

構音器官を操作することによって，母音や子音を出す行動。

325 構音検査 こうおんけんさ**articulation test**

〔同義語〕 調音検査

構音機能が何らかの原因で障害されたときに行う検査。構音（調音）運動に関与する器官を構音器官と呼び，構音機能は可動性の舌，口唇，軟口蓋などの構音体と，非可動性の硬口蓋や歯などの構音点との関係で営まれるが，補綴領域ではパルトグラムによる検査や語音明瞭度検査などが行われている。

326 構音障害 こうおんしょうがい**disorders of articulation, dysarthria**

特定の語音が正しく発音されず習慣的に誤って発音される障害。子音の省略，異常な喉頭摩擦音などへの置換，不必要な音の添加および歪みなどがみられる。口蓋裂，口蓋麻痺，顎骨欠損などによる器質的構音障害と，構音のメカニズムの習得過程における誤った学習や構音発達の遅延などによる機能的構音障害とがあ

る。また，構音運動をコントロールする神経系が障害された場合は麻痺性構音障害（dysarthria）が生じる。話し言葉の障害によりコミュニケーションに不都合を生じている状態にある言語障害（communication disorders）の1つ。

327 鉤外形線 こうがいけいせん**outline of clasp**

支台装置の製作の際に，あらかじめ描記されたサベラインを基準として，クラスプの種類と目的とする維持力ならびに把持力に基づいて，模型上に描記するクラスプの輪郭を示す設計線。

328 口蓋後縁封鎖

こうがいこうえんふうさ

posterior palatal seal

辺縁封鎖の1つで，上顎全部床義歯の床後縁を封鎖すること。これにより維持力が増強される。積極的な封鎖法としてポストダムがある。

329 口蓋床 こうがいしょう**palatal plate**

口蓋の先天的，後天的欠損や口腔機能不全に対して口蓋部を被覆する，合成樹脂あるいは金属製の床装置。

330 口外描記法 こうがいびょうきほう**extraoral tracing method**

描記板と描記針で構成される下顎運動記録装置が口腔の外に設置され直視下で行うことができる下顎運動計測法，ゴシックアーチ描記法とグラフィック法（パントグラフ法）とがある。

331 口蓋補綴 こうがいほてつ**palatal prosthetics**

腫瘍，外傷，炎症，先天奇形などが原因で，口蓋部に生じた欠損，形態異常，機能不全などを非観血的に，あるいは手術との併用により人工物で修復し，損な

われた形態と機能の回復・改善を図ること。

332 口蓋隆起 こうがいりゅうき

**palatal torus, palatine torus,
torus palatinus**

口蓋正中部に発現する限局性の骨隆起。通常は無症状であるが、大型のものでは構音障害を来すため外科的切除が必要となることがある。被覆粘膜が薄いため、義歯床で被覆する場合には緩衝腔を設定する。

333 光学印象採得

こうがくいんしょうさいとく

digital impression, digital scan

〔同義語〕 デジタルインプレッション

直接対象物に触れずに光学的に物体の三次元的な形状を計測し、画像データとして記録する印象法。口腔内スキャナーを用いて、歯列ならびに周囲組織を撮影（スキャン）し、それらの形態を画像データとして再現する。また、技工用デスクトップ（モデル）スキャナーを用いて模型をスキャンすることもある。印象材は不要である。

334 光学咬合採得

こうがこうごうさいとく

digital scan, optical maxillomandibular registration

口腔内スキャナーを用いて、上下顎の歯列の関係を撮影（スキャン）し、それらの形態と位置関係を画像データとして再現する方法。また、技工用デスクトップ（モデル）スキャナーを用いて模型をスキャンすることもある。咬合採得材は不要である。

335 後顎舌骨筋窩

こうがくぜつこつきんか

retromylohyoid space, retromylo-

hyoid curtain

レトロモラーパッドの舌側下方にある咽頭の凹面の部分。舌を前突きさせると前方に出てくる場合があり、下顎義歯舌側床縁を後方に延長する際の限界となる。

336 口角線 こうかくせん

cuspid line

口を軽く開けた時の左右口角の位置を示す線。左右2線間は上顎6前歯の幅徑に一致するといわれ、人工歯排列時の参考となる。

337 鈎間線→「支台歯間線」参照

338 鈎脚 こうきゃく

clasp tang

クラスプに義歯床または大連結子を連結、固定するクラスプの一部分。

339 口腔インプラント こうくうー

dental implant

〔同義語〕 デンタルインプラント、歯科インプラント

欠損部顎堤に埋入された人工歯根や粘膜下に設置されたフレームと、これに連結される上部構造を含めた補綴装置の総称。

340 口腔乾燥症 こうくうかんそうしょう

xerostomia, dry mouth

〔同義語〕 ドライマウス

唾液分泌の低下に由来して口腔内が乾燥した状態を示す症状名。Sjögren 症候群、糖尿病などの全身疾患、服薬や放射線照射治療による副作用などで生じる。

341 口腔機能低下症

こうくうきのうていかしょう

oral hypofunction

①口腔不潔、②口腔乾燥、③咬合力低下、④舌口唇運動機能低下、⑤低舌圧、⑥咀嚼機能低下、⑦嚥下機能低下の7項目において3つ以上該当する状態をいう。

→「オーラルフレイル」参照

342 口腔前庭 こうくうぜんてい
oral vestibule

上・下唇と頬および上下顎歯列弓との間に挟まれた空間。口唇および頬粘膜と顎堤粘膜との移行部は前庭円蓋で区分され、口裂により外界と交通している。口唇と顎堤粘膜との移行部には上唇小帯、下唇小帯があり、頬粘膜には耳下腺導管の開口する耳下腺乳頭が存在する。無歯顎においては義歯床で口腔前庭を満たすことにより辺縁封鎖を図るとともに、口唇・頬の豊隆程度を決定づける。

343 口腔底 →「口底」参照

344 口腔内スキャナー こうくうないー
intraoral scanner

歯列ならびに歯周組織などを撮影し、それらの形態を画像データとして保存できる特殊な口腔内カメラ。

345 口腔内装置 こうくうないそうち
oral device

口腔に関連する各種疾患の診断や治療のほか、器具や薬剤などの保持・固定のために口腔内に装着される装置。

346 鉤肩 こうけん
clasp shoulder

環状鉤における鉤体と鉤腕との移行部。鉤体とともに支台歯を把持する働きをする。

347 咬交 こうこう
articulation

機能時における上下顎歯の静的ならびに動的な咬合面間の接触関係。全部床義歯における平衡咬合の考え方から派生した用語であり、偏心運動時に上下顎歯が咬合小面で接触しながら滑走することを意味していた。しかし、現在では、「咬合」で代用されるようになった。

348 咬合 こうこう

articulation, occlusion

- 1) 下顎が閉じる行為あるいは過程、または閉じている状態。
- 2) 上顎あるいは下顎の天然歯や補綴装置の切縁あるいは咬合面間における接触関係。

349 咬合圧 こうこうあつ

biting pressure, occlusal pressure

咬合時に天然歯あるいは人工歯の咬合面に発現する単位面積あたりの力。

350 咬合圧印象 こうこうあついんしょう

bite pressure impression

機能印象の1つで、咬合床またはろう義歯をトレーとして用いて、患者自身の咬合力によって義歯床下粘膜を加圧した状態で採得する印象。

351 咬合圧負担域

こうこうあつふたんいき
stress-bearing region, stress supporting region

- 1) 機能時の咬合力を支える、歯、歯根膜、顎堤などの口腔組織。
- 2) 義歯に加わる機能圧を負担する口腔組織。有床義歯の義歯床部に関しては、特に義歯床負担域と呼ぶ。

352 咬合位 こうこうい

occlusal position

天然歯や人工歯における上下顎の歯が接触した状態での、上顎に対する下顎の位置関係。下顎の限界運動範囲内におけるすべての下顎の位置が含まれる。

353 咬合異常 こうこういじょう

malocclusion

上下顎の歯の静的・動的な位置関係が正常でなくなった状態。対向関係の異常、咬合位の異常、咬合接触の異常、顎

運動の異常、咬合を構成する要素の異常などを包含する。

354 咬合違和感症候群

こうごういわかんしょうこうぐん

occlusal discomfort syndrome

広義には、明らかな咬合の不調和が認められる場合、また明らかな咬合の不調和が認められない場合(いわゆる特発性)も含めた咬合の違和感を訴える包括的病態。狭義には、咬合とは無関係に特発的に発症する咬合の違和感を訴える状態。なお2003年にClarkとSimmonsは“occlusal dysesthesia”という用語を提唱しており、「歯髄疾患、歯周疾患、咀嚼筋ならびに顎関節疾患のいずれもが認められず、臨床的に咬合異常が認められないにもかかわらず6か月以上持続する咬頭嵌合位での不快感」に該当する病態と定義している。

355 咬合印象 こうごういんしょう

bite impression

咬合印象用トレー(バイトトレー)を用いるか、シリコンゴム印象材のパテとインジェクションにより支台歯と対合歯およびその咬合関係を同時に採得する印象法。

356 咬合円錐→「歯冠円錐」参照

357 咬合音 こうごうおん

occlusal sound

上下顎の歯の衝突・滑走により発生する顎口腔系諸組織の振動音。通常、頬骨部において聴診器などにより聴取するが、咬合接触部に異常がなければ清音、早期接触などの異常があれば濁音となる。

358 咬合音検査 こうごうおんけんさ

occlusal sound test

咬合音を電気的に両側の眼窩下部あるいは頬骨弓部などに設置したマイクロ

フォンや加速度ピックアップで検出、表示することによる咬合状態の検査。聴診法、電気的記録法がある。聴診法では早期接触が判定できることからステレオ聴診器(Watt, 1967)が用いられる。咬合状態が正常で安定している場合、短く、高く、澄んだ音が検出され、咬合干渉などにより咬合状態が不安定な場合には、長く、低く、濁った音が検出される。

359 咬合音分析装置

こうごうおんぶんせきそうち

occlusal sound analyzer

タッピング時に上下顎歯列の衝突・滑走により発生した咬合音を頬骨部で電気的に検出し、その波形(持続時間、周波数、立ち上がりの時間的ずれなど)を記録・分析する機器。早期接触などを診断する。

360 咬合学 こうごうがく

science of occlusion

歯科医学の一分野で、咬合を中心とする顎・口腔の総合的な機能系の正常像、異常像、加齢変化などを身体の他の領域との関連も含めて、形態的、機能的に研究し、口腔諸器官の異常や疾患の予防、診断、治療・再建、審美的回復などへの応用を目的とする学問。

361 咬合滑面板 こうごうかつめんばん

guide flange

下顎骨離断後、下顎偏位を防止する目的で下顎臼歯の頬側に付与され、咬合時に上顎臼歯頬側面あるいは臼歯部に設置されたガイド板に誘導され、下顎を咬頭嵌合位に導く偏位防止板。ガイド板を含めて咬合滑面板と呼ぶこともある。

362 咬合関係 こうごうかんけい

occlusal relationship, interocclusal relationship

上下顎の解剖学的対向関係、顎関節の構造と下顎の生理学的運動メカニズムに基づいて生じる歯と歯あるいは人工歯、または歯列相互間の、静的・動的な咬合面あるいは切縁部の位置関係。

363 咬合干渉 こうごうかんしょう

occlusal interference, defective occlusal contact

正常な顎運動を妨げるような咬合接触。早期接触や咬頭干渉を包括する。

364 咬合器 こうごうき

articulator

頭蓋に対する顎と歯の相対的位置関係および各種顎位や顎運動を生体外に再現し、顎機能の診断、あるいは形態的・機能的に生体に調和した補綴装置製作に利用される歯科用機器。頭蓋の前下部を機械的に模倣したもので、上弓と下弓の2部分から構成されるが、機能的には顎路調節機構である関節部、切歯路調節機構の切歯指導部、模型を装着する体部からなる。形態および機能的にさまざまに分類されるが、調節機能に基づいて顎路型咬合器、非顎路型咬合器に大別するのが最も一般的である。前者はさらに、平均値咬合器、半調節性咬合器、全調節性咬合器の3群に分類される。なお調節性咬合器は、顎路指導要素の位置の違いにより、アルコン型咬合器とコンダイラー型咬合器の2つに分類され、顎路指導要素の構造の違いにより、スロット型とボックス型の2つに分類される。

365 咬合器再装着

こうごうきさいそうちやく

remounting on articulator

咬合器上で製作された補綴装置の咬合接触関係を改善するために、補綴装置を含めた下顎の模型をチェックバイトを介

して再度咬合器に装着すること。咬合器に対する上顎模型の位置づけが必要な場合は、スプリットキャスト、Tenchのコア、フェイスボウなどを用いる。

366 咬合器装着 こうごうきそうちやく

mounting on articulator

咬合の診察、検査、診断や治療計画の立案、および間接法による補綴装置の製作過程において、模型を咬合器に固定すること。まず咬合器上弓に上顎模型を頭蓋に対する平均値的位置、あるいはフェイスボウを用いて固有の位置に固定する。次いで咬合器下弓に下顎模型を咬頭嵌合位などでの顎間記録を介して固定する。

367 咬合挙上 こうごうきよじょう

bite raising, vertical dimension increase

咬合高径を高める処置。歯の咬耗や喪失によって、咬頭嵌合位における本来の咬合高径が低下し、審美不良や顎関節に異常がある場合などに行われる。

368 咬合記録 こうごうきろく

interocclusal record

咬合に関するあらゆる記録。顎位や顎運動に関連して用いられることが多い。

369 咬合検査 こうごうけんさ

occlusal examination

被験者がどのような咬合を有しているかを判定する検査。咬合紙やワックス、シリコン検査材、引き抜き試験用箱、咬合検査機器などを用いて咬頭嵌合位や偏心位における静的あるいは動的咬合接触状態を判定する。

370 咬合高径 こうごうこうけい

occlusal vertical dimension

咬合採得や咬合位の評価などに関連して、歯や顔面に設定される種々の計測点

間距離で表した，中心咬合位での上下顎間の垂直的距離。顔面形態を計測して得られた種々の計測点間距離に関する基準値や，安静時や発音時などにとる平均的な顎位を基準として咬合高径を測定する方法がある。

371 咬合再構成 → 「オーラルリハビリテーション」参照

372 咬合採得 こうごうさいとく
maxillomandibular relationship record, maxillomandibular registration

補綴装置の製作や咬合診断などにおいて，上下顎の歯列模型あるいは顎堤模型をそれぞれの目的に応じた顎位で咬合器に装着するために，種々の材料や機器を用いて上下顎の顎間関係を記録すること。

373 咬合紙 こうごうし
articulating paper

歯や補綴装置の咬合接触状態を検査するために用いる，色素を固着させた薄紙。短冊形，馬蹄形，全歯列型などがある。一般に用いられている咬合紙の厚みは約30 μ mで，これにより約10 μ mの高さの差が判定できる。シリコーンゴム印象材を用いる方法と比較して簡便であるが，咬合接触部位の精密な判定は難しい。

374 咬合支持 こうごうしじ
occlusal support

上下顎の歯が咬合接触することにより咬頭嵌合位を保持する作用。

375 咬合支持域 こうごうしじいき
occlusal-supporting area

咬頭嵌合位を保持するための左右側小白歯，大白歯における咬合接触部。

376 咬合斜面板 こうごうしゃめんばん
guidance ramp

下顎骨離断後の下顎偏位を防止する目

的で，咬合時に下顎を咬頭嵌合位に導くように上顎補綴装置の口蓋側に付与される偏位防止板。

377 咬合床 こうごうしょう

record base with occlusion rim

欠損歯列において，顎間関係の記録や人工歯排列の指標とする装置。基礎床と咬合堤から構成される。

378 咬合小面 こうごうしょうめん

occlusal facet

1) 顎口腔系機能によって生じた白歯部咬合面，上顎前歯舌面，下顎前歯切縁にみられる摩耗面。

2) フルバランストオクルージョンを付与する目的で，人工歯の咬合面に形成する各種滑走運動に調和した斜面。Gysi (1929) が軸学説をもとに提唱した(咬合小面学説)。

379 咬合性外傷 こうごうせいがいししょう

occlusal trauma

1) 歯周組織の適応能や修復能を超える咬合力によって生じる歯周組織の損傷。

2) 咬合力によって生じた顎口腔系の障害。

380 咬合接触 こうごうせつしょく

occlusal contact

閉口時に生ずる，対合する歯の接触。

381 咬合調整 こうごうちょうせい

occlusal reshaping, occlusal adjustment, occlusal equilibration

天然歯あるいは人工歯の早期接触や咬頭干渉となる部位を選択的に削合し，均等な咬合接触と調和のとれた咬合関係を確保して，咬合力を複数の歯に均等に分散すること。

382 咬合堤 こうごうてい

occlusion rim, record rim

〔同義語〕 ろう堤

顎間関係の記録と人工歯を排列する目的で基礎床上に設置される、アーチ状のワックス。

383 咬合病 こうごうびょう

occlusal disease

早期接触などの咬合の不調和に起因する顎口腔機能異常によりもたらされる種々の病態の総称 (Guichet, 1966)。

一般的に複数の症状を有する点において症候群であり、いわゆる「顎関節症」を含むが、精神的ストレスも関与している。症状としては、ブラキシズムとそれに伴う過度の咬耗、筋の疼痛や疲労感、顎関節雑音や疼痛、開閉口などの下顎運動障害、肩こりや頭痛、情緒不安定などがある。

384 咬合分析 こうごうぶんせき

occlusal analysis

1) 歯やそれに関連する組織に対する咬合の影響を特に考慮した顎口腔系の系統的検査。

2) 咬合器に装着された模型の咬合関係を評価するための咬合の検査。Lauritzen が著書「Atlas of Occlusal Analysis」(1974)の中で、Dentatus 咬合器を使用し、咬合関係の異常に由来する機能障害を有する症例に対して、咬合機能の分析を行う一連の術式について記載した。

385 咬合平衡 こうごうへいこう

occlusal balance

全部床義歯において、側方滑走運動時では作業側と非作業側の臼歯の、前方滑走運動時では前歯と臼歯の接触が保たれ、義歯が前後、左右的な偏心位でも安定している状態。

386 咬合平面 こうごうへいめん

occlusal plane, plane of occlu-

sion

下顎左右中切歯の近心隅角間の中点(切歯点)と下顎左右側第二大臼歯の遠心頰側咬頭頂を含む平面として規定される基準面。

387 咬合平面設定板

こうごうへいめんせっていばん

occlusal plane guide

咬合採得時に仮想咬合平面を設定するための用具。上顎咬合床の咬合面にあてて、Camper 平面との関係を検討するために用いられる。

388 咬合平面板 こうごうへいめんばん

occlusal plane table

咬合平面を基準として上顎模型を咬合器に装着するために用いられる平均値咬合器の付属品。

389 咬合平面分析板

こうごうへいめんぶんせきばん

occlusal plane analyzer

Monson (1920) 球面説に基づく下顎の切縁、咬頭の位置づけ、ならびに咬合彎曲の分析に使われる、直径 8 インチの球面をもつ彎曲板。

390 咬合面間距離

こうごうめんかんききょり

interocclusal distance

ある特定の顎位で生じる上下顎咬合面間の距離。下顎安静位での咬合面間距離は、安静空隙とも呼ばれる。

391 咬合面再形成〔義歯の〕

こうごうめんさいけいせい [ぎしー]

occlusal reconstruction of denture

義歯の人工歯咬合面を再構成することによって、顎口腔系の形態、機能、審美性の回復を図ること。

392 咬合様式 こうごうようしき**occlusal scheme**

咬頭嵌合位および偏心位における咬合接触の状態。

393 咬合力 こうごうりょく**occlusal force**

顎口腔系器官、組織の働きにより、上下顎の歯あるいは人工歯咬合面間に発現する力。

394 咬合力検査 こうごうりょくけんさ**occlusal force test**

顎機能、歯の負担能力などの評価として、個々の歯あるいは歯列全体の咬合面に加わる荷重量を計測して判定する機能検査。専用の咬合力計を用いて最大荷重を計測する最大咬合力が一般的であるが、義歯などに特殊なトランスデューサーを組み込んで計測する咀嚼力などもある。最近では、Tスキャン、プレスケールなど、歯列全体の咬合力分布を分析する方法もある。

395 咬合力測定法

こうごうりょくそくていほう

maxillomandibular registration by measuring maximal occlusal force

無歯顎症例の咬合採得において、最大咬合力に基づいて垂直的顎位を決定する方法。Boos (1940) は、Gnathodynamometer (咬合力測定装置、別称 Boos の Bimeter) を用いて、最大咬合力を発揮する顎位 (最大筋力点) を求め、この位置から、換算表に従って最大咬合力の大きさに比例する所定の高径を減じて咬合高径とすることを提唱した。

396 咬合彎曲 こうごうわんきょく**occlusal curvature**

天然歯列の咬合面が連続して作る彎

曲。Wilson の彎曲、Spee の彎曲、Monson カーブなどがある。人工歯列の場合は調節彎曲と呼ばれ、用語としては両者は区別される。

397 咬座印象 こうざいんしょう**bite-seating impression**

矢崎正方 (1955) が提唱した印象法であり、義歯製作途中に生じる歪みを最終段階において修正することを主目的として、人工歯排列や削合を終了したろう義歯をトレーとして少量の流動性の優れた印象材を盛り、咬合させて採得する印象。上下顎を別々に採得したほうが望ましいとされる。

398 交叉咬合 こうさこうごう**reverse articulation, cross-bite**

- 1) 咬頭嵌合位において、側方歯群の反対咬合により、上下顎の歯列弓が水平的に交叉している不正咬合。
- 2) 義歯床の力学的安定性を高める目的で、通常の前歯部被蓋とは逆に、上顎前歯の頬側咬頭を下顎前歯の中心窩に嵌合させる咬合。

399 交叉咬合排列

こうさこうごうはいれつ

arrangement of reverse articulation tooth, arrangement of cross-bite tooth

通常の前歯部被蓋とは逆に、上顎前歯の頬側咬頭を下顎前歯の中心窩に嵌合させる人工歯排列法。上顎顎堤弓が下顎顎堤弓より小さく、仮想咬合平面に対する前歯部 (第一大前歯部) の歯槽頂間線角度が 80° 以下の場合に、義歯床の力学的安定性を高める目的で行う。上下顎左右側の人工歯を入れ替えて排列する Gygi 法、あるいは Müller 法が一般的に用いられている。

400 交叉咬合用人工歯

こうさこうこうようじんこうし

**reverse articulation teeth,
cross-bite teeth**

上下顎とも頬舌径を狭くし、上顎が1咬頭に設計されている交叉咬合排列専用の人工歯。頬側では下顎の咬頭が上顎の咬頭を被蓋する。

401 鉤歯→「支台歯」参照**402 硬質レジン**→「コンポジットレジン」参照**403 硬質レジン歯** こうしつーし**composite resin teeth**

従来のアクリリックレジン人工歯に比較して、硬さ、耐摩耗性に優れたレジン歯。反面、耐衝撃性や義歯床との結合性は劣る。

404 硬質レジンジャケットクラウン→「レジンジャケットクラウン」参照**405 咬傷** こうしょう**bite wound**

1) ヒトまたは動物の歯により生体もしくは死体に残された傷。一般的には挫創や切創に類似した特徴を呈する。その形状の精査は法歯学上重要であり、主体の個人識別に役立つ。

2) 舌、頬および口唇を咬むことによって生じる傷。頬を咬むことを咬頬(cheek bite)、舌を咬むことを咬舌(tongue bite)といい、歯列不正や人工歯排列の欠陥により生じやすい。義歯によるものは、咬合高径が低すぎる場合、人工白歯の排列が頬側に寄りすぎる場合、上下顎人工白歯のオーバージェットが小さすぎる場合などに生じ、咬舌は下顎人工白歯列が舌側に寄りすぎ舌房が狭い場合や咬合平面が舌背より低い場合などに生じる。

406 口唇接合線 こうしんせつこうせん**low lip line**

〔同義語〕口唇閉鎖線

下顎の安静状態で上唇と下唇とが軽く接触してできる線。上顎咬合床の仮想咬合平面および前歯人工歯の上下的排列位置の基準とする。

407 口唇閉鎖線→「口唇接合線」参照**408 鉤尖** こうせん**clasp tip**

鉤腕の先端部分。維持腕においては支台歯のアンダーカット域に設置され、維持機能を果たす。

409 鉤体 こうたい**clasp body**

環状鉤における鉤脚と鉤腕の中間部分。鉤肩とともに把持機能を果たす。

410 後退運動【下顎の】

こうたいうんどう [かがくー]

retrusion

下顎の後方への運動。通常、咬頭嵌合位から下顎後退接触位まで接触滑走することをいう。

411 合着 こうちゃく**cementation**

インレー、クラウン、ブリッジなどの修復物を、窩洞や支台歯にセメントを用いて恒久的に装着する操作の総称。リン酸亜鉛セメントの場合の保持機構は、主に嵌合効力に依存する。歯や金属に対して接着性を有するセメントを利用する場合もある。狭義では「合着」と「接着」に分けられる。

412 合着用セメント こうちゃくようー**luting agent, luting cement**

→「合着」参照

413 口底 こうてい**floor of the mouth**

(同義語) 口腔底

舌と下顎骨内面の舌下粘膜部から構成される口腔の下壁。舌下粘膜部は顎舌骨筋の上方を覆い、粘膜上皮は薄く可動性であり、舌の自由運動をもたらす。舌下面の正中線上で舌との間に舌小帯があり、その両側には舌下腺の導管が開口する。口底と顎堤舌側との移行部に沿って舌側溝があり、義歯の舌側床縁の位置と形態を決定づける。

414 後堤法 こうていほう**post damming**

義歯床の口蓋後縁封鎖を図るために、ポストダムを付与すること。

415 咬頭嵌合 こうとうかんごう**intercuspatation**

咬頭が対合する歯の窩や隆線に嵌合している状態。

416 咬頭嵌合位 こうとうかんごうい**maximal intercuspal position**

下顎頭の位置とは関係なく、上下顎の咬合面が最大面積で接触し、安定した状態にあるときの咬合位。

417 咬頭干渉 こうとうかんしょう**deflective occlusal contact,
cuspal interference**

咬合干渉の1つで、下顎の基本運動や機能運動に際して、運動経路を妨げる咬頭の接触またはその現象。

418 咬頭傾斜角 こうとうけいしゃかく**cuspal angle**

歯軸に直交する直線と各咬頭斜面とがなす角度。近遠心的および頬舌的な傾斜角がある。

419 咬頭・鼓形空隙 (辺縁隆線) 関係

こうとう・こけいくうげき (へんえんりゅうせん) かんけい

cuspal marginal ridge articulation**scheme**

咬頭嵌合位において下顎臼歯の機能咬頭が対合する臼歯の鼓形空隙または辺縁隆線に嵌合する咬合関係。

420 咬頭・小窩関係

こうとうしょうかかんけい

cuspal fossa articulation scheme

咬頭嵌合位において上下顎歯の機能咬頭が対合する小窩に嵌合する咬合関係。

421 咬頭展開角 こうとうてんかいかく**angle between buccal and lingual
internal cuspal slope**

頬側咬頭の内斜面と舌側咬頭の内斜面とがなす角度。

422 口内描記法 こうないびょうきほう**intraoral tracing**

描記板と描記針で構成される下顎運動記録装置が口腔内に設置された下顎運動記録法。装置が比較的簡便であり、ゴシックアーチ描記法が一般的であるが、特殊なチェーン法もある。

423 硬軟口蓋境界部

こうなんこうがいきょうかいぶ

junction of hard and soft palate

硬口蓋と軟口蓋の境界部。上顎の義歯床後縁設定の基準となる。臨床的には、視診や触診、口蓋小窩やアーラインを参考にしてその位置を確認する。

424 後方基準点 こうほうきじゅんでん**posterior reference points**

前方基準点とともに、水平基準面を設定するための顔面上の点(平均的顎頭点、蝶番点)。

425 後方咬合小面

こうほうこうごうしょうめん

retrusion facet

Gysiの軸学説および咬合小面学説に従って、フルバランストオクルージョン

を付与する目的で人工歯咬合面に形成する咬合小面の1つ。作業側の側方滑走運動と後方運動時に接触する面であり、下顎臼歯では頬舌側咬頭の後方の斜面上、上顎臼歯では前方の斜面上に付与する。

426 咬耗 こうもう

attrition

上下顎歯の咬合接触により生じるエナメル質や象牙質の摩耗。咀嚼機能による歯面の咬耗は、加齢変化として生理的にもみられるが、進行速度が速く、象牙質の広範な露出や歯冠長の短縮および咬合高径の低下を招くような高度なものを咬耗症という。個人識別や年齢推定、ブラキシズムや顎関節症などの診断の手がかりとなる。

427 高齢化社会 こうれいかしゃかい

aging society

高齢化率(65歳以上の人口が総人口に占める割合)が7%以上14%未満の社会。→「高齢社会」,「超高齢社会」参照

428 高齢社会 こうれいしゃかい

aged society

高齢化率(65歳以上の人口が総人口に占める割合)が14%以上21%未満の社会。→「高齢化社会」,「超高齢社会」参照

429 鉤腕 こうわん

clasp arm

環状鉤においては鉤体に続く鉤尖までの部分。機能により維持腕と拮抗腕とに分類される。またサベイレインを境に非アンダーカットを走行する鉤腕部分を上腕、アンダーカットを走行する部分を下腕と呼び、原則として上腕はクラスプの把持、下腕は維持の機能を果たす。

パークラスプにおいては大連結子あるいは義歯床縁から鉤尖までを指すが、形

態により横走アームと垂直アームの部分に分けられる。

430 コーヌス角 ーかく

cone angle, Konuswinkel (独語)

コーヌステレスコープ(Konuskronen Teleskop; cone crown telescope)の内冠の軸面を延長してできる仮想円錐角度の1/2の角度。発案者のKörberは、6°に設定したときに最も適切な維持力が得られるとしている。

431 コーヌステレスコープクラウン

cone crown telescope,

Konuskronen Teleskop (独語)

Körber(1969)によって開発された支台装置の一種で、テーパーを有する円錐台形の内冠とそれに適合する外冠とからなるステレスコープクラウン。いわゆるリジッドサポートを代表する支台装置である。維持力は内・外冠の接触による摩擦効果あるいはくさび効果と外冠の金属弾性によるが、内冠軸面のコーヌス角によって調節可能である。

432 コーピング印象 ーいんしょう

coping impression, coping pick-up impression

→「ピックアップ印象」参照

433 語音明瞭度検査

ごおんめいりょうどげんさ

speech articulation test, speech discrimination test

被検者の検査語表の発音を複数の検者が聴取して表記し、表記の一致した語音数の全検査語音数に対する割合で被検者の発音の明瞭度を表す発音検査法。

434 鼓形空隙 こけいこうげき

embrasure

歯と歯の隣接面接触点を中心に、上下のあるいは頬舌的に形成される空間。そ

の形が鼓に似ていることに因んだ名称。

435 ゴシックアーチ描記法

—びょうきほう

gothic arch tracing method

顎運動の記録法の1つで、定められた咬合高径における下顎の前方および左右側方限界運動の軌跡を描記させ、その描記図(ゴシックアーチ)をもとに水平的顎位の決定や顎機能の診断を行う方法。ゴシックアーチは矢印のような形となり、矢印の先端をアベックスと呼び下顎の最後退位を表す。本法には、口内描記法と口外描記法とがあり、描記装置にはゴシックアーチトレーサーやセントラルベアリングトレーシングデバイスなどがある。なお、「ゴシックアーチ」の語源は、描記図がゴシック風建築のアーチと類似の形状を呈していることから、Gysiにより命名された。

436 個歯トレー こしー

individual tray for abutment impression

支台歯の精密印象採得に使用される小型の印象用トレー。銅板を応用したもの(カッパーバンドトレー)、常温重合レジンを用いたもの(レジントレー)、両者を併用したもの(併用トレー)などがある。

437 個人トレー こじんー

individual tray

各個人の歯列や顎堤の形状に合わせて個別に製作された印象用トレー。一般的には、研究用模型上で常温重合レジンにより製作される。

438 固着式模型→「歯型固着式模型」参照

439 骨結合金インプラント→「オッセオインテグレートッドインプラント」参照

440 骨膜下インプラント こつまくかー
subperiosteal implant

下部構造が骨膜と骨面との間に設置されるインプラント。骨面上に密着するように設置されるフレーム、フレームを補助するストラップと呼ばれるフレームの延長部、ならびにフレームから口腔内に露出する支台部から構成される。

441 固定性ブリッジ こていせいー

fixed partial denture

支台装置とポンティックが固定性に連結されたブリッジ。

442 固定性補綴装置

こていせいほてつそうち

fixed dental prosthesis

- 1) クラウンやブリッジなど、任意に外せない補綴装置。
- 2) 支台歯と固定性連結を有する補綴装置。半固定性補綴装置や可撤性補綴装置の対語として用いられる名称。

443 固定性連結 こていせいれんけつ

fixed connection, rigid connection

ろう(鑑)付け法、溶接法、ワンピースキャスト法などにより、支台装置とポンティックとが固着される連結。

444 コノメータ

Konometer (商品名)

コーヌステレスコープ(Konuskronen Teleskop; cone crown telescope)の内冠製作時に、内冠軸面のコーヌス角の測定および内冠ワックスアップ時の軸面の形成を行う器具。

445 4/5冠 こぶんのよんかん

partial coverage crown

臼歯歯冠の5面のうち、頬側面を残して、両隣接面、舌側面、咬合面の4面を被覆する部分被覆冠の1つ。主にブリッ

ジの支台装置として用いられるが、単冠や動揺歯の固定装置にも応用される。

446 固有口腔 こゆうこうこう

oral cavity proper

上下顎の歯列と、歯槽部の前方部および左右側方部の内面により囲まれた内腔。上壁は口蓋，下壁は舌と舌下粘膜からなり，後方は舌根と口蓋舌弓，口蓋咽頭弓および軟口蓋後縁に囲まれ，口峽を介して咽頭に通じている。唾液により常に湿潤状態にあり，食物摂取および呼吸路の一部としての役割を担っている。義歯装着により固有口腔の容積が減少すると舌運動が妨げられ，咀嚼・発音機能に影響が及ぶ。

447 コルベン形状態【床縁の】

—じょうけいたい [しょうえん—]

Kolbenähnlich Form (独語)

辺縁封鎖による義歯の維持の強化や床下への食片の侵入防止などを目的として付与される義歯床縁部の断面形態。原義はドイツ語の Kolben (棍棒) であり，丸く，厚くなっている形態に因む。

448 コンダイラー型咬合器

—がたこうごうき

condylar articulator

上弓に顎頭球 (コンダイル) をもち，下弓に顎路指導部を備えた構造の咬合器。

449 コンタクトゲージ

contact gauge

歯間離開度を臨床的に測定するための器具。厚さ $50\mu\text{m}$ ， $110\mu\text{m}$ ， $150\mu\text{m}$ に設定されたスチール板で構成される。

→「歯間離開度」参照

450 コンタクトポイント→「接触点」参照

451 コンビネーションクラスプ

combination clasp

鑄造鉤と線鉤あるいは環状鉤とパークラスプなど，形態または材質の異なった鉤腕を組み合わせたクラスプの総称。

ワイヤーキャストコンビネーションクラスプ，Roach-Akers コンビネーションクラスプなどがある。

452 コンビネーションシンドローム

combination syndrome

〔同義語〕アンテリアハイパーファンクションシンドローム，Kelly's 症候群

Kelly (1972) の提案した用語で，上顎無歯顎，下顎両側性遊離端欠損患者において上顎に全部床義歯，下顎に部分床義歯が装着された症例に特徴的にみられる5つの問題点を示す症候群。5つの症状とは，①上顎前歯部顎堤の骨喪失，②上顎結節の下方への過形成，③硬口蓋部の乳頭状過形成，④下顎前歯の挺出，⑤部分床義歯の義歯床下の骨喪失，である。関連症状として，上顎前歯部のフラビーガムと歯肉頬移行部の線維腫，下顎前歯の歯周組織変化，咬合平面の後方傾斜および下顎の前上方偏位がみられる。

453 コンポジットレジン

composite resin

〔同義語〕硬質レジン

多官能性メタクリレートを基材に用い，無機質フィラーなどを大量に添加したレジン。主に光照射によって重合される。補綴領域では，前装冠，ジャケットクラウン，既製人工歯などに使用される。

454 根面アタッチメント こんめん—

stud attachment, radicular attachment

残存歯の根面またはインプラントを支台とするアタッチメント。オーバーデンチャーとの組み合わせで用いられ，緩圧型 (可動性) と非緩圧型 (固定性) とが

あり、着力点が低いため側方力による支台歯への過重負担が起きにくく骨植不良歯にも有利とされる。一般に根面アタッチメントはスタッドアタッチメントとも呼ばれる。

445 根面形成 こんめんけいせい
coping preparation

根面板や根面アタッチメントなどを適用するための支台歯形成法。

446 根面形態 こんめんけいたい
form of root surface

ポストクラウンや根面板のための支台歯の根面の形態。根面を唇側で歯肉縁下0.5~0.8mm、舌側で歯肉縁上1mmになるように2面に形成し、舌側には歯肉縁下0.5~0.8mmまでハーフバンドを形成する平斜面形態や、平面形態、単斜面形態、両斜面形態、凸面形態、凹面形態などがある。

447 根面板 こんめんぱん
coping

支台歯の根面を覆う金属板の総称。歯質の保護、二次齶蝕の防止、咬合力による歯根破折の防止、支台装置の連結などに用いられる。

さ

458 最終印象
final impression

→「精密印象」参照

459 最終義歯 さいしゅうぎし
definitive denture

補綴治療計画に基づき、暫間義歯による治療などを経て、全部床および部分床義歯の目的を達成するために必要なすべての前処置を完了した後に最終的に装着される義歯。

460 最終補綴装置

さいしゅうほてつそうち

definitive prosthesis

長期間使用するために計画・設計された補綴装置の総称。

461 最前方咬合位

さいぜんぽうこうごうい

**most anterior (occlusal) position,
most protrusive occlusal
position**

上下顎の歯を接触させた状態で、下顎を最も前方に突き出した顎位。切歯点部は咬頭嵌合位の前方約7~10mmで、このとき下顎頭は関節節最下端付近まで前進している。

462 最側方咬合位

さいそくほうこうごうい

most lateral occlusal position

上下顎の歯を接触させた状態で、下顎を最も側方に変位させた顎位。切歯点部は咬頭嵌合位の側方約8~12mmで、下顎頭の運動が正常な場合には側方咬合位は左右対称性を示す。

463 最大開口位 さいだいかいこうい

maximal opening position

開口時において上下顎の離開度が最大となる顎位。

464 最大開口量 さいだいかいこうりょう

maximal mouth opening

最大開口位における上下顎の中切歯切縁間距離あるいは顎堤頂間距離。正常有歯顎者の平均値は50mm程度であり、40mm以下は開口障害といわれている(Solberg, 1976)。

465 最大咬合力 さいだいこうごうりょく

maximal occlusal force

力いっばいのかみしめ時などに、顎口腔系器官・組織の働きにより、上下顎の

歯あるいは人工歯咬合面に発現する力の最大値。一般に歯根膜の耐圧能によって決まるが、顎口腔機能評価の指標の1つとして用いられる。

466 最大豊隆線〔歯の〕

さいだいほうりゅうせん [はー]

height of contour

特定の方向からみた歯の最大円周を示す線。サバイヤーで設定された支台歯歯軸における最大豊隆部を連ねた線。

467 最大豊隆部 さいだいほうりゅうぶ

maximum convexity

特定の方向からみた歯冠の唇・頬・舌側歯面における豊隆の最も大きい部位。

468 彩度 さいど

chroma

色の三属性の1つ。色の鮮やかさ、濃さの感覚的尺度。無彩色を0とした各色相に共通な間隔尺度としている。ある色相に白色光または無彩色を混合していくと次第にその色相が薄められていくことを、彩度が低くなるという。

→「Munsell 表色系」参照

469 サイドシフト

side shift

側方滑走運動時に、非作業側下顎頭の水平面内運動路で観察される内方（正中方向）への動き。ほぼ直線的に前内方に移動する progressive side shift と、運動の初期において内方へのずれや移動が大きく生ずる immediate side shift とがある。Guichet (1970) は、運動初期の4 mm 間の側方顆路にみられるサイドシフトの様相を漸進型 (progressive type)、直後型 (immediate type)、早期型 (early type)、分散型 (distributed type)、混合型 (progressive and distributed type) の5型に分類した。

470 作業側 さぎょうそく

working side

咀嚼運動時または側方滑走運動時における下顎の外側方への移動側。

471 作業側側方顆路

さぎょうそくそくほうかる

lateral condylar path on working side

側方滑走運動時における作業側下顎頭の運動経路。わずかに外方に移動するが、水平面内の運動は特に Bennett 運動 (Bennett movement) と呼ばれる。このとき作業側下顎頭の運動方向が水平面において前頭面ととなす角で示されるものを作業側側方顆路角、作業側下顎頭運動経路が前頭面において水平面となす角度を作業側側方顆路傾斜 (度) という。

472 作業用模型 さぎょうようもけい

definitive cast, master cast

補綴装置の製作に使用する模型。

473 削合〔人工歯の〕

さくごう [じんこうしー]

occlusal reshaping [of artificial teeth]

義歯に用いる既製人工歯の咬合面形態や咬頭傾斜角を各個人の下顎運動要素に合致させ、咬頭嵌合位での均等な咬合接触と偏心位での咬合平衡を得るために人工歯の咬合面や切縁を削除、調整すること。

474 Saxon テスト→「Saxon 法」参照

475 Saxon 法 さくそんほう

Saxon test

〔同義語〕 Saxon テスト

唾液分泌能検査の1つであり、機能時の刺激時唾液分泌量を測定する。乾燥したガーゼを口腔内に入れて一定速度で2分間かみ (120回/2分)、ガーゼが吸収し

た唾液の重量を測定する。基準となる唾液重量は2分間2gであり、それ以下の場合には唾液分泌量が少ないと判定される。

476 サブストラクチャー→「下部構造(体)」参照

477 サバイヤー
surveyor

水平台、支柱、水平アーム、円筒(スピンドル)で構成される本体と模型台から構成され、義歯の設計や技工操作に用いられる平行測定装置。主に部分床義歯の設計において、模型上で支台歯どうしやそれと関連する周囲組織の相対的な位置および形態を検討し、義歯の着脱方向の決定、サベイラインの記入、アンダーカット量の測定、鉤尖の位置の決定などを行うために使用するが、ブリッジ製作時における支台歯間の平行性の確認や複数のアタッチメントを平行に設置する場合などにも利用される。専用付属品として、アナライジングロッド(測定杆; analyzing rod)、カーボンマーカー(炭素棒; carbon marker)、補強鞘(carbon sheath)、アンダーカットゲージ(under-cut gauge)、ワックスアップ用ヘラ(wax trimmer)、テーパーツール(taper tool)、カッティングナイフ(cutting knife)がある。

478 サベイライン
survey line

サバイヤーによって模型上に描記される線のうち、補綴装置の着脱方向に対して最も突出した部位を連ねて表示した線。

479 サベイング
surveying

サバイヤーを用いて模型上で残存歯および関連組織の保存ならびに最適な義歯

設計を可能とするための義歯の着脱方向と装着位置を詳細に検討し、残存歯と顎堤の最大豊隆部の描記、アンダーカットの測定を行うこと。研究用模型では予備サベイング(仮設計)を行い、治療計画のための口腔内前処置について検討し、作業用模型では仮設計を参考に最終的な義歯設計(本設計)のために必要な測定線を記入する。

480 酸化亜鉛ユージノール印象

ざんかあえんーいんしょう

zinc oxide eugenol impression

酸化亜鉛ユージノール印象材による印象。通常、大きなアンダーカットのない顎堤において極力印象圧を小さくするために用いられる。部分床義歯製作においては、オルタードキャスト法の中で粘膜炎印象に用いることもある。

481 酸化ジルコニウム→「ジルコニア」参照

482 酸化膜 ざんかまく
oxide film

金属あるいは合金の成分元素が酸素と結合し、表層に薄膜として形成された酸化物層。高温での加熱、鑄造操作などにより形成される。金属の種類によっては室温においても表層に酸化膜を生ずる。

483 暫間義歯 ざんかんざし
interim denture

最終義歯(本義歯)を装着するまでの間、審美、機能などの義歯の目的を達成させるために、ある一定期間使用する義歯。広義には、診断用義歯、治療用義歯、即時義歯、移行義歯などが含まれる。

484 暫間固定 ざんかんこてい
temporary splinting

歯周疾患や外傷などによって生じた歯の動揺を一定期間隣在歯に連結・固定す

ることにより各種機能圧を複数歯に分散し、その病状の改善を図ることを目的とした処置。その処置方法としては、接着性レジン、金属線とレジン、ファイバーリボンとレジンを用いた結紮法などがある。

485 暫間被覆冠→「プロビジョナルクラウン」参照

486 暫間補綴装置

ざんかんほてつそうち

interim prosthesis

最終的な補綴処置が施されるまでの間、審美性、咀嚼、発音、咬合機能の保持ならびに回復、または診断や治療の補助的手段として、比較的短期間の使用を前提とした補綴装置。プロビジョナルクラウン、プロビジョナルブリッジ (provisional bridge)、暫間義歯などがある。

487 残根上義歯→「オーバーデンチャー」参照

488 三次元スキャナー→「スキャナー」参照

489 三次元デジタイザー→「スキャナー」参照

490 酸蝕症 さんしよくしょう
erosion

細菌の関与がない酸による化学的な歯質の溶解。原因は、胃液の口腔内への逆流、飲食物由来の酸、環境由来の酸である。

491 サンドブラスト処理 ーしりょう
airborne-particle abrasion, air abrasion, sand-blasting

〔同義語〕アルミナサンドブラスト処理、アルミナブラスト処理

アルミナ粒子、ガラス粒子などの研磨材粒子を圧縮空気とともに噴霧し、加工物表面に付着した埋没材の除去、表面の

清掃、研磨、粗面の付与を行う処理法であり、用途によって異なった種類や粒径の粒子が用いられる。

し

492 CPAP 療法→「経鼻的持続陽圧呼吸療法」参照

493 シェードガイド
shade guide

人工歯、前装用材料、充填用材料、床用レジン、あるいは人工皮膚などの色調見本。

494 シェードセレクション→「色調選択」参照

495 歯科インプラント→「口腔インプラント」参照

496 自家製アタッチメント じかせいー
custom attachment

各個人の歯の大きさや顎堤形態など症例に応じて自由に製作するアタッチメント。一部がプラスチックパターンなどで半既製品化されているものもあるが、鋳造や平行切削器 (パラレロメーター) によるミリングによって製作する。チャンネルショルダーピン、テレスコープクラウン、I.R.V. などがある。

497 歯科訪問診療

しかほうもんしんりょう

home-visit dental care

訪問診療とは医師などの訪問による診療を表しており、外来診療のように診療形態を表している。歯科が行う訪問診療のことを歯科訪問診療という。歯科医師が個人宅、施設、病院など患者が日常生活を行う場所を訪問し、歯科診療を行うこと。

498 歯科補綴学 しかほてつがく**prosthetic dentistry,
prosthodontics**

臨床歯科医学の一分野で、歯・口腔・顎・その関連組織の先天性欠如、後天的欠損、喪失や異常を人工装置を用いて修復し、喪失した形態または障害された機能を回復するとともに、継発疾病の予防を図るために必要な理論と技術を考究する学問。

499 歯冠円錐 しかんえんすい**occlusal cone**

〔同義語〕咬合円錐

歯冠を歯軸方向の最大豊隆線で分割し、咬合面側の歯面に近似した直線を母線として仮定した円錐。義歯着脱方向においては非アンダーカット域となる。この部分をスーパーバルジエリア (suprabulge area) ともいう。

500 歯冠外アタッチメント

しかんがいー

extracoronary attachment

アタッチメントの固定部のすべて、または一部が歯冠の外側に設置されているアタッチメントの総称。歯質削除量が少ない利点はあるが、支点が支台歯の外側にあるため、支台歯を傾斜、回転させたり、不潔域を生じたりすることもある。緩圧型（可動性）と非緩圧型（固定性）アタッチメントがある。ミニダルポ、シーカーアタッチメント、ASC52 ビバルなどがある。

501 歯冠型クラスプ しかんがたー**suprabulge clasp**

〔同義語〕スーパーバルジクラスプ

鉤腕が支台歯の咬合面側から最大豊隆部を越えて維持領域に到達するクラスプの総称。

502 歯冠軸 しかんじく**tooth crown axis**

歯冠の長径軸で中央部を通る仮想軸。歯冠軸の設定法には諸説あるが、その代表的なものは、唇（頬）舌方向からみて最大豊隆部の中点と歯頸幅径の中点とを結ぶ直線、さらに、近遠心方向からみて切縁（白歯部は最大豊隆部の中点）と歯頸厚径の中点とを結ぶ直線を想定し、この両者を含む仮想的な直線とする方法である。

503 歯冠歯根比 しかんしこんひ**crown-root ratio**

正放線投影法によるエックス線写真上で、歯槽骨頂から歯冠方向への長さ歯根方向への長さとの比率。支台歯の圧負担能力の評価基準の1つ。

504 歯冠修復物→「歯冠補綴装置」参照**505 歯冠色材料** しかんしよくざいりょう**tooth-colored material**

歯に近い色を再現できる材料。アクリリックレジン、コンポジットレジン、長石系陶材、ジルコニア系セラミックス、アルミナ系セラミックス、二ケイ酸リチウムガラスなどがある。

506 歯冠内アタッチメント

しかんないー

intracoronary attachment

アタッチメントの固定部が歯冠形態内に設置されたアタッチメントの総称。歯質削除量が多い欠点はあるが、支台歯の回転中心がアタッチメントの中心に近い。咬合圧などの機能圧を歯の長軸方向へ伝達しやすい利点がある。そのため、連結強度の大きい非緩圧型（固定性）アタッチメントが適用されることが多い。Stern G/L, Ney Chayes, McCollum Tアタッチメントなどがある。

507 歯冠補綴装置 しかんほてつそうち

restoration, crown

〔同義語〕 歯冠修復物

歯冠部硬組織の先天的あるいは後天的原因により生じた欠損ならびに審美障害に対して、形態・機能・審美性を回復する目的で応用される修復物の総称。

508 歯間離開 しかんりかい

diastema

病的または物理的な外力により歯が移動し、その結果、隣接接触部に間隙が生じること。

509 歯間離開度 しかんりかいど

interdental separation

隣接歯間の接触強さを表す数値。草刈玄（1965）は、歯間部に 30 μm から 300 μm の厚さの異なるスチール板を指頭圧で挿入したとき、挿入しうる最大の厚さを歯間離開度と名付けた。成人の正常歯列では上顎白歯部で約 90 μm、下顎白歯部で約 70 μm であり、この値が 150 μm を超えると急激に食片圧入が起りやすくなる。臨床的にはコンタクトゲージを用いて測定する。

510 歯間離開度検査

しかんりかいどけんさ

examination of interdental separation

歯冠修復を行う場合や歯周疾患の検査のためにコンタクトゲージやデンタルフロスを咬合面方向から垂直に歯間に挿入し、隣接歯間の接触点の強さを調べる検査。歯間離開度が 150 μm を越えると食片圧入が起る頻度が高くなる。

511 色相 しきそう

hue

色の三属性の1つ。赤、黄、緑、青、紫などで表される色感覚の属性、および

それを尺度化したもの。赤 R、黄 Y、緑 G、青 B、紫 P の主色相およびその中間色相をそれぞれ 10 区分した色相環により表す。

→「Munsell 表色系」参照

512 色調選択 しきちょうせんたく

shade selection

〔同義語〕 シェードセレクション

個々の患者の歯や軟組織などに合わせて補綴装置の色調を選択または決めること。通常はそれぞれ専用のシェードガイドを用いる。

513 軸眼窩平面 じくがんかへいめん

axis orbital plane

水平基準面の1つで、蝶番軸と左右側いずれかの眼窩下点を含む平面。この平面を用いて模型を咬合器へ装着した場合には、終末蝶番運動が再現できる。さらに、XPr 機構（咬合器上で最後方の下顎頭位のほかに、それよりも前方の下顎頭位を固定できる機構）を有する咬合器では、咬頭嵌合位と下顎後退接触位の両方を再現できる。

514 軸面 じくめん

axial surface

歯の長軸に平行、あるいはそれに近い方向の歯面。

515 軸面傾斜角→「テーパー」参照

516 軸面形成 じくめんけいせい

axial reduction for tooth

preparation

クラウンやブリッジの支台歯の長軸に平行、あるいはそれに近い方向での支台歯形成。広義には補綴装置軸面の形成加工も含む。軸面の垂直の高さやテーパーは、装着される歯冠補綴装置の抵抗性、維持（保持）力やセメント合着時の浮き上がりなどに影響を与える。

517 歯型 しけい**die**

形成した支台歯形態を再現した模型。

518 歯型可撤式模型

しけいかてつしきもけい

removable die system

〔同義語〕可撤歯型式模型

クラウン、ブリッジ製作時に使用する可撤式模型の1つで、ワックスアップを正確かつ簡易に行うため、歯型を歯列模型中に組み込み、必要に応じて可撤式歯型 (removable die) を抜き差しできるように考案された作業用模型。歯型の根部にテーパーを付与したり、既製のダウエルピンを利用する。

519 歯型固着式模型

しけいこちゃくしきもけい

solid working cast

〔同義語〕固着式模型, 単一式模型

歯型と歯列模型が一体となっている作業用模型の1つ。歯型と歯列模型との位置関係が狂うことはないが、隣接面やマージン部のワックスアップが困難であるため、精密な補綴装置の製作には、別に副歯型が必要となる。一般的には個歯トレー, 個人トレー, プロビジョナルクラウンなどの製作に用いられる。

520 歯頸部辺縁形態

しけいぶへんえんけいけい

cervical margin form

歯冠修復における、支台歯歯頸部の辺縁と修復物辺縁の断面形態。基本的な形態として、7種類 (フェザーエッジ型, ナイフエッジ型, シャンファー型, ベベル型, ショルダー型, ベベルドショルダー型, ラウンデッドショルダー型) がある。また、フェザーエッジ型, ナイフエッジ型をショルダーレス型ともいう。

521 歯根円錐→「歯肉円錐」参照**522 歯根膜支持**→「歯根膜負担」参照**523 歯根膜支持義歯**→「歯根膜負担義歯」参照**524 歯根膜粘膜支持**→「歯根膜粘膜負担」参照**525 歯根膜粘膜支持義歯**→「歯根膜粘膜負担義歯」参照**526 歯根膜粘膜負担**

しこんまくねんまくふたん

tooth and tissue-support

〔同義語〕歯根膜粘膜支持

機能時に補綴装置に加わる力を歯根膜と顎堤粘膜の両者に負担させる概念。

527 歯根膜粘膜負担義歯

しこんまくねんまくふたんぎし

tooth and tissue-supported denture

〔同義語〕歯根膜粘膜支持義歯

機能時に発現する力を歯根膜と顎堤粘膜の両者に負担させる義歯。

528 歯根膜負担 しこんまくふたん**tooth-support**

〔同義語〕歯根膜支持

機能時に補綴装置に加わる力を歯根膜のみに負担させる概念。

529 歯根膜負担義歯

しこんまくふたんぎし

tooth-supported denture

〔同義語〕歯根膜支持義歯

機能時に発現する力を歯根膜のみに負担させる義歯。

530 支持 しじ**support**

咬合力によって生ずる歯あるいは補綴装置の沈下に抵抗する作用。

531 歯軸 しじく**tooth axis**

歯の長径軸。藤田恒太郎(1949)が歯の計測の基準として提唱したもので、唇(頬)舌方向、近遠心方向いずれからみても歯の中央部を縦に貫く直線。なお、歯の中央部を重視し、根尖部の彎曲は考慮しないとしている。

532 支持咬頭 しじこうとう

supporting cusps

対合歯の咬合面窩あるいは辺縁隆線部に咬合し、咬頭嵌合位を保持する咬頭。

533 支持粘膜 しじねんまく

supporting tissue

機能時に義歯床に加わる力を負担する顎堤粘膜や口蓋粘膜。

534 支持能力 しじのうりよく

supporting ability

咬合力によって生ずる歯あるいは補綴装置の沈下に抵抗する能力。

535 磁石構造体 じしゃくこうぞうたい

magnetic assembly

磁性アタッチメントの構成要素の1つ。内蔵された永久磁石と磁性材料のヨークとで磁路を形成して磁気力を発揮する。その構造によってキャップ(cap)型、スプリットポール(splitpole)型、サンドイッチ(sandwich)型などに分類される。

536 歯周補綴 しじゅうほてつ

periodontal prosthesis

1) 歯根膜粘膜負担義歯を製作する際、支台歯ならびに残存歯の歯周組織保全を重視し、清掃性や機能時に生じる応力の配分を特に考慮して行う補綴処置。Amsterdam(1974)によって提唱された概念。

2) 高度に進行した歯周疾患に対する補綴処置。

537 矢状顎路 しじょうかろ

sagittal condylar path

矢状面に投影した顎路。特に矢状面に投影した前方滑走運動時の顎路を矢状前方顎路、側方滑走運動時の非作業側下顎頭の顎路を矢状側方顎路という。

538 矢状顎路傾斜角(度)

しじょうかろけいしゃかく(ど)

sagittal condylar inclination

矢状面に投影した顎路が水平基準面となす傾斜角度。特に前方滑走運動時の矢状顎路傾斜角を矢状前方顎路傾斜角、側方滑走運動時のそれを矢状側方顎路傾斜角という。

※「～角」はどのような角度を表す場合にも用いられるが、「～傾斜」は基準水平面に対する角度を表す場合のみに用いられる。また、矢状顎路傾斜と矢状顎路傾斜角は同義語で用法としてどちらも誤りとはいえないが、定量的に角度を表す場合には角をつけて傾斜角とすることが望ましい。

539 矢状切歯路 しじょうせつしろ

sagittal incisal path

矢状面に投影した切歯路。特に矢状面に投影した前方滑走運動時の切歯路をいう。

540 矢状切歯路傾斜角(度)

しじょうせつしろけいしゃかく(ど)

sagittal incisal inclination

矢状面に投影した切歯路が水平基準面となす傾斜角度。特に矢状面に投影した前方滑走運動時の切歯路が水平基準面となす角度をいう。

→「矢状顎路傾斜角(度)」参照

541 矢状面 しじょうめん

sagittal plane

正中面に平行で、生体を左右部分に分割するすべての仮想平面。

542 自助具 じじょぐ**self-help device**

何らかの機能障害をもつ者に対し、その機能を補うか代償することにより日常生活動作（ADL）や社会生活行為（ASL）などを容易にし、自立を助けるための道具。動作の目的、障害の性質・程度などによって分類できる。補綴歯科分野では義歯用ブラシの把柄を持ちやすく太くすることなどがあてはまる。

543 磁性アタッチメント じせいー**magnetic attachment**

磁石構造体とキーパーとから構成され、両者の磁氣的吸引力を利用した補綴装置の支台装置。失活歯を用いた製作法には、鋳造コーピングを用いる鋳接法やキーパーボンディング法、キャストレスでのレジンコーピングによる方法がある。インプラントオーバーデンチャーの支台装置としても用いられる。

544 歯槽頂 しそうちよう**residual ridge crest**

歯の喪失による歯槽突起の骨改造によって鞍状に変化した顎堤の頂上。

545 歯槽頂間線 しそうちようかんせん**interalveolar crest line,
interalveolar ridge line**

中心咬合位で相対する上下顎歯槽頂を上下方向に結んだ直線で、臼歯部顎堤の前頭面内における対向関係を表示する線。通常、無歯顎補綴における人工歯排列において、義歯の維持・安定を確保するための頬舌的排列位置を決定するために用いられる。具体的には、人工歯の上顎第一大臼歯の舌側咬頭内斜面および下顎第一大臼歯の頬側咬頭内斜面の頬舌的中点がこの線に一致するように排列する。これによって片側性咬合平衡が確保

される。

546 歯槽頂線 しそうちようせん**alveolar ridge line**

歯槽頂（上下顎の顎堤の頂上）を代表する線。本来、顎堤弓に沿って彎曲を描いているが、人工歯排列のための基準線などとしては前歯部と臼歯部に分けて直線で表す。

547 支台 しだい**abutment**

補綴装置を支持・把持・維持（保持）するための歯やインプラント。

548 支台歯 しだいし**abutment teeth**

〔同義語〕維持歯、鉤歯

補綴装置を支持・把持・維持（保持）する歯。

549 支台歯間線 しだいしかんせん**fulcrum line**

〔同義語〕鉤間線

1) 部分床義歯が咀嚼力などの外圧により主にレストを支点として回転を生じることを仮想した回転軸。部分床義歯の設計において、力学的安定性の目安とされる。

2) ブリッジが咀嚼力などの外圧により各支台歯を支点として回転を生じることを仮想した回転軸。ブリッジの設計において、力学的安定性の目安の1つとされる。特に、歯列のカーブにまたがる曲線的なブリッジでは、左右の第一支台歯を結ぶ線を中心としてブリッジを転覆させる力が働くので、テコとして作用する部分の長さ以上の支台歯数を反対方向へ延長増加させる必要があるとした Sadrin の法則（1913）がある。

550 支台歯形成 しだいしけいせい**tooth preparation**

支台歯形態を得るために、切削器具を用いて歯を切削形成すること。

551 支台歯形態 しだいしけいたい

abutment tooth form

補綴装置を装着あるいは維持・支持する目的で支台歯に付与される形態。

552 支台装置 しだいそうち

retainer

〔同義語〕 維持装置

可撤性および固定性補綴装置を支台歯に連結するための装置。

553 支台築造 しだいちくぞう

foundation restoration

歯冠の一部分または大部分が欠損し、そのままでは被覆冠のための適正な支台歯形態が得られない場合に、人工材料によって欠損歯質を補い、支台歯形態を整えること。欠損歯質の状況により、以下から選択される。①成形充填材による築造：セメント充填，レジン充填。②既製ポスト（金属，ファイバー）と成形充填材を併用する築造。③金属による築造：鋳造による築造（鋳造ポストとコア部を一塊で鋳造）および④既製ポストと鋳造体を併用する方法など。なお、鋳造操作によって製作された築造体をメタルコア（metal core）と呼ぶことがある。

554 自動割合 じどうさくごう

milling in

選択割合によりほぼ調整された全部床義歯の咬合面形態を、全体的に同時にスムーズに仕上げるために行う割合法。カーボランダムグリセリン泥を下顎歯の咬合面に均一にのせた後に咬合させ、咬合器の上弓を軽く押さえながら側方滑走運動と前方滑走運動を行い、この操作を切歯指導釘が指導板上をスムーズに滑走するまで繰り返す。

555 歯肉圧排 しにくあっぱい

gingival displacement, gingival retraction

歯肉縁下における支台歯形成、印象採得、合着操作などを行う場合に、それぞれの作業を容易にしたり歯肉に損傷を与えないために、該当する部位の歯肉を一時的に歯面から排除すること。機械的、薬物的、両者の併用および電気メスを用いた方法がある。

556 歯肉円錐 しにくえんすい

gingival cone

〔同義語〕 歯根円錐

歯冠を歯軸方向の最大豊隆線で分割し、歯肉側の歯面に近似した直線を母線として仮定した円錐。義歯着脱方向においてはアンダーカット域となり、クラスプの維持に関与する。この部分をインフラバルジエリア（infrabulge area）ともいう。

557 歯肉型クラスプ しにくがたー

infrabulge clasp

〔同義語〕 インフラバルジクラスプ

鉤腕が支台歯の歯肉側からアンダーカット域に到達するクラスプの総称。代表的なものにRoachクラスプやIパークラスプがある。

558 歯肉頬移行部

しにくきょういこうぶ

mucobuccal fold

白歯部口腔前庭で、可動粘膜である頬粘膜が不動粘膜である歯肉粘膜へ移行する部分。一般に義歯床縁部がここに設定される。

559 歯肉形成 しにくけいせい

festoon

ろう義歯の人工歯肉頸部から義歯床縁に至るまでの歯肉に相当する部分すなわ

ち義歯床研磨面をワックスで形成し、所要の形態に仕上げる作業。義歯床研磨面形態は咀嚼、発音、審美性および舌感に関係があるだけでなく、義歯の維持・安定にも影響する。

560 歯肉鉤 しにくこう

gingival clasp

義歯床から顎堤のアンダーカットにバー状の床用レジンや軟性レジンを延長して、義歯の維持を補助する装置。上下顎前歯部の唇側部、上顎結節の頬側部などに応用される。

561 歯肉唇移行部 しにくしんいこうぶ

muco labial fold

前歯部口腔前庭で、可動粘膜である口唇粘膜が不動粘膜である歯肉粘膜へ移行する部分。歯肉頬移行部と同様に、義歯床縁の設定部位とされることが多い。

562 篩分法 [咀嚼能率の]

しぶんほう [そしゃくのうりつー]

sieving test [of masticatory efficiency]

回数を規定して咀嚼した一定重量の食品をふるいにかけて、残留した粒子の乾燥重量を測定することによって、通過した重量との比率から咀嚼能力を判定する方法。ピーナッツを用いる Manly (1950)らの方法と、生米を用いる石原寿郎 (1955)の方法とが代表的である。その他の食品としてはニンジン、干しぶどう、かまぼこなどが用いられる。測定は10メッシュのふるいにより行われることが多く、主として粉碎能力を測定している。

563 Jackson クリブクラスプ

じゃくそんー

Jackson crib clasp

1本のワイヤーをループ状に屈曲して頬側歯頸部のアンダーカットを利用する

クラスプ。Jackson (1911)により考案された。頬側歯頸部に沿ってアンダーカット歯面に適合する横走部、近心と遠心の隣接面で垂直に屈曲した縦走部、咬合面部で水平に屈曲した隣接面横断部、これに続く鉤脚部〔オリジナルは舌側金属板にろう (鐵) 付け〕により構成される。

564 ジャケットクラウン

jacket crown

レジン、陶材などの審美性に優れた修復材料のみを用いて製作された全部被覆冠。歯質削除量の多い被覆冠であり、支台歯と一体化されないと耐衝撃性に劣るが、金属色が外観にふれないため審美性に優れた歯冠補綴装置である。

565 シャンファー型 一がた

chamfer

支台歯の歯頸部辺縁形態ならびに修復物辺縁形態の1つ。丸みを帯びた斜面形態のため、歯質との移行部は明瞭で修復物との適合性が良く、修復物辺縁の厚みも確保することが可能となり、鑄造冠などの一般的な辺縁形態として応用される。修復物辺縁の厚みをさらに増すために、径の大きい、先端に丸みをもったバー、ポイントで削った辺縁形態をヘビー (ディープ) シャンファー型 (heavy chamfer type, deep chamfer type) と呼ぶ。

566 手圧印象 しゅあつしんしょう

finger pressure impression

加圧印象の1つで、術者の手指圧によって義歯床下粘膜を加圧下で採得する印象。

567 自由運動咬合器

じゆううんどうこうごうき

free joint articulator

下顎運動の指導機構をもたず、上下顎

模型に自由な可動性を与えた咬合器。咬頭嵌合位は上下顎の模型の接触のみで保持され、偏心運動は模型の咬合面だけで誘導される。

568 習慣性開閉口運動

しゅうかんせいはいへいこううんどう

habitual opening and closing movement

無理なく自然に、あるいは反射的に行われる下顎の開閉運動。通常、咬頭嵌合位に始まり、開口後、やや異なる閉口路を経て咬頭嵌合位に終わる。

569 習慣性咬合位

しゅうかんせいこうごうい

habitual occlusal position

習慣的な閉口運動の終末位。正常有歯顎者では咬頭嵌合位と一致するとされている。

570 習慣性咀嚼側

しゅうかんせいそしゃくそく

habitual masticatory side

咀嚼動作における利き側。咀嚼運動は随意運動であるとともに、半無意識のうちに食塊の物理的性状の変化に対応して最適な顎運動パターンをとる反射的要素の強い運動でもある。人間の四肢においても利き手、利き足があるように、咀嚼運動においてもかみやすい側、無意識のうちにかむ側があり、片側のみで咀嚼する人のほうが多い。習慣性咀嚼側は、歯、歯周組織、顎関節などによっても影響を受け、よりかみやすい側で咀嚼するよう習慣づけられる一種の適応反応とも考えられる。

571 終末蝶番位 しゅうまつちょうばんい

terminal hinge position

左右下顎頭が終末蝶番運動を行える範囲にあるときの、上顎に対する下顎の位

置。

572 終末蝶番運動

しゅうまつちょうばんうんどう

terminal hinge movement

左右の下顎頭が最後方位にあるときの蝶番運動。

573 終末蝶番軸

しゅうまつちょうばんじく

terminal hinge axis

蝶番軸の1つとして代表的なもので、下顎最後退位で蝶番運動を行うときに回転中心となる軸。

574 終末蝶番点

しゅうまつちょうばんてん

terminal hinge axis point

下顎に存在する終末蝶番軸を延長して皮膚上に現れた点。上顎模型を咬合器にトランスファーする場合に用いられる後方基準点の1つ。

575 術後即時顎補綴装置

じゅつごそくじがくほつそうち

immediate surgical obturator

腫瘍などにより顎骨の切除が予定されている患者に対して、術後早期の構音、咀嚼、嚥下機能の回復を目的に、術前に製作した模型上で予定される切除範囲を削合し製作する補綴装置。

576 床縁 しょうえん

denture border

義歯床の粘膜面と研磨面との境界部。部位により唇側床縁、頬側床縁、口蓋床部後縁、舌側床縁に分けられる。

577 床外形線 しょうがいけいせん

denture base outline

床縁の位置を研究用模型あるいは作業用模型上に記入した線。一般的には、筋圧形成による精密印象により得られた作業用模型では、その辺縁の最深部が床外

形線となる。単なる線ではなく、幅のある領域として理解されている。

578 上顎結節 じょうがくけつせつ

maxillary tuberosity

臨床的には、上顎最後臼歯が喪失した後にも吸収されずに残り、他の歯槽骨部が吸収された結果として生じた上顎顎堤後方に位置する膨隆部。被覆粘膜は薄く硬い。著明な場合にはリリーフが、さらに義歯の着脱に支障を来す場合などには外科的切除が必要である。上顎全部床義歯床はこれを完全に覆わなければならない。なお、解剖学名としての上顎結節は、上顎骨背側（側頭下面）にある骨の粗面部をいう。

579 上弓 [咬合器の]

じょうきゅう [こうごうきー]

upper bow [of articulator]

咬合器の上部構造で上顎模型を装着する金属製の体部。後方部には顎路指導、顎頭間距離調節などの機構がついている。アルコン型咬合器の関節部は顎路指導部を備え、コンダイラー型咬合器では顎頭球を備えた形式である。前方部には切歯指導機構とオルビタルロケーターの着脱機構を備えている。

580 症型分類 [補綴治療における] しょうけいぶんるい [ほてつちりょうー]

classification system [for prosthodontic treatment]

歯質、歯の欠損の病態を評価し、補綴治療の難易度を分類するもの。2004年から日本補綴歯科学会での策定を開始し、現在まで、口腔の条件、身体社会的条件、口腔関連 QOL、精神医学的条件のフォームが作成されている。治療計画、治療の到達目標などを決定するための基本となる。術者の技量や経験に左右され

ることなく、エビデンスの蓄積、医師間の情報交換、症例の選択、インフォームド Consent などにも有用である。

581 笑線 しょうせん

smile line

咬合状態のまま笑ったときに、上唇を最大限に挙上した位置と下唇を最大限に下制した位置を示す線。上下顎前歯人工歯歯頸線の位置の指標となる。

→「微笑線」参照

582 上部構造 (体) [インプラントの] じょうぶこうぞう (たい)

superstructure [of implant prosthesis]

インプラントを支台とする補綴装置。オッセオインテグレートッドインプラントにおいては、アバットメント、フレーム構造、人工歯そして義歯床も含めて上部構造と呼ぶのが一般的である。骨膜下インプラントにおいては、人工歯と義歯床の部分の意味し、フレームから突出したアバットメントならびにその連結部分は中間構造体と称して区別することもある。

→「下部構造 (体)」、「中間構造 (体)」参照

583 床翼 しょうよく

denture flange

[同義語] フレンジ

義歯床の人工歯歯頸部から床縁に至るまでの部分。頬側床翼、舌側床翼など、特に翼状の形態をなす部分をいう。

584 小連結子 しょうれんけつし

minor connector

クラスプやレストなどを義歯床や大連結子に連結する金属部分。鉤脚やレストの脚部と同義となることが多い。

585 初期接触 しよきせつしよく**initial occlusal contact**

習慣性閉口路に沿って閉口するとき、最初に生じる咬合接触。

586 食形態調整

しよくけいたいちょうせい

diet modification

ペースト食，とろみ刻み食，軟菜食，普通食など，食形態を経口摂取能力にあわせて調整すること。摂食嚥下リハビリテーションにおいて，食形態の調整は，経口摂取能力と実際の食形態との乖離をなくすために重要である。食形態の分類は日本摂食嚥下リハビリテーション学会嚥下調整食分類 2021 が広く用いられている。その他にも，嚥下食ピラミッド，特別用途食品許可基準区分，ユニバーサルデザインフードがあり，それぞれの対応表も発表されている。また，水分のとりみづけについても3段階に分類されている。

587 食片圧入 しよくへんあつにゆう**food impaction, impaction of food debris**

歯間部へ食片が押し込まれること。不適切な隣接接触関係（歯間離開度，鼓形空隙の形態）や咬合関係（くさび状咬頭）などにより垂直に起こる場合と，舌や頬粘膜の圧により水平に起こる場合がある。歯周疾患や齲蝕を引き起こす可能性がある。

588 食物粉碎度 しよくもつぶんさいど**degree of food pulverization**

規定回数の咀嚼により食物が粉碎される程度。咀嚼能率を評価するために用いられ，粉碎された食物の粒子の大きさを測定する方法と，食物の表面積の増加程度を計算式で求める方法がある。

589 ショルダー型 ーがた**shoulder**

支台歯の歯頸部辺縁形態ならびに修復物辺縁形態の1つ。支台歯軸面にほぼ直角に形成されるため，歯質との移行部は明瞭であるが，歯質削除量は多く，継ぎ手接合（butt joint）となるため，セメント合着時の浮き上がりが大きい。しかし，修復物辺縁の厚みを十分にとることが可能となり，前装用材料のスペースや修復物の強度を確保することができるため，ジャケットクラウンや前装冠の辺縁形態として適用される。

590 シリコーンゴム印象 ーいんしやう**silicone rubber impression**

縮重合型と付加重合型に分類されるシリコーンゴム印象材による印象。硬化後の寸法安定性に優れているため，有歯顎から無歯顎まで，精密印象として広く用いられる。

591 ジルコニア**zirconium oxide, zirconia**

〔同義語〕酸化ジルコニウム，二酸化ジルコニウム

通常， ZrO_2 の構造で存在する酸化物。イットリアを添加して室温における結晶構造を安定化させた材料はイットリア部分安定化ジルコニアといい，歯冠修復および欠損補綴の構造材料として使用される。

592 ジルコニアブロック**zirconia block**

歯科用 CAD/CAM システムのミリングに用いられるブロック。完全焼結型ブロックと部分焼結型（半焼結型）ブロックがある。ミリング前に完全焼結したものを完全焼結型，ミリング後に完全焼結するものを部分焼結型（半焼結型）と呼ぶ。

593 シングルデンチャー**single complete denture**

上下顎のいずれかが無歯顎の場合に適用される全部床義歯。対顎が①天然歯列である場合、②部分欠損はあるが固定性ブリッジで修復された歯列の場合、③部分欠損はあるが可撤性部分床義歯が装着されていない場合、④全部欠損であるが全部床義歯が装着されていない場合がある (Heartwell, 1974)。

594 人工歯 じんこうし**artificial teeth**

天然歯の代用として用いる歯。一般的には、レジン歯、硬質レジン歯、陶歯が用いられるが、特殊な場合には金属歯も用いられる。

595 人工歯根 じんこうしこん**artificial tooth root**

歯が失われた部位の顎骨に植立され、補綴装置の支台として用いられる人工物。→「口腔インプラント」参照

596 人工歯肉 じんこうしにく**artificial gum**

- 1) 歯肉の退縮や欠損を人工物によって補い、審美性を修復するための、義歯床に類似した装置。
- 2) 支台歯と歯肉の関係を再現するために、作業用模型に付与される弾力性のある疑似歯肉。

597 人工歯肉付模型

じんこうしにくつきもけい

definitive cast with artificial gum

〔同義語〕ガム模型

クラウンやブリッジの製作時に応用される作業用模型で、歯型周囲の歯肉に相当する部分が、弾力性を有するゴム印象材や軟性樹脂などの人工歯肉材料で可撤性に再現された模型。人工歯肉が付与さ

れている状態では、カントウア、鼓形空隙の調整やクラウンのマージンと歯肉縁との位置関係の確認が正確となり、また、人工歯肉を取り外した場合には、支台歯辺縁部の形成状態、クラウン辺縁部の適合状態や、前装用材料の歯頸部における築盛状態の確認が容易となる。

598 人工歯排列 じんこうしはいれつ**tooth arrangement**

義歯製作過程において、人工歯を咬合床に並べること。前歯部では、患者の性別・顔形・性格・年齢などに調和した外観と発音機能を考慮し、臼歯部では、義歯の維持・安定と咀嚼機能を考慮して排列する。上顎から排列する方法(上顎法)と下顎から排列する方法(下顎法)とがある。

599 診断用義歯 しんだんようぎし**diagnostic denture**

診断および治療計画の立案のために、一時的に装着される義歯。

600 診断用ワックス→「診断用ワックスアップ」参照**601 診断用ワックスアップ**

しんだんようー

diagnostic waxing

〔同義語〕診断用ワックス

補綴治療を行う前に、最終補綴装置によって修復されることが予想される歯列や歯肉の形態を模型上にワックスで成形すること。全顎に及ぶクラウンブリッジによるオーラルリハビリテーション(咬合再構成)や、インプラント治療を行う場合に多用される。

602 審美障害 しんびししょうがい**esthetic dissatisfaction,
cosmetic disturbance**

歯、歯肉の色調や形態の不良、歯列の

不正、歯の欠損、口腔領域と顔貌との不調和などを訴えた状態、あるいはそれを表す病名、色調や形態などの客観的評価が可能なものから、患者の内的イメージと現実とのギャップによる葛藤状態から生じた精神心理学的なものまで病態はさまざまである。不良補綴装置もその原因になりうる。

す

603 推進現象〔義歯の〕

すいしんげんしょう [ぎしー]

denture propulsion

上下顎の義歯が咬合した場合、人工歯の咬頭傾斜によって義歯が前後の（矢状推進現象；forward propulsion）あるいは左右的（側方推進現象；latero propulsion）に移動する現象。顎堤の傾斜によっても発現する。

604 垂直的顎位 すいちよくてきがくい

vertical mandibular position

上顎に対する下顎の垂直的な位置。

605 垂直被蓋→「オーバーバイト」参照

606 水平基準面 すいへいきじゅんめん

horizontal plane of reference

咬合や下顎運動の解剖学的な決定要素の計測に用いられる水平的な仮想平面。通常、1つの前方基準点と2つの後方基準点で決定されるが、前者には眼窩下点や鼻翼下縁あるいは鼻下点、また、後者には平均的顎頭点や蝶番点などが用いられる。フランクフルト平面、Camper平面、咬合平面などがある。

607 水平的顎位 すいへいてきがくい

horizontal mandibular position

上顎に対する下顎の水平的な位置。

608 水平被蓋→「オーバージェット」参

照

609 水平面 すいへいめん

horizontal plane

- 1) 正中面と前頭面とに直交して、生体を上部と下部とに分割するすべての仮想平面。
- 2) 歯において、歯軸に直交する仮想平面。

610 睡眠時無呼吸症候群

すいみんじむこきゅうしょうこうぐん

sleep apnea syndrome

〔同義語〕SAS

睡眠時に呼吸停止または低呼吸になる病気。閉塞性（OSAS：上気道の閉塞によるもの）、中枢性、および混合性（閉塞性と中枢性の混合型）に分類される。閉塞性のみ歯科的治療の対象となる。

→「OSAS 治療用口腔内装置」、「経鼻的持続陽圧呼吸療法」参照

611 スーブラパルジクラasp→「歯冠型クラasp」参照

612 スキャナー

scanner

〔同義語〕3D スキャナー、三次元スキャナー、3D デジタイザー、三次元デジタイザー

物体の立体的な表面形状をプローブで接触したり、レーザー光や画像データによって計測するための装置。模型や印象面を計測するための技工用デスクトップ（モデル）スキャナーや口腔内を直接計測する口腔内スキャナーがある。

613 スキャンボディ

scan body

インプラント治療における光学印象採得の際に、インプラント体またはアバットメントに装着して用いるパーツ。口腔内スキャナーや技工用デスクトップ（モ

デル) スキャナーによってスキャンボディと歯列をスキャンすることによって、インプラントの三次元的位置関係を画像データとして記録し、歯列とインプラントの位置関係を画像構築することができる。印象材を用いる従来法においては印象用コーピングに相当する。

614 スクリュー固定式 一こていしき
screw retaining system

インプラント治療における歯冠補綴装置(上部構造)のアバットメントまたはインプラント体への連結方法の1つ。上部構造にスクリュー開口部(アクセスホール)を設け、スクリューを用いて、上部構造をアバットメントに固定する。補綴装置への損傷を最小限にしながら、必要に応じてその着脱ができる術者可撤式の代表例とされる。

→「セメント固定式」参照

615 スタディモデル→「研究用模型」参照

616 スタビライゼーションアプライアンス
occlusal device, stabilization appliance

〔同義語〕スタビライゼーションスプリント
オクルーザルアプライアンスの1つ。均等な咬合接触の付与により下顎の安静を得ることを目的として、上下顎歯列のいずれかの咬合面全体を被覆する全歯列型アプライアンス。

→「オクルーザルアプライアンス」参照

617 スタビライゼーションスプリント→「スタビライゼーションアプライアンス」参照

618 スtent
stent

1) 放射線照射治療時の小線源の保持、

インプラント体植立時の植立方向のガイドなどに用いられる、補助装置の総称。

2) 軟組織を保持・固定する装置の総称。外科処置に併用され、移植皮膚片の保持や保護に利用するもの、あるいは形成外科手術後の患部の軟組織を一定期間、定形に保つものなどがある。

→「スプリント」参照

619 ストラップ

strap

大連結子の1つで、部分床義歯の複数の構成部分を連結する帯状の金属部分。バーとプレートとの中間的な幅のものをいう。一般的にストラップの用語は、パラタルストラップとして、上顎義歯にのみ用いられる。

620 スパー

spur

部分床義歯の安定を得る目的で、支台歯間線を挟んで義歯床とは反対側の歯の舌側面に設置されるレストのような形態をした補助支台装置の1つ。小連結子により義歯床または大連結子に結合され、単独では維持力を発揮しないが、義歯の動きに抵抗して義歯を安定させる点で間接支台装置でもある。前歯舌側面に設置した場合、歯の唇側移動を起こすことがある。

→「フック」参照

621 スピーチエイド

speech aid

鼻咽腔閉鎖機能の不全による構音障害の改善を図ることを目的とした補綴装置。口蓋裂のような軟口蓋欠損部を物理的に閉塞する鼻咽腔閉鎖型(pharyngeal bulb type)と、神経麻痺による軟口蓋部の運動障害などに適用される軟口蓋挙上型(palatal lift type)とがある。後者は軟

口蓋挙上装置 (PLP) と呼ばれる。

→「バルブ型鼻咽腔補綴装置」参照

622 Spee の彎曲 すびー—わんきょく
curve of Spee

下顎犬歯の尖頭と小白歯、大白歯の頬側咬頭頂を連ねた線を矢状面に投影した際に現れる円弧。ドイツの解剖学者 Spee (1890) によって発見されたため、この名がある。彼はこの円弧が下顎頭の前縁を通り、その中心は、眼窩内涙骨上縁付近にあると考えた。

623 スプーンデンチャー
spoon denture

主に上顎前歯少数歯欠損症例に適用される。クラスプのない広い口蓋床のある暫間義歯。その外形がスプーンに似ていることに基づいた名称。

624 スプリットキャスト
split cast

基底部にくさび型の溝をもつ作業用模型。これにより作業用模型を咬合器から容易に取り外し、かつ正確に復位することができる。また、半調節性咬合器の顎路調節に利用できる。模型に溝を付ける代わりに、既製のスプリットマウンティングプレートが使われることがある。

625 スプリットバー
split bar

その長軸方向に割れ目 (スリット、スプリット) を付与して、弾力性をもたせた緩圧型の大連結子。

626 スプリンティング
splinting

固定性あるいは可撤性の修復物や補綴装置によって複数歯を連結し、1つのユニットにすること。

627 スプリント
splint

本来は変位した組織あるいは可動性の硬組織を一定期間、適切な位置に固定する装置の総称。軟組織を対象とするステントに対応する用語。

- 1) 骨折により転位したり不安定となった部位を整復し、固定する装置。
- 2) 動揺歯の連結固定装置。
- 3) 顎関節症の治療などに用いられ、下顎を適切な位置に誘導する、いわゆるオクルーザルアプライアンス。

628 スリークォータークラウン→「3/4冠」参照

629 3D スキャナー→「スキャナー」参照

630 3D デジタイザー→「スキャナー」参照

631 3D プリンタ すりー—でい—
3D printer

設計データ (STL データ) をもとにしてスライスされた二次元の層を、1枚ずつ積み重ねていく積層造形法によって立体モデルを製作する装置。液状の樹脂を紫外線レーザーで硬化させていく方式や、熱可塑性樹脂をノズルから押し出して積み上げていく方式などがある。

→「STL」参照

632 スリーブ
sleeve

バーアタッチメントの構成要素の1つ。マトリックスの部分、あるいはそれに付与されるさや状、またはレール状の構造物。なお、スライド型アタッチメントのマトリックス部分を意味することもある。

633 すれ違い咬合 一ちが—こうごう
non-vertical stop occlusion

上下顎に残存歯があるにもかかわらず、咬頭嵌合位を失っている咬合 (尾花

甚一, 1952). 上下顎の残存歯が左右的にずれ違って存在する場合と, 前後的にずれ違って存在する場合があります, それぞれ左右の臼歯群のずれ違い咬合と, 前歯群と臼歯群のずれ違い咬合が典型的である. 残存歯と対向する顎堤の骨吸収が大きく, 咬合平面の設定が困難で, 義歯の設計が難しい.

せ

634 生活不活発病→「廃用症候群」参照

635 正中線 せいちゅうせん

median line

生体(物)を左右に分割する中心線.

636 正中面 せいちゅうめん

median plane

生体(物)を縦断して左右に2等分する, 正中線を含んだ仮想平面.

637 生物学的幅径

せいぶつがくてきふくけい

biologic width, supracrestal tissue attachment

健康な歯周組織の維持に必要とされる歯肉溝底部から歯槽骨頂部までの歯肉の付着の幅. 上皮性付着(約0.97 mm)と結合組織性付着(約1.07 mm)の幅からなる. 一般に, 歯冠補綴装置のマージンを歯肉縁下に設定する際, フィニッシュラインの位置は, 生物学的幅径が遵守されなければならない. 生物学的幅径を損傷する位置に歯冠補綴装置のマージンを設定すると炎症が惹起され, それは生物学的幅径が改善されない限り消退しないとされている.

638 精密印象 せいみついでんしょう

precise impression

〔同義語〕最終印象

補綴装置を製作する目的で採得する, 寸法精度や表面精度などに優れた印象.

639 積層一回印象→「二重同時印象」参照

640 舌圧痕 ぜつあつこん

indentation of tongue

舌尖から舌側縁にみられる歯列の圧痕. 舌習癖やクレンチングによって生じるといわれる.

641 石膏コア せつこうこ

plaster core, plaster index

支台歯形成や補綴装置製作時に, 支台歯や人工歯の形態, 排列状態, 位置関係などを保存するために, それらを石膏で記録したもの.

642 切歯指導釘 せつししどうてい

incisal guide pin, anterior guide pin

〔同義語〕インサイザルピン

咬合器上弓の最前部に取り付け, 顎間距離を保持し, 切歯指導板の誘導に対応して矢状および側方切歯路を再現するためのピン.

643 切歯指導板 せつししどうばん

incisal guide table, anterior guide table

〔同義語〕インサイザルテーブル

咬合器下弓の最前部に取り付け, 切歯指導釘を誘導し, 顎間距離の保持ならびに矢状および側方切歯路を再現するためのテーブル. 金属製とプラスチック製とがある.

644 切歯点 せつしてん

incisal point

下顎左右側中切歯の近心隅角間の中点. 咬合平面の基準点や顎運動の測定点として用いられる.

645 摂食嚥下 せつしょくえんげ**eating and swallowing**

食物を認知してから胃に送り込むまでの一連の動作。随意運動と反射運動が複雑に組み合わされ、多くの臓器や器官が機能して営まれる。食物を認知してから口腔内に取り込む先行期（認知期）、食物を口腔へ取り込んでから咀嚼によって食塊を形成する準備期（咀嚼期）、食塊を搾送運動により咽頭へ送り込む口腔期、食塊を嚥下反射により食道へと送り込む咽頭期、食塊を蠕動運動により食道を通過して胃へと送り込む食道期の5期に分けられる。特に嚥下については、口腔期、咽頭期、食道期を指して嚥下の3期ともいう。「期」はそれぞれの時期に働く組織活動を基準として区別される用語であり、口腔相、咽頭相、食道相などの「相」は食塊の動きを基準として使用される。

→「摂食嚥下障害」、「嚥下障害」参照

646 摂食嚥下障害

せつしょくえんげしょうがい

dysphagia, eating problem

摂食嚥下に関連する器官や神経の機能障害により食べる能力が低下した状態、あるいはそれを表す病名。成人あるいは高齢者の摂食嚥下障害は、獲得された摂食嚥下機能が何らかの原因により失われ、減退することにより生じる。評価・検査方法には、特殊な機器を用いないスクリーニング検査と、機器を用いた精密検査がある。

→「嚥下障害」参照

検査方法→「嚥下造影検査」、「嚥下内視鏡検査」、「改訂水飲みテスト」、「反復唾液嚥下テスト」参照

647 摂食嚥下リハビリテーション

せつしょくえんげー

dysphagia rehabilitation

摂食嚥下障害がある人を元の状態あるいは日常支障のない状態に近づける医療行為。医師、歯科医師、言語聴覚士、理学療法士、作業療法士、栄養士、看護師、歯科衛生士、保健師などの多職種連携が必要になる。実際には、機能障害と能力低下を評価し、それぞれへの介入を行い再評価を繰り返す。

→「嚥下障害」、「摂食嚥下」、「摂食嚥下障害」参照

歯科的対応のための補綴装置→「嚥下補助装置」、「スピーチエイド」、「舌接触補助床」、「軟口蓋挙上装置」参照

648 摂食訓練 せつしょくくんれん**dysphagia training**

摂食嚥下障害に対して行われる経口摂取のための訓練。摂食機能療法で行われる摂食訓練（経口摂取訓練）は、食物を用いる直接訓練と用いない間接訓練に分類される。直接訓練には、複数回嚥下や交互嚥下、姿勢調整や食形態調整など、嚥下法の工夫や代償法が含まれる。間接訓練はいわゆる基礎訓練であり、リラクゼーション、反射の賦活、筋力増強、パターンの再獲得などを目的とした訓練などがある。

649 接点 せつしょくてん**contact point, contact area**

〔同義語〕コンタクトポイント

1) 隣接する歯が互いに点状あるいは小面状に接触している部位。正常歯列においては、上下的には前歯部で歯冠切縁から1/5～1/4、臼歯部では歯冠咬合面から1/3の位置、また頬舌的には前歯部で中央かやや舌側寄り、臼歯部で中央からやや頬側寄りの位置に存在する。

2) 咬合時に対合する歯が互いに点状あ

るいは小面状に接触する部位。

650 切歯路 せっしろ

incisal path

顎運動時に切歯点あるいは切歯部の前方に設定した標点を示す運動経路。特に滑走運動時の運動経路をいう。顎路とともに顎運動の重要な要素であり、種々の顎運動に対応してさまざまな経路をとる。

651 切歯路調節機構

せっしろちょうせつきこう

adjustable anterior guidance

平均値咬合器や調節性咬合器において、切歯指導釘と切歯指導板より構成され、切歯路を再現あるいは設定するための機構。

652 舌接触補助床

ぜつせっしよくほじょしょう

palatal augmentation prosthesis (PAP)

義歯あるいは口蓋床の口蓋部を肥厚させ、舌の口蓋への接触を与え、咀嚼、発音、嚥下などの口腔機能改善を図るための補綴装置。

653 切端咬合 せつたんこうごう

edge-to-edge occlusion

咬頭嵌合位において、上下顎の前歯が切縁どうして接触する咬合様式。

654 切端咬合位 せつたんこうごうい

edge-to-edge occlusal position

前方咬合位の1つで、上下顎中切歯の切縁と切縁とが接触する咬合位。

655 接着 [修復物の]

せつちやく [しゅうふくぶつ]

**bonding [of restoration],
adhesion**

修復物を接着性材料で支台歯に結合すること。従来の、セメントの嵌合効力を応用して結合する合着に対応する語。適

切な接着性材料を用いることによって、象牙質とエナメル質では樹脂含浸層とレジクタグによる微小機械的結合、金属、セラミックス、コンポジットレジンなどでは水素結合、シロキサン結合、分子間引力などの結合力によって接着するといわれている。代表的な接着性材料として接着性セメントがある。

656 接着性セメント→「接着」参照

657 接着ブリッジ せつちやくー

resin-bonded prosthesis

1～2歯程度の少数歯欠損において、支台歯の歯質削除を可能な限り少なくして製作されたフレームワークを、接着性材料によって装着するブリッジ。支台歯の一方が通常のインレーやクラウンの場合には、コンビネーションタイプの接着ブリッジという。

658 舌面形成 ぜつめんけいせい

preparation of lingual wall

前歯の支台歯舌側面を支台歯形態に応じて切削形成すること。

659 セメント固定式 ーこていしき

cement retaining system

歯冠補綴装置のアバットメントへの連結方法の1つ。セメント合着と仮着に区別される。一般的な歯科治療の技法を流用できることから、インプラント治療においても多用されている。歯冠補綴装置の連結が確実な場合は、スクリュー固定式に比較して精度に関しては寛容で、骨縁への応力集中は少ない。反面、撤去を要する場合には、歯冠補綴装置の破壊が不可避となる(セメント合着の場合)。歯冠補綴装置の術者可撤を可能とするため、仮着セメントを用いることもある。

→「スクリュー固定式」参照

660 セラモメタルクラウン→「陶材焼付

冠」参照

661 全運動軸 ぜんうんどうじく

kinematic axis

矢状面内のすべての顎運動に対応する回転軸。河野正司 (1968) は、下顎の矢状面内運動に対応して、その運動範囲の上下的な幅が最小となる帯状の点が下顎頭上にあることを発見し、左右のこの点を結ぶ軸を全運動軸と名付けた。

662 線鉤 せんこう

wrought wire clasp, wire clasp

〔同義語〕ワイヤークラスプ

既製の金属線を屈曲・適合して製作されたクラスプ。

663 前後調節彎曲→「調節彎曲」参照

664 前後的歯牙彎曲→「前後的齒列彎曲」参照

665 前後的齒列彎曲

ぜんごてきしれつわんきょく

anteroposterior curve

〔同義語〕前後的齒牙彎曲

上顎あるいは下顎の前歯切縁と臼歯咬合面を連ねてできる面を矢状面に投影したときに観察される前後的な彎曲。下顎については、特に Spee の彎曲という。

666 前装冠 ぜんそうかん

facing crown

審美性を重視し、鑄造、切削加工などにより製作した金属冠の外観に触れる部分に歯冠色の前装用材料を適用したクラウン。前装部に陶材やレジンが用いられる。

667 栓塞部 せんそくぶ

obturator prosthesis

上下顎の穿孔部あるいは欠損部を栓塞する部分。顎義歯などに設置される。

→「中空型栓塞部」, 「天蓋開放型栓塞部」参照

668 選択削合 せんたくさくごう

selective grinding

自動削合の前段階として咬合の修正、調整を行うもので、咬合紙により印記された調整部位を、ダイヤモンドポイントやカーボランダムポイントなどを用いて、部分的に削除する方法。中心咬合位、偏心咬合位において、均等な咬合接触が得られるように削合する。

669 選択的加圧印象

せんたくてきかあつしんしょう

selective pressure impression

スパーサーの厚さや通路の数、大きさなどを変化させ、顎堤粘膜に加わる圧力をそれぞれの部位の圧負担能力に応じて調整して採得する印象。これにより、義歯の適正な粘膜負担を得ることができるとされている。

670 剪断咬頭→「非機能咬頭」参照

671 全調節性咬合器

ぜんちようせつせいこうごうき

fully adjustable articulator

調節性咬合器のうち、両側の矢状顎路傾斜および非作業側の側方顎路の調節機構に加え、運動量の小さい作業側の側方顎路および側方顎路傾斜角の調節機構をも備えて、それぞれの顎路を生体と同じ曲線によって再現できる咬合器。Denar SE articulator, Stuart articulator, TMJ articulator などがある。

672 前頭面 ぜんとうめん

frontal plane

正中線に平行で矢状面に直行し、生体を前後に分割するすべての平面。頭蓋の前面部がこの面とほぼ平行になることに因んだ名称。

673 セントラルベアリングスクリー

central bearing point, central

bearing screw

口外法ゴシックアーチ描記装置，パントグラフのクラッチ，チューイン法の口腔内記録装置などの中央部に取り付けられ，支柱となるネジ．先頭部が半球状のネジであるため，高径の調節や円滑な顎運動が行える．

674 セントラルベアリングトレーシング central bearing tracing

ゴシックアーチトレーサーなどのセントラルベアリングデバイスを用いて水平描記板上に描かれる図形．

675 セントラルベアリングトレーシングデバイス**central bearing tracing device**

上下顎歯列の間でセントラルポイントの位置を規定する装置 (Gysi, 1910)．一方の歯列に取り付けた描記針と，他方の歯列に取り付けた描記板から構成される．顎間記録，もしくは不適切な咬合接触の修正の際に，咬合力を均一化してセントラルベアリングスクリューがセントラルベアリングプレート上で接触滑走することで，描記板上に下顎運動軌跡を記録するために用いる．

676 セントラルベアリングプレート central bearing plate

セントラルベアリングスクリューが接触，滑走する板．

677 セントリックストップ centric stop

咬頭頂と窩の接触関係により，対向した歯列間の咬合高径が維持されること．

678 全部金属冠 ぜんぶきんぞくかん complete metal crown

〔同義語〕フルメタルクラウン

金合金，金銀パラジウム合金，チタンなどの金属材料を素材とし，铸造あるいは

CAD/CAMにより製作される全部被覆冠．铸造で製作するクラウンは全部铸造冠といわれ，適合性，形態再現性，強度に優れる．

679 全部床義歯 ぜんぶしょうぎし**complete denture, full denture**

〔同義語〕総義歯

上顎または下顎のすべての歯を喪失した症例に対して，これを補綴する目的で適用される有床義歯．義歯に加わる咬合圧の負担様式による分類では，粘膜負担義歯に相当する．基本的に人工歯と義歯床から構成される．

680 全部床義歯補綴学

ぜんぶしょうぎしほつがく

complete denture prosthodontics

〔同義語〕総義歯補綴学

歯科補綴学の一分科で，片顎または上下両顎のすべての歯を喪失した症例に対し，全部床義歯によって修復・整形し，損なわれた口腔と関連組織の形態と機能および外観を回復させるとともに，患者の健康の維持・増進を図るために必要な理論と技術を考究する学問．

681 全部被覆冠 ぜんぶひふくかん**artificial crown, complete crown, full veneer crown, full coverage crown**

歯冠部全体を人工物で被覆した歯冠補綴装置．金属冠，前装冠，ジャケットクラウンなどがある．

682 前方位 [下顎の]

ぜんぼううい [かがくー]

protrusive position [of mandible]

下顎を中心位から前方に移動したときのすべての顎位．

683 前方運動 [下顎の]

ぜんぼううんどう [かがくー]

protrusive movement [of mandible]

下顎の前方への運動。通常、下顎が中心位から前方へ向かって接触滑走することをいう。

684 前方基準点 ぜんぼうきじゅんてん
anterior reference point

2つの後方基準点とともに、水平基準面を設定するための顔面上の点。一般に眼窩下点、鼻翼下縁、鼻下点などが用いられる。

685 前方咬合位 ぜんぼうこうごうい
protrusive occlusal position

咬頭嵌合位から上下顎の歯を接触させた状態で、下顎を前方に滑走運動させたときのすべての咬合位。

686 前方咬合小面
ぜんぼうこうごうしょうめん
occlusal facet of protrusion

Gysiの軸学説および咬合小面学説に従って、フルバランストオクルージョンを付与する目的で人工歯咬合面に形成する咬合小面の1つ。前方および側方の滑走運動で接触する面であり、上下顎前歯の切縁と下顎臼歯の頬舌側咬頭の前方斜面、上顎臼歯の後方斜面に発現する。

687 前方誘導(指導) →「アンテリアガイダンス」参照

そ

688 早期加重 →「早期荷重」参照

689 早期荷重 そうきかじゅう
early loading

(同義語) 早期負荷, 早期加重, アーリーローディング

インプラント体埋入後, 48時間から3か月以内にインプラント体へ機能的な荷

重を加えること。また、その荷重を指すこともある。荷重を加える作業に関しては早期加重という。

690 総義歯 →「全部床義歯」参照

691 総義歯補綴学 →「全部床義歯補綴学」参照

692 早期接触 そうきせつしよく

deflective occlusal contact, occlusal prematurity, premature contact

咬合干渉の1つで、閉口時に、安定した上下顎の咬合接触状態が得られる前に一部の歯だけが咬合接触する状態。

693 早期負荷 →「早期荷重」参照

694 装具 そうぐ

orthotic device

けがや病気による四肢・体幹の機能障害の軽減を目的として使用する器具。疼痛、損傷、変形を生じる力や治癒の妨げになる応力を防御したり、筋力低下や麻痺、痙性がある筋を補助したり、変形を矯正するために用いる。けがや病気の治療を目的とする治療用装具と、後遺症により失われた機能を代償する更生用装具では、取り扱う制度が異なる。

695 双子鉤 そうしこう

double Akers clasp

レスト付き二腕鉤を鉤体部で背中合わせに結合し、2本の支台歯に設置する形態のクラスプ。各々2個の鉤腕が辺縁隆線から咬合面側鼓形空隙にかけて設置されることからエンブレジャークラスプ(embrasure clasp)とも呼ばれる。維持力の増強と支台歯の二次固定効果があり、直接および間接支台装置として用いられる。

696 相補下顎位 そうほかがくい

complementary mandibular

position

下顎を基準とした場合の顎位。数学的には互いに独立な6個のパラメータで完全に定義できる。下顎の歯のワックスアップなどにおいて、咬頭嵌合位での咬合接触の付与に続いて偏心位での接触状態や咬合面間の離開量を適切に与えようとするとき、偏心位で上顎の各咬頭や溝がどの位置にあるかを立体的に考慮しなければならない。このように下顎に対する上顎の立体的位置関係を問題にするときに相補下顎位の概念が必要となる。

697 相補下顎運動

そうほかがかうんどう

complementary mandibular movement

下顎を基準としてみた場合の顎運動。下顎に描記板を設置して描記したゴシックアーチやコンダイラー型咬合器の動き、下顎咬合面に印記したFGP記録などは、下顎に対して上顎がどのように運動するかという情報である。顎運動は6自由度運動であるため、下顎運動と相補下顎運動は運動方向が逆になるだけという単純なものではない。例えば限界運動野が最も収束する点は、下顎運動では下顎頭の中央部付近であるのに対し、相補下顎運動では関節隆起中央付近となる。

698 即時加重→「即時荷重」参照**699 即時荷重** そくじかじゅう**immediate loading**

(同義語) 即時負荷, 即時加重, イミディエートローディング

インプラント体埋入後48時間以内に、インプラント体へ機能的もしくは非機能的な荷重を加えること。また、その荷重を指すこともある。即時荷重を加えられたインプラント体がオッセオインテグ

レーションを獲得するためには、インプラント体の微小動揺 (micromovement) を150 μ m以下に抑えることが必要とされている。荷重を加える作業に関しては即時加重という。

700 即時義歯 そくじざし**immediate denture**

抜歯前に予定部位を調整した模型上で製作し、抜歯後直ちに装着される義歯。

701 即時暫間修復

そくじざんかんしゅうふく

immediate provisional restoration

(同義語) 即時暫間補綴

インプラント体を埋入直後、あるいは48時間以内に、インプラント体を支台として暫間上部構造を装着する術式。最終上部構造を支持させるインプラント体に即時暫間修復を行う術式が一般的であるが、即時暫間修復専用のインプラント体を別に埋入し、治癒期間のみ暫間修復を行う術式も行われている。

702 即時暫間補綴→「即時暫間修復」参照**703 即時負荷**→「即時荷重」参照**704 測色法** [歯冠色の]

そくしょくほう [しかんしょく一]

method of color measurement [of tooth color]

歯冠色色調選択の方法の1つ。シェードガイドや色見本を用いて術者の目により判断する視感比色法と、光電色彩計(刺激値直読方式)や分光測色計などを用いる器械測色法とがある。

705 側方位 [下顎の]

そくほうい [かがく一]

lateral position [of mandible]

下顎を中心位から右側方あるいは左側方に移動したときのすべての顎位。

706 側方運動【下顎の】

そくほううんどう [かがくー]

**lateral mandibular movement,
mandibular lateral translation**

下顎の側方への平行運動。通常、咬頭嵌合位あるいは下顎後退接触位から側方へ接触滑走することをいう。

707 側方顆路 そくほうかる**lateral condylar path**

下顎側方運動時の顎関節窩内での作業側、非作業側の下顎頭の運動経路。

708 側方顆路角 そくほうかるかく**angle of lateral condylar path**

〔同義語〕 Bennett 角

下顎側方運動時に水平面投影した非作業側下顎頭の運動経路が正中矢状面となす角度。

709 側貌記録 そくぼうきろく**profile, profile record**

額、鼻背、鼻尖、上下口唇、オトガイ部などから構成される側貌の外形についての記録。以前は有歯顎時にヒューズ線や紙型などで製作しておき、無歯顎時に咬合高径の参考にしたが、近年はデジタルカメラによる撮像を用いる。

710 側方咬合位 そくほうこうごうい**lateral occlusal position**

咬頭嵌合位から上下顎の歯を接触させた状態で、下顎を右側あるいは左側へ滑走運動させたときのすべての咬合位。

711 側方咬合彎曲**lateral occlusal curve**

→「Wilson の彎曲」参照

712 側方歯牙彎曲→「Wilson の彎曲」参照**713 側方齒列彎曲**→「Wilson の彎曲」参照**714 側方切歯路 そくほうせっしる****lateral incisal path**

側方滑走運動時の切歯点を示す運動経路。これを水平面に投影して得られた図形はゴシックアーチと呼ばれる。

715 側方切歯路角

そくほうせっしるかく

angle of lateral incisal path

側方滑走運動時の切歯点あるいは切歯部前方に設けた点を示す側方切歯路を水平面投影したときに、左側と右側の運動経路がなす角度。特に水平面に描記した後方側方滑走運動路がなす角度はゴシックアーチの展開角として知られる。

716 側方調節彎曲→「調節彎曲」参照**717 側方彎曲基準板**

そくほうわんきょくきじゅんばん

**orientation plate for
compensating curve**

半径4インチの球面をもつ彎曲板。咬合平面の分析や、補綴処置時に咬合彎曲を形成、付与するために用いる。これは、Monson 球面説が顎運動のガイドとしては否定されながらも、形態学的には有歯顎の咬合彎曲を基準として考えていることによる。

718 咀嚼 そしゃく**mastication**

食物を摂取して粉碎し、唾液と混和し、食塊を形成するための嚥下と消化の一過程。

719 咀嚼圧 そしゃくあつ**masticatory pressure**

咀嚼時に、天然歯あるいは人工歯の咬合面部に発現する単位面積あたりの力。

720 咀嚼運動 そしゃくうんどう**masticatory movements**

咀嚼時の顎運動。食物摂取に際して、

嚙下の前に食物をかみ切る(咬断), かみくだく(粉碎), すりつぶす(白磨)などの動作が含まれる。

721 咀嚼運動路 そしゃくうんどうろ

path of masticatory movement

咀嚼時の顎運動経路。食品の性状、形状、硬さによって左右されるが、同一人における同一食品の咀嚼時にはほぼ一定した経路を示す。これは、開口相、閉口相、咬合相からなり、切歯点がまず作業側へやや偏位し、直線的な開口(第1相)に続いてさらに外方へ偏位し(第2相)、そこから咬頭嵌合位に向かって斜めに閉口していく経路(第3相)をとり、結果としてその経路は作業側に偏った不整紡錘型となる。なお、直接、咬頭嵌合位に戻るのではなく、側方位で咬合接触が生じ、接触滑走(第4相)が起こるとの説や、閉口後に咬頭嵌合位からさらに反対側への接触滑走(第5相)が生ずるとの説もある。

722 咀嚼機能検査

そしゃくきのうけんさ

test for chewing ability

咀嚼能力を測定して判定する機能検査。咀嚼機能を直接判定する直接的検査法と、咀嚼に関与する他の要素により間接的に測定する方法に大別される。

直接的検査法には、主観的評価方法と客観的評価方法とがある。主観的評価方法は、咀嚼能率判定表により評価する。客観的評価方法は、咀嚼試料の粉碎の状態を客観的数値として表す方法で、ピーナッツや米のほか、色変わりチューインガム、パラフィンワックスや検査用グミゼリーなどを用いる。特に検査用グミゼリーを用いる方法は、グミゼリー20秒間咀嚼時のグルコースの溶出量を血糖測定

器で測定する方法で、短時間で簡便にチェアサイドで咀嚼機能の評価が行える。

間接的検査法は、顎運動、筋活動、咬合接触状態、そして咬合力などにより咀嚼能力を評価、判定する。

723 咀嚼効率→「咀嚼能率」参照

724 咀嚼サイクル

chewing cycle

→「咀嚼周期」参照

725 咀嚼周期 そしゃくしゅうき

masticating cycle

〔同義語〕咀嚼サイクル

開口相、閉口相、咬合相の3相からなる一連の咀嚼運動。

726 咀嚼障害 そしゃくしょうがい

dysmasesis, masticatory disturbance

歯数の不足、歯根膜疾患、不正咬合、齲蝕、歯肉炎、歯周炎、口内炎、咀嚼習慣、舌の病変・実質欠損・運動障害、咀嚼筋・顎関節機能異常などにより、咀嚼の機能が減退した状態、あるいはそれを表す病名。不良補綴装置もその原因になりうる。

727 咀嚼側 そしゃくそく

masticatory side

上下顎歯列間に食物を挿入して咀嚼する側。咀嚼側は食物を咀嚼する側として規定される。

728 咀嚼能率 そしゃくのうりつ

masticatory efficiency

〔同義語〕咀嚼効率

咀嚼能力を判定する指標。物理的、生化学的に基準とされる食物粉碎度を得るために必要な能力。

729 咀嚼能率測定

そしゃくのうりつそくてい

masticatory performance,

determination of masticatory efficiency

咀嚼能率を求めるための測定。規格化された咀嚼試験条件で得られる食物粉砕度の測定。

730 咀嚼能力 そしゃくのうりよく

ability of mastication

顎口腔系が食物を切断・破砕・粉碎し、唾液との混和を行いながら食塊を形成して、嚥下動作を開始するまでの一連の能力。この能力を測定あるいは検査し、評価することを「咀嚼機能検査」、「咀嚼能力検査」という。咀嚼機能・咀嚼能力の検査法としては、咀嚼試料を用いて評価する直接的検査法と、他の要素から判断する間接的検査法がある。前者には、食品の粉砕度、混合状態、内容物の溶出量や、咀嚼能率判定表（アンケート調査）によって判断する方法がある。後者には、咬合力、咬合接触面積の測定、咀嚼時の咀嚼筋活動や顎運動の分析などの方法がある。

731 咀嚼リズム そしゃくー

masticatory rhythm

咀嚼運動の基本的な律動。動物実験の結果では、脳幹網様体に存在するリズムジェネレータで形成されるとされる。

732 咀嚼力 そしゃくりよく

masticatory force

咀嚼時に、顎口腔系器官・組織の働きにより咬合面間に発現する力。

733 ソフトブローイング→「ブローイングテスト」参照

た

734 対咬関係→「対合関係」参照

735 対向関係【顎堤の】

たいこうかんけい [がくていー]

ridge relationship, ridge relation

上下顎の顎堤の位置関係。前頭面での対向関係と矢状面での対向関係とがあり、臼歯部人工歯の頬舌の排列位置や最後方人工臼歯の位置決定などに利用される。

736 対合関係 たいごうかんけい

interocclusal relationship

〔同義語〕対咬関係

上下顎の歯のかみ合った状態。正常な天然歯列の咬頭嵌合位では、上顎の歯が下顎の歯を被蓋し、臼歯の機能咬頭は相対する歯の咬合面にある窩または辺縁隆線にかみ込み、1歯対2歯で緊密に咬合接触している。

737 対抗作用→「拮抗作用」参照

738 対合歯 たいごうし

antagonist, dental antagonist

上下顎の歯が咬合したとき、その歯の咬合の対象となる歯。

739 ダイコム

digital imaging and communications in medicine (DICOM)

CT, MRI, 内視鏡, 超音波などの医用画像診断装置や医療情報システムなどの間でデジタル画像データや関連する診療データを通信・保存する方法を定めた国際標準規格。

740 待時加重→「待時荷重」参照

741 待時荷重 たいじかじゅう

delayed loading

〔同義語〕遅延荷重, 待時負荷, 遅延負荷, 待時加重

インプラント体を顎骨内に埋入してから、下顎で3か月間以上、上顎で6か月間以上の免荷期間 (unloaded period) を置いた後に、上部構造を装着して咬合負荷を加えること。荷重を加える作業に関

しては待時加重という。

742 待時負荷→「待時荷重」参照

743 ダイナミック印象 ーいんしょう

dynamic impression

旧義歯あるいは最終義歯をトレーの代わりとして、長時間流動性が持続する印象材を用いて患者の日常生活における機能時の義歯床下粘膜の動態を採得する印象。

744 ダイナミックナビゲーション

dynamic navigation

インプラント体埋入手術における動的誘導システム。術野の上方に設置されたカメラが、顎骨およびハンドピースに装着された標識を捕捉することによって、ドリルの先端が顎骨内のどの位置にあるのかをリアルタイムでモニター上に描出し、可視化するシステム。

745 大連結子 だいれんけつし

major connector

連結子の1つで、離れた位置にある義歯床と義歯床、義歯床と間接支台装置などを連結する部分。上顎に用いられるものとして、パラタルバー、パラタルストラップおよびパラタルプレートがあり、下顎には、リングルバー、リングルプレートおよびリングルエプロンがある。

746 ダウエルピン

dowel pin

歯型可撤式模型、分割復位式模型において歯型の着脱を容易にし、かつ正確に復位させるために歯型の根部に応用する既製のピン。

747 唾液検査 だえきけんさ

saliva test

唾液を試料として用いて行う検査。歯科領域では齶蝕原性菌、歯周病関連菌の検査をはじめ、唾液の分泌量（口腔乾燥

症）や緩衝能および粘性と義歯床の維持力などの検査、各種ホルモンの測定による免疫検査が行われている。

748 タッピング

tapping

咬合面間に食物のない状態で上下顎の歯（人工歯）を反復的にカチカチとかみ合わせること。ブラキシズムや寒冷時にも観察される。臨床的には、咬合、顎関節、筋などの検査、診断に利用される。

749 タッピング運動 ーうんどう

tapping movement

- 1) 開口量の少ない反復的な習慣性開口運動。臨床的には、咬頭嵌合位の歯の接触部位や早期接触部位の検出、顎運動経路の検査、診断などに利用される。
- 2) ゴシックアーチ描記板上に記録される複数の点（タッピングポイント）を記録するための下顎反復小開閉口運動。この運動は歯や顎関節に依存しない運動で、水平的顎間関係の決定や下顎位の診断に用いられる。

750 単一印象 たんいついんしょう

single impression

1種類の印象材を用いて採得する印象。→「連合印象」参照

751 単一式模型→「歯型固着式模型」参照

752 短縮歯列 たんしゆくしれつ

shortened dental arch

広義では上下顎第二大臼歯まで（28歯）の完全歯列から1つでも遊離端欠損している歯列をいい、狭義では上下顎第二小臼歯以下（20歯以下）の歯列のこと。

Käyser（1981）が提唱した、少なくとも4つの咬合ユニット（occlusal unit：OU＝小臼歯の上下ペアが1OU、大臼歯の上下ペアを2OUとして計算）を有し

た歯列は、臨床的に十分適応能力を有しているという shortened dental arch (SDA) concept に基づいており、Käyser の定義では、少なくとも片側の最後方咬合ユニットが小臼歯のペアとなる歯列としている。

基本的に短縮歯列は遊離端欠損歯列であり、中間欠損歯列とは区別される。

753 単純鉤 たんじゅんこう

single-arm clasp

支台歯の頬・唇側面に設置された1つの鉤腕からなる環状鉤。

754 単独歯型→「単独歯型式模型」参照

755 単独歯型式模型

たんどくしけいしきもけい

single die

〔同義語〕単独歯型

作業用模型の1つ。単独の歯型のみを用いる方法で、クラウンやブリッジを製作するための作業用模型としては利用価値が少ない。インレー、ピンレーなどのように、歯冠の一部形態を修復する場合で、特に咬合関係、接触関係が必要でない場合に利用可能な簡易な方法。

ち

756 チェックバイト

interocclusal record, check bite

- 1) 対合する歯列または顎の位置的相互関係の記録
- 2) 咬合器の顎路調節を目的に採得する、下顎の前方位あるいは側方位における顎間記録。前者を前方チェックバイト (protrusive check bite)、後者を側方チェックバイト (lateral check bite) という。

757 チェックバイト法 一ほう

check bite technique, check bite

method

顎路の測定法の1つで、生体の顎路の出発点とその任意の一点とを結んだ直線が各基準平面となす角度を計測する方法。上下顎歯の咬合面間や咬合床の咬合堤間で、ワックス、石膏、酸化亜鉛ユージノールペーストなどの記録材を硬化させ、上下顎関係を記録する。Christensen (1905) により開発されたといわれており、半調節性咬合器の顎路調節に用いられる。

758 遅延荷重→「待時荷重」参照

759 遅延負荷→「待時荷重」参照

760 知覚異常→「感覚障害」参照

761 チャンネルショルダーピン

channel shoulder pin (C. S. P.)

自家製アタッチメントの1つで、パトリックスをマトリックスへ誘導するチャンネル (channel)、マトリックスの壁に直角で槌状の辺縁をもつ支持要素としてのショルダー (shoulder)、およびマトリックスからパトリックスを撤去するときの摩擦抵抗要素としてのピン (pin) から構成される。Steiger (1959) により紹介された。

762 チューイン法 一ほう

chew-in technique

顎運動の口内記録法の1つで、上下顎のいずれか一方に設置したレジンなどの記録媒体を、対合歯または対顎に設置した描記針によって彫り込んで、下顎を自由に運動させたときの三次元的な顎運動経路を記録する方法。この記録をもとにTMJ咬合器の関節部に顎運動の誘導面を形成する。Luce (1911) により開発されたものが原法である。

763 中間義歯 ちゅうかんばんし

bounded saddle denture, tooth

borne denture

残存歯と欠損部の位置関係により分類された部分床義歯で、欠損部の近遠心の両側に残存歯が存在する欠損様式に適用されるもの。遊離端義歯に対する用語であり、片側性に欠損部が存在し、かつ欠損部の近遠心側に残存歯が存在する欠損様式に適用される片側性中間義歯 (unilateral bounded saddle denture) と、両側にわたって欠損部が存在し、かつ欠損部の近遠心両側に残存歯が存在する欠損様式に適用される両側性中間義歯 (bilateral bounded saddle denture) とに分類される。

764 中間欠損 ちゅうかんけつそん**intermediary defect**

歯列の部分欠損症例において、欠損部の近遠心側のいずれにも歯が存在するもの。

765 中間構造 (体) [インプラントの]

ちゅうかんこうぞう (たい)

mesostructure [of implant prosthesis]

インプラント体やアバットメントとその上部構造 (クラウン、義歯) を連結する構成要素。インプラント体上に中間構造体を固定し、その中間構造体にセメント、水平スクリュー、アタッチメントなどで固定性あるいは可撤性上部構造が支持または維持される。中間構造体によりインプラント体埋入方向の改善ならびに咬合面からのアクセスホールの排除が達成できるため、歯冠や咬合面形態の製作自由度を高くすることができ、審美的、機能的に有利な場合がある。広義ではアバットメントともとらえることができる。

→「下部構造 (体)」、「上部構造 (体)」

参照

766 中空型栓塞部

ちゅうくうがたせんそくぶ

hollow obturator

顎義歯の軽量化のために、中空にした栓塞部。

→「栓塞部」、「天蓋開放型栓塞部」参照

767 中心位 ちゅうしんい**centric relation**

歯の接触とは無関係で、下顎頭が関節結節の後方斜面と対向し、関節窩内の前上方の位置にあるときの上下顎の位置的關係。この位置では、下顎の運動は純粋な回転運動を営む。この生理的な上下顎の位置から、患者は垂直方向、側方または前方運動を自由に行うことができる。臨床的に有用で、再現性の高い基準的な位置である (GPT-9)。

※中心位の定義は、時代を追うごとに変化してきたため、GPT-8では、この定義を単一化することが難しく、7つの定義を併用するという形をとっていた。GPT-9では、7つの定義の併記をやめ、中心位の臨床応用に主眼を置き単一の定義としている。特筆すべきは、関節円板に対する記載がなくなっていることである。

768 中心咬合位 ちゅうしんこうごうい**centric occlusion**

下顎が中心位で咬合したときの対向する歯列の咬合位。これは、咬頭嵌合位と一致する場合もある。前項のごとく、中心位の定義が不明確のため、本項の意味も多様となる。

769 鑄造鉤 ちゅうぞうこう**cast clasp**

鑄造法により製作されたクラスプ。

770 鑄造床 ちゅうぞうしょう**cast plate**

金属床の1つで、ロストワックス法によって製作される義歯床の金属部分。

771 鑄造バー ちゅうぞうー**cast bar**

鑄造法により製作されたバー。

772 チューブ陶歯 ーとうし**tube teeth**

人工歯の基底面から歯冠方向へ垂直に貫通する維持孔を有する陶歯。維持孔へ嵌合するように製作したピンに合着することで金属床義歯やブリッジの人工歯として使用したが、近年は使用されていない。

773 調音検査 → 「構音検査」参照**774** 超高齢社会 ちょうこうれいしゃかい**super-aged society**

高齢化率（65歳以上の人口が総人口に占める割合）が21%以上の社会。

→ 「高齢化社会」, 「高齢社会」参照

775 聴診法 ちょうしんぽう**auscultation, stethoscopy**

生体の各部分で産生される音を聴診する検査。補綴領域では、顎関節症の関節雑音を聴診したり、咬合接触するときの咬合音を骨伝導音として聴診することによって早期接触などの咬合異常を診断する方法もあり、骨伝導音を電氣的に分析する装置が開発され臨床に用いられたこともある。摂食嚥下リハビリテーションの領域では嚥下障害の判定のために嚥下時に頸部で産生される音を聴診する検査が行われており、嚥下障害のスクリーニング法として有効とされている。

→ 「咬合音検査」参照

776 調節性咬合器

ちょうせつせいこうごうき

adjustable articulator

解剖学的咬合器のうち、顎運動を再現する要素としての顎路および切歯路の再現機構を備えた咬合器。矢状面内と水平面内の特定の範囲内で調節ができる。半調節性咬合器と全調節性咬合器とに分類される。

777 調節彎曲 ちょうせつわんきよく**compensation curve**

全部床義歯の臼歯部人工歯排列において、Christensen現象の発現を補償するとともに、偏心位における咬合接触により咬合平衡を保持する目的で人工歯列に付与する咬合彎曲。矢状面における前後調節彎曲と、前頭面における側方調節彎曲とがある。

778 蝶番運動 ちょうばんうんどう**hinge movement**

左右の下顎頭が下顎窩内で滑走運動を伴わないで、純粋な回転のみを行う運動。一般的に下顎が後退し、開口量が0~25mmの範囲で開閉口運動を行うときに観察される。

779 蝶番咬合器 ちょうばんこうごうき**hinge articulator**

〔同義語〕平線咬合器

上顎フレームが単純な蝶番によって連結され、開閉運動のみを行える咬合器。咬頭嵌合位の再現だけが可能である。文献上に現われる最初の咬合器（Gariot咬合器；1805）として知られる。

780 蝶番軸 ちょうばんじく**hinge axis, transverse horizontal axis**

左右側の下顎頭が滑走運動を伴わないで純粋に回転したとき、左右の下顎頭の回転中心を線で結んだ軸。

781 蝶番点 ちょうばんてん**hinge axis point**

下顎に存在する蝶番軸を左右の皮膚上に示した点、頭蓋の水平基準面を設定するために、前方基準点とともに用いられる後方基準点。咬合器への模型および顎運動をトランスファーする際に用いられる。

782 直接維持装置→「直接支台装置」参照

783 直接支台装置

ちよくせつしだいそうち

direct retainer

〔同義語〕直接維持装置

部分床義歯の支台装置で、欠損部に隣接する歯に設定されるもの。

784 治療用義歯 ちりょうようぎし**treatment denture**

最終義歯の製作に先立ち、咬合および床下粘膜治療などを目的として装着される暫間的な義歯。

→「暫間義歯」参照

つ

785 追跡管理→「トレーサビリティ」参照

786 ツインステージ咬合器

—こうごうき

twin-stage articulator

2種類の歯列模型を用いたり2組の調節条件を用いて、ツインステージ(2段階)方式で操作することにより、特定の理念に基づいた咬合様式を具現化することを目的とした咬合器。前者には Hanau Twin-Stage Occluder および Verticater (Jelenko) などがあり、一般に FGP テクニックに利用される。また、後者には

Twin Hoby articulator (保母須弥也) などがある。

て

787 低位咬合 ていこうごう**infraocclusion**

- 1) 一部の歯あるいは人工歯の咬合面が正常な咬合平面まで達しておらず、咬合接触がない不正咬合。
- 2) 咬頭嵌合位が適正な咬合高径よりも低い位置にある咬合状態。

788 T字クラスプ→「Elbrecht クラスプ」参照

789 ディギャッシング**degassing**

陶材焼付冠の製作の際、陶材を築盛する前に金属表面の酸化膜形成、異物除去、鑄造歪みの解放、水素ガスの除去などの目的で行う熱処理。この酸化膜を金属表面に形成することで、陶材と化学的に結合し、強固な陶材焼付強度を得ることができる。

790 ディスクレーション→「白歯離開咬合」参照

791 ティッシュコンディショナー**tissue conditioner**

義歯床粘膜面に使用され、異常な形態、性状を呈する義歯床下粘膜を健康な状態に回復させるために用いられるアクリル系の材料。この材料を用いて、有床義歯製作時の前処置として、ティッシュコンディショニング(粘膜調整)を行う。この材料は、暫間的なリライン材として用いられることもある。

792 ティッシュストップ**tissue stop**

鉤脚やフレームワークの維持格子など

の後方部分に設置され、模型粘膜面と接する小突起。製作した支台装置やフレームワークを模型に復位させることを容易にし、レジン填入時にそれらの位置の移動を防止する。

793 ティナージョイント

tinner's joint

箔や板金の端を折り曲げ、嵌合させて作る接合法。錫 (Tin) 細工の成型法として錫職人 (tinner) が用いる技法であったことからこの名称が付いた。歯科ではポーセレンジャケットクラウン製作時のマトリックス箔の接合などに用いられる。

794 Davis クラウン ていびすー

Davis crown

Davis (1911) が提案したポストクラウン。基底部に維持孔を有する Davis 陶歯をポストにセメント合着して製作する。原法では陶歯が歯の根面と接する構造であったが、後に鋳造法が採用されて適合が向上した。歯冠部のほとんどの部分が陶材のため審美性に優れる。

795 テーパー

taper

〔同義語〕軸面傾斜角

対向する軸面のなす角度。歯冠補綴装置の基本的な保持力はテーパーが平行に近いほど大きい。臨床的には形成操作や適合性およびセメント合着などの観点から、長軸に対して 2° ～ 5° が推奨されている。

796 適合検査材 → 「プレッシャー・インディケイティング・ペースト」参照

797 適合試験 てきごうしけん

fitness test

静的あるいは動的な状態下での、補綴装置と口腔内諸組織との適合状態を検査すること。適合状態は、通常、白色のシ

リコーンゴムやペーストなどのプレッシャー・インディケイティング・ペーストの被膜厚さにより判断される。

798 適合試験材 → 「プレッシャー・インディケイティング・ペースト」参照

799 デジタルインプレッション → 「光学印象採得」参照

800 デジタルデンチャー

digital denture, digitally fabricated denture

〔同義語〕CAD/CAM デンチャー

従来の製作法に代わりコンピューター支援により設計、製作された有床義歯。

801 Duchange の指数

でゅしゃんじゅーしすう

Duchange's index

ブリッジの設計において、抵抗性の良否の判定を目的として Duchange (1948) により提唱された係数。各歯の歯根表面積をもとに、各歯の咬合圧に対する支台歯の抵抗 (R: resistance) とポンティックの疲労 (F: fatigue) を係数化したものであり、これを用いてブリッジの咬合圧に対する抵抗性を算出する。なお、延長ブリッジでは補足疲労 (FS: fatigue supplement) を考慮している。

→ 「補足疲労」参照

802 テレスコープクラウン

telescopic crown

外冠と内冠とに分離できる構造をもつ二重の金属冠。両者の緊密な適合から生じる摩擦力あるいはくさび効果を利用して、部分床義歯や可撤性ブリッジなどの支台装置として応用される。その種類には内冠軸面が平行なパラレルテレスコープクラウンまたはシリンダーテレスコープクラウンと、咬合面に向かって円錐形に一定の傾斜角をもつコーヌステレス

コーブクラウンとがある。

803 天蓋開放型栓塞部

てんがいがいぼうがたせんそくぶ

buccal flange obturator

顎義歯の清掃性向上などのために、中空型栓塞部の天蓋部分を開放した構造の栓塞部。

→「栓塞部」, 「中空型栓塞部」参照

804 デンタルインプラント→「口腔インプラント」参照

805 Tench の間隙 てんちーかんげき

Tench's space

全部床義歯の臼歯部人工歯排列法として上顎法を用いる場合に、上顎の犬歯と第一小臼歯の間に設ける 1.0 mm 前後の間隙。咬合構成時の 1 歯対 2 歯の関係の排列、上下顎顎堤の矢状対向関係による調節彎曲などの調整を容易にする目的で作られる。Tench (1925) により提唱された。

806 Tench のコア てんちーこあ

Tench's core

〔同義語〕 Tench の歯型

重合後の義歯を正しく咬合器に再装着するために、埋没、重合前に採得される上顎人工歯列切縁・咬合面部の石膏による陰型。

807 Tench の歯型→「Tench のコア」参照

808 デンチャースペース

denture space

天然歯の喪失によって口腔内に生じる、上下顎の顎堤間の義歯が占める空間。上部は上顎顎堤、硬口蓋、軟口蓋、下部は下顎顎堤、口底、内側部は舌、外側部は口唇および頬部によって取り囲まれている。

809 デンチャーブランク

denture plaque

義歯表面に付着するプラーク。天然歯に付着するプラークに比べて、真菌、特に *Candida albicans* の占める割合が大きい場合がある。口臭、残存歯の齲蝕、歯周病、義歯性口内炎、誤嚥性肺炎などの原因となる。したがって、これらの疾病予防、健康の保持増進のためには、義歯用ブラシや超音波洗浄による機械的清掃に加えて、義歯洗浄剤による化学的清掃も大切である。

810 デンチャーマーキング

denture marking

〔同義語〕義歯刻印

有床義歯に患者の氏名などの情報を付与する操作。施設などにおける義歯の紛失などの防止および身元確認などの法医学的見地より有用である。情報を記入したプレートなどを義歯床内に埋め込む方法などがある。

811 転覆試験 てんぶくしけん

tilting test

咬合採得時やろう義歯試適時に咬頭嵌合位で咬合せた状態で、上下顎の咬合堤やろう義歯人工歯咬合面の間にスパチュラなどを挿入し床の動揺程度を観察して、適正な顎間記録を確認する方法。

812 テンプレート

template

- 1) 補綴装置製作時に、咬合平面や咬合彎曲を設定するための基準となる平面板、あるいは曲面板。
- 2) 即時義歯装着時に、抜歯後の顎堤形態と製作されている義歯の粘膜面形態との適合性を確認するために用いられる透明なプレート。欠損部を予測して形成した作業用模型上で製作し、抜歯後にこれ

を用いて加圧部を整形する。

813 テンポラリーアバットメント
temporary abutment

〔同義語〕 テンポラリーシリンダー
 インプラントの術者可撤式暫間補綴装置製作に用いられるパーツ。インプラント体もしくはアバットメントに連結し、その周囲に常温重合レジンを用いて歯冠形態を回復する。

814 テンポラリークラウン→「プロビ
 ジョナルクラウン」参照

815 テンポラリーシリンダー→「テンポ
 ラリーアバットメント」参照

と

816 瞳孔線 どうこうせん
pupillary line

顔面を正面からみて、遠方を直視した時の左右瞳孔の midpoint を結んだ直線。咬合平面と平行であるため、義歯製作時の仮想咬合平面をこれと平行に設定する。

817 等高点 どうこうてん
isometric point

〔同義語〕 トライポッドマーク

サバイヤー上であらかじめ設定した模型の三次元的な位置関係を再現するために、アナライジングロッドに垂直な一平面内で模型に記入された記号や線。通常、3 標点を描記する。

818 陶材築盛法 どうざいちくせいほう
porcelain build up

陶材粉末と蒸留水を細い筆やスパチュラを用いてガラス練板上で混和し、所定の形態に築盛する方法。コンデンスを加え、振動により過剰の水分を表面に浮き上がらせ、陶材粉末粒子を緊密に密着させ陶材を固めながら行う。コンデンス法

には、彫刻刀の柄のギザギザで軽い振動を与える振動法、乾燥した陶材粉末をかけ、水を吸収してから、この粉末を筆で払い落とすブラッシュ法、築盛が終わったクラウンにさらに水を加え、ガーゼまたはティッシュペーパーで吸水する沈殿法、陶材の表面をスパチュラや彫刻刀の刃で圧迫しながら滑沢にするスパチュラ法、陶材表面を筆でなで表面に浮き上がる水分を吸水して粒子を圧縮するウィップ法などがある。

819 陶材焼付冠 どうざいやきつけかん

**metal-ceramic restoration,
 porcelain-fused-to-metal
 restoration**

〔同義語〕 陶材焼付金属冠、セラモメタルクラウン

鑄造、金属箔あるいは CAD/CAM により製作したメタルコーピングに陶材を焼き付けた前装冠。単独歯冠補綴あるいはブリッジの支台装置として用いられる。

820 陶材焼付金属冠→「陶材焼付冠」参照

821 陶歯 どうし

porcelain teeth

陶材で作られた人工歯。長所としては、色調・透明度とも天然歯に類似していること、耐摩耗性が高く長期間使用しても摩耗や咬耗がほとんど起こらないこと、色調が変わらないこと、などがあげられる。欠点としては、削合や調整がやや困難であること、削合量が多くなると破折しやすくなること、床用材料との結合には工夫を要すること、咀嚼時に咬合音を発すること、などがある。

822 陶歯前装鑄造冠

どうしぜんそうちゅうそうかん
porcelain-faced cast crown

審美性の改善を目的として鑄造冠の唇・頬側部にシェル状の陶歯をセメント合着したクラウン。陶材焼付冠の普及によりほとんど使用されなくなった。

823 疼痛誘発テスト

とうつうゆうはつー

symptom provoking test

一般的には咬頭干渉部位やブラキシズムによってできたと思われる咬耗面などでかみしめを行わせ、疼痛誘発の有無を調べる検査。割り箸などを片側後方臼歯でかませ、対側または同側の顎関節に疼痛を誘発するか、あるいは咬頭嵌合位でのかみしめ時に比べて軽減するかを調べる検査も含まれる。

824 動的嚥下障害→「機能性嚥下障害」

参照

825 頭部後屈法→「頭部後傾法」参照

826 頭部後傾法 とうぶこうけいほう

head tilting method for taking maxillomandibular registration

〔同義語〕頭部後屈法

すでに垂直的顎間関係の設定された上下顎咬合床を装着させた状態で、頭部を後方に軽く傾けて下顎の前方偏位を制御しながら閉口させ、そのときの接触位を人工歯の咬頭嵌合位とする咬合採得法の1つ。

827 DUMLの法則 どうむるーほうそく

DUML rule

前方滑走運動時における干渉の削除部位を示す法則。上顎臼歯では咬頭の遠心斜面 (Distal of the Upper) を、下顎臼歯では咬頭の近心斜面 (Mesial of the Lower) を削除する。

828 動揺度検査【歯の】

どうようどけんさ【はー】

tooth mobility test

歯の動揺度を測定し、歯周組織の粘弾性的性質の変化や形態的变化を類推し、歯の骨植状態を診断する検査。ピンセットや手指で歯の動揺の程度を触知する方法、歪み計により定量的な変位量を測定する方法、強制荷重を与えて加速度計による周波数分析や音圧などから測定する方法がある。補綴装置の支台歯としての適否の指標に用いられる。

829 トップダウントリートメント

top down treatment

〔同義語〕補綴主導型インプラント治療

インプラント治療において、最初に目標とする最終上部構造の形態（最終ゴール）を定め、想定した最終上部構造が得られるように、インプラント体の埋入位置や方向ならびに埋入本数を決めてから、インプラント体埋入手術や骨造成術などを行い、インプラント補綴に移行していく治療方法。理想的な上部構造を得るための治療計画を立てた後に、インプラント治療を遂行していくことから、補綴主導型インプラント治療（restoration driven implant treatment）ともいう。

830 トライポッドマーク→「等高点」参照

831 ドライマウス→「口腔乾燥症」参照

832 トランスファーインデックス

transfer index→「トランスファーコーピング」参照

833 トランスファーキャップ

transfer cap→「トランスファーコーピング」参照

834 トランスファーコーピング

transfer coping

〔同義語〕トランスファーインデックス、トランスファージグ、トランスファーキャップ

1) 歯列印象内に歯型を正確に位置づけることを目的として用いられる、常温重合レジンあるいは金属で製作されるキャップ。

2) インプラントのオープントレー用の印象用コーピングのうち、印象材内に取り込まれるボディ部。

3) アバットメントをインプラント体に正確な位置関係で接合するために用いるジグ。常温重合レジンあるいは金属で製作する。アバットメントポジショニングジグ (abutment positioning jig) ともいう。

→「ピックアップ印象」参照

835 トランスファージグ

transfer jig → 「トランスファーコーピング」参照

836 取り込み印象 → 「ピックアップ印象」参照

837 Dolder バー どんだー

Dolder U-Bar

U字形のバーと、バーの全体を被覆するサドルから構成されるバーアタッチメント。維持力はバーとサドル間の金属摩擦で発揮される。

838 トレーサビリティ

traceability

〔同義語〕 追跡管理

医薬品・農産物・食品・工業製品などの商品やその原材料・部品などを個別に記録し、生産から加工、流通、販売、廃棄までの過程を各段階で記録することで、商品から履歴情報を確認できるようにすること。歯科では材料や部品、技工物などに求められている。

839 Donders の空隙

どんだーすーくうげき

space of Donders

下顎の安静時に舌背上部と硬・軟口蓋との間にみられる空隙。Donders (1875) によって、補綴装置の形態との関係などその臨床的重要性が指摘された。

840 通路 とんろ

spillway

1) 咬合面で粉碎された食物の排出路となる咬合面間の隙間。

2) 補綴装置合着時の浮き上がり防止のために付与される合着材の排出路。

3) レジン填入の際、余剰レジンを排出するために付与する溝。

な

841 内冠 ないかん

coping, inner cap, inner crown

テレスコープクラウンの一部であり、外冠と対になる支台歯側に装着される金属冠やセラミック冠。内外冠の緊密な接触が可撤性義歯の維持力として働く。

→「テレスコープクラウン」参照

842 内斜線 ないしゃせん

internal oblique line

下顎骨筋突起前縁から下方へ走り、臼歯三角の舌側を通り、顎舌骨筋線へ移行する骨の隆線。顎舌骨筋の付着していない部分に限定して用いられる場合や、顎舌骨筋線と同義として用いられる場合もある。臨床的には、外斜線とともに、臼歯部義歯床縁の位置を設定する場合の目安として用いられる。

843 ナイトガード

occlusal device

ブラキシズムによる歯周組織への傷害を防止する目的で主に就寝時に装着する、歯の切縁および咬合面全体を被覆するオクルーザルアプライアンス様の装

置、本装置の装着により上下顎の歯が直接接触することを防止できる。そのため、補綴装置の保護の目的で使用されることもある。

844 ナイフエッジ型 ーがた

knife edge type

ショルダーレス型のうちナイフの刃状に形成された支台歯歯頸部辺縁形態ならびに修復物辺縁形態。辺縁部は、フェザーエッジ型に比べて厚い。

845 ナソロジー

gnathology

1920年代に McCollum と Stallard らによって創唱された、顎口腔系のメカニズムを解剖学、生理学、病理学などを通して総合的に研究する学問。診断、治療、オーラルリハビリテーションの術式なども含まれる。

846 軟口蓋挙上装置

なんこうがいきょじょうそうち

palatal lift prosthesis (PLP)

口蓋床の後方へ延長した挙上子によって軟口蓋を挙上させて鼻咽腔閉鎖をしやすくし、音声の鼻音化や構音障害の発生を防止する装置。脳梗塞の後遺障害などの神経麻痺による軟口蓋の運動不全に適用される。

に

847 ニアゾーン

near zone

歯の欠損側に隣接した支台歯の欠損側半分領域。この部分のアンダーカットの様相をクラスプの設計の指標とする Blatterfein (1951) によって提唱された。
→「ファーゾーン」参照

848 二酸化ジルコニウム→「ジルコニア」

参照

849 二次固定 にじこてい

secondary splinting

可撤性補綴装置を介して支台歯相互の連結固定効果を発現させる方法。

850 二重同時印象

にじゅうどうじいんしょう

double mix impression

〔同義語〕 積層一回印象

流動性の異なる同種のゴム印象材を同時に練和して採得する連合印象。代表的なものとしてはシリコーンゴム印象材のパテとライトボディタイプあるいはレギュラーボディタイプによる印象がある。

851 二重埋没法 にじゅうまいぼつほう

double investing method

1) ワックスパターン埋没法の1つで、ワックスパターン周囲に筆で泥状の埋没材を塗布し、その上から埋没材粉末をふりかける操作を数回繰り返して球状に硬化させ、残りを同種または異種の埋没材で二次的に埋没する方法。この方法は大きな硬化膨張を期待できる。

2) ろう義歯埋没法の1つで、重合後の取り出しを容易にするために、フラスク上部に石膏を注ぐ際に、人工歯部の石膏の硬化後に、残りの部分に石膏を注入する方法。

852 二面形成 にめんけいせい

tooth preparation in two planes

支台歯の唇側、頬側の軸面形成および上下顎臼歯機能咬頭外斜面の軸面形成において、上部（切縁側・咬合面側）と下部（歯頸部側）が異なる2面をなすように形成すること。下部は維持力に、上部は構造的強度と審美性に影響する。

853 ニュートラルゾーン

neutral zone

無歯顎の口腔内において、口腔の諸機能時に頬、唇による内方への圧と舌による外方への圧とによって全部床義歯に加わる荷重が均衡化されると想定される領域で、デンチャースペースの1つである。デンチャースペースを、基礎床と熱可塑性の軟性材料を用いて記録する方法をニュートラルゾーンテクニックやフレンジテクニックという。

854 二腕鉤 にわんこう

two-arm clasp

〔同義語〕 両翼鉤

2つの鉤腕からなる環状鉤。通常、臼歯部に用いられ、3面4隅角を取り囲む。

855 認知行動療法

にんちこうどうりょうほう

cognitive behavioral therapy

行動療法と認知療法の総称。病気の予防や健康の維持増進のために不適切な行動を望ましいものに改善する治療法。歯科においては、歯列接触癖の治療法などに応用されている。

ね

856 Neyのクラスプ ねいー

Ney clasp, Ney's clasp

Ney社によって開発されたNey Surveyor Systemの中で紹介され、金合金(NEY-ORO G-3 casting gold)を用いることを前提として設計された鑄造鉤。レスト付き二腕鉤(#1 clasp)、T型分割腕鉤(#2 clasp)、コンビネーションクラスプ(#1-#2 combination clasp)、バックアクションクラスプ(back action clasp)、リバースバックアクションクラスプ(reverse back action clasp)、リングクラスプ(ring clasp)の6種からなる。

857 粘膜支持→「粘膜負担」参照

858 粘膜支持義歯→「粘膜負担義歯」参照

859 粘膜負担 ねんまくふたん

tissue borne

〔同義語〕 粘膜支持

機能時に補綴装置に加わる力の大部分あるいは全部を顎堤粘膜が負担するという概念。

860 粘膜負担義歯 ねんまくふたんぎし

tissue borne denture

〔同義語〕 粘膜支持義歯

機能時に発現する力を顎堤粘膜が負担する義歯。無歯顎症例、少数残存歯症例に対する有床義歯や、レストの設置されていない暫間義歯などがこれに相当する。

の

861 ノンパラレルピンテクニック

non parallel pin technique

補綴装置を健康象牙質へねじ止める方法。ピンの方向が平行である必要がないため維持力は強大である。前歯部では舌面から水平方向にホリゾントルピンを、臼歯部では咬合面へ垂直方向にパーティカルピンを使用する。

862 ノンメタルクラスプデンチャー

non-metal clasp denture

義歯の支台装置であるクラスプを義歯床用樹脂を用いて製作した部分床義歯のこと。現在、ポリアミド系、ポリエステル系、ポリカーボネート系、アクリル系、ポリプロピレン系の樹脂が用いられている。人工歯を除く義歯全体を熱可塑性樹脂で製作するものと、金属構造を併用するものがある。一般にノンクラスプデンチャー、フレキシブルデンチャーなどと

呼称される義歯は、定義上、ノンメタルクラスデンチャーに含まれる。

は

863 バー

bar

大連結子の1つで、部分床義歯の複数の構成部分を連結する棒状の金属部分。臨床的目安として、幅が8mm以下のものとされる。その適用部位によりパラタルバー、リングルバー、外側バーに分類され、また、製造法により鑄造バー、屈曲バーに分類される。

864 バーアタッチメント

bar attachment

離れた支台歯を連結固定するバーと、これを把持するために義歯側に設置されるスリーブからなる。緩圧型（可動性）のバージョイントタイプ（bar joint type）と非緩圧型（固定性）のバーユニットタイプ（bar unit type）がある。アッカーマンバーアンドクリップタイプアタッチメント、Dolderバー、Haderバーアタッチメントなどがある。

865 バー義歯 ーぎし

bar denture

- 1) 大連結子としてバーを応用した部分床義歯。
- 2) バーアタッチメントを維持・支持に用いたオーバードンチャー。

866 パークラスプ

bar clasp

支台歯に近接する義歯床縁または連結子から起こり、歯槽部を支台歯に向かって横走するバー状の鉤腕をもつクラスプの総称。鉤腕は支台歯の頰側面または舌側面に向かって彎曲し、鉤尖が支台歯の

アンダーカット域に適合する。鉤腕が歯面と接する部分の形態により、Iパークラスプ、RoachクラスプT型などがある。

867 Hader バーアタッチメント

はーだー

Hader bar attachment

プラスチック製のバー、スペーサー、サドルから構成されるバーアタッチメント。バーは加熱して欠損部形態に適合するよう形態の修正が可能で、鑄造して金属に置き換える。義歯完成後にプラスチックサドルを挿入する。維持力の調節は不可であるが、維持力が低下した場合は簡単にサドルの交換が可能である。

868 ハードブローイング→「ブローイングテスト」参照

869 ハーフアンドハーフクラスプ

half and half clasp

環状鉤の1つで、支台歯の近遠心側にそれぞれ独立した体部とレストを有し、一方は頰側を他方は舌側を走行する鉤腕をもつクラスプ。孤立歯が適応症とされる。

870 ハーフクラウン

half crown

前歯・臼歯を問わず、歯面のほぼ1/2を覆うクラウンの総称。

871 バイトゲージ

bite gauge

咬合高径の決定に用いられ、顔面の計測基準点間距離を計測する装置の総称。Willisのバイトゲージ、坪根式バイトゲージ（坪根政治）などがある。

872 バイトトレイ

bite tray

上下顎の歯列および顎堤の印象と咬合採得とを同時に行う咬合印象用の既製トレイ。

873 ハイブリッド型コンポジットレジン
クラウン ーがたー

hybrid composite resin crown

→「レジンジャケットクラウン」参照

874 廃用症候群 はいようしょうこうぐん
disuse syndrome

〔同義語〕生活不活発病

特定の器官を長期間使用しないことによる廃用（性）萎縮が重なることで生じた機能低下の病態。口腔領域では、歯の喪失により顎骨や筋に廃用の影響が及ぶことがある。

875 ハウジング
housing

1) ボックス型顎路を備えた咬合器において、関節部についている箱形の顎路指導機構。この中に顎頭球（コンダイル）が収まる。フォッサ・ボックスとも呼ばれる。

2) 一部のアタッチメントにおけるマトリックス部の別称。磁性アタッチメントでは磁石構造体の収納部分を指す。

876 Pound 三角 ぱうんどさんかく
Pound's triangle

〔同義語〕犬歯臼後隆起線

下顎犬歯近心隅角とレトロモラーパッドの頬側面・舌側面とを結んだ仮想の三角形。下顎全部床義歯において臼歯部人工歯を排列する目安となる。下顎臼歯部人工歯の舌側面は、この三角形内にあり、舌側線に近接する必要がある。人工歯の舌側咬頭が舌側線よりも舌側に排列されると、舌房が狭くなり、舌感不良や義歯不安定などの不快事項が生じやすくなる。なお、下顎犬歯近心隅角とレトロモラーパッドの舌側面を結んだ仮想線を Pound ラインと呼ぶ。

877 Passavant 隆起

ばさばんとりゅうき

Passavant's ridge, Passavant's pad

嚥下や発声時に咽頭後壁に認められる水平の隆起。上咽頭収縮筋あるいは口蓋咽頭筋からなる輪状筋の収縮によって形成される。鼻咽腔閉鎖不全を呈する症例にみられることが多いが、その存在や形状には個人差が大きい。一時はスピーチエイドのバルブの高さの基準とされたが、最近では、鼻咽腔閉鎖運動時の最狭窄部は、そのやや上方であるとされている。

878 鉗状咬合 はさみじょうこうごう
scissors bite

すべての上顎臼歯の舌側咬頭が下顎臼歯の頬側に鉗状に接触し、上下顎の臼歯が正常に咬頭嵌合しない咬合。

879 把持 はじ
bracing

補綴装置に加わる水平方向の成分に抵抗する作用。

880 把持腕→「拮抗腕」参照

881 発音間隙→「発音空隙」参照

882 発音空隙 はつおんくうげき
speaking space

〔同義語〕発音間隙

発音時の上下顎歯列の咬合面間に生じる空隙。[s] 発音時にはこの空隙が最小となり（最小発音空隙, closest speaking space）、全部床義歯の咬合高径を決定する際の基準の1つとして用いられる。

883 発音試験 はつおんしけん
phonetic test

義歯の製作過程、あるいは装着時に、人工歯の排列位置や義歯床形態が患者の構音機能に調和しているか否かを検査す

る方法、パラトグラムなどが用いられる。

884 発音利用法 はつおんりようほう
**phonetic method of measuring
 occlusal vertical dimension**

- 1) 咬合採得において、特定音を発音したときの顎位を利用して咬合高径を決定する方法。
- 2) 人工歯の排列位置の決定やろう義歯の歯肉形成などに際して、口唇や舌の構音動作を利用する方法。

885 バックアクションクラスプ
back action clasp

舌側面に鉤体部をおき、鉤腕がそこから欠損側隣接面、辺縁隆線部を通り、頬側面のファーゾーンのアンダーカット部に鉤尖がくるクラスプ。

886 パッシブフィット
passive fit

複数のインプラント体で支持されスクリューにより固定される上部構造とアバットメント、あるいは上部構造とインプラント体の臨床的に理想的な適合状態を指す。上部構造がスクリューの締め付けによって変形し適合した状態を示すのではなく、あくまで、まったく力を加えなくても（パッシブに）良好な適合を指す状態をいう。

887 発声 はっせい
utterance

喉頭から口腔および鼻腔までの声道の固有の部位を挟めたり閉鎖して、呼吸を利用して音を作る行動。

→「構音」参照

888 バットジョイント
butt joint

2つの構造物の互いの端と端とを重ねることなく接合することにより形成される継ぎ目。歯冠補綴装置では、支台歯に

形成されたショルダー部とそこに装着された修復物で形成される継ぎ目。また、金属床義歯においては金属部とレジン部との接合部、インプラント体上面とアバットメント下面との接合部がインプラント体の長軸に垂直な平面どうして接触する接合様式のこともいう。

889 馬蹄形バー ばていけいー
horseshoe plate

〔同義語〕ホースシューバー

上顎に応用されるU字形をした大連結子。口蓋前方から後方に向かって馬蹄形をなして走行する。臼歯部の両側性遊離端欠損症例などで口蓋隆起を避ける目的で用いられる。

890 パトリックス
patrix

2つパーツの組み合わせからなるアタッチメントの突起部分。マトリックス部の陥凹形態に適合するような凸形状態を有する。歯冠内アタッチメントでは可撤部に、歯冠外あるいは根面アタッチメントでは固定部に設定される。

891 Hanau の咬合 5 辺形→「Hanau の咬合 5 要素」参照

892 Hanau の咬合 5 要素

はのうーこうごうごようそ

Hanau's Quint

〔同義語〕Hanau の咬合 5 辺形

全部床義歯の両側性平衡咬合成立における咬合の5要素〔顆路傾斜角、切歯路角、咬合平面、咬頭の高さ（傾斜）、調節彎曲〕の量的関係を5辺形の中に表現したもの。

893 ハミュラーノッチ
hamular notch

上顎関節と蝶形骨翼状突起内側板の翼突鉤の結合部に形成された切痕。上顎結

節の後方で上顎義歯床の後縁設定の目安となる。

894 バラタルストラップ

palatal strap

上顎に用いられる大連結子の1つで、バラタルバーを薄く、やや幅を広くした帯状の金属装置。バラタルバーと比較して異物感ならびに構音障害が減少し、支持機能の向上が期待できる。

895 バラタルバー

palatal bar

口蓋を走行するパーティプの大連結子。口蓋を左右方向に走行するものは、前後的設置位置により前バラタルバー、中バラタルバー、後バラタルバーに分類される。また、口蓋を前後方向に走行するものは、口蓋の側方に設置される側方バラタルバーと、口蓋正中部に設置される正中バラタルバーに分類される。

896 バラタルプレート

palatal plate

上顎に用いられる大連結子の1つで、口蓋を広範囲に被覆したもの。バラタルバーに比較して異物感が少なく、粘膜負担要素が多くなる。

897 バラタルランプ→「オクルーザランプ」参照

898 バラトグラム

palatogram

発音時に舌が口蓋に接触する範囲を示す図。同一の言語音ではほぼ一定の形となることから口蓋における調音点を知る方法。すなわち、義歯の適切な口蓋形態の確認に用いられる。口蓋に墨や粉末を塗布して行う静的バラトグラムと、電極を利用するダイナミックバラトグラムとがある。

→「発音試験」参照

899 パラファンクション

parafunction

〔同義語〕非機能運動

習慣性の非機能的動作。顎口腔領域にみられる異常習癖には、ブラキシズム(クレンチング、グライディング、タッピング)、異常嚥下、咬唇、咬舌、弄指、弄舌、吸引などがある。

900 パラレルピンテクニック

parallel pin technique

ブリッジや連結装置の維持を平行な複数のピン(パラレルピン)とピンホールとの嵌合により求める方法。ピンホールを平行に形成するには市販の平行形成器や自作のツールを利用する。

901 バランシングランプ〔義歯の〕

— [ぎしー]

balancing ramp [of denture]

全部床義歯における非解剖学的人工歯の排列に際して、下顎第二大臼歯、あるいは下顎最後臼歯の後部に形成された斜面。前方および側方運動時に咬合の平衡を保つために、上顎の最後臼歯咬合面の遠心端部を接触・滑走させるような形態とする。前歯部と両側のバランシングランプで咬合平衡を図る咬合様式をスリーポイントバランスという。Sears (1952)により提唱された。

902 Balkwill 角 ばるくういのかく

Balkwill angle

咬合平面と Bonwill 三角とのなす角。

903 バルブ型鼻咽腔補綴装置

— がたびいんくうほてつそうち

speech bulb

口蓋床の後方へ延長したバルブによって、鼻咽腔閉鎖機能を補助する装置。口蓋裂や手術による軟口蓋欠損部に対して適用される。

904 半固定性ブリッジ→「半固定性補綴装置」参照

905 半固定性補綴装置

はんこていせいほつそうち

fixed prosthesis with rigid and nonrigid connectors, fixed partial denture with rigid and nonrigid connectors

〔同義語〕半固定性ブリッジ

補綴装置のうち、長大なブリッジや支台歯の平行性のないブリッジなどで、その一部に可動性の連結機構を含んだ装置。

906 半固定性連結

はんこていせいれんけつ

nonrigid connection, semifixed connection

ブリッジの連結部の一方を固定性にし、もう一方にキーアンドキーウェイなどのアタッチメント類を用いて可動性をもたせた連結。支台歯の平行性の確保が困難な場合に適用されることが多い。

907 半自浄型ポンティック

はんじじょうがたー

semihygienic pontic

自浄性、清掃性に基づくポンティック形態の1つ。基底面の一部が顎堤粘膜に接触した後、徐々に粘膜から離れていく形態で、完全自浄型に比べれば自浄性・清掃性にやや劣るが、審美性・発音機能は優れる。偏側型、リッジラップ型、船底型などがこれに相当する。

908 半側麻痺→「片麻痺」参照

909 反対咬合 はんたいこうごう

reverse articulation

咬頭嵌合位において、連続する3歯以上の被蓋関係が唇舌・頬舌的に正常とは逆である不正咬合。歯の位置異常によるもの(歯性反対咬合)、顎位の異常による

もの(機能性反対咬合)、顎骨の形態に基づくもの(骨格性反対咬合)などがある。前歯部のもは、下顎前突あるいは下顎近心咬合となり、臼歯部のみに発現したものは交叉咬合とも呼ばれる。ただし、いずれにおいても、1, 2歯の場合には単なる転位として扱われる。

910 半調節性咬合器

はんちようせつせいこうごうき

semiadjustable articulator

調節性咬合器のうち、矢状顎路と非作業側の側方顎路の調節機構を備え、通常、それぞれの顎路を直線的に再現する咬合器。Hanau H2, Whip-Mix, Dentatus 咬合器などがある。

911 パントグラフ

pantograph

下顎限界運動を3軸6面に三次元的に記録する口外描記方式の下顎運動解析装置。その形態の特徴から、縮図器(パントグラフ)の名称がつけられた。この記録機構は、歯の接触を避けるために一点接触のクラッチにより咬合させ、それに接続された上顎フレームと下顎フレームから構成され、そのフレーム上の左右下顎頭部にそれぞれ2組、前方部に2組の描記針と描記板とを備えている。Stuart (1955)とDenar (1970)のものが有名であり、それぞれ専用の全調節性咬合器とを組み合わせた臨床システムとなっている。生体の下顎運動を咬合器上に正確に再現し、可及的に口腔機能に調和した補綴装置の咬合面形態を得ることを意図したものである。

912 パントグラフ法 ーほう

pantographic recordings

顎運動の記録法の1つで、パントグラフを用いて、下顎運動路を水平面および

矢状面に記録する方法。通常、この記録は全調節性咬合器の調節に用いられる。

913 反復唾液嚥下テスト

はんぶくだえきえんげー

repetitive saliva swallowing test (RSST)

非侵襲的かつ簡便に誤嚥の有無をスクリーニングする方法として広く用いられている方法。食塊のない状態で強制的に嚥下を惹起させた場合、どの程度嚥下運動が遂行されるかを評価するもの。験者の示指で被験者の舌骨、中指で甲状軟骨を触知した状態で唾液嚥下を指示し、30秒間の嚥下回数を数える。甲状軟骨が中指を乗り越えた場合に1回と判定し、3回未満の場合、精査を要する。

ひ

914 被圧縮性 ひあつしゅくせい

tissue displaceability

1) 軟組織が圧迫された場合に組織が示すたわみ、または、加圧に対して生じる組織の沈み。

2) 粘膜が加圧により圧縮され、その厚さを減じる性質。

915 被圧変位 ひあつへんい

tissue displacement

歯あるいは粘膜が加圧により変形、移動すること。

916 被圧変位量 ひあつへんいりょう

amount of tissue displacement

一定時間で、単位面積あたり一定の荷重量を加えた場合の、歯あるいは顎堤粘膜の変位量。

917 ビーディング

beading

上顎の口蓋部において、義歯床や大連

結子の外形に沿って作業用模型の当該部分に溝を形成する操作。義歯床縁の封鎖や舌感の向上を目的とする。模型の削除量は粘膜の被圧変位量により調節する。

918 ヒーリングアバットメント

healing abutment

2回法術式を用いるインプラント治療において、二次手術で歯肉粘膜を切開して露出させた骨内のインプラント体(フィクスチャー)に連結し、インプラント周囲の粘膜が治癒するまでの期間、暫間的に装着しておく円筒形の金属。チタンで成形されているものが多い。

919 鼻咽腔閉鎖機能

ひいんくうへいさきのう

palatopharyngeal closure, velopharyngeal closure

嚥下時や発声時にみられる、軟口蓋、咽頭側壁、咽頭後壁による鼻腔と口腔を分離する機能。

920 鼻咽腔閉鎖機能検査

ひいんくうへいさきのうけんさ

examination of velopharyngeal function

鼻咽腔閉鎖機能の診断を目的として行われる検査。咽頭部からの間接鏡検査、鼻腔からの直接ファイバースコープ検査、肺活量検査、鼻漏出気流計検査、ストローを用いたブローイングテスト、側方頭部エックス線規格写真の計測などがある。歯科補綴学分野では補綴装置の効果の判定、あるいは睡眠時無呼吸症候群の治療効果の評価・判定に用いられる。

921 ピエゾグラフィ

piezography

発音を利用して、舌、頬粘膜の水平的な圧を記録する方法で、Kleinら(1974)により提唱された。口腔周囲筋の活動を

阻害しないデンチャースペース（ピエゾグラフィックスペース）を採得することにより，固有の人工歯排列位置を決定し，適正な義歯床研磨面形態を付与できる。

922 被蓋 ひがい
overlap

上顎歯列が下顎歯列をひさし状に覆っている状態。水平的な被蓋（オーバージェット）と垂直的な被蓋（オーバーバイト）とに分けられる。健常者の理想的な咬合では，咬頭嵌合位において上顎歯列が下顎歯列を水平的にも垂直的にも覆っており，前・臼歯部の被蓋の程度は偏心運動時のアンテリアガイダンスや臼歯離開咬合，さらに臼歯部の咬頭傾斜などと密接なかかわりをもつ。

923 非解剖学的咬合器
ひかいぼうがくてきこうごうき
nonanatomical articulator

【同義語】非顎路型咬合器
顎路を再現できない咬合器の総称。自由運動咬合器，蝶番咬合器，FGP テクニック用咬合器などがある。

924 非解剖学的人工歯
ひかいぼうがくてきじんこうし
nonanatomic teeth

天然歯の形態を模倣せず，機能のみを重視した機械的形態の人工臼歯の総称。無咬頭人工歯，ブレード人工歯などが含まれる。

925 鼻下点 ひかてん
subnasal point, subnasion

皮膚上の鼻中隔最前方部と上唇の皮膚表面との交点。皮膚表面上の計測点で，咬合高径の決定時に標点の1つとして用いられることが多い。

926 鼻下点・オトガイ間距離
ひかてん—かんきょり
distance between subnasal and gnathion

鼻下点からオトガイ部までの距離。瞳孔から口裂までの距離と等しいとして，咬合高径を決定する際の目安になる。

927 非顎路型咬合器→「非解剖学的咬合器」参照

928 非緩圧型アタッチメント
ひかんあつがたー
rigid attachment

義歯に加わる機能圧を支台歯に直接伝達するアタッチメントの総称。義歯と支台歯を強固に連結するタイプである。

929 非緩圧型維持装置→「非緩圧型支台装置」参照

930 非緩圧型支台装置
ひかんあつがたしだいそうち
rigid retainer

【同義語】非緩圧型維持装置
支台歯と義歯を強固に連結する構造と作用をもつ支台装置。テレスコープクラウンや非緩圧型アタッチメントなどがある。

931 非機能運動→「パラファンクション」参照

932 非機能咬頭 ひきのうこうとう
nonfunctional cusp

【同義語】剪断咬頭
機能咬頭に対する用語で，咀嚼運動中に対合歯の咬合面窩にかみ込まない咬頭。

933 非作業側 ひさぎょうそく
balancing side, nonworking side
【同義語】平衡側

咀嚼運動時または側方滑走運動時に開ける下顎の外側方への移動側の反対側。

934 非作業側咬頭接触

ひさぎょうそくこうとうせつしよく

balancing contact, balancing occlusal contact

非作業側における対合する歯の接触。従来、非作業側臼歯部での咬合接触は歯周組織や顎関節に為害作用を及ぼすと考えられてきたが、近年、強く咬合したときの非作業側臼歯部の咬合接触は機能的に重要であるとの考えがある。

935 非作業側側方顎路

ひさぎょうそくそくほうかる

lateral condylar path on balancing side

〔同義語〕平衡側側方顎路

側方滑走運動時における非作業側下顎頭の運動経路。前下内方に移動し、その水平面内の運動は側方顎路角やサイドシフトを形成する。

936 非自浄型ポンティック

ひじじょうがたー

nonhygienic pontic

自浄性、清掃性に基づくポンティック形態の1つ。基底面全体が鞍状に顎堤粘膜に接触している形態で、審美性・発音機能は最も優れるが、自浄性はまったく期待できない。鞍状型や有床型がこれに相当し、可撤性ブリッジの場合に適用される。

937 微笑線 ひしょうせん**smiling line**

微笑したときの下唇の彎曲線。上顎前歯人工歯を排列する際に切縁の彎曲位置の基準となる。

→「笑線」参照

938 鼻唇角 ひしんかく**nasolabial angle**

側貌の審美性に関与する鼻柱点、鼻下

点および上唇点を結んでできる角度。義歯患者では人工歯の前後的位置・唇舌の傾斜や床翼の厚み、床縁の位置と形態に影響され、義歯によるリップサポートの評価に用いることができる。

939 鼻唇溝 びしんこう**nasolabial groove, nasolabial sulcus**

鼻翼の外側縁から口角の外側縁に向かって走る顔の表面にある浅い溝。起始部が頬骨、停止部が口角部の口輪筋内にある頬骨筋が、笑った際などに口角を挙上してできる溝で、表情に応じてその形態は著しく変化する。無歯顎患者において上顎義歯による上唇の支持がないと鼻唇溝は深くなるため、義歯に適正な豊隆を付与して年齢に応じた自然な形態を回復する必要がある。

940 鼻息鏡 びそくきょう**snort mirror**

呼気鼻漏出の判定に用いる器具である。これを使用した鼻息鏡検査は鼻咽腔閉鎖機能のスクリーニングに用いられる。冷やした鼻息鏡を鼻下に置き、単音の発音やソフトブローイングをさせて、鏡が曇った範囲から呼気鼻漏出の程度を評価する。

941 非咀嚼側 ひそしゃくそく**nonmasticatory side**

上下顎歯列間に食物を挿入して咀嚼する側（咀嚼側）の反対側。非作業側に対応する用語として扱われることもあるが、非咀嚼側は食物を咀嚼していない側として規定されるのに対し、下顎はその方向に運動して作業側となることもあるため同義語とはいえない。

942 ピックアップ印象 いしんしょう**pickup impression**

〔同義語〕コーピング印象，取り込み印象
クラウンやブリッジあるいはフレーム
ワークや印象用コーピングなどを支台歯
やインプラント上に装着した状態で印象
採得を行い，補綴装置などを印象体の中
に取り込む印象法。

ピックアップ印象【インプラントの】

インプラントの上部構造を製作するた
めの印象採得法で，印象用コーピングや
上部構造の一部をインプラント体やア
バットメントに連結した状態で精密印象
を採得し，印象内に印象用コーピングや
上部構造の一部を取り込む印象法。

ピックアップ印象【クラウンブリッジの】

クラウンブリッジにおける歯型可撤式
模型を製作するための印象採得法の1つ
で，歯型に適合するトランスファーコー
ピングを口腔内の支台歯に装着し，歯列
全体の精密印象を採得する際に，トラン
スファーコーピングを印象内に取り込む
印象法。トランスファーコーピングを使
用することから，コーピング印象 (cop-
ing impression) ともいう。

ピックアップ印象【有床義歯の】

1) 部分床義歯の支台装置 (維持装置) を
キャストオン法で製作するための印象採
得法で，口腔内の支台歯にクラウンを試
適し，義歯を製作するための精密印象を
採得する際に，クラウンを印象内に取り
込む印象法。

2) 可撤性床義歯を修理するための印象採
得法で，口腔内に義歯を装着した状態
で印象採得を行い，義歯を印象内に取り
込む印象法。

943 HIP フレーン ひっぴー

**hamular notch incisive papilla
plane (HIP plane)**

左右のハミュラーノッチと切歯乳頭中

央点を含む平面。咬合平面に平行である
とされている。Cooperman (1975) によ
り提唱された。

944 ビデオ嚙下造影→「嚙下造影検査」 参照

945 ビデオレントゲン検査→「嚙下造影 検査」参照

946 被覆冠 ひふくかん

coverage crown, veneer crown

歯冠補綴装置の中で，歯冠の全部ある
いは一部を被覆することによって歯の形
態・機能・審美性を回復する補綴装置の
総称。全部被覆冠と部分被覆冠とがあ
り，材料としては，金属，陶材，レジ
ンなどがある。

947 描記針 びょうきしん

stylus

ゴシックアーチなどの描記法において
描記板上に下顎運動路を描くための突
起。口内法ゴシックアーチ描記装置で
は，これがセントラルベアリングスク
リューを兼ねている。

948 描記板 びょうきばん

tracing plate

ゴシックアーチなどの描記法において
描記針によって下顎運動路が描かれる板。

949 標示線 ひょうじせん

line of reference

前歯欠損症例における咬合採得の最終
段階で，上下顎咬合堤の唇側面に記入さ
れる人工歯選択および排列の基準となる
線。歯列の正中線，口角線，鼻幅線，上
唇線および下唇線がある。

950 鼻翼幅 びよくふく

nasal width

無歯顎患者の上顎前歯人工歯の幅径を
決定する際に利用する鼻翼の幅径。鼻翼
の外側からの垂線 (鼻幅線) が上顎犬歯

尖頭を通るとされる。

951 ヒンジアキスロケーター

hinge axis locator

左右の蝶番点を試行錯誤的に探索するための超軽量のフェイスボウ。クラッチに取り付けるアンテリアクロスバー (anterior cross-bar) と、指針を上下・前後に微動できるレジストレーションアーム (registration arm) から構成される。Lauritzen (1961) によって考案された。

952 ヒンジ型アタッチメント 一がた一

hinge attachment

垂直遠心回転 (蝶番運動) を許容し、他の運動を制限している歯冠外アタッチメントの1つ。義歯に加わる咬合圧は、主に遠心部において粘膜、近心部において歯根膜で負担する。

953 ヒンジボウ

hinge bow

左右側の蝶番点と前方基準点からなる基準平面に対する上顎歯列の位置関係を咬合器にトランスファーするためのフェイスボウ。Stuart がフェイスボウに調節機構を付与したのとして紹介した。

954 ピンテクニック

pin technique

補綴装置の主たる維持を金属ピンとピンホールとの嵌合に求める方法。歯質削除量が少ない利点があり、欠損歯の補綴や動揺歯の固定に応用される。複数のピンホールが平行なパラレルピンテクニックと非平行なノンパラレルピンテクニックとがある。

955 ピン陶歯 一とうし

pin porcelain teeth

(同義語) 有釘陶歯

ピンによる維持機構を有する人工陶歯。有床義歯用とクラウンブリッジ用と

がある。有床義歯用のものは、義歯床との機械的維持力を増すために、前歯では舌側面に、白歯では基底面にピンが設けられている。クラウンブリッジ用は、ピンの長さによってショートピン陶歯とロングピン陶歯に区別されるが、いずれも現在ほとんど使われていない。

956 ピンレッジ

pinledge

前歯舌面に形成した複数のピンホールに適合させた鑄造ピンに主たる維持を求めた部分被覆冠。ピンの基部に階段状のレッジ (ledge) とくぼみ状のニッチ (niche) を形成し、咬合力による変形に抵抗させる。歯質削除量が少ないため金属の露出がなく審美性に優れている。ブリッジの支台装置や動揺歯の固定装置に応用される。通常、有髄歯に適用される。

ふ

957 ファーゾーン

far zone

歯の欠損側に隣接した支台歯の非欠損側半分領域。Blatterfein (1951) によって提唱された。

→「ニアゾーン」参照

958 ファイバーポスト

fiber-reinforced composite resin post

ガラス、石英などの長繊維をレジン系有機マトリックスで束ねた既製ポスト。曲げ弾性係数が象牙質に近い。応力集中を起こしにくい。審美性の面から白色、半透明のグラスファイバー、石英ファイバーが主流である。

959 フィクスチャー→「インプラント体」参照

960 Fischer 角 ふいっしやーかく**Fischer's angle**

矢状面に投影された前方運動の顎路と側方運動時の非作業側顎路とのなす角。

961 フィニッシュライン**finish line**

1) 支台歯形成面の辺縁。
2) 金属床義歯におけるレジンとフレームワークとの接合境界線。義歯床研磨面では外側フィニッシュライン (external finish line)、義歯床粘膜面では内側フィニッシュライン (internal finish line) と称する。物理的強度の確保や触感的、衛生的に支障のない円滑な移行面を形成するために、断面はステップ状 (バットジョイント) に形成される。

962 フェイスボウ**facebow**

頭蓋あるいは顎関節に対する上顎歯列 (人工歯列を含む) の三次元的位置関係を咬合器上で再現するために用いる器具。左右の後方基準点と前方基準点を示す3本のポインターと、上顎歯列や咬合堤をフェイスボウに連結するためのバイトフォーク (bite fork) を組み込むためのフレームから構成される。Snow (1899) によって創案された。

963 フェイスボウトランスファー**facebow transfer**

フェイスボウによって、2つの後方基準点と1つの前方基準点からなる平面で位置づけられた上顎模型を咬合器に付着する一連の操作。これにより、生体の下顎頭の開閉軸と咬合器の開閉軸とが一致することになる。

964 フェザーエッジ型 ーがた**feather-edge type**

ショルダーレス型のうち最も菲薄に形

成された支台歯歯頸部辺縁形態ならびに修復物辺縁形態。辺縁部はナイフエッジ型よりもさらに薄く、精密铸造加工にはあまり適さない。板金加工用 (帯環金属冠用) に形成された支台歯辺縁形態に対応する伸展修復物の辺縁形態として用いられていた。

965 フェルール**ferrule**

失活歯の歯冠修復において、歯冠補綴装置が支台歯フィニッシュラインの歯冠側に存在する健康な歯質に適合し、残存歯質を抱え込む部分。フィニッシュラインの上に高さ約2mm以上の健康な残存歯質があると、その周囲をクラウンがリング状に把持し、歯根破折を防止する効果 (フェルール効果、帯環効果) がある。

966 複印象 ふくいんしょう**duplicate impression**

1) 有床義歯における耐火模型を製作するための技工用の印象。
2) クラウンブリッジ、有床義歯ともに変形や破損を避けたい作業用模型や補綴装置を正確に複製するための印象。

967 複合欠損 ふくごうけっそん

Combination of Class III and Class II or I of the Kennedy's classification of partially edentulous arches

歯列の部分欠損症例において、中間欠損と遊離端欠損が混在するもの。

968 副歯型式模型

ふくしけいしきもけい

definitive cast with individual die

クラウンやブリッジを製作する場合に用いられる作業用模型で、歯型と歯列模型との分離・結合様式から分類したものの1つ。副歯型 (individual die) と歯型

固着式模型の両方を用いる模型。修復物の内面と辺縁は副歯型で、支台相互および隣接歯や対合歯との関係は歯型固着式模型で調整するので、正確なワックスアップや模型上での調整が可能である。

969 複製義歯 ふくせいぎし

duplicate denture

第一の義歯を複製した第二番目の義歯。通常、使用中の義歯などの既存の義歯を複製し、これを改造して治療用義歯や診断用義歯とすることが多い。

970 複製模型 ふくせいもけい

duplicate cast

作業用模型と同一模型を保存するためや、鋳造床などの製作過程で使用する耐火模型を製作するために、作業用模型を印象して複製した模型。

971 フック

hook

部分床義歯の安定を得る目的で支台歯間線を挟んで義歯床とは反対側の2本の切縁隅角部に設置される切縁レストのような補助支台装置の1つ。小連結子により義歯床または大連結子に結合され、単独では維持力を発揮しないが、義歯の動きに抵抗して義歯を安定させる点で間接支台装置でもある。義歯の沈下に伴ってフックがくさび作用を発揮して歯間離開を起こすことがある。

972 不動粘膜 ぶどうねんまく

attached mucous membrane

咀嚼・発音・嚥下などの機能時にも移動、変形しない粘膜。

973 船底型ポンティック

ふなぞこがたー

spheroid pontic

基底面が楕円形で歯槽頂部の粘膜と点状に接触する形態のポンティック。

974 部分義歯 ぶぶんぎし

partial denture

1) 残存歯またはインプラントを支台とする、歯列の一部欠損に適用される義歯。支台歯に固着される固定性部分義歯 (fixed partial denture ; 固定性ブリッジ) と、任意に着脱できる可撤性部分義歯 (removable partial denture ; 可撤性ブリッジ、部分床義歯) とがある。

2) 部分床義歯と同義。部分義歯の用語は定着しておらず、removable partial denture と partial denture とは歴史的にも長い間混同されてきたが、partial denture を有床義歯に限定した用語とするものは、本来誤用である。

975 部分床義歯 ぶぶんしょうぎし

removable partial denture

〔同義語〕局部床義歯

歯列内の部分的な歯の喪失と、それに伴って生じた歯周組織や歯槽突起の実質欠損の補綴を目的とした、残存歯またはインプラントを支台とする有床可撤方式の義歯。少数歯欠損から1歯残存に至るあらゆる欠損の症例に適用され、多様性に富む。

976 部分床義歯補綴学

ぶぶんしょうぎしほつつかく

removable partial prosthodontics

〔同義語〕局部床義歯補綴学

歯科補綴学の一分科で、歯列内の部分的な歯の喪失、関連組織の実質欠損、また、それらによる異常を部分床義歯によって修復・整形し、損なわれた機能と外観を回復させるとともに、患者の健康の維持・増進を図るために必要な理論と技術を考究する学問。

977 部分被覆冠 ぶぶんひくふくかん

partial coverage crown, partial

veneer crown

歯冠補綴装置の中で、歯冠の一部を人工物で被覆するもの。主にブリッジの支台装置として用いられるが、単冠や動揺歯の固定装置にも応用される。通常、有髄歯に適用され、代表的なものに、ピンレッジ、3/4冠、4/5冠、7/8冠、プロキシマルハーフクラウンがある。

978 **ブラキシズム**

bruxism

咀嚼筋群が何らかの理由で異常に緊張し、咀嚼・嚥下・発音などの機能的な運動と関係なく、非機能的に上下顎の歯を無意識にこすり合わせたり（グライディング）、くいしばったり（クレンチング）、連続的にカチカチとかみ合わせる（タッピング）習癖。顎関節症の原因の1つとされている。

979 **ブラックトライアングル**

interdental gingival space, black triangle

歯周疾患、外傷性要因、機械的・化学的要因あるいは歯冠長延長術によって生じた歯間部軟組織の喪失により生じた空隙。前歯部では三角形の空間となり、暗くみえるためその名がある。審美障害の原因の1つとなる。

980 **プラットフォーム[インプラントの] implant platform**

〔同義語〕インプラントプラットフォーム
一般的には、辺縁骨レベルのインプラント体の頂部でアパットメントとの接合面。平面あるいは斜面形状のものがある。

981 **プラットフォームシフティング implant platform shifting**

〔同義語〕プラットフォームスイッチング
インプラント体上面の直径よりも小径のアパットメントを使用し、インプラン

トネック部周囲の骨吸収を防ぐテクニック。

982 **プラットフォームスイッチング→「プラットフォームシフティング」参照**

983 **フラビーガム**

flabby tissue, flabby gum

顎堤に発現する可動性の大きい粘膜組織。歯槽骨の吸収と粘膜の肥厚および粘膜下組織の線維性増生がみられるが、不適切な義歯の長期使用による慢性的な機械的刺激が原因とされる。上顎前歯部が好発部位である。

984 **フランクフルト平面 一へいめん**

Frankfort horizontal plane

水平基準面の1つであり、左右側いずれかの眼点（orbitale；眼窩点ともいい、眼窩下縁最下点を指すが、側方頭部エックス線規格写真法などの骨組織上では、両側眼窩の最下点の中央点を意味する）と両側の耳点（porion；耳珠上縁点を指すのが普通であるが、頭部エックス線規格写真法では、外耳孔の最上縁の点を指す）とを結んでできる平面。

フランクフルト（ドイツ）で開催された会議（1882）で採択された。なお、フランクフルト線（ドイツ水平線；左右側いずれかの眼窩点と耳珠上縁点を結ぶ線）と鼻聴道線（Camper線；左右側いずれかの鼻翼下縁と耳珠上縁とを結ぶ線）とは約10°の角をなす。

985 **フランス式埋没法**

一しきまいぼつほう

French flasking technique

人工歯、支台装置、連結子のすべてをフラスク下部に固定するろう義歯のフラスク埋没法。それらの義歯床粘膜面に対する浮き上がりを防止するには有効であるが、流ろうやレジン填入操作がやりに

くいのが欠点とされる。

986 **ブリッジ**

fixed partial denture, bridge

少数歯欠損に対し、残存歯またはインプラントを支台歯として連結補綴することにより、形態・機能・審美性を回復する補綴装置。支台装置、ポンティック、連結部とで構成される。支台装置とポンティックとの連結方法の違いにより、固定性ブリッジ、半固定性ブリッジ、可撤性ブリッジに分類される。

987 **フルカントウアジルコニアクラウン**

→「モノリシックジルコニアクラウン」
参照

988 **フルジルコニアクラウン**→「モノリシックジルコニアクラウン」参照

989 **BULLの法則** ぶるーほうそく

BULL rule

下顎側方滑走運動時の作業側咬頭干渉を除去する部位を示す法則。支持咬頭の機能を維持するために、上顎臼歯では頬側咬頭内斜面 (Buccal of the Upper) を、下顎臼歯では舌側咬頭内斜面 (Lingual of the Lower) を削合する。Schuyler (1935) によって提唱された。

990 **フルバランストオクルージョン**

fully bilateral balanced occlusion, fully balanced occlusion (articulation)

両側性全面平衡咬合。側方滑走運動時および前方滑走運動時に、作業側の歯だけでなく、前歯も含めた非作業側の歯における上下顎の対応する咬合小面が、全面に接触滑走し、咬合の平衡が保たれる咬合様式。全部床義歯に与えられる咬合様式の1つである。

991 **フルメタルクラウン**→「全部金属冠」
参照

992 **フレアーアウト**

flare out

臼歯の咬耗・咬合崩壊により咬合高径が低下したため、前歯部が唇側に傾斜し歯間離開を生じた状態。

993 **ブレードインプラント**

blade implant

顎骨内に固定される板状のブレード部、その上の軟組織を貫通するネック部、および口腔内に露出するアバットメントとしてのヘッド部から構成される口腔インプラント。

994 **ブレード人工歯** ーじんこうし

metal insert teeth

非解剖学的人工歯に属する、咬合面に金属製の刃 (ブレード) をつけた人工臼歯。機能面、特に咀嚼能率と義歯の安定性とを追及した機械的人工歯で、咬合接触面積を減少させるために、ブレードが対合人工歯に設置した金属テーブルに接するように製作される。Sosinのブレードメタル臼歯やLevinのメタルインサートティースなどがある。

995 **フレームワーク**

framework

- 1) 前装冠において、前装材を保持する金属の骨格部分。メタルコーピングと同義。
- 2) 金属床義歯において、支台装置、連結子、維持格子からなる金属の骨格部分。これらは通常、一塊鋳造される。義歯全体の強度と適合性が高まり、体積も小さく、異物感も少なくなる利点がある。

996 **プレッシャー・インディケイティング・ペースト**

pressure indicating paste (PIP)

〔同義語〕 適合試験材、適合検査材
口腔内諸組織などに対する補綴装置の

適合状態を検査するための材料。白色のシリコーンゴムやクリームタイプの材料がある。

→「適合試験」参照

997 フレミタス

fremitus

歯と歯が接触する際に触知される振動。

998 フレンジ→「床翼」参照

999 フレンジテクニク

flange technique

Lott と Levin (1964) により提唱されたもので、義歯の維持・安定を得るため、義歯床翼部（フレンジ）の形態を周囲筋の生理的な運動により形成印象し、人工歯列弓と義歯床研磨面の形態を決定する方法。

1000 ブローイングテスト

blowing test

鼻咽腔閉鎖機能検査法の1つであり、ソフトブローイングとハードブローイングがある。前者はコップに水を入れ、ストローで静かにできるだけ長く泡立つように吹かせ、持続的呼気時間を測定する。後者は巻笛やラッパを思い切り吹き、呼気鼻漏出を判定する。

1001 プロキシマルハーフクラウン

proximal half crown

臼歯歯冠の隣接側のほぼ1/2を覆い、咬合面中心溝の部分では反対側の小窩を含む鳩尾形窩洞が設計された部分被覆冠の1つ。主にブリッジの支台装置として、通常、下顎有髄大白歯に用いられ、近心傾斜歯や遠心部の萌出が不十分な歯などに適用される。

1002 ブロックアウト

block-out

ワックスや石膏などを用いて模型上のアンダーカットを塞ぐ操作。

1003 プロビジョナルクラウン

provisional crown

〔同義語〕 暫間被覆冠、テンポラリークラウン

プロビジョナルレストレーションの中で製作される単独冠。ブリッジとして製作される場合は、プロビジョナルブリッジという。

1004 プロビジョナルレストレーション

provisional restoration

歯冠補綴装置の製作に際し、形成された支台歯を暫間的に被覆するクラウンやブリッジ。診断や治療方針の確認、支台歯の保護、歯周環境の改善、咬合の保持、審美性の回復を目的とする。

1005 分割印象 ぶんかつぎんしょう

sectional impression

単一の印象が不可能、あるいは望ましくない場合に適用され、複数の部分から構成される印象。歴史的には石膏やモデリングコンパウンドなどの非弾性印象材を用いる場合には不可避な方法であったが、現在では特殊印象法の1つである。この場合に用いる印象用トレーを分割トレーと呼ぶが、一般的にはそれぞれのトレーに異なる印象材を用い、撤去後、口腔外でそれらを組み合わせる一塊の印象とする。フラビーガムと正常な顎堤部など、被圧変位量の異なる部分の印象圧を適切にコントロールすることを目的とする場合と、一塊の印象を口腔外に撤去することが不可能な症例に用いる場合がある。後者では、義歯自体も分割義歯となることが多いが、顎義歯で頻用される。

1006 分割可撤式模型→「分割復位式模型」参照

1007 分割義歯 ぶんかつぎし

sectional denture

複数の部分に分かれ、口腔内でそれらを組み合わせて利用される義歯。小口症、開口障害などのために、通常の補綴装置の着脱が物理的に困難な場合や、欠損部の顎堤の吸収が高度な症例に適用されたブリッジの複雑な形態のポンティック部を可撤式とする場合、維持のためアンダーカットを積極的に利用する場合などに利用される。

1008 分割コア ぶんかつこ interlocking core

平行でない複数の根管を利用する場合、複数部分に分割して製作する築造体。

1009 分割式模型 → 「分割復体式模型」参照

1010 分割歯型式模型 → 「分割復体式模型」参照

1011 分割トレー ぶんかつこ sectional impression tray

分割印象に用いる特殊なトレー。石膏印象用には既製トレーも存在したが、現在、分割トレーと呼ばれるものは基本的にすべて個人トレーである。通常は2分割であり、通常のトレー材料で製作されたトレー本体と、それらを連結するジグ部分とから構成される。ただし、概形印象には既製の局部トレーを組み合わせ利用することもある。

1012 分割復体式模型

ぶんかつこふくいしきもけい

definitive cast with divided die

〔同義語〕分割可撤式模型、分割式模型、分割歯型式模型

クラウンやブリッジを製作する場合に用いられる作業用模型で、歯型と歯列模型の分離・結合様式から分類した可撤式模型の1つ。歯列模型から分割歯型(divided die)の部分を分割して、着脱可

能にした模型。

1013 分割腕鉤 ぶんかつわんこう divided arm clasp

Ney社から発表された鑄造鉤の1つ。レスト付き二腕鉤の2本の鉤腕とレストがそれぞれ独立し、脚部で連結している形態で、支台歯の咬合面、頬・舌側面に設定されるクラスプ。一腕のみが分割されるものと、二腕とも分割されるものがある。義歯の沈下および上方への脱離に対しては抵抗するが、横揺れに対する抵抗は期待できない。

1014 分散強化型ガラスセラミックス ぶんさんきょうかがたー dispersion-strengthened glass ceramics

オールセラミック素材の中で、ガラス内部に石英やアルミナ、リューサイト、マイカ、ニケイ酸リチウムなどの高硬度の粒子が20~40%配合されたもので、1,000°C以上の高温で溶解し、焼成される。



1015 ヘアピンクラスプ hairpin clasp

欠損側に体部をおき、頬・舌側面の鉤腕を中央部付近で方向を反転させてニアゾーンのアンダーカット部に鉤尖をおいたヘアピン状のクラスプ。Roachにより提唱された。

1016 平均値咬合器

へいきんちこうこうき

average value articulator

顎路角(傾斜)、切歯路角(傾斜)、Balkwill角、顎頭間距離などの顎運動の各要素を解剖学的平均値に固定した咬合器。

1017 平均的顎頭点

へいきんてきかとうてん

arbitrary hinge position

平均的な下顎頭の位置に基づいて皮膚上に設定される顎頭点。フェイスボウトランスファー時の後方基準点として利用される。その具体的な位置に関しては、Gysiによる耳珠上縁と外眼角を結ぶ線上で外耳道の前方13mmの点、Lundeenによるその下方3mmの点、Hanauによるフランクフルト平面上で外耳道の前方12mmの点、など諸説がある。

1018 平行形成器 へいこうけいせいぎ**parallelometer**

ブリッジやピンレッジの支台歯形成において、口腔内でそれらの平行関係を機械的に規制して、形成操作を容易とする器具。支台歯以外の天然歯に固定源を求め、それに切削器具を連結して、平行運動だけを可能とする機構のものが主であるが、タービンヘッドの先端に装着して、タービンバーの方向を視覚的に判定するだけの簡便な機構のものもある。

1019 平衡咬合 へいこうこうごう**balanced articulation (occlusion)**

中心位（中心咬合位）および偏心位において、力学的に安定した状態にある咬合状態。天然歯列について用いられることもあるが、本来は義歯の咬合を記述する用語であり、片側性平衡咬合と両側性平衡咬合とがある。

1020 平衡咬合小面

へいこうこうごうしょうめん

balancing occlusal facet

Gysiの軸学説および咬合小面学説に従って、フルバランストオクルージョンを付与する目的で人工歯咬合面に形成す

る咬合小面の1つ。非作業側への側方滑走運動時に接触する面であり、下顎臼歯では頬側咬頭内斜面、上顎臼歯では舌側咬頭内斜面に発現する。

1021 閉口障害 へいこうしょうがい**difficulty in closing mouth**

閉口動作において咬頭嵌合位あるいは本来の閉口位に閉口できない状態。外傷などによって顎関節部に炎症が生じ、疼痛や炎症性の浮腫などのために閉口が困難である場合や、顎関節の脱臼や亜脱臼によって閉口が困難となる場合などがある。関節円板の後方転位が下顎頭の後方移動を妨げる一時的な閉口障害をオープンロック（open lock）というが、亜脱臼との区別は明確ではない。

1022 平行切削器 へいこうせつさくき**parallelometer**

ミリングによって、テレスコープクラウンやバーなどの自家製アタッチメントを製作するために用いる精密な技工用切削器。サベイヤー部、模型固定台、切削用回転部、動力部などから構成されている。コーヌスクローネ製作用のHUGパラレロメーターを始め、数種類の製品がある。

1023 平衡接触 へいこうせつしよく**nonworking side occlusal contact, balancing occlusal contact**

側方滑走運動時の非作業側における歯の接触。アンテリアガイダンスやグループファンクションの干渉となる場合は望ましくないとされ、全部床義歯において平衡咬合を構成する場合は望ましい接触とされる。

1024 平衡側→「非作業側」参照**1025 平衡側側方顎路→「非作業側側方顎**

路」参照

1026 平行測定 へいこうそくてい**parallel check**

1) ブリッジの支台歯形成時に各支台歯間の平行性を確認する検査。大型ミラー、口腔内写真撮影用ミラーを用いて咬合面側、切縁側、唇・頬側、舌・口蓋側から支台歯全体をみて、すべてのマージン部にアンダーカットがなく、平行性があることを口腔内あるいは作業用模型上で確認する。専用のノギス状のインストルメント、平行測定器もある。

2) 部分床義歯の製作時に、サバイヤーを用いて歯列模型上の歯および軟組織の平行性を調べる検査。

1027 平行測定器 へいこうそくていき**parallelometer**

クラウンやブリッジの製作に際し、支台歯の形成面のテーパーの判定、複数のピンホールやポスト孔などの平行性の確認、各部のアンダーカットの検査などに用いる器具。臨床、技工いずれの現場でも利用されるが、ノギス状のものやデンタルミラーに平行線を刻印したものなどがある。

1028 平行模型 へいこうもけい**parallel cast**

上下顎模型の基底面を咬合平面と平行に、正中口蓋縫合線を模型の正中に一致させて製作した石膏模型。

1029 平線咬合器**plane line articulator**

→「蝶番咬合器」参照

1030 Bennett 運動 べねつとうんどう**Bennett movement, laterotrusion**

下顎側方運動における作業側下顎頭の側方移動。Bennett (1908) により提唱さ

れた。作業側下顎頭は下顎側方運動時の回転中心となり、下顎全体は側方移動する。その際の作業側下顎頭の移動範囲は、上下前後のいずれか外方約1mmで約60°の円錐形内である。

1031 Bennett 角 →「側方顎路角」参照**1032 ベベル型** ーがた**bevel**

支台歯の歯頸部辺縁形態ならびに修復物辺縁形態の1つ。歯軸に対して外開きの斜面を与えた形態。通常、ベベル型単独で用いることは少なく、ショルダー型に幅の小さいベベルを付与したベベルドショルダー型や、ヘビーシャンファー型にベベルを付与したベベルドシャンファー型 (beveled chamfer type) として応用されることが多い。

1033 ベベルドショルダー型 ーがた**beveled shoulder type**

支台歯の歯頸部辺縁形態ならびに修復物辺縁形態の1つ。ショルダーの外縁に小さい幅のベベルを付与した形態。ショルダー型の欠点であるセメント着着時の浮き上がりによる辺縁部の適合不良を補正するために、前装冠の唇(頬)側辺縁などに応用される。ただし、ジャケットクラウンのように縁端強度の弱い材料のものには応用できない。

1034 辺縁形成 →「筋圧形成」参照**1035 辺縁骨レベル** へんえんこつー**marginal bone level**

天然歯を支える歯槽骨やインプラント体の周囲骨組織の骨頂部の位置。

1036 辺縁封鎖 へんえんふうさ**border seal**

義歯床縁と義歯床下粘膜または義歯周囲軟組織との封鎖状態。床縁封鎖ともいう。

1037 偏心位 [下顎の]

へんしんい [かがくー]

eccentric position [of mandible]

中心位以外のすべての顎位。

1038 偏心咬合位 へんしんこうごうい**eccentric occlusal position**

咬頭嵌合位から上下顎の歯を接触させた状態で、前方、側方、あるいは後方に滑走させたときのすべての咬合位。

1039 偏側型ポンティック

へんそくがたー

semihygienic pontic

唇側または頬側の歯頸部のみが顎堤粘膜と線状に接触し、舌側に向かうに従って徐々に粘膜から離れていく形態のポンティック。

1040 片側性咬合平衡

へんそくせいこうごうへいこう

unilateral occlusal balance

全部床義歯あるいは多数歯欠損の部分床義歯において、作業側に食塊が介在しても、義歯が離脱したり、回転しないで安定している状態。

1041 片側性平衡咬合

へんそくせいへいこうこうごう

unilateral balanced articulation [occlusion]

側方咬合位において、非作業側の咬合接触がない状態で、作業側人工歯の頬・舌側咬頭のみ咬合接触により力学的な平衡状態を作りだし、義歯の転覆を防止することを意図した咬合様式。Pound のリンガライズドオクルージョンも片側性平衡咬合の1つである。

1042 片側離脱 [ブリッジの]

へんそくりだつ

partial loss of retention [of fixed partial denture (bridge)]

固定性ブリッジの支台装置の一部が脱離した状態。ブリッジは脱落せず口腔内に残るため、脱離した支台歯の齶進行為が促進されるなど重篤な経過をたどることが多い。

1043 偏咀嚼 へんそしゃく**unilateral chewing**

左右のいずれか一方だけで行う咀嚼。

1044 片麻痺 へんまひ (かたまひ)**hemiplegia**

〔同義語〕半側麻痺

身体の片側半身の運動が障害され麻痺を来した状態。大脳や脳幹部などの障害においてみられる。症状は運動障害、言語障害、失認などで、右片麻痺では論理や言葉などの言語をつかさどる左脳に障害が生じており、理解はあるが言葉で表せられない失語症が生じるのが特徴。左片麻痺では情緒や感覚をつかさどる右脳に障害が生じ、性格変容が生じやすいのが特徴。

ほ

1045 ホースシューバー→「馬蹄形バー」参照**1046 ポーセレンジャケットクラウン**
porcelain jacket crown

陶材のみで製作された全部被覆冠。一般に白金や純パラジウムの箔を用いたマトリックス法で製作される。審美性、化学的安定性、耐摩耗性に優れ、金属に比べて熱伝導度が小さく、組織に対する為害作用が少ないなどの長所を有するが、脆弱で破折しやすく、製作が煩雑であるという短所もある。現在、使用頻度は低くなっている。

1047 ポーセレンブリッジ

**porcelain fixed partial denture,
porcelain bridge**

全部被覆冠を支台装置とし、支台装置とポンティックを同質のポーセレンで焼成したブリッジ。アルミナ陶材などの強度に優れたポーセレンで焼成した全部ポーセレンブリッジと、強度を補うためポーセレンの中に金属を埋入した金属加強ポーセレンブリッジとの2種がある。

1048 ポーセレンレイヤリングジルコニアクラウン

**porcelain layering zirconia
crown**

ジルコニアフレームにサンドブラスト処理などの前処理を行い、専用のポーセレンを築盛・焼成したクラウン。ジルコニアとポーセレンとは化学的な結合は期待できず、熱膨張率の差による機械的結合が主たる結合様式である。

1049 ボーンアンカードブリッジ

bone anchored fixed partial denture, bone anchored bridge

〔同義語〕 オッセオインテグレートッドブリッジ

複数本のオッセオインテグレートッドインプラントを支台とする、固定性または術者可撤性の補綴装置。

1050 補強線 ほきょうせん

reinforcing wire

レジン床義歯、咬合床、個人トレーなどの破折・変形を防止し、強化するための金属線。レジン床義歯では、上顎口蓋面や下顎舌側面にしばしば用いられる。

1051 ボクシング

boxing an impression

棒状と板状のワックスを用いて印象の辺縁外周に沿って箱枠を作る操作。棒状

ワックスで適切な辺縁部を確保し、板状ワックスで隔壁を形成することによって模型の適切な厚みを確保する。

1052 保持→「維持」参照

1053 保持形態 ほじけいたい

retention form

外力などによって歯冠補綴装置が支台歯から脱落しないよう保持するために、支台歯に付与される形態。クラウンの場合、基本的な保持形態は相対する軸面であるが、保持力をより増強するため、ピンホール、グループ、小窩、鳩尾形、これらを併用したロックなどの補助形態が追加されることがある。

1054 補助アタッチメント ほじょー

auxiliary attachment

単独では支台装置の役割を果たせないアタッチメント。ロマガノリプレソマティック、スイングロックアタッチメント、ガグリールメッティイソクリップなどがある。その役割を大別すると次の3種類に分類できる。①分割ブロック：不平行な支台歯に固定性ブリッジを適用するときの連結機構として使用。②維持用エレメント：維持の目的だけに使用。③バランスー：片側欠損症例で反対側に延長したバーの先端に支持や回転軸を求めするための装置。

1055 補助維持装置→「補助支台装置」参照

1056 補助支台装置 ほじょだいたいそうち

auxiliary retainer

〔同義語〕 補助維持装置

部分床義歯に用いられる支台装置で、限定された機能を有するもの。フック、スパーなどがこれに含まれる。

1057 ポステリアガイドンス

condylar guidance, posterior

guidance

顎運動を顎関節の形態学的要因によって規定する要素。前方部の歯の指導要素に相対する用語。

→「アンテリアガイダンス」参照

1068 **ポスト****post, dowel**

支台歯根管内に形成されたポスト孔に適合し、歯冠部築造体（コア）あるいは歯冠補綴装置を保持する棒状の構造体。既製ポスト（金属、ファイバー）と、自家製ポストの鋳造体がある。

1059 **ポストクラウン****post-and-core crown, dowel crown**

〔同義語〕 継続歯

歯冠部とポスト部が一体の全部歯冠補綴装置。主に前歯部単冠に用いられる。歯冠部の前装部と舌面板、支台歯の根面に接する根面板と、歯冠部を保持するための維持部からなり、レジン前装ポストクラウン、陶歯前装ポストクラウンなどがある。

1060 **ポストコア****post-and-core**

支台歯のポスト（歯根部）とコア部（歯冠部）が一体となった支台築造体。

1061 **ポスト孔** 一こう**prepared root canal for dowel**

ポストを挿入、装着するために、支台歯の歯根部に形成される孔。

1062 **ポストダム****posterior palatal seal, postpalatal seal, post dam**

上顎の義歯床口蓋後縁に辺縁封鎖を確実にするために設けられる堤状の突起。ポストダムの形成には、機能印象時に該当部位を加圧形成する方法と、作業用模

型の同部位を削除修正する方法とがある。

1063 **補足疲労** ほそくひろう**fatigue supplement**

ブリッジの設計指針としてポンティックに生じる負荷の大きさを示す指数のうち、2歯以上の連続するポンティックや延長ポンティックを適用する場合に付加される指数。ブリッジはポンティック部の負荷（疲労）の大きさが支台歯の負担能力（抵抗力）を越えないように設計する必要があり、支台歯の抵抗力として歯根表面積の大きさをもとにした指数が歯種ごとに決められ、ポンティックの疲労として歯種ごとに同名歯の抵抗力に相当する指数が与えられており、補足疲労の指数は欠損部位や欠損歯数などによって決定される。これら指数をもとに支台歯の抵抗力とポンティックの疲労を算出し、欠損に隣接する歯以外の歯を支台歯として加えるかどうか、加えるとするほどの歯を加えるかの判断を行う。

→「Duchangeの指数」参照

1064 **Posseltの図形**

ぼっせると一すけい

Posselt's envelope of motion, Posselt's three dimensional representation

Posselt (1952) が正中矢状面内の下顎運動記録と種々の高径における水平的な下顎運動記録とを組み合わせて再現した、切歯部における三次元的な下顎限界運動範囲を示す図形。その形態と Posselt の出身地に因みスウェーデンのバナナ (Swedish banana) とも呼ばれる。

1065 **補綴** ほつ**prosthesis**

身体器官の喪失によって損なわれた形態と機能を人工装置によって修復・整形

すること。

1066 補綴学 ほてつがく

prosthodontics

生体の欠損部を義歯、義眼、義足などの人工物で修復することに関する理論と技術を考究する学問。

→「歯科補綴学」参照

1067 補綴主導型インプラント治療→

「トップダウントリートメント」参照

1068 補綴前処置 ほてつぜんしよち

preprosthetic treatment

補綴装置の製作時に、その治療の妨げとなるような口腔内環境を改善するために適用される、各種の歯科治療。抜歯、小帯切除術などの外科処置、充填や根管治療などの保存処置、口腔清掃や歯肉切除などの歯周治療、MTMなどの歯科矯正治療、レストシートやガイドプレートの付与などの支台歯の処置、その他（ティッシュコンディショナーによる処置、咬合挙上など）、多様なものが含まれる。

1069 補綴装置 ほてつそうち

prosthesis, dental prosthesis

- 1) 身体器官の欠損や形態異常に対して、修復・整形・機能回復を目的として適用される各種人工装置の総称。
- 2) 歯質、歯列、顎骨などの欠損や形態異常を修復し、失われた形態・機能・審美性の回復を図る人工装置。

1070 ポリサルファイドゴム印象

—いんしよう

polysulfide rubber impression

ポリサルファイドゴム印象材による印象。硬化後の寸法安定性に優れているので、有歯顎から無歯顎までの精密印象で多用される。

1071 Bonwill 三角 ほんういるさんかく

Bonwill triangle

切歯点と左右の下顎頭上面の中央部頂点を結んだ線で形成される一辺4インチの正三角形。Bonwill (1858) によって提唱された。

1072 ポンティック

pontic

ブリッジの構成要素の1つ。支台装置と連結されることによって歯の欠損部を補う人工歯で、咀嚼や発音といった口腔の機能および形態、審美性などを回復する役割をもつ。適用部位、基底面形態、自浄性、使用材料や支台装置との位置関係の違いなどにより各種に分類される。

ま

1073 マージン

margin

クラウン、インレー、アンレーなどの外縁。

1074 埋没 まいぼつ

investing

重合、ろう（鑛）付け、鋳造などに先立ち、対象物の全体あるいは一部を耐火材や石膏などで被覆、または包埋すること。

1075 マウンティングジグ

mounting jig

上顎模型を咬合器に装着するとき用いる用具。バイトフォークを保持するためのもの（キャストサポート）や、Bonwill 三角を基準にして平均的位置に模型を位置づける咬合平面板などがある。

1076 マウンティングプレート

mounting frame, mounting plate, mounting ring

石膏模型を咬合器に装着するための用具。通常は咬合器の上弓と下弓のそれぞれ中央部分に設置されたリングまたは円形の金属またはプラスチック板。

1077 前ろう（鑲）付け法

まえーづーほう

pre-ceramic soldering

陶材焼付冠の固定性連結製作法の1つで、陶材を金属冠に焼き付ける前に行うろう（鑲）付け。

1078 窓開け まどあー

cut-back

前装鋳造冠の製作において、前装用材料を築盛するための領域をワックスパターンに付与する操作。いったん、歯冠形態をワックスにて完全に回復した後に行われる。

1079 マトリックス

matrix

2つのパーツの組み合わせからなるアタッチメントの受け手部分。マトリックス部の突起形態を受容するような凹状形態を有する。歯冠内アタッチメントでは固定部に、歯冠外あるいは根面アタッチメントでは可撤部に設定される。

1080 麻痺性嚥下障害 → 「機能性嚥下障害」参照

1081 摩耗【歯】 まもう【はー】

dental abrasion

摩擦などの異常な機械的作用により生じた表在性の歯質摩滅。不適当なブラッシングによる歯頸部根面のくさび状あるいは溝状の摩耗症、職業的あるいは習慣的原因による切縁・咬合面の摩耗症、およびクラスプによるエナメル質の摩耗などがある。摩耗面は滑沢で硬くなり、経時的に黄褐色を呈する。組織学的には象牙細管の石灰化と、歯髄側面における第

二象牙質の形成がみられる。

1082 Munsell 色票系 → 「Munsell 表色系」参照

1083 Munsell 表色系

まんせるひょうしょくけい

Munsell color system

〔同義語〕 Munsell 色票系

色の三属性による色票配列に基づいて Munsell が考案した表色系。色相、明度、彩度の三属性によって物体色を表す。物体色の三属性は色立体という三次元空間で表すことができ、明度は高さで、色相は角度で、彩度は中心軸からの距離で表す。

1084 マンディブラーキネジオグラフ (MKG) — (えむけーじー)

Mandibular Kinesiograph (商品名)

下顎中切歯部に取り付けた小型永久磁石の動きを、頭部に固定したセンサーアレイで検出する非接触型の三次元下顎運動記録装置。Jankelson (1969) により考案された。

み

1085 水飲みテスト みすのー

water swallowing test (WST)

→ 「改訂水飲みテスト」参照

1086 未病 みびょう

presymptomatic disease

病気に著しく近い心身の状態。検査を行えば異常を認めるが自覚症状のない時期で放置により病気に移行する状態と、自覚症状を有するが検査により異常を認めない状態に大別される。本来、東洋医学の概念が原点であったが、近年、QOL への関心の高まりから現代予防医学に取り入れられた語句である。

1087 ミューチュアリープロテクトド オクルージョン

mutually protected occlusion

ナソロジー学派の主張する咬合様式。咬頭嵌合位においては、臼歯部が咬合し、前歯部はわずかに離開する。前方滑走運動においては前歯部が、側方滑走運動においては犬歯が接触滑走し、臼歯部は離開する。

1088 ミリング milling

可撤性補綴装置を製作するときに、補綴装置の着脱方向を考慮して、フライス盤（ミリングマシン）を用いて作業用模型上でワックスパターンや鋳造体をミリング（切削、研削）加工する手法。

1089 ミリングバー milling bar

支台歯間を連結する角棒状の鋳造体の側面を平行切削器で平行に仕上げたバー。平行な面どうしの摩擦により維持力を発揮する。

む

1090 無圧印象 むあつじんしょう mucostatic impression, non-pressure impression

可及的に印象圧を加えないで顎堤、口蓋粘膜の静止状態を採得する印象。

1091 無口蓋義歯 むこうがいぎし roofless denture

義歯床の口蓋部を顎堤の内側縁に沿ってU字形に除去し、全体を馬蹄形にした上顎全部床義歯。

1092 無咬頭人工歯 むこうとうじんこうし cusplless teeth, nonanatomic

teeth, zerodegree teeth

非解剖学的人工歯に属する、咬頭傾斜角が0°の人工臼歯。咬合面が平坦であるため、機能時に顎堤への側方力は発現せず、顎堤の保存には有利であるとされている。しかし、解剖学的人工歯のように、咬合面形態を利用して顎運動との協調を図ることができないため、咬合平衡を確保するためにはバランシングランプなどを設定することもある。Sears (1922, 1938), Hardy (1942, 1950) などの人工歯が有名である。

1093 無歯顎 むしがく edentulous jaw

歯をすべて喪失した、もしくは歯が存在しない顎。

1094 MUDDLの法則

むどうるーほうそく

MUDDL rule

後方滑走運動時の干渉を除去する際に用いられる法則。上顎臼歯では近心斜面 (Mesial of the Upper) を、下顎臼歯では遠心斜面 (Distal of the Lower) を削合する。Lauritzen により提唱された。

め

1095 明度 めいど value

色の三属性の1つ。物体表面の相対的な明るさに関する色感覚の属性、およびそれを同一条件で照明した白色面を基準として尺度化した指標。黒を0、白を10とする間隔尺度を視感反射率の多変式で定義する。

→「Munsell 表色系」参照

1096 メジャリングデバイス Measuring Device (商品名)

厚さを測定する簡易測定器の1つ。ステンレス製で、先端が鋭利な金属用と先端が球状のワックス用とがある。いずれも0.1 mmまでの読み取りができ、最大10.0 mmまでを測定できる。

1097 メタルコーピング

metal coping

- 1) 形成された支台歯の上に適合される鑄造体。生活歯では薄いキャップ状、失活歯ではポストを伴うこともある。後者の場合、根面板と同義。
- 2) 陶材焼付冠の陶材を焼き付けるための金属体。フレームワークと同義。

1098 メタルバックング

metal backing

陶材焼付冠やレジン前装冠における舌側面フレームワークまたは有床義歯における人工歯舌側面を裏打ちするフレームワーク。

も

1099 モールドガイド

mold guide

人工歯の形態見本。

1100 モダイオラス

modiolus

口角の遠心部に口輪筋などの表情筋が集まって形成される結節。人工歯排列位置と義歯床研磨面形態に影響する。

1101 モデリングコンパウンド印象

—いんしょう

modeling plastic impression compound

熱可塑性のモデリングコンパウンドによる印象。顎堤弓の大きさに合わせて選択した既製トレーをトリミングした後、軟化したモデリングコンパウンドを盛

り、義歯床に関連する解剖学的形態を記録する。一般的には、加圧印象に分類される。

1102 モノプレーンオクルージョン

monoplane occlusion

無咬頭人工歯を使用した全部床義歯の咬合様式の1つで、咬合面を一平面上に排列する咬合様式である。人工歯咬合面の傾斜やバランスングランプなどにより両側性平衡咬合を付与する場合もある。

→「無咬頭人工歯」参照

1103 モノリシックジルコニアクラウン

monolithic zirconia crown

〔同義語〕フルジルコニアクラウン、フルカントウアジルコニアクラウン

モノリシックは「一体となっている」という意味で、ジルコニアのみで製作されているクラウン。

1104 Morrison クラウン→「圧印金冠」

参照

1105 Monson カーブ もんそんー

curve of Monson, Monson curve

前後的歯列彎曲と側方歯列彎曲の双方を含む咬合彎曲。眉間中央部付近を中心とする半径4インチの下方に凸な球面に、下顎歯の切縁や咬頭頂が接触するとされる。なお、咬耗が進行し、臼歯列が上方に凸な側方歯列彎曲を呈した場合をアンチ Monson カーブ (anti-Monson curve) あるいはリバースカーブ (reverse curve) という。

→「Monson 球面説」参照

1106 Monson 球面説

もんそんきゅうめんせつ

Monson's spherical theory

Monson (1920) によって発表された幾何学的下顎運動理論。Speeの彎曲をすべての下顎運動の範囲にまで拡大する

と、1つの球面が形成され、その中心は歯の長軸と下顎頭の中心から始まる垂線との交点に一致し、半径は4インチとなるとした。さらにこの中心が下顎運動の中心点でもあり、下顎はこの球面に沿って運動するというものである。

ゆ

1107 有孔陶歯 ゆうこうとうし diatoric teeth

有床義歯用人工歯の機械的維持力を増すために、前歯では舌側面に、臼歯では基底面に穿下性の孔および側管が設けられている陶歯。

1108 有根型ポンティック ゆうこんがたー root extension pontic

抜去歯の歯根長1/4~1/5程度の根部を備えた形態のポンティック。上顎前歯部の審美性を維持する目的で抜歯前にブリッジを製作しておき、抜歯直後の抜歯窩に嵌入される。表面にはグレージングを行った陶材を使用することが必須である。

1109 UCLA (型) アバットメント ゆーしーえるえー (がた) ー UCLA abutment

インプラント体にスクリューで直接連結される上部構造をロストワックスによる鋳造法で製作する際の技工用パーツの一般名称。カスタムアバットメントのうち鋳造により支台形態を製作するのに用いる場合と、スクリュー固定式上部構造のフレームワークとして用いる場合がある。

1110 有歯顎 ゆうしがく dentulous jaw

歯の存在している顎。無歯顎に相対する用語。

1111 有床型ポンティック ゆうしょうがたー saddle pontic

基底面に歯肉色の床を付けて粘膜と接触させる形態のポンティック。欠損部の歯槽骨が大きく吸収した場合に、審美性を回復したり違和感を軽減したりする目的で用いる。自浄性や清掃性に劣るので可撤性ブリッジにすることが必須である。

1112 有床義歯 ゆうしょうぎし plate denture, removable denture

粘膜を覆う義歯床を有する義歯。部分欠損歯列において顎堤の一部を覆う形式のものを部分床義歯、無歯顎において顎堤の全部を覆う形式のものを全部床義歯という。

1113 有釘陶歯→「ピン陶歯」参照

1114 誘導面→「ガイドプレーン」参照

1115 遊離端義歯 ゆうりたんぎし

extension base removable partial denture, distal extension removable partial denture

遊離端欠損部、すなわち歯列の部分的欠損のうち、欠損部遠心側に残存歯が存在しない欠損様式に適用される可撤性有床義歯。臨床的には片側性と両側性に分けられ、前者は片側性遊離端義歯 (unilateral extension base denture) と呼ばれ、Kennedy の分類ではⅡ級に相当する欠損に適用される。後者は両側性遊離端義歯 (bilateral extension base denture) と呼ばれ、Kennedy の分類ではⅠ級に相当する欠損に適用される。本義歯は欠損部近心側のみに残存歯列が存在するので、人工歯列の維持・支持および安定は欠損部顎堤と残存歯列に求めなければならない。通

常、直接支台装置および間接支台装置が設定される。

1116 遊離端欠損 ゆうりたんけっそん

Class II or Class I of the Kennedy's classification of partially edentulous arches

歯列の部分欠損症例において、欠損部の遠心側に歯が存在しないもの。

1117 遊離端ブリッジ→「延長ブリッジ」参照

よ

1118 予後 よご

prognosis

本来、その病気のたどる経過についての医学上の見通し。歯科補綴学では、支台歯や顎堤などの組織や補綴装置自体および補綴治療により回復された機能や審美性のたどる経過についての見通しを意味する。

1119 3/4 冠 よんぶんのおんかん

three quarter crown, partial coverage crown, partial coverage retainer

〔同義語〕スリークォータークラウン、3/4クラウン

前歯歯冠の4面のうち、唇側面を残して、他の3面を被覆する部分被覆冠の1つ。Carmichael (1906) によって創案された。Carmichael 3/4 冠では両隣接面と舌面が削除され、切縁溝と隣接面溝が形成されるとともに両隣接面溝を結ぶ舌側マージン部にショルダーが形成される。Tinker 型はスライスカットが小さく、金属の露出が少ないので審美性に優れる反面、マージン部が不潔域を通るため二次齲蝕の危険性が高い。スライス型は Tin-

ker 型に比べてスライスカットが大きいので、金属の露出が多くなるが、二次齲蝕の発生は少なくなり、形成も容易である。Vest 型では唇面隅角部に半円溝が形成され、両隣接面および切縁側のマージンは唇面に設定されている。他の2型に比べ、溝形成に伴う歯髄損傷および二次齲蝕の危険性は少ないものの、金属露出が最も著しく審美性に劣るが、歯冠が薄い歯にも可能である。

1120 3/4 クラウン→「3/4 冠」参照

ら

1121 ラウンデッドショルダー型

ーがた

rounded shoulder

オールセラミッククラウンやオールコンポジットレジンクラウンのフィニッシュラインの辺縁形態で、適合性、材料の強度、審美性などを勘案して丸みを付与した形態。

→「歯頸部辺縁形態」参照

1122 ラミネートベニア

laminare veneer

主に前歯唇側面の審美的修復を目的とした歯冠色のシェル。ポーセレンを応用したポーセレンラミネートベニアと、レジンを用いたレジンラミネートベニアの2種類がある。ともに接着性レジンを用いて歯質に接着させる。

1123 ランナーバー

runner bar

ブリッジや連結補綴装置において、各支台歯のワックスパターンに植立したスプルー部と鋳造リングの円錐台に植立したゲート部との間に設置したバー形態の湯道。溶湯の流れを調節し、湯だまりと

同様の効果をもつ。

り

1124 リカントゥアリング

recontouring

部分床義歯の支台歯への補綴前処置として、支台装置を適切に設定するために、頬舌側面歯質の削除などにより歯冠形態を修正すること。

→「補綴前処置」参照

1125 リジッドサポート

rigid support

支台歯と義歯とを強固に連結した、歯根膜負担を主体とする部分床義歯の設計の概念。その構造様式はリジッドコネクターといわれる。連結条件として、支台歯歯周組織の負担限界を超えないことが要求される。

1126 リッジラップ型ポンティック

ーがたー

ridge lap pontic

基底面が唇側（頬側）の歯頸部から、舌側（口蓋側）に向かって全面的あるいは部分的（T字型）に歯槽頂部をやや越えた範囲まで粘膜と接触し、その後徐々に粘膜から離れていく形態のポンティック。

1127 リップサポート

lip support

歯や人工歯が口腔内で口唇を支えていること。歯の欠損により失われたリップサポートは、義歯により回復されるが、その回復程度は、前歯の前後の排列位置や傾斜度によって異なる。老人様顔貌の特徴とされるくぼんだ口元は、リップサポートの喪失が主体として生じ、これに加齢変化（老化）が加わったものである。

1128 離底型ポンティック りていがたー

hygienic pontic

基底面が顎堤粘膜から完全に離れている形態のポンティック。

1129 リテンションビーズ

retention beads

レジンに金属に接合させる際、金属との機械的維持を図るために用いるプラスチック製の細かいビーズ。ワックスパターンにこのビーズを付着させ、鋳造体前装面に凹凸を付与する。

1130 リバースバックアクションクラスプ

reverse back action clasp

欠損側に近い頬側面に鉤体部をおき、鉤腕が欠損側隣接面、辺縁隆線部を走行して、舌側面のファーゾーンのアンダーカット部に鉤尖をおくクラスプ。

1131 リベース

rebase

人工歯部以外の義歯床を新しい義歯床用材料に置き換え、義歯床下粘膜との再適合を図ること。人工歯の咬合関係は正しいが、義歯床粘膜面の適合が不良場合に適用される。

→「リライン」参照

1132 リポジショニングアプライアンス

occlusal device, repositioning appliance

〔同義語〕リポジショニングスプリント

オクルーザルアプライアンスの1つで、下顎頭や関節円板の位置を整復するための装置。通常、顎位を前方位で固定する前方整位型アプライアンスが用いられる。

→「オクルーザルアプライアンス」参照

1133 リポジショニングスプリント→「リ
ポジショニングアプライアンス」参照

1134 リマウンティングジグ

remounting jig, remount cast jig

咬合器再装着時に使われる歯列咬合面
記録(例; Tench のコア)を咬合器上に
正しく位置づけるための金属板。咬合器
の下弓に固定して使う。

1135 リムーバルノブ

removal knob

- 1) クラウンの試適, 仮着において, 取り
外しを容易にするためにつけられた突起
(ノブ)またはリング。患者の舌, 頬粘膜
を傷害しない部位に付与される。
- 2) 鉤腕を変形させないために, 部分床
義歯に付与され, 患者が日常的に利用す
る撤去用の突起。

1136 両側性咬合平衡

りょうそくせいこうごうへいこう

bilateral occlusal balance

全部床義歯あるいは多数歯欠損の部分
床義歯装着時の側方咬合位において, 作
業側人工歯に加わる義歯の回転や離脱に
係わる力の発現を非作業側の咬合接触に
よって防止する咬合状態。

1137 両側性平衡咬合

りょうそくせいへいこうこうごう

**bilateral balanced articulation
(occlusion)**

側方咬合位において, 作業側人工歯に
加わる義歯の回転や離脱に係わる力の発
現を非作業側の咬合接触によって相殺す
る目的で付与される咬合様式。全部床義
歯に望ましい咬合様式の1つとされてい
る。

1138 両翼鉤→「二腕鉤」参照

1139 リライン

reline

義歯床粘膜面の1層だけを新しい義歯
床用材料に置き換え, 義歯床下粘膜との
適合を図ること。人工歯に異常所見はな
く, また咬合関係に異常が認められず,
義歯床粘膜面の適合が不良な場合に適用
される。新しい義歯床用材料としては,
咀嚼時の疼痛の緩和や顎堤のアンダー
カットへの適合を図ることを目的とし
て, 軟質リライン材 (soft relining mate-
rial) が使用されることもある。本法に
は, 直接法と間接法とがある。間接法に
おいて, 模型と人工歯の位置関係を保持
して, 印象材の部分を床用材料に置き換
えるために用いられる器具をリライニン
グジグ (relining jig) という。

→「リベース」参照

1140 リラクセーションアプライアンス

**occlusal device, relaxation
appliance**

〔同義語〕リラクセーションスプリント
オクルーザルアプライアンスの1つ
で, 筋の緊張緩和やブラキシズムの治療
などを目的とする前歯型アプライア
ンス。上顎前歯切縁から口蓋を被覆し, 閉
口時に下顎前歯のみがこれに接触する。
→「オクルーザルアプライアンス」参
照

1141 リラクセーションスプリント→「リ
ラクセーションアプライアンス」参照

1142 リリーフ

relief

1) 義歯床粘膜面の一部を凹状にして,
義歯床を介して顎堤粘膜あるいは顎骨に
加えられる咬合力を緩和すること。これ
により, 粘膜の疼痛あるいは義歯の破折
を防止するとともに義歯の維持・安定を
図る。その適用部位としては, 粘膜が薄
く被圧変位量が小さい口蓋隆起, 下顎隆

起、骨隆起などや、神経、血管の開口部に相当する切歯乳頭などがある。

2) 印象用トレーの内部に印象材が入るスペースを設けること。

1143 リンガライズドオクルージョン lingualized occlusion

中心咬合位および側方滑走運動時に、上顎臼歯の舌側咬頭だけが下顎臼歯に接触することで咬合力を舌側へ誘導して、義歯の安定を図る咬合様式。Pound (1970)により提唱された全部床義歯の咬合様式で、全部床義歯に望ましい咬合様式の1つ。

1144 リンガルエプロン lingual apron

リンガルプレートの1つで、リンガルプレートの上縁を残存歯の舌側面に延長し、歯面の一部を覆うように設計された大連結子。義歯の沈下防止や、骨植の弱い前歯の固定に有効である。

1145 リンガルバー lingual bar

下顎残存歯の舌側粘膜面に沿って設置されるパーティップの大連結子。特に、口底が浅い場合に前歯部の保護とバーの曲げ強度を向上させるために、舌側溝と舌の下方に設定され、断面形態がL字に近似したものをサブリンガルバー (sublingual bar) という。

1146 リンガルプレート lingual plate

下顎残存歯の舌側粘膜面に設置される大連結子の1つ。下顎の舌側歯槽面を覆うように幅広く、かつ薄く設計される。

1147 リングクラスプ ring clasp

欠損側隣接面に鉤体部をおき、支台歯のほぼ全周を1本の鉤腕が取り巻き、そ

の先端をニアゾーンの深いアンダーカットに設置するクラスプ。通常、上顎大臼歯では口蓋側から、下顎では頬側から鉤腕が始まる。孤立した最後方臼歯を支台歯とする場合に用いる。補助鉤腕をつける場合もある。左右対称的な適用が原則とされる。

1148 リングライナー→「キャストイングライナー」参照

1149 臨床的歯冠 りんしょうてきしかん clinical crown

歯肉から口腔内に露出している歯の部分で、歯肉縁から咬合面または切縁までのいわゆる外見上の歯冠。解剖学的歯冠に相対する用語で、Gottliebにより提唱された。解剖学的歯冠とは異なり、臨床的歯冠は年齢とともに変化する。萌出後高さを増し、加齢に従って歯槽骨の吸収、歯肉の退縮が生じ、歯根が露出するとさらに臨床的歯冠は長くなる。歯冠修復を行う際、クラウンなどに適正な維持力を得るためには、十分な臨床的歯冠長が必要となる。

1150 臨床的歯根 りんしょうてきこん clinical root

歯肉に覆われている歯根部。歯肉の退縮など局所環境因子により変化する。解剖学的歯根とは異なり、年齢とともに短くなる傾向にある。歯冠修復、咬合再建などの処置に際し、適正な臨床的歯冠歯根比の付与を考慮しないと咬合性外傷などを生じることとなる。臨床的歯根が短い場合には歯冠長を短くし、コーピング処置などを行い、負担軽減を図る方法もある。

1151 隣接面溝 りんせつめんこう proximal groove

3/4冠や4/5冠など部分被覆冠の支台

歯の隣接面に長軸的に形成付与される維持溝(縦溝)。その方向により装着方向が制限されるが、被覆冠の唇側面や頬側面などの側面壁を取り除くことによって生じる維持力と強度の低下を補う。

1152 隣接面鉤 りんせつめんこう

mesiodistal clasp

〔同義語〕 近遠心鉤

Roach により提唱された鑄造鉤で、支台歯の舌面から近心面および遠心面を取り巻き、隣接面のアンダーカットに維持を求めた支台装置。主として前歯部に用いられる。

1153 隣接面板 りんせつめんぱん

proximal plate

部分床義歯の支台歯に形成されたガイドプレーンに対応する機構として義歯に設けられた金属部分。機能としては、義歯の着脱を誘導し容易にすること、義歯にかかる水平的動揺を防止すること、支台歯への側方力を減少させること、食片圧入を防止することなどがあげられる。

る

1154 流ろう るー

wax elimination

熱湯などによりモールドからワックスを取り除く操作。

れ

1155 レジンキャップ

resin cap

アクリリックレジンを用いた全部被覆冠の総称。製作法が容易なうえ、安価であり審美性にも優れるが、強度、耐摩耗性は十分ではない。色調安定性もないた

め長期間の使用には適さない。主として、有髄歯の歯冠形成後のプロビジョナルクラウンとして、また、暫間固定装置として使用される。

1156 レジン歯 ーし

acrylic resin teeth

メチルメタクリレートを主成分としたアクリリックレジンによる人工歯。硬さが低いため削合しやすい、対合歯を傷つけない、義歯床との結合が強固、安価であるなどの利点はあるが、耐摩耗性が低いため容易に咬耗し咬合高径の低下を招きやすく、変色しやすいなどの欠点がある。

1157 レジンジャケットクラウン

resin jacket crown

〔同義語〕 硬質レジンジャケットクラウン、ハイブリッド型コンポジットレジンクラウン

コンポジットレジンのみで製作された全部被覆冠。色調ならびに形態の付与が自由で、弾性もあり、修理が口腔内で行えるなどの長所を有する。しかし、吸水性、摩耗性、変色性、変質性があり、自然感が劣るなどの短所もある。

1158 レジン床 ーしよ

resin denture base

歯肉色のレジンを材料とする義歯床。材料的にはアクリリックレジン、ポリスルホン、ポリカーボネートなどがあるが、アクリリックレジンが最も一般的である。加熱(水を用いる湿熱、電気ヒーターやマイクロ波による乾熱)重合、常温重合、光重合などがあり、加圧填入、加圧注入、流し込み、射出、加熱圧縮により成形する。重合済みのレジンブロックを切削加工するミリング法や3Dプリンタによる付加型造形法も臨床応用され

つつある。

1169 レジン床義歯 一しょうぎし

resin base denture

義歯床が床用レジンで製作された有床義歯。アクリリックレジンが多用されるが、射出成形レジンが用いられることもある。

1160 レジン前装冠 一ぜんそうかん

resin facing metal crown, resin veneer crown

審美的修復を目的に、歯冠の唇側や頬側などの外観に触れる面を歯冠色レジンで被覆した金属冠。

1161 レスト

rest

部分床義歯において、クラスプの鉤体部、義歯床、バーなどから突出し、支台歯のレストシートに適合する金属製の小突起。義歯に加わる咬合力の支台歯への伝達、義歯沈下および横揺れ防止、食片圧入の防止、咬合接触の回復など多様な機能を備えている。その適用部位によって、咬合面レスト (occlusal rest)、切縁レスト (incisal rest)、基底結節レスト (舌面レスト; cingulum rest)、あるいは遠心レスト (distal rest)、近心レスト (mesial rest) に分けられる。

1162 レストシート

rest seat

レストを受け入れるために支台歯に形成される小窩。咬合力に耐えるだけの幅や厚さをレストに付与できると同時に、義歯に加わる咬合力を垂直方向の力として支台歯へ伝達し、対合歯との早期接触や咬合干渉を避ける効果がある。

1163 レスト付き二腕鉤

一つーにわんこう

two-arm clasp with occlusal rest

鉤脚が1つで、咬合面レストと2つの鉤腕を有する最も基本的な環状鉤。線鉤と铸造鉤とがあるが、铸造によるレスト付き二腕鉤は考案者の名から Akers クラスプとも呼ばれる。

→「Akers クラスプ」参照

1164 レトロモラーパッド

retromolar pad

下顎最後方大臼歯のすぐ後方に位置する臼後三角上で、顎堤遠心端に相当する位置に存在する、粘液腺 (臼後腺) を含んだ軟組織からなる洋梨状の隆起。無歯顎になっても形態の変化が少ないため、下顎義歯床後縁の設定ならびに仮想咬合平面の後方基準として利用される。

1165 連結強度 れんけつきようど

connecting rigidity

遊離端義歯において義歯と支台歯との間に設定した支台装置部分に発現する変位性。Körber (1973) らによって初めて提唱された用語であるが、連結強度が小さければ粘膜負担が主となり、逆に、連結強度が大きければ、歯根膜負担が主となる。臨床的には、レストのない線鉤は連結強度の小さいもの、テレスコープクラウンは連結強度の大きいものの代表といえる。

1166 連結固定 [歯の]

れんけつこてい [はー]

splinting [of teeth]

- 1) 歯周病に罹患した歯の消炎処置が完了しても歯の動揺が残遺した場合、接着法やワイヤー固定法などによりこれらを連結し、個々の歯の安静を図ること。
- 2) 補綴装置の設計に際し、動揺の残遺した複数の支台歯を固定性または可撤性の支台装置により連結し、支台歯全体の支持能力を向上させること。

1167 連結子 れんけつし**connector**

〔同義語〕連結装置

部分床義歯の構成要素の1つで、大連結子と小連結子との総称。

1168 連結装置→「連結子」参照**1169 連合印象** れんごういんしょう**combination impression**

2種類以上の印象材、または流動性の異なる同種の印象材を用いて採得する印象。

→「単一印象」参照

1170 連続鉤 れんぞくこう**continuous clasp**

1) 鉤腕がレストから始まり複数歯の頬舌面を走行し、最も離れた歯のアンダーカットに鉤尖を置いたクラスプ。

2) 前歯舌面の基底結節上を数歯にわたって連続的に走行する金属の構造体。Kennedy バーと同義。

ろ

1171 ろう義歯 ーざし**wax denture**

人工歯排列と歯肉形成が完了した重合前の義歯。患者の口腔内に試適して、審美性、顎間関係、発音機能などを確認し、必要に応じて修正した後に重合される。

1172 ろう型採得→「ワックスアップ」参照**1173 老人様顔貌** ろうじんようがんばんぼう**senile appearance**

1) 加齢による変化だけでなく、歯の喪失に伴うリップサポートと咬合支持の喪失による顔貌の変化が、主として下顔面に特徴的に現れる老人様の顔貌。口裂の縮小が起り、上下の口唇は緊張を失っ

て陥凹し、赤唇は薄くなり、放射状のシワが著明になり、老人の顔貌の特徴が強調される。補綴装置によるリップサポートと咬合支持の回復により改善される。

2) 無汗型外胚葉異形成症の小児にみられる特有な顔貌。毛髪、睫毛、眉毛などがほとんどなく、目の周縁には小皺が多く、鼻は鞍状様で、無歯症により口唇が反転突出しているために、その顔貌が一見老人様を呈している状態をいう。無歯症様顔貌 (anodontia appearance) とも呼ばれている。

1174 ろう堤→「咬合堤」参照**1175 Roach クラスプ** ろーちー**Roach clasp**

Roach (1929) の考案による歯肉型クラスプ。義歯床あるいは連結子から出て歯肉部を横走し、支台歯部で垂直に屈曲して支台歯のアンダーカットに鉤尖が接触するパークラスプ。鉤尖部の形態がアルファベットの文字に似ていることから I, S, L, U 型など種々の呼称があるが、代表的なものは T 型クラスプである。

1176 ロングセントリックオクルージョン**long centric articulation****(occlusion)**

咬頭嵌合位と下顎最後退接触位との間に、咬合高径の変化を伴わず、しかも咬頭傾斜の影響を受けない前後的な自由域をもつ咬合。Schuyler (1963) によって有歯顎にも導入された。

わ

1177 ワイドセントリックオクルージョン**wide centric articulation**

(occlusion)

咬頭嵌合位が一点に集束しないで、左右的にわずかに自由域がある咬合。Schuyler (1963) や Guichet (1966) によって有歯顎にも導入された。

1178 ワイヤークラスプ → 「線鉤」 参照

1179 ワックスアップ

wax pattern fabrication, waxing

〔同義語〕 ろう型採得

インレーやクラウンなどの鑄造体の原型となるワックスパターン (wax pattern) を作る過程で、歯型にワックスを付着し、その後ワックス形成器などを用いて形態を整え、最終的にワックスパターンを作りあげる技工操作の総称。製作方法には直接法と間接法とがある。ワックス操作法は、圧接法 (wax adaptation technique)、ディッピング法 (dipping wax technique)、ろう盛り上げ法 (add-on technique) に大別される。歯冠形成法には彫刻法とドロップオンテクニック (drop-on technique) とがある。

1180 ワックスコーンテクニック

wax cone technique

ワックスアップによる機能的咬合面形成法の1つ。歯型に咬頭の位置を示す円

錐状のワックスを置き、隆線を盛り上げて系統的に咬合面を形成する。ワックスの盛り上げシステムにいくつかの方法があるが、Payne の方法、Thomas の方法が代表的である。

→ 「ワックスアップ」 参照

1181 Walkhoff 小球

わるくほつぷしゅうきゅう

Walkhoff palatal ball

無歯顎における水平的な顎位を決定する際に使用する小球。具体的には、上顎咬合床の口蓋後縁中央部に、ワックスなどの大豆大の小球 (口蓋球) をつけ、これを舌尖で触れながら閉口させることにより下顎後退位に誘導する。

1182 ワンピースキャスト法 一ほう

one-piece cast method

〔同義語〕 一塊鑄造法

複雑な形態の補綴装置を1回の鑄造によって製作する方法。一塊として鑄造されるため強度に優れるが、鑄造収縮の影響が大きく寸法精度が低下する場合がある。金属床、クラスプなどを1種類の金属で製作する場合、また、少数歯のブリッジを1種類の金属で製作する場合などに有効である。

2023

The Glossary of
Prosthodontic Terms 6th ed.

同義語一覽

付録：同義語一覽

選定用語	同義語として認める用語	使用が望ましくない用語	付録番号
アーライン		Ah-ライン・口蓋振動線	1
圧印金冠	Morrison クラウン		2
アベックス		アローポイント・エイベックス	3
アルミナ陶材	アルミナスポーセレン		4
安静空隙		フリーウェイスペース	5
アンテリアガイダンス	前方誘導（指導）	インサイザルガイダンス・切歯誘導（指導）・前歯誘導（指導）	6
維持	保持	リテンション	7
維持腕		リテンションアーム	8
印象用コーピング	インプレッションコーピング		9
インターオクルーザルレコード		咬合面間記録	10
インプラントアナログ	インプラントレプリカ		11
インプラント義歯	インプラント補綴，インプラント上部構造	嵌植義歯	12
インプラント体	フィクスチャー		13
インプラント体支持	顎骨支持		14
インプラント体-粘膜支持	顎骨-粘膜支持		15
Wilson の彎曲	側方咬合彎曲・側方歯牙彎曲・側方歯列彎曲		16
エステティックブレーン	エステティックライン		17
FGP テクニック	機能的運動路法	機能的咬頭路描記法	18
MPD 症候群		筋膜痛機能障害症候群	19
Elbrecht クラスプ	T 字クラスプ		20
嚥下造影検査	嚥下透視検査・ビデオ嚥下造影・ビデオレントゲン検査		21

選定用語	同義語として認める用語	使用が望ましくない用語	付録番号
延長ブリッジ	遊離端ブリッジ		22
オーバージェット	水平被蓋		23
オーバーデン チャー	残根上義歯	オーバーレイデンチャー	24
オーバーバイト	垂直被蓋		25
オーラルリハビリ テーション	咬合再構成	オクルーザルリコンストラクション	26
オクルーザルアブ ライアンス	オクルーザルデバイ ス	オクルーザルバイトスプリント・オク ルーザルバイトプレート・バイトプ レート・バイトアブライアンス	27
オクルーザルラン プ	パラタルランプ		28
オッセオインテグ レーション		オステオインテグレーション・オッセ オオスインテグレーション	29
オッセオインテグ レーテッドイン プラント	骨結合型インプラ ント	オステオインテグレーテッドインプラ ント・オッセオオスインテグレー テッドインプラント	30
オルタードキャス ト法		アルタードキャスト法・模型改造法・ 模型修正法	31
概形印象		一次印象・準備印象・予備印象	32
外側バー		エクスターナルバー	33
ガイドブレーン	誘導面	ガイディングブレーン	34
解剖学的咬合器	顎路型咬合器		35
解剖学的人工歯		解剖学的人工臼歯・解剖的人工臼歯・ 解剖的人工歯・咬頭歯・咬頭人工歯	36
過蓋咬合		ディープバイト	37
下顎安静位		安静位・生理的下顎安静位	38
下顎後退接触位	下顎後退咬合位		39
下顎最後退接触位	下顎最後退咬合位		40
下顎頭	顎頭		41
下顎頭位	顎頭位		42
顎間距離		垂直顎間距離	43
顎間記録	顎間関係記録		44
顎関節雑音		顎関節音	45

選定用語	同義語として認める用語	使用が望ましくない用語	付録番号
顎関節内障		インターナルデランジメント・顎関節内部障害・顎内障	46
顎口腔系		口腔顎系・咀嚼系	47
顎堤		歯槽堤	48
顎堤粘膜		顎粘膜・歯槽堤粘膜・歯槽粘膜	49
顎頭間軸		下顎頭間軸・顎頭軸	50
下部構造 (体)	サブストラクチャー		51
顎路指導板		顎路きょう導板	52
緩圧型支台装置	緩圧型維持装置		53
緩圧装置		緩圧性連結装置・ストレスブレイカー	54
感覚障害	感覚異常・知覚異常		55
嵌合効力	嵌合力		56
環状鉤		囲繞鉤・サーカムファレンシャルクラスプ・取り囲み鉤	57
間接支台装置	間接維持装置		58
寒天印象		ハイドロコロイド印象	59
Camper 平面		鼻聴道平面・補綴学的平面	60
義歯床下粘膜		床下粘膜	61
義歯床下粘膜異常	義歯性口腔粘膜症		62
義歯床研磨面		義歯床筋圧面	63
義歯床粘膜面		義歯床基底面	64
義歯床負担域	義歯床支持域		65
拮抗作用	対抗作用	レシプロケーション	66
拮抗腕	把持腕	レシプロカルアーム	67
機能的嚥下障害	動的嚥下障害・運動障害性嚥下障害		68
機能的人工歯		準解剖学的人工白歯・準解剖学的人工歯・準解剖的人工白歯・準解剖的人工歯	69
キャストイングライナー	リングライナー		70
CAD/CAM クラウン	CAD/CAM 冠		71
臼歯離開咬合	ディスクルージョン		72
頬棚		バッカルシェルフ・頬側棚	73
筋圧形成	筋形成・辺縁形成		74

選定用語	同義語として認める用語	使用が望ましくない用語	付録番号
グラインディング		白磨運動	75
クラウン	冠		76
クラウンブリッジ 補綴学		冠橋義歯学・冠橋義歯補綴学・歯冠補綴架橋義歯学・歯冠補綴架工義歯学・歯冠補綴橋義歯学	77
クラスプ	鉤		78
クリッキング		弾撥音	79
グレージング		グレーズ・艶焼き	80
クレピテーション	クレピタス	捻髪音	81
経鼻の持続陽圧呼吸療法	CPAP療法		82
Kennedyバー		ダブルリンガルバー	83
研究用模型	スタディモデル	考究用模型・診断用模型・スタディキャスト・診査用模型	84
犬歯誘導咬合		カスピッドプロテクトドオクルージョン・犬歯保護咬合	85
構音検査	調音検査		86
鉤外形線		クラスプライン	87
光学印象採得	デジタルインプレッション		88
口腔インプラント	デンタルインプラント・歯科インプラント		89
口腔乾燥症	ドライマウス		90
鉤肩		クラスプショルダー	91
咬合圧負担域		圧負担域・負担域	92
咬合器		咬交器	93
咬合器再装着		咬合器再付着・リマウンティング・リマウント	94
咬合器装着		咬合器付着・マウンティング・マウント	95
咬合小面		咬合局面	96
咬合堤	ろう堤		97
咬合平面設定板		咬合平面測定基準板	98
交叉咬合		クロスバイト	99

選定用語	同義語として認める用語	使用が望ましくない用語	付録番号
交叉咬合用人工歯		交叉咬合用人工臼歯・反対咬合用人工臼歯・反対咬合用人工歯	100
口唇接合線	口唇閉鎖線		101
鉤尖		鉤先・鉤端	102
口底	口腔底		103
鉤腕		クラスプアーム	104
鼓形空隙		エンブレジャー・歯間鼓形空隙	105
ゴシックアーチ描記法		ゴシックアーチトレーシング・切歯路描記法	106
個歯トレー		歯型トレー・支台歯トレー	107
個人トレー		各個トレー	108
コンビネーションシンドローム	アンテリアハイパーファンクションシンドローム・Kelly's 症候群		109
コンポジットレジン	硬質レジン		110
根面アタッチメント		歯根アタッチメント・スタッドアタッチメント	111
最大開口量		最大開口距離	112
作業側		使用側・動側・働側	113
作業用模型		作業模型	114
Saxon 法	Saxon テスト		115
サバイヤー		クラスプサバイヤー・サーベイヤ・サーバイヤー・サバーヤ・サベヤー・サバヤー・デンタルサバイヤー	116
サベイライン		鉤指導線・サーベイライン・サバーライン	117
暫間義歯		仮義歯	118
サンドブラスト処理	アルミナサンドブラスト処理・アルミナブラスト処理		119
歯冠円錐	咬合円錐		120
歯冠型クラスプ	スーブラバルジクラスプ	歯冠経路型クラスプ	121

選定用語	同義語として認める用語	使用が望ましくない用語	付録番号
歯冠歯根比		CR比・CRレシオ・C/Rレシオ・歯冠歯根長比	122
歯冠補綴装置	歯冠修復物		123
色調選択	シェードセレクション	シェードテイキング・シェードマッチング	124
歯型可撤式模型	可撤歯型式模型		125
歯型固着式模型	固着式模型・単一式模型		126
歯頸部辺縁形態		歯頸側辺縁形態	127
歯根膜粘膜負担	歯根膜粘膜支持	混合負担(支持)・歯根膜粘膜混合負担(支持)・歯根膜粘膜複合負担(支持)	128
歯根膜粘膜負担義歯	歯根膜粘膜支持義歯		129
歯根膜負担	歯根膜支持	歯牙支持・歯牙負担	130
歯根膜負担義歯	歯根膜支持義歯		131
支持		サポート	132
支台歯	維持歯・鉤歯		133
支台歯間線	鉤間線	楯杆線・鉤間軸・支台線・支点間線・支点線	134
支台歯形成		支台形成	135
支台装置	維持装置	リテーナー	136
自動削合		自働削合	137
歯肉圧排		歯齦圧排	138
歯肉円錐	歯根円錐		139
歯肉型クラスプ	インフラバルジクラスプ	歯肉経由型クラスプ	140
ジャケットクラウン		ジャケット冠	141
習慣性咀嚼側		主咀嚼側	142
終末蝶番運動		ターミナルヒンジムーブメント	143
終末蝶番軸		ターミナルヒンジアキス	144
床縁		床周縁・床辺縁	145
床翼	フレンジ		146
ジルコニア	酸化ジルコニウム・二酸化ジルコニウム		147

選定用語	同義語として認める用語	使用が望ましくない用語	付録番号
シングルデン チャー		片顎義歯	148
人工歯肉付模型	ガム模型		149
診断用ワックス アップ	診断用ワクシング		150
睡眠時無呼吸症候 群	SAS		151
スキャナー	3D スキャナー・三 次元スキャナー・ 3D デジタイザー ・三次元デジタイ ザー		152
スタビリゼーショ ンアプライアンス	スタビリゼーション スプリント		153
精密印象	最終印象	仕上げ印象・二次印象・本印象	154
切歯指導釘	インサイザルピン	切歯きょう導釘	155
切歯指導板	インサイザルテーブ ル	切歯きょう導板	156
接触点	コンタクトポイント		157
切端咬合		切縁咬合	158
接着ブリッジ		アドヒージョンブリッジ・接着性ブ リッジ・メリーランドブリッジ	159
線鉤	ワイヤークラスプ	屈曲鉤・はりがね鉤	160
前後の歯列彎曲	前後の歯牙彎曲		161
全部金属冠	フルメタルクラウン		162
全部床義歯	総義歯	コンプリートデンチャー・フルデン チャー	163
全部床義歯補綴学	総義歯補綴学	全部床義歯学・総義歯学	164
全部被覆冠		全部冠・フルカバリッジクラウン・フ ルクラウン	165
早期荷重	早期負荷・早期加 重・アーリーロー ディング		166
双子鉤		ダブル Akers クラスプ	167

選定用語	同義語として認める用語	使用が望ましくない用語	付録番号
即時荷重	即時負荷・即時加重 重・イミディエートローディング		168
即時暫間修復	即時暫間補綴		169
側方顆路角	Bennett 角		170
咀嚼運動路		咀嚼経路	171
咀嚼周期	咀嚼サイクル	咀嚼運動周期・チューイングサイクル	172
咀嚼側		機能側	173
咀嚼能率	咀嚼効率		174
対合関係	対咬関係		175
待時荷重	遅延荷重・待時負荷・遅延負荷・待時加重		176
ダイナミック印象		動的印象	177
単純鉤		一腕鉤・単腕鉤	178
単独歯型式模型	単独歯型		179
中間義歯		間入義歯・中間欠損義歯	180
鑄造鉤		キャストクラスプ	181
蝶番運動		ヒンジムーブメント	182
蝶番咬合器	平線咬合器		183
蝶番軸		ヒンジアキシス	184
直接支台装置	直接維持装置		185
治療用義歯		治療義歯	186
テーパー	軸面傾斜角		187
デジタルデンチャー	CAD/CAM デンチャー		188
テレスコープクラウン		ダブルクラウン・二重金冠	189
Tench のコア	Tench の歯型		190
デンチャーマーキング	義歯刻印		191
テンポラリーアバットメント	テンポラリーシリンドー		192
等高点	トライポッドマーク		193

選定用語	同義語として認める用語	使用が望ましくない用語	付録番号
陶材焼付冠	陶材焼付金属冠・セラモメタルクラウン	金属焼付陶材冠・金属焼付ポーセレン冠・陶材溶着鋳造冠	194
頭部後傾法	頭部後屈法		195
トップダウン リートメント	補綴主導型インプラント治療		196
トランスファー コーピング	トランスファーインデックス・トランスファージグ・トランスファーキャップ		197
トレーサビリティ	追跡管理		198
遁路		溢出孔・溢出路・スビルウェイ	199
二重同時印象	積層一回印象	一回印象・ダブルミックス印象	200
二腕鉤	両翼鉤		201
粘膜負担	粘膜支持		202
粘膜負担義歯	粘膜支持義歯		203
廃用症候群	生活不活発病		204
Pound 三角	犬歯臼後隆起線		205
鋏状咬合		シザーズバイト	206
発音空隙	発音間隙		207
馬蹄形パー	ホースシューパー		208
パトリックス		雄部・メール	209
Hanau の咬合 5 要素	Hanau の咬合 5 辺形		210
ハミュラーノッチ		鉤状切痕・鉤切痕・上顎切痕・翼突上顎切痕	211
パラタルバー		口蓋杆	212
パラファンクション	非機能運動		213
半固定性補綴装置	半固定性ブリッジ		214
半固定性連結		可動性固定性連結・可動性固定連結・緩圧性連結	215
被圧変位量		被圧縮量	216
非解剖学的咬合器	非顎路型咬合器		217

選定用語	同義語として認める用語	使用が望ましくない用語	付録番号
非解剖学的人工歯		非解剖学的人工臼歯・非解剖的人工臼歯・非解剖的人工歯・無咬頭歯	218
非緩圧型支台装置	非緩圧型維持装置		219
非機能咬頭	剪断咬頭		220
非作業側	平衡側	均衡側・非機能側	221
非作業側側方顎路	平衡側側方顎路		222
ピックアップ印象	コーピング印象・取り込み印象		223
描記針		スタイラス・描記釘	224
標示線		標準線	225
ヒンジ型アタッチメント		蝶番型アタッチメント	226
ピン陶歯	有釘陶歯		227
フィニッシュライン		フィニッシングライン・付線	228
フェイスボウ		顔弓	229
部分床義歯	局部床義歯	可撤性パーシャルデンチャー・局部義歯	230
部分床義歯補綴学	局部床義歯補綴学	局部義歯学・局部床義歯学・部分床義歯学	231
部分被覆冠		一部被覆冠・パーシャルカバリッジラウン	232
ブラキシズム		歯ぎしり	233
ブラットフォーム	インプラントブラットフォーム		234
ブラットフォームシフティング	ブラットフォームスイッチング		235
フラビーガム		コンニャク状顎堤・浮動性歯肉・フラビー組織・フラビーティッシュ	236
フランクフルト平面		眼耳平面	237
ブリッジ		架橋義歯・架工義歯・橋義歯	238
フレームワーク		メタルフレーム	239
プレッシャー・インディケイティング・ペースト	適合試験材・適合検査材		240

選定用語	同義語として認める用語	使用が望ましくない用語	付録番号
プロビジョナルクラウン	暫間被覆冠・テンポラリークラウン	仮封冠・暫間冠	241
分割復位式模型	分割可撤式模型・分割式模型・分割歯型式模型	分割模型	242
ヘアピンクラスプ		ダブルアームクラスプ・複腕鉤・リバースループクラスプ	243
片側性咬合平衡		片側性均衡・片側性咬合均衡・片側性平衡	244
片側性平衡咬合		片側性均衡咬合	245
片麻痺	半側麻痺		246
ポーセレンジャケットクラウン		陶材ジャケットクラウン	247
ポーセレンブリッジ		全部陶材架橋義歯・全部陶材架工義歯・全部陶材橋義歯・陶材ブリッジ	248
ポーンアンカードブリッジ	オッセオインテグレートッドブリッジ		249
補助支台装置	補助維持装置		250
ポステリアガイドランス		後方指導・後方誘導・コンダイラーガイドランス	251
ポスト		合釘・ダウエル	252
ポストクラウン	継続歯	歯冠継続歯・ダウエルクラウン	253
ポスト孔		合釘孔・合釘保持孔	254
補綴装置		補綴修復物・補綴物	255
Bonwill 三角		下顎三角	256
ポンティック		架橋歯・架工歯・橋体・ダミー	257
マトリックス		雌部・フィメール	258
Munsell 表色系	Munsell 色票系		259
ミューチュアリープロテクトドオクルージョン		相互保護咬合	260
無圧印象		最小圧印象・静止印象・静態印象・静的印象・粘膜静態印象・微圧印象	261
モダイオラス		口角結節	262

選定用語	同義語として認める用語	使用が望ましくない用語	付録番号
モノリシックジル コニアクラウン	フルジルコニアクラウン・フルカントゥアジルコニアクラウン		263
Monson 球面説		8 インチ球面学説・4 インチ球面学説	264
3/4 冠	スリークォータークラウン・3/4 クラウン		265
リベース		改床・換床・床交換・リベーシング	266
リポジショニング アプライアンス	リポジショニングス プリント		267
両側性平衡咬合		全面均衡咬合・全面平衡咬合・両側性 均衡咬合	268
リライン		裏装・リライニング	269
リラクセーション アプライアンス	リラクセーションス プリント		270
リリーフ		緩衝	271
リングライズドオ クルージョン		舌側化咬合	272
隣接面鉤	近遠心鉤		273
隣接面板		プロキシマルプレート	274
レジンジャケット クラウン	硬質レジンジャケット クラウン・ハイ ブリッド型コンポ ジットレジンクラ ウン		275
レストシート		レスト座	276
レスト付き二腕鉤		三腕鉤	277
レトロモラーパッ ド		白後パッド・白後隆起・白歯後豊隆・ 白歯後隆起	278
連結子	連結装置	コネクター	279
連続鉤		コンティニューアスクラスプ	280
ろう義歯		仮床義歯	281
ワックスアップ	ろう型採得	ろう型形成・ろう形成・ろう原型採得	282
ワンピースキャス ト法	一塊鑄造法		283

2023

The Glossary of
Prosthodontic Terms 6th ed.

日本語索引

外国語索引

【索引の利用の仕方】

1. 選定用語の用語番号はゴシック体（色数字）で表示し、他の選定用語の解説文中にも使用されている場合には、その用語番号をイタリック体（黒数字）で表示した。
2. 解説文中に使用されている選定用語以外の主要な用語は、機器の部分の名称、各種の術式、形態や材料に基づく補綴装置の名称などを含め、すべて掲載し、該当する選定用語の用語番号をイタリック体（黒数字）で表示した。
3. 〔同義語〕として認める用語には、自らの用語番号とともに、選定用語の用語番号もアンダーラインを付けてゴシック体（色数字）で表示した。
4. 付録番号を選定用語（「同義語として認める用語」を含む）ならびに「使用が望ましくない用語」すべてに表示した。

索引

あ

Ah-ライン	付録 1		
アーライン	1		
	252, 423	付録 1	
アーリーローディング			
	2	689	付録 166
RPI クラスプ	3	4	
RPA クラスプ	4		
I. R. V.	5		
Iバー	3, 4		
Iバークラスプ	557, 866		
Eichner 分類	6		
アクセスホール	7	765	
アクリリックレジン	248,		
	1155, 1156, 1158, 1159		
アクリリックレジン人工歯			
	403		
アクリル系	791, 862		
アタッチメント	8		
	7, 56, 454, 477, 496, 500,		
	506, 765, 875, 890, 906,		
	928, 1054, 1079		
Adams クラスプ	9		
圧印金冠	10	付録 2	
圧印床	11	295	
アッカーマンバーアンドク リップタイプアタッチメ ント		864	
圧痕	250, 640		
圧接法	1179		
圧負担域	付録 92		
圧負担能力	12		
	255, 503, 669		
アドヒージョンブリッジ			
			付録 159
後ろう(鑑)付け法	13		
アナライジングロッド			
	477, 817		
アバットメント	14		
	7, 15, 16, 56, 86, 190, 208,		
	277, 582, 659, 765, 813,		
	834, 886, 888, 942, 980,		
	981, 993		
アバットメントアナログ			
	15		
アバットメントスクリュウ			
	16		
アバットメントポジショ ニングジグ		834	
アバットメントレベル	15		
アブフラクション	17		
アペックス [ゴシックアー チの]	18	435	付録 3
アメリカ式埋没法	19		
アメリカ・フランス併用式 埋没法		20	
アルギン酸カリウム	22		
アルギン酸ナトリウム	22		
アルコン型咬合器	21		
	364, 579		
アルジネート印象	22		
アルジネート印象材			
	231, 235		
アルタードキャスト法			付録 31
アルミナ	25, 26, 113, 114,		
	211, 1014		
アルミナ・ガラス複合体			
	211		
アルミナ系セラミックス			505
アルミナ・コア材	211		
アルミナサンドブラスト処 理	23	491	付録 119
アルミナスポーセレン			
	24	26	付録 4
アルミナスポーセレンジャ ケットクラウン		25	
アルミナ陶材	26		
	25, 1047	付録 4	
アルミナブラスト処理			
	27	491	付録 119
アルミナ粒子	491		
アレルギー	292		
アローポイント	付録 3		
鞍状	28, 544, 936		
鞍状型	936		
鞍状型ポンティック	28		
	197		
安静位	付録 38		
安静空隙	29	390	付録 5
安静空隙量	144		
アンダーカット	30		
	9, 276, 429, 479, 480, 560,		
	563, 847, 885, 1002, 1007,		
	1015, 1026, 1027, 1130,		
	1139, 1147, 1152, 1170,		
	1175		
アンダーカット域	4, 30,		
	99, 408, 556, 557, 866		
アンダーカットゲージ	31		
	477		
アンダーカット量	31, 477		
アンダーカントウア	233		

アンチ Monson カーブ		移植皮膚片	618	付録 155
	1105	維持領域	501	印象
安定	186, 246, 254, 317,	維持力	42	51, 126, 128, 138, 231,
	545, 559, 598, 620, 999,		127, 224, 263, 327, 328,	232, 254, 255, 265, 397,
	1115, 1142		430, 431, 620, 837, 841,	480, 590, 638, 743, 750,
Ante の法則	32		852, 861, 867, 971	872, 966, 970, 999, 1005,
アンテリアガイダンス	33	維持腕	43	1051, 1070, 1090
	922, 1023 付録 6		4, 263, 408, 429 付録 8	印象庄 50 72, 1005, 1090
アンテリアクロスバー	951	一次印象	72 付録 32	印象域
アンテリアハイパーファン		一次固定	44	51
クションシンドローム		一部被覆冠	付録 232	印象材 54, 72, 232, 235,
	34 452 付録 109	一腕鉤	付録 178	597, 743, 750, 850,
アンテリアリファレンスポ		一回印象	付録 200	1142, 1169
インター	35	一塊鑄造	995	印象採得
アンテリアリファレンスポ		一塊鑄造法	45 1182	50, 53, 72, 555, 942
イント	35		付録 283	印象法 231, 333, 397
翳法	36	1 歯対 2 歯	736, 805	印象用コーピング 53
		溢出孔	付録 199	834, 942 付録 9
		溢出路	付録 199	印象用トレー
		イットリア	591	54
		イットリア部分安定化ジル		436, 437, 1005, 1142
		コニア	591	インターオクルーザルレ
		いびぎ	158	コード 55 付録 10
		異物感	894, 896, 995	インターナルコネクション
		イミディエートローディン		56
		グ 46 699 付録 168		インターナルデランジメン
		色変わりチューインガム	722	ト 付録 46
		色の三属性	468, 511, 1083, 1095	咽頭 267
		違和感	109, 291, 354, 1111	咽頭期 92, 645
		インサイザルガイダンス		咽頭残留 95
			付録 6	咽頭相 645
		インサイザルテーブル		インフォームドコンセント
			47 643 付録 156	580
		インサイザルピン	48 642	インフラバルジエリア 556
				インフラバルジクラスプ
				57 557 付録 140
				インプラント 58
				15, 59, 86, 106, 120,
				440, 454, 547, 582, 601,

659, 813, 829, 834, 918,
942, 974, 975, 986
インプラントアナログ 59
付録 11
インプラントオーバーデン
チャー 65, 543
インプラント義歯 60
64 付録 12
インプラント周囲炎 61
インプラント周囲組織 61
インプラント周囲粘膜炎
61
インプラント上部構造
62 60 付録 12
インプラント体 63
7, 14, 16, 53, 56, 59, 61,
64, 65, 119, 120, 208, 618,
689, 699, 701, 741, 765,
813, 829, 834, 886, 888,
918, 980, 981, 1035, 1109
付録 13
インプラント体支持 64
付録 14
インプラント体-粘膜支持
65 付録 15
インプラント体埋入手術
135, 744, 829
インプラントブラット
フォーム 66 980
付録 234
インプラント補綴 67 60
付録 12
インプラントレプリカ
68 59 付録 11
インプレッションコーピン
グ 69 53 付録 9
インレー 75, 301, 411,

657, 755, 1179

う

ウィップ法 818
Williams の 3 基本形 70
Willis のバイトゲージ 871
Willis 法 238
Wilson の彎曲 71
396 付録 16
ウォッシュインプレッショ
ンテクニック 72
浮き上がり 20, 516, 589,
840, 1033
うわぐすり 309
運動軌跡 212
運動経路 150, 212, 417,
471, 650, 707, 708, 715,
935
運動障害 621, 726, 1044
運動障害性嚥下障害
73 267 付録 68
運動路 74
運動論の類頭点 74

え

映画法 147
永久固定 75
永久磁石 535, 1084
HUG パラレロメーター
1022
エイペックス 付録 3
栄養サポートチーム 76
ASC52 ピバール 500
Akers クラスプ 77
4, 227, 1163
エクスターナルコネクショ
ン 56

エクスターナルバー

付録 33
SAS 78 610 付録 151
S 字状隆起 79
STL 80
STL データ 631
エステティックプレーン
81 付録 17
エステティックライン
82 81 付録 17
[s] 発音 83, 882
S 発音位 83
SPA 要素 84
エックス線写真 503
エックス線透視装置 93
XPr 機構 513
エナメル質 17, 426, 655,
1081
エナメル用陶材 25
FGP 記録 697
FGP テクニック 85
786, 923 付録 18
エマージェンスプロファイ
ル 86 190
MMA 系レジンセメント
87
MPD 症候群 88 付録 19
L*a*b*色空間 89
L*a*b*表色系 89
Elbrecht クラスプ 90
付録 20
嚥下 92, 95, 96, 133, 181,
207, 272, 645, 652, 718,
720, 877, 913, 972, 978
嚥下位 91 96
嚥下運動 93, 267, 913
嚥下器官 267

嚙下機能	93	横走部	563	オクルーザルアプライン	
嚙下機能低下	341	凹面形態	456	ス	115
嚙下障害	92 97, 775	OSAS 治療用口腔内装置	103		100, 616, 627, 843, 1132, 1140 付録 27
嚙下造影検査	93 付録 21	オーバークアントゥア	233	オクルーザルテーブル	116
嚙下造影剤	93	オーバークロージャー	104	オクルーザルデバイス	117 115 付録 27
嚙下動作	91, 730	オーバージェット	105	オクルーザルバ이트スプリ	付録 27
嚙下透視検査	94 93 付録 21	405, 922 付録 23	オーバードンチャー	106	オクルーザルバイトプレー
嚙下内視鏡検査	95	65, 112, 454, 865	付録 24	オクルーザルランプ	118
嚙下反射	645	オーバードンチャー	107		付録 28
嚙下法	96	922 付録 25	オーバレイデンチャー	付録 24	オクルーザルリコンストラ
嚙下補助装置	97	オーブントレー	834	クション	付録 26
炎症	61, 119, 172, 176, 178, 188, 189, 237, 240, 244, 256, 259, 331, 637, 1021	オーブントレー法	53	オステオインテグレーション	付録 29
遠心	827, 1115, 1116	オープンロック	1021	オステオインテグレートッ	付録 30
遠心レスト	1161	オーラルアプラインス	103	ドインプラント	付録 30
円錐	431, 499, 556, 1180	オーラルディアドコキネシ	108	オッセオインテグレーション	119 699 付録 29
延髄	92	ス	108	オッセオインテグレートッ	ドインプラント
円錐形	802	オーラルディスクネジア	109		63, 582, 1049 付録 30
縁端強度	1033	オーラルフレイル	110	オッセオインテグレートッ	ドブリッジ
延長ブリッジ	98 801 付録 22	オーラルリハビリテーショ	111		付録 249
延長ポンティック	1063	ン	601, 845 付録 26	オッセオオスインテグレー	ション
延長腕鈎	99 227	リング	112		付録 29
円筒	477	リングアタッチメント	112	オッセオオスインテグレー	テッドインプラント
円板	174	オールコンポジットレジ	クラウン	1121	付録 30
円板整位	100	オールセラミッククラウン	113 1121	オートガイ	81, 122, 709, 926
円板転位	101	オールセラミックブリッジ	114	オートガイ唇溝	122
円板復位	102			オベイト型ポンティック	
エンブレジャー	付録 105				123
エンブレジャークラス	695			オルタードキャスト法	124
お					
横走アーム	429				

480 付録 31	外側バー	132	下顎安静位	143
Orton クラウン	863 付録 33		29, 144, 298, 390	
オルビタルロケーター	外側フィニッシュライン	961	付録 38	
579	改訂水飲みテスト	133	下顎安静位利用法	144
温電法	ガイディングプレーン	付録 34	下顎位	145 163, 749
36	付録 34		下顎運動	146
か	回転軸	549, 661, 1054	74, 147, 148, 149, 150,	
窩	回転中心	506, 573, 780,	164, 304, 567, 606, 697,	
加圧印象	1030		911, 912, 948, 1064, 1106	
50, 566, 1101	ガイド	282, 618, 717	下顎運動解析装置	911
加圧注入	ガイドグループ	134	下顎運動記録	147 1064
1158	ガイド板	361	下顎運動記録装置	148
加圧填入	ガイドプレート	135	330, 422, 1084	
1158	ガイドプレーン	136	下顎運動計測法	330
カーボランダムグリセリン	1068, 1153 付録 34		下顎運動検査	165
泥	開鼻声	137	下顎運動障害	149 383
554	開閉運動	205, 568, 779	下顎運動要素	150 473
カーボランダムポイント	開閉軸	963	下顎窩	101, 157, 160,
668	解剖学	845	201, 778	
カーボンマーカ	解剖学的印象	138 124	下顎近心咬合	909
477	解剖学的形態	138, 269, 1101	下顎頸	159
Carmichael 3/4 冠	解剖学的咬合器	139	下顎限界運動	911, 1064
1119	776 付録 35		下顎限界運動 [路]	151
外冠 127 5, 431, 802, 841	解剖学的歯冠	140 1149	下顎限界運動路	151
外眼角	解剖学的歯根	1150	下顎後退位	152
1017	解剖学的指標	130	155, 1181	
概形印象	解剖学的所見	271	下顎後退咬合位	153 154
1011 付録 32	解剖学的人工臼歯	付録 36	付録 39	
開咬	解剖学的人工歯	141	下顎後退接触位	154
106	1092 付録 36		410, 513, 706 付録 39	
開口運動	解剖学的方法	147	下顎骨離断	361, 376
129	解剖学的人工臼歯	付録 36	下顎最後退位	155 573
開口障害	解剖学的人工歯	付録 36	下顎最後退咬合位	156 157 付録 40
129	潰瘍	250, 256	下顎最後退接触位	157
173, 464, 1007	過蓋咬合	142 付録 37	1176 付録 40	
開口相			下顎三角	付録 256
721, 725				
開口量				
749, 778				
外耳孔				
984				
外耳道				
234, 1017				
外斜線				
130 283, 842				
改床				
付録 266				
外傷				
172, 176, 178,				
188, 189, 237, 239, 240,				
244, 258, 331, 484, 1021				
外傷性炎症				
36				
外傷性咬合				
131				

下顎枝	159	749, 762, 776, 781, 912,	顎関節内部障害	付録 46
下顎前突	909	1016, 1057, 1092	顎顔面補綴	176 177
下顎前方整位タイプ	158	顎運動経路	顎顔面補綴装置	177
下顎前方保持装置	158	顎運動検査	顎義歯	178
下顎側方運動	708	顎運動障害	667, 766, 803, 1005	
化学的安定性	1046	顎間関係	顎機能	364, 394, 435
化学的清掃	809	96, 165, 372, 377, 382,	顎機能障害	179
下顎頭	159	826, 1171	顎欠損	180
74, 101, 157, 160, 201, 205,		顎間関係記録	顎口腔機能	147, 165, 297,
206, 212, 461, 462, 471,		167 169	383, 465	
537, 571, 572, 622, 661,		付録 44	顎口腔系	181
697, 707, 708, 767, 778,		顎間距離	111, 129, 131, 291, 302,	
780, 935, 1017, 1021, 1030,		104, 168, 642, 643	319, 357, 378, 379, 384,	
1106, 1132	付録 41	付録 43	391, 393, 730, 732, 845	
下顎頭位	160	顎間記録	付録 47	
513	付録 42	366, 675, 756, 811	顎口腔系器官	465
下顎頭間軸	付録 50	顎関節	顎骨	63, 176, 178, 180,
下顎反復小開閉口運動	749	33, 88, 129, 139,	185, 188, 189, 595, 1069	
下顎偏位	361, 376	151, 159, 170, 171, 172,	顎骨欠損	326
下顎法	598	173, 174, 175, 179, 362,	顎骨支持	182 64
下顎隆起	161 1142	367, 570, 748, 749, 823,	付録 14	
下顎両側性遊離端欠損	452	934, 962, 1021, 1057	顎骨内	56
下弓 [咬合器の]	162	顎関節異常	顎骨-粘膜支持	183 65
21, 205, 364, 366, 448,		顎関節エックス線撮影	付録 15	
643, 1076, 1134		顎関節音	顎舌骨筋	184, 413, 842
架橋義歯	付録 238	顎関節窩	顎舌骨筋線	184 842
架橋歯	付録 257	顎関節機能異常	顎堤	185
顎位	163	顎関節強直症	30, 49, 52, 186, 187, 248,	
91, 143, 144, 152, 155, 364,		顎関節腔造影法	254, 351, 437, 544, 545,	
368, 370, 372, 390, 395,		顎関節雑音	546, 560, 603, 633, 735,	
462, 463, 682, 696, 705,		179, 307, 311, 383	872, 983, 1007, 1090,	
884, 1037, 1132, 1181		付録 45	1091, 1092, 1112, 1118,	
顎運動	164	顎関節疾患	1139, 1164	付録 48
74, 146, 171, 194, 206, 212,		顎関節症	顎堤間距離	294
272, 353, 363, 364, 368,		88, 171, 175, 179, 383,	顎堤弓	185, 399, 546, 1101
435, 644, 650, 661, 673,		426, 627, 775, 978	顎堤吸収	186 106
697, 717, 720, 722, 730,		顎関節痛	顎堤頂間距離	464
		顎関節内障		
		175		
		付録 46		

顎堤粘膜	187	33, 212, 306, 650, 685,	可動性	454, 500, 864,
4, 72, 123, 126, 185, 186,		686, 710, 778, 780		905, 906
226, 255, 342, 526, 527,		カッティングナイフ	可動性固定性連結	付録 215
533, 859, 860, 916, 936,		カッパーバンドトレ	可動性固定連結	付録 215
1039	付録 49	滑膜	可動組織	265
顎内障	付録 46	可撤式固定法	顎頭点	206
顎粘膜	付録 49	可撤式歯型		203, 212, 1017
顎補綴	188 176, 180	可撤式模型	顎頭点間	203
顎補綴装置	189 177	可撤歯型式模型	可動粘膜	207
ガグリールメッティイソク				251, 558, 561
リップ	1054	付録 125	可動部	1
架工義歯	付録 238	可撤性	加熱圧縮	1158
架工歯	付録 257	可撤性義歯	加熱重合	1158
荷重	689, 699	8, 106, 127, 841	加熱膨張	274
仮床義歯	付録 281	可撤性床義歯	仮封冠	付録 241
下唇	81, 122, 406, 581,	可撤性バーシャルデン	下部構造 (体) [インプラン	
	937	チャー	トの]	208 120, 440
下唇小帯	342	可撤性部分床義歯		付録 51
下唇線	949	可撤性部分義歯	窩壁	224
カスタムアバットメント		可撤性ブリッジ	かみしめ	312, 465, 823
	190 1109	196, 198, 802, 936, 974,	ガム模型	209 597
ガス抜き	125	986, 1111		付録 149
カスピッドプロテクテッド		可撤性補綴装置	カラーレスマージン	210
オクルージョン	付録 85	245, 442, 849, 1088	ガラス	958
仮想円錐角度	430	可撤性有床義歯	ガラス浸透型セラミックス	
仮想咬合平面	191	可撤性連結		211
	234, 387, 399, 406, 816,	可撤部	ガラスセラミック材料	273
	1164	890, 1079	ガラス粒子	491
仮想軸	502	顎頭	Gariot 咬合器	779
仮想平面		200 159	仮義歯	付録 118
	541, 606, 609, 636	付録 41	仮設計	128, 479
型ごと埋没法	192	窩洞	加齢	1149, 1173
片持ち梁	98	411, 1001	加齢変化	360, 426, 1127
仮着	193 659, 1135	顎頭安定位	顎路	212
仮着セメント	659	201 96		139, 215, 537, 538, 671,
各個トレー	付録 108	顎頭位		757, 776, 910, 923, 960
滑走運動	194	202 160	顎路角	1016
		付録 42		
		顎頭間距離		
		203 1016		
		顎頭間距離調節		
		579		
		顎頭間軸		
		204		
		203 付録 50		
		顎頭球		
		205		
		21, 214, 448, 579, 875		
		顎頭軸		
		付録 50		

顎路型咬合器	213	139	眼窩点	221, 984	関節部	139, 214, 364, 579, 762, 875		
	364	付録 35	顔弓	付録 229	間接法	1139, 1179		
顎路きょう導板	付録 52		冠橋義歯学	付録 77	関節包	155, 174		
顎路傾斜角	892		冠橋義歯補綴学	付録 77	関節包・靱帯障害	173		
顎路指導	579		顔形	598	関節隆起	697		
顎路指導機構	875		嵌合	415	完全自浄型	907		
顎路指導板	214		嵌合効力	224	完全自浄型ポンティック	230		
	205	付録 52		411, 655	付録 56	完全焼結型ブロック	592	
顎路指導部			嵌合力	225	224	付録 56	眼点	221, 984
	21, 215, 448, 579		感作性	292			寒天アルジネート連合印象	231
顎路指導要素	364		眼耳平面	付録 237			寒天印象	232
顎路調節			患者可撤式	60			寒天印象材	231, 232
	212, 624, 756, 757		換床	付録 266			カントウア [歯の]	233
顎路調節機構	215	364	緩衝	付録 271				86, 597
下腕	429		緩衝腔	226	332		間入義歯	付録 180
冠	216	301	環状鉤	227			乾熱重合	1158
緩圧型	454, 500, 625, 864			77, 90, 303, 346, 409, 429, 451, 753, 854, 869, 1163			Camper 線	234, 984
緩圧型アタッチメント	217			付録 57			Camper 平面	234
緩圧型維持装置	218	219	緩衝能	747				387, 606
	付録 53		緩衝部	226			顔面印象	235
緩圧型支台装置	219		嵌植義歯	付録 12			顔面インプラント	236
	220	付録 53	間接維持	317			顔面エビテーゼ	237
緩圧機構	217		間接維持装置	228	229			235, 236, 239, 240
緩圧作用	220			付録 58			顔面計測法	238
緩圧性連結	付録 215		関節円板	100, 101, 102, 170, 175, 307, 1021, 1132			顔面欠損	239
緩圧性連結装置	付録 54		関節円板障害	173			顔面神経	92
緩圧装置	220	付録 54	関節窩	767			顔面補綴	240
陥凹	30, 890, 1173		間接訓練	648			顔面補綴装置	177, 235, 236, 239
眼窩	358, 622		関節結節	74, 101, 461, 767			顔面輪郭	70
眼窩下縁	221, 984		関節雑音	173, 775				
眼窩下点	221		間接支台装置	229				
	513, 606, 684			620, 745, 971, 1115				
感覚異常	222	223		付録 58				
	付録 55		関節頭	159				
間隔尺度	468, 1095		関節突起	159				
感覚障害	223	付録 55						
眼窩骨縁	221							

き

キー	241
キーアンドキーウェイ	241

	906	1161, 1162, 1165	791, 961, 1139, 1142
キーウェイ	241	義歯安定剤 246	付録 64
Gysi の軸学説	425, 686, 1020	義歯刻印 247 810	義歯床負担域 255
Gygi 法	399	付録 191	283, 351 付録 65
キーパー	242 543	疑似歯肉 596	義歯床用樹脂 862
キーパーボンディング法	11, 39, 249, 250, 251, 254, 259, 260, 287, 295, 332, 338, 342, 399, 403, 414, 533, 560, 576, 582, 583, 584, 596, 620, 679, 745, 770, 917, 955, 971, 1091, 1101, 1112, 1131, 1142, 1156, 1158, 1159, 1161, 1175	義歯床 248	義歯性潰瘍 256
キール	243	義歯床縁 558, 559, 561, 866, 917, 1036	義歯性口腔粘膜症 257 250 付録 62
器械測色法	704	義歯床縁形態 288	義歯性口内炎 258 809
機械的結合	1048	義歯床下支持組織 255	義歯性線維腫 259
機械的刺激	250, 256, 258, 983	義歯床下粘膜 249 226, 250, 265, 350, 566, 743, 791, 1036, 1131, 1139 付録 61	義歯設計 479
機械的清掃	809	義歯床下粘膜異常 250 256, 258 付録 62	義歯洗浄剤 260 809
機械的慢性刺激	259	義歯床基底面 付録 64	器質的構音障害 326
義顎	244	義歯床筋圧面 付録 63	基準水平面 538
技工用デスクトップスキャナー	333, 334, 612, 613	義歯床形態 883	基準線 546
義歯	245 8, 12, 30, 37, 106, 118, 124, 128, 136, 178, 186, 187, 196, 217, 219, 229, 246, 248, 249, 250, 251, 252, 254, 255, 256, 258, 259, 260, 263, 265, 296, 303, 317, 351, 385, 391, 394, 405, 413, 447, 459, 473, 477, 479, 483, 527, 529, 545, 559, 560, 599, 603, 620, 652, 669, 679, 700, 765, 784, 806, 808, 812, 860, 862, 883, 898, 928, 930, 938, 939, 942, 952, 969, 974, 975, 999, 1007, 1013, 1019, 1066, 1112, 1125, 1127, 1136, 1137, 1143, 1144, 1153,	義歯床研磨面 251 243, 921, 961, 999 付録 63	基準点 206, 644, 871
		義歯床研磨面形態 1100	基準平面 150, 757, 953
		義歯床後縁 252 1	基準面 386
		義歯床支持域 253 255 付録 65	義歯用ブラシ 542, 809
		義歯床粘膜面 254 19, 20, 226, 255, 295,	既製アバットメント 190
			既製人工歯 294, 453, 473
			既製トレー 54, 872, 1011, 1101
			既製ポスト 553, 1058
			基礎床 261 243, 377, 382
			拮抗作用 [義歯の] 262 付録 66
			拮抗的 3
			拮抗腕 263 429 付録 67
			基底結節 317, 1170
			基底結節レスト 1161
			基底面 28, 123, 772, 907, 936, 955, 973, 1028, 1072, 1111, 1126, 1128
			希土類磁石 264
			機能圧 217, 219, 251, 351, 484, 506, 928

機能異常	88, 170	ト	277	局部床義歯	285 975
機能印象	265	CAD/CAM 冠	278 279		付録 230
	124, 350, 1062		付録 71	局部床義歯学	付録 231
機能運動	85, 417	CAD/CAM クラウン	279	局部床義歯補綴学	286 976 付録 231
機能運動経路	85		付録 71	局部トレー	1011
機能咬頭	266 736, 932	CAD/CAM デンチャー	280 800	虚弱	110
機能障害	88, 175, 239, 245, 384, 542, 646, 647, 694		付録 188	筋	151, 174, 291, 297, 748
機能性嚙下障害	267	吸引	899	筋圧	287
	付録 68	QOL	1086	筋圧維持	287
機能性反対咬合	909	旧義歯	37, 743	筋圧形成	288
機能側	付録 173	白後三角	281		577 付録 74
機能の運動路法	268 85		130, 842, 1164	近遠心鈎	289 1152
	付録 18	白後腺	1164		付録 273
機能の構音障害	326	白後パッド	付録 278	近遠心的	418
機能の咬合面形成法	1180	白後隆起	付録 278	筋活動	722
機能の咬頭路描記法		白歯後豊隆	付録 278	金銀パラジウム合金	678
	付録 18	白歯後隆起	付録 278	筋形成	290 288 付録 74
機能的人工歯	269 付録 69	白歯離開咬合	282	金合金	11, 190, 678, 856
機能の正常咬合	270		111, 922 付録 72	均衡側	付録 221
機能の不正咬合	271	吸水性	1157	筋触診法	291
機能の模型	85	急性炎症	36	近心	827, 1094, 1115
基本的下顎運動	272	鳩尾形	1001, 1053	近心傾斜歯	1001
脚部	1013	白磨	266, 720	近心レスト	3, 1161
キャストابلセラミックス		白磨運動	付録 75	金属	655, 946
	273	橋義歯	付録 238	金属アレルギー	292
キャストイングライナー		頬骨	357, 359, 939	金属加強ポーセレンブリッ	
	274 付録 70	頬骨弓	358	ジ	1047
キャストオン法	942	頬舌的	418, 735, 909	金属冠	293
キャストクラスプ	付録 181	頬側咬頭内斜面	989		13, 127, 666, 681, 802,
キャストサポート	275	頬側床翼	583		841, 1077, 1160
	1075	頬側柵	付録 73	金属歯	294 594
キャストレス	543	頬側バー	132	金属床	295
キャップ	276, 834, 1097	橋体	付録 257		248, 770, 1182
キャップ型	535	頬柵	283 付録 73	金属床義歯	296
キャップクラスプ	276	頬粘膜圧痕	284		772, 888, 961, 995
CAD/CAM アバットメン		局部義歯	付録 230	金属線	484
		局部義歯学	付録 231		

金属箔	226, 819	クラウンブリッジ補綴学	302 付録 77	クレンチング	312
金属ピン	954	クラウン辺縁	597	クローズドトレー法	53
金属摩擦	837	クラスプ	303	クロスバイト	付録 99
金属焼付陶材冠	付録 194	9, 99, 136, 227, 327, 338,		Krol 型	3
金属焼付ポーセレン冠	付録 194	429, 451, 501, 556, 563,			
筋電図	297	584, 623, 662, 695, 769,		け	
筋電図検査	297	847, 862, 866, 869, 885,		形成外科手術	618
均等色空間	89	1013, 1081, 1130, 1147,		継続歯	313 1059
筋突起	130, 842	1161, 1170, 1182		付録 253	
筋肉位 [下顎の]	298	付録 78		形態異常	
筋把握法	291	クラスプアーム	付録 104	170, 175, 331, 1069	
筋膜	174	グラスファイバー	958	形態見本	1099
筋膜痛機能障害症候群	付録 19	クラスプサバイヤー	付録 116	経鼻の持続陽圧呼吸療法	
		クラスプショルダー	付録 91	314 103 付録 82	
		クラスプライン	付録 87	外科処置	100, 618, 1068
		クラッチ	673, 911, 951	外科的再建手術	239
		Kratochvil 型	3	外科的切除	332, 578
		グラフィック法 [下顎運動	304 330	結合組織性附着	637
		の]		結合力	655
		クリアランス	305	結紮法	484
		Christensen 現象	306 777	結晶化	273
		クリッキング	307	結晶構造	591
		171 付録 79		欠損	302, 315, 316, 331,
		グループ	1053	507, 580, 596, 1069	
		グループファンクション	308 1023	欠損歯列	315
		グルコース	722	欠損部	
		グレージング	309	58, 229, 244, 812, 1111	
		1108 付録 80		欠損部顎堤	
		グレース	付録 80	28, 128, 186, 339	
		クレピタス	310 311	欠損様式	763, 1115
		付録 81		血糖測定器	722
		クレピテーション	311	Kennedy の分類	316
		171 付録 81		1115	
				Kennedy バー	317
				1170 付録 83	
				Kelly's 症候群	318 452

	付録 109	口蓋咽頭筋	877	口峽	446
ゲル	22	口蓋杆	付録 212	咬頬	405
臑	174	鉤外形線	327 付録 87	咬筋	291
限界運動	352, 697	口蓋後縁封鎖	328	咬筋触診法	291
限界運動路	151, 212	口蓋床	329	咬筋前縁部	291
研究用模型	319		623, 652, 846, 903	咬筋把握法	291
	128, 437, 479, 577	口蓋小窩	423	口腔インプラント	339
	付録 84	口蓋振動線	付録 1		58, 993 付録 89
言語障害	326, 1044	口蓋舌弓	446	口腔外補綴装置	177
検査用グミゼリー	722	口蓋側	118	口腔顎系	付録 47
犬歯白後隆起線	320 876	口蓋粘膜	533	口腔乾燥	341
	付録 205	口蓋板	118	口腔乾燥症	340
犬歯尖頭	950	口蓋帆挙筋	1		747 付録 90
犬歯保護咬合	付録 85	口蓋帆張筋	1	口腔関連 QOL	580
犬歯誘導咬合	321	口外描記法	330 304, 435	口腔期	92, 645
	111 付録 85	口外法ゴシックアーチ描記		口腔機能	76, 110
研磨	491	装置	673	口腔機能障害	180
研磨材	491	口蓋補綴	331	口腔機能低下症	341
研磨面	576	口蓋麻痺	326	口腔前庭	342
		口蓋隆起	332 889, 1142		132, 558, 561
		口蓋裂	106, 326, 621, 903	口腔相	645
		口角	336, 939, 1100	口腔底	343 413
		光学印象採得	333		付録 103
			613 付録 88	口腔内記録装置	673
		口角結節	付録 262	口腔内スキャナー	344
		光学咬合採得	334		333, 334, 612, 613
		後顎舌骨筋窩	335	口腔内装置	345
		口角線	336 949		115, 158
		硬化膨張	274, 851	口腔内補綴装置	177
		鉤間軸	付録 134	口腔粘膜	256
		槓杆線	付録 134	口腔不潔	341
		鉤間線	337 549 付録 134	鉤肩	346
		鉤脚	338		409 付録 91
			9, 90, 227, 409, 584,	咬交	347
			792, 1163	咬合	348
		鉤脚部	563		180, 271, 347, 353, 354,
		考究用模型	付録 84		360, 366, 368, 369, 384,

397, 486, 554, 603, 606,	205, 212, 214, 365, 366,	598, 757, 826, 1050, 1181
633, 649, 668, 738, 748,	372, 384, 388, 448, 513,	咬合状態 142, 358
755, 784, 811, 878, 911,	554, 567, 574, 579, 624,	咬合小面 378
922, 934, 1004, 1019, 1136	642, 643, 671, 756, 776,	347, 425, 990, 1020
咬合圧 349	779, 781, 786, 806, 875,	付録 96
255, 265, 506, 679, 801,	910, 911, 923, 953, 962,	咬合小面学説 378, 425,
952	963, 1016, 1075, 1076,	686, 1020
咬合圧印象 350 126	1134 付録 93	咬合診断 372
咬合圧負担域 351	咬合器再装着 365	咬合性外傷 379 1150
12, 220 付録 92	1134 付録 94	咬合接触 380
咬合位 352	咬合器再付着 付録 94	6, 91, 194, 308, 321, 353,
111, 154, 157, 298, 353,	咬合器装着 366 付録 95	357, 363, 365, 373, 374,
370, 654, 685, 710, 768,	咬合機能 193	375, 381, 392, 426, 473,
1038	咬合器付着 付録 95	585, 616, 668, 675, 692,
咬合異常 353	咬合局面 付録 96	696, 721, 736, 775, 777,
109, 111, 354, 775	咬合挙上 367 1068	787, 934, 1041, 1136, 1137,
咬合違和感症候群 354	咬合記録 368	1161
咬合印象 355	咬合検査 369	咬合接触状態 722
咬合印象用トレー 355	咬合検査機器 369	咬合接触面積 730, 994
咬合円錐 356 499	咬合高径 370	咬合相 721, 725
付録 120	29, 104, 122, 144, 168,	咬合調整 381 141, 194
咬合音 357	238, 367, 370, 395, 405,	咬合堤 382
358, 359, 775, 821	426, 435, 677, 709, 787,	191, 261, 306, 377, 757,
咬合音検査 358	871, 882, 884, 925, 926,	811, 949, 962 付録 97
咬合音分析装置 359	992, 1156, 1176	咬合の支持 243
咬合窩 932	咬合再構成 371 111	咬合の不調和 383
硬口蓋 423, 808	601 付録 26	咬合病 383
咬合学 360	咬合採得 372	咬合分析 384
咬合滑面板 361 361	291, 370, 387, 395, 811,	咬合平衡 385
咬合関係 362	872, 884, 949	473, 777, 901, 1092
6, 128, 284, 355, 381,	咬合採得法 96, 144, 826	咬合平面 386
384, 1139	咬合紙 373 369, 668	71, 191, 234, 283, 284,
咬合干涉 363	咬合支持 374 96, 1173	405, 452, 606, 633, 644,
358, 417, 692, 1162	咬合支持域 375 6	717, 787, 812, 816, 892,
咬交器 付録 93	咬合斜面板 376	902, 943, 1028
咬合器 364	咬合床 377	咬合平面設定板 387
21, 139, 147, 162, 194,	234, 261, 306, 350, 387,	付録 98

咬合平面測定基準板		咬合力測定法	395	43, 90, 429, 477, 866, 885,
付録 98		咬合力低下	341	1015, 1130, 1170, 1175
咬合平面板	388 1075	咬合力分布	394	付録 102
咬合平面分析板	389	咬合彎曲	396	酵素 260
咬合面	7, 9, 10, 90, 115,		389, 717, 777, 812, 1105	鉤体 409
116, 118, 140, 141, 251,		咬座印象	397	90, 227, 346, 429, 695,
276, 294, 348, 362, 378,		交叉咬合	398	885, 1130, 1147, 1161
387, 394, 396, 425, 445,			909 付録 99	後退運動 [下顎の] 410
473, 499, 567, 649, 665,		交叉咬合排列	399 400	咬断 266, 720
695, 719, 732, 736, 765,		交叉咬合用人工白歯		鉤端 付録 102
787, 802, 811, 840, 852,			付録 100	合着 411
994, 1001, 1013, 1026,		交叉咬合用人工歯	400	193, 411, 655, 772
1092, 1102, 1149, 1180			付録 100	合着材 224, 840
咬合面窩	266, 532, 932	鉤歯	401 548 付録 133	合着操作 555
咬合面間	393	硬質レジン	402 453	合着用セメント 412
咬合面間距離	390		付録 110	口底 413
咬合面間記録	付録 10	硬質レジン歯	403 594	1145 付録 103
咬合面形態		硬質レジンジャケットクラ		合釘 付録 252
85, 194, 294, 554		ウン	404 1157	合釘孔 付録 254
咬合面再形成 [義歯の]			付録 275	後堤法 414
391		鉤指導線	付録 117	合釘保持孔 付録 254
咬合面側	501	咬傷	405	光電色彩計 704
咬合面レスト		鉤状切痕	付録 211	後天的欠損 498
77, 1161, 1163		甲状軟骨	913	咬頭 105, 107, 389, 400,
咬合ユニット	752	口唇	81, 109, 325, 342,	415, 417, 532, 892, 1180
咬合様式	392		561, 808, 1127, 1173	咬頭嵌合 415 878
194, 282, 308, 321, 653,		咬唇	899	咬頭嵌合位 416
786, 901, 990, 1041, 1087,		口唇接合線	406 付録 101	91, 96, 105, 107, 118, 142,
1102, 1137, 1143		口唇閉鎖線	407 406	143, 152, 154, 201, 361,
咬合力	393		付録 101	366, 367, 369, 374, 375,
98, 187, 220, 248, 250,		構成要素	248, 296, 535,	376, 392, 398, 410, 461,
350, 351, 379, 381, 457,			632, 765, 1167	462, 473, 513, 532, 567,
530, 534, 675, 722, 956,		更生用装具	694	568, 569, 633, 653, 685,
1142, 1143, 1161, 1162		咬舌	405, 899	696, 706, 710, 721, 736,
咬合力計	394	鉤切痕	付録 211	749, 768, 779, 787, 811,
咬合力検査	394	鉤先	付録 102	823, 826, 909, 922, 1021,
咬合力測定装置	395	鉤尖	408	1038, 1087, 1176, 1177

咬頭干涉	417	口裂	342, 926, 1173	330, 422	付録 106
363, 381, 823, 989		鉤腕	429	個歯トレー	436
咬頭傾斜	603, 922, 1176	4, 43, 77, 90, 227, 262,		519	付録 107
咬頭傾斜角	418	263, 303, 317, 346, 408,		個人トレー	437
141, 269, 473, 1092		409, 429, 501, 557, 695,		54, 128, 519, 1011, 1050	付録 108
咬頭・鼓形空隙関係	419	753, 854, 866, 869, 885,		固着式固定法	75
咬頭歯	付録 36	1013, 1015, 1130, 1135,		固着式模型	438 519
咬頭・小窩関係	420	1147, 1163, 1170	付録 104		付録 126
咬頭人工歯	付録 36	誤嚥	93, 95, 133, 913	骨格性反対咬合	909
喉頭侵入	95	誤嚥性肺炎	809	骨結合型インプラント	439
咬頭頂	677	コーヌス角	430	120	付録 30
咬頭展開角	421		431, 444	骨植	828, 1144
咬頭・辺縁隆線関係	419	コーヌスクローネ	1022	骨植不良歯	454
喉頭摩擦音	326	コーヌステレスコープ		骨膜	440
口内描記法	422 435		430, 444	骨膜下インプラント	440
口内法ゴシックアーチ描記		コーヌステレスコープクラ			582
装置	947	ウン	431 802	骨面	255, 281, 440
硬軟口蓋境界部	423	コーピング	53, 210, 1150	骨隆起	161, 332, 1142
後パラタルバー	895	コーピング印象	432 942	固定	75, 317, 338, 484, 1144
後方運動	425		942	固定式	60
後方滑走運動	194, 1094	語音明瞭度検査	433 325	固定性	454, 500, 864,
後方基準	1164	呼吸鼻漏出	940, 1000		906, 1166
後方基準点	424	呼吸用チューブ	235	固定性アタッチメント	506
574, 606, 684, 781, 962,		呼吸流	79	固定性部分義歯	974
963, 1017		国際照明委員会	89	固定性ブリッジ	441
後方咬合小面	425	鼓形空隙	434	32, 593, 974, 986, 1042,	1054
後方指導	付録 251	5, 9, 587, 597, 695		固定性補綴装置	442
後方側方滑走運動路	715	付録 105		44, 111, 245	
後方誘導	付録 251	ゴシックアーチ	18, 151,	固定性連結	443
咬耗	426	155, 435, 697, 714, 715,		13, 442, 1077	
10, 367, 383, 426, 821,		947, 948		固定装置	445, 977
823, 992, 1156		ゴシックアーチトレーサー		固定部	500, 506, 890, 1079
咬耗症	426	435, 674		コネクター	付録 279
口輪筋	939, 1100	ゴシックアーチトレーシ		コノメータ	444
高齢化社会	427	グ	付録 106		
高齢化率	427, 428, 774	ゴシックアーチ描記板	749		
高齢社会	428	ゴシックアーチ描記法	435		

コバルトクロム	279	付録 110	最大豊隆線 [歯の]	466
4/5冠	445 977, 1151	根面	106, 454, 457, 794,	499, 556
ゴムリング	112		1059	最大豊隆部
固有口腔	446	根面アタッチメント	454	30, 466, 479, 501, 502
孤立歯	869		8, 106, 112, 455, 890	彩度
コルベン状態 [床緑の]		付録 111		468 1083
	447	根面形成	455	サイドシフト
根管	1008	根面形態	456	469 935
根管治療	1068	根面板	457	作業側
混合型	469		106, 455, 456, 1059, 1097	470
混合負担 (支持) 付録 128				308, 385, 425, 471, 671,
コンダイラーガイダンス				707, 721, 941, 989, 990,
	付録 251			1030, 1040, 1041, 1136,
コンダイラー型咬合器	448			1137 付録 113
	364, 579, 697			作業側下顎頭運動経路
コンダイル	21, 448, 875			471
コンタクトゲージ	449			作業側側方顎路
	509, 510			471
コンタクトポイント				作業側側方顎路傾斜 (度)
	450 649 付録 157			471
コンディショナー	232			作業模型
コンティニュアスクラspb				付録 114
	付録 280			作業用模型
コンデンス	818			472
コンデンス法	818			15, 53, 59, 226, 479,
コンニャク状顎堤 付録 236				518, 519, 577, 596, 597,
コンビネーションクラスプ				624, 755, 812, 917, 966,
	451 856			968, 970, 1012, 1026,
コンビネーションシンド				1062, 1088 付録 114
ローム	452 付録 109			割合 [人工歯の]
コンピュータ支援	277			473
コンプリートデンチャー				20, 381, 397, 554,
	付録 163			821, 1156
棍棒	447			Saxon テスト
コンポーネント	14, 53			474 475
コンポジットレジン	453			付録 115
	279, 505, 655, 1157			Saxon 法
				475 付録 115
				撮像
				709
				Sadrin の法則
				549
				サドル
				837, 867
				サブストラクチャー
				476 208 付録 51
				サブリンガルバー
				1145
				サバイヤー
				477
				31, 466, 478, 479, 817,

さ

サーカムファレンシャルク				
ラスプ	付録 57			
サーバイヤ	付録 116			
サーバイヤー	付録 116			
サーベイライン	付録 117			
最後退位	435			
最後方位	155, 572			
最終印象	458 638			
	付録 154			
最終義歯	459			
	191, 483, 743, 784			
最終上部構造	701			
最終補綴装置	460			
	193, 601			
最小圧印象	付録 261			
最小発音空隙	83, 882			
最前方咬合位	461			
再装着	806			
最側方咬合位	462			
最大開口位	463 464			
最大開口距離	付録 112			
最大開口量	464			
	129 付録 112			
最大筋力点	395			
最大咬合力	465 394, 395			

歯冠色材料	505	軸面傾斜角	515	795	歯根膜粘膜支持	524	526
歯冠色陶材	25			付録 187			付録 128
歯冠色レジン	1160	軸面形成	516	852	歯根膜粘膜支持義歯		
歯冠長	1150	軸面形態		233		525	527 付録 129
歯冠長延長術	979	歯型		517	歯根膜粘膜複合負担(支持)		
歯冠内アタッチメント	506		518, 519, 597, 746, 755,				付録 128
	8, 890, 1079		834, 942, 968, 1012, 1179		歯根膜粘膜負担		526
視感比色法	704	歯型可撤式模型		518			付録 128
歯冠補綴架橋義歯学			746, 942	付録 125	歯根膜粘膜負担義歯		527
	付録 77	歯型固着式模型		519		536	付録 129
歯冠補綴架工義歯学			968	付録 126	歯根膜負担		528
	付録 77	歯頸線		581		1125, 1165	付録 130
歯冠補綴橋義歯学	付録 77	歯頸側辺縁形態		付録 127	歯根膜負担義歯		529
歯冠補綴装置	507	歯型トレー		付録 107			付録 131
	30, 42, 86, 193, 293, 301,	歯頸部		19, 559, 597	シザーズバイト		付録 206
	564, 614, 637, 659, 681,	歯頸部辺縁形態		520	支持		530
	795, 888, 946, 965, 977,		565, 589, 844, 964,			3, 8, 12, 77, 197, 249, 254,	
	1004, 1053, 1058		1032, 1033	付録 127		303, 547, 548, 551, 701,	
	付録 123	刺激時唾液分泌量		475		765, 865, 939, 1115	
歯間離開	508 992	刺激値直読方式		704			付録 132
歯間離開度	509	歯根		106, 503, 1149	支持域		6
	449, 510, 587	歯根アタッチメント		付録 111	歯軸		531
歯間離開度検査	510			521		71, 418, 466, 499, 556,	
色相	511 1083	歯根円錐		521		609, 1032	
色相環	511			付録 139	支持咬頭		532
色調	512	歯根破折		457, 965	歯質		134, 580, 657, 1069,
色調安定性	1155	歯根表面		801		1122, 1124	
色調選択	512	歯根表面積		32, 1063	歯質削除量		500, 506, 564,
	704 付録 124	歯根膜		197, 351, 465, 526,		589, 954, 956	
色調見本	493		527, 528, 529, 952		支持粘膜		533
磁気的吸引力	543	歯根膜感覚		106	支持能力		534
歯齧圧排	付録 138	歯根膜支持		522 528	磁石		242
軸学説	378			付録 130	磁石構造体		535
軸眼窩平面	513	歯根膜支持義歯		523 529		242, 543, 875	
軸面	514			付録 131	歯周疾患		484, 510, 536,
	30, 430, 431, 444, 516,	歯根膜粘膜混合負担(支持)		付録 128		587, 979	
	795, 1053				歯周組織		131, 379, 452,

	602, 1149, 1150	習慣性閉開口運動	568	腫瘍	172, 176, 178, 180,
歯肉圧排	555 付録 138		749		188, 189, 237, 239, 240,
歯肉縁	597, 1149	習慣性咬合位	569		244, 331
歯肉縁下	555, 637	習慣性咀嚼側	570	腫瘍類似疾患	172
歯肉円錐	556 付録 139		付録 142	準解剖学的人工白歯	
歯肉型クラスプ	557	習慣性閉口路	585		付録 69
	1175 付録 140	重合	20, 453, 806, 1074,	準解剖学的人工歯	付録 69
歯肉頬移行部	558		1158, 1171	準解剖的人工白歯	付録 69
	452, 561	縦走部	563	準解剖的人工歯	付録 69
歯肉形成	559	充填用材料	493	純パラジウム	1046
	79, 884, 1171	周波数	359, 828	準備印象	付録 32
歯肉經由型クラスプ		修復	755	準備期	645
	付録 140	修復材料	564	床縁	576
歯肉溝	637	修復物	224, 305, 411, 507,		128, 130, 577, 583, 938
歯肉鉤	560		565, 589, 626, 655, 888,		付録 145
歯肉色	1158		968	常温重合	1158
歯肉唇移行部	561	修復物辺縁	520	常温重合レジン	436, 437, 834
歯肉切除	1068	修復物辺縁形態	565, 589,		1001, 1053, 1162
歯肉粘膜	561, 918		844, 964, 1032, 1033	小窩	
雌部	付録 258	終末位	569	床外形縁	577
節分法 [咀嚼能率の]	562	終末蝶番位	571	上顎義歯	619
社会生活行為	542	終末蝶番運動	572	上顎結節	578
Jackson クリブクラスプ			付録 143		452, 560, 893
	563 227	終末蝶番軸	573	上顎歯肉唇移行部	259
嚼面充実金冠	10		206, 574 付録 144	上顎切痕	付録 211
嚼面鑄造冠	10	終末蝶番点	574	上顎法	598, 805
ジャケット冠	付録 141	縮重合型	590	上顎補綴装置	376
ジャケットクラウン	564	縮図器	911	床下粘膜炎	付録 61
	25, 273, 453, 589, 681,	樹脂含浸層	655	床下粘膜炎治療	784
	1033 付録 141	手掌の幅	238	床義歯床	578
射出	1158	主咀嚼側	付録 142	上気道	158, 610
射出成形	248	腫脹	250	上気道の閉塞	103
射出成形レジン	1159	術後即時顎補綴装置	575	上弓 [咬合器の]	579
写真法	147	術者可撤	659		21, 205, 364, 366,
シャンファー型	565 520	術者可撤式	60, 614		448, 554, 642, 1076
手圧印象	566	術者可撤式暫間補綴装置		症型分類 [補綴治療におけ	
自由運動咬合器	567 923		813	る]	580

上下口唇	709	初期接触	585	ジルコニアブロック	592
焼結法	293	食形態調整	586	歯列 6, 316, 362, 394, 437,	
床後縁	328	触診	221, 423	446, 602, 752, 756, 764,	
床交換	付録 266	食道	267	967, 974, 975, 976, 1069,	
小口症	1007	食道期	92, 645	1115, 1116	
床周縁	付録 145	食道相	645	歯列印象	834
上唇	81, 406, 581, 925,	食片圧入	587	歯列弓	342, 398, 999
	939		509, 510, 1153, 1161	歯列咬合面記録	1134
上唇小帯	342	食物	718	歯列接触癖	855
上唇線	949	食物残渣	5	歯列不正	405
少数残存歯症例	106, 860	食物摂取	446, 720	歯列模型	
少数歯欠損	623, 975, 986	食物粉碎	729	518, 519, 968, 1012	
焼成	25, 309, 1047, 1048	食物粉碎度	588 728	磁路	535
笑線	581	植立	595, 618	シロキサン結合	655
小線源	618	食塊	93, 570, 645, 718,	シロナソグラフ	148
床装置	329		730, 913, 1040	真菌	809
使用側	付録 113	ショルダー		シングルデンチャー	593
小帯	4		761, 888, 1033, 1119		付録 148
小帯切除術	1068	ショルダー型		神経麻痺	621, 846
上皮性付着	603		589 520, 1032, 1033	人工材料	553
上皮剝離	256	ショルダーレス型		人工歯	594
上部構造(体) [インプラン			520, 844, 964	19, 20, 81, 84, 141, 178,	
トの]	582	シリカ	113, 114	244, 248, 251, 269, 362,	
	7, 14, 56, 59, 86, 339,	シリコン検査材	369	378, 381, 382, 393, 399,	
	741, 765, 829, 886, 942,	シリコンゴム	797, 996	400, 425, 465, 473, 493,	
	1109	シリコンゴム印象	590	545, 559, 582, 598, 603,	
床辺縁	付録 145	シリコンゴム印象材		641, 679, 719, 735, 772,	
床用材料	821		355, 373, 590, 850	787, 821, 862, 883, 884,	
床用人工歯	294	シリンジ	232	938, 985, 1072, 1099, 1127,	
床用レジン	493, 560, 1159	シリンダーテレスコープク		1131, 1139, 1156	
床翼	583	ラウン	802	人工歯咬合面	391, 686
	122, 938 付録 146	ジルコニア	591	人工歯根	595 339
床翼部	999		113, 114, 190, 277, 279,	人工歯歯頸部	583
小連結子	584		1048, 1103 付録 147	人工歯選択	949
	39, 620, 971, 1167	ジルコニア系セラミックス		人工歯肉	596 597
上腕	429		505	人工歯肉付模型	597
ショートピン陶歯	955	ジルコニアフレーム	1048		付録 149

人工歯排列	598	水素ガス	789	スクリー固定式	614
336, 377, 397, 405, 545,		水素結合	655	659, 1109	
546, 1171		垂直アーム	429	スケルトン型	39
人工歯排列位置	122, 243	垂直顎間距離	付録 43	スタイラス	付録 224
人工歯排列法	399	垂直的顎位	604 151, 395	スタッドアタッチメント	
人工装置	245, 498, 1065	垂直的距離	107, 370	454 付録 111	
人工陶歯	955	垂直的咬合関係	142	スタディキャスト	付録 84
人工皮膚	493	垂直的咬合力	283	スタディモデル	615 319
人工物	595, 1066	垂直被蓋	605 107	付録 84	
診査用模型	付録 84		付録 25	スタビリゼーションアプ ライアンス	616
唇側バー	132	水平アーム	477	115 付録 153	
唇側面	1119, 1122	水平基準面	606	スタビリゼーションスプリ ント	617 616 付録 153
靱帯	151, 155, 174	234, 424, 513, 538, 540,		スチール板	509
診断用義歯	599 483, 969	684, 781, 984		ステレオ聴診器	358
診断用模型	付録 84	水平台	477	ステント	618 627
診断用ワクシング		水平的顎位	607	ステンレス鋼合金	11
600 601 付録 150		91, 291, 435		ストラップ	619 440, 619
診断用ワックスアップ	601	水平的顎間関係	749	ストレス	312, 383
付録 150		水平的距離	105	ストレスブレイカー	
伸展修復物	964	水平被蓋	608 105	付録 54	
振動音	357	付録 23		スパーク	620 1056
振動法	818	水平面	609	スパチュラ	811, 818
審美障害	602	212, 471, 708, 715, 776,		スパチュラ法	818
239, 245, 507, 979		912		スピーチエイド	621
審美性	123, 141, 180, 193,	睡眠時無呼吸症候群	610	9, 877	
210, 273, 391, 486, 559,		920 付録 151		Spee の彎曲	622
564, 596, 666, 794, 822,		スイングロックアタッチメ ント	1054	396, 665, 1106	
852, 907, 936, 938, 946,		スウェーデンのバナナ	1064	スピルウェイ	付録 199
956, 986, 1004, 1046,		スーパervalジエリア	499	スピンドル	477
1069, 1108, 1111, 1118,		スーパervalジクラスプ		スプーンデンチャー	623
1119, 1121, 1155, 1171		611 501 付録 121		スプリット	625
審美的修復	1122, 1160	スキヤナー	612 付録 152	スプリットキャスト	624
深部感覚	223	スキヤンボディ	613	365	
		スクリーニング	913, 940	スプリットバー	625 220
		スクリー	7	スプリットボール型	535

す

随意運動	570, 645
推進現象 [義歯の]	603

スプリットマウンティング プレート	624	清掃性	230, 536, 907, 936, 1111	686, 843, 852, 937, 1026, 1081, 1105, 1149
スプリング	217	静態印象	付録 261	切縁溝 1119
スプリンティング	626	生体材料	58	切縁咬合 付録 158
スプリント	627	正中口蓋縫合線	1028	切縁レスト 971, 1161
スパーサー	669, 867	正中矢状面	708, 1064	石灰化 1081
スペース	217	正中線	635 636, 672, 949	舌下腺 413
スライス型	1119	正中パラタルバー	895	設計 477
スライスカット	1119	正中面	636 609	石膏 22, 85, 235, 275, 641, 757, 806, 851, 1002, 1005, 1074
スライド型アタッチメント	632	静的印象	付録 261	石膏印象 1011
スライド型連結装置	241	静的パラトグラム	898	石膏系 192
スリークォータークラウン	628 1119 付録 265	生物学的幅径	637	石膏コア 641
3D スキャナー	629 612 付録 152	性別	84, 598	舌口唇運動機能低下 341
3D デジタイザー	630 612 付録 152	正放線投影法	503	石膏模型 319
3D プリンタ	631 1158	精密印象	638 577, 590, 942, 1070 付録 154	舌骨上・下筋群 267
スリーブ	632 864	精密印象採得	436	切削加工 666
スリーポイントバランス	901	精密鑄造	964	切削加工法 293
スリット	625	生理学	845	切削形成 550, 658
すれ違い咬合	633	生理学的運動	362	切削用回転部 1022
スロット型	214, 364	生理学的下顎安静位	付録 38	切歯きょう導釘 付録 155
寸法安定性	590, 1070	石英	958, 1014	切歯きょう導板 付録 156
寸法精度	638, 1182	石英ファイバー	958	切歯指導 付録 6
		赤唇	1173	切歯指導機構 579
		積層一回印象	639 850 付録 200	切歯指導釘 642 554, 643, 651 付録 155
		積層印象法	235	切歯指導板 643 642, 651 付録 156
		積層造形法	631	切歯指導部 364
		セグメント	180	切歯点 644 151, 386, 461, 462, 650, 714, 715, 721, 1071
		舌	267	切歯乳頭 943, 1142
		舌圧痕	640	切歯誘導 (指導) 付録 6
		舌位矯正タイプ	158	舌習癖 640
		舌咽神経	92	舌小帯 413
		切縁	81, 83, 105, 107, 140, 348, 362, 378, 389, 473, 502, 649, 653, 654, 665,	

せ

清音	357
性格	84, 598
生活歯	1097
生活不活発病	634 874 付録 204
成形充填材	553
静止印象	付録 261
正常有歯顎者	569

摂食	181	接着法	1166	前歯部人工歯	70, 83
摂食嚥下	645 646	舌痛症	223	前歯誘導 (指導)	付録 6
摂食嚥下障害	646	舌背	405, 839	前処置	459, 479
92, 93, 95, 133, 647, 648		舌房	405, 876	全歯列型アプライアンス	
摂食嚥下リハビリテーショ ン	647 775	舌面	378, 956		616
接触滑走	410, 675, 683, 706, 721, 990	舌面形成	658	漸進型	469
接触関係	348	舌面レスト	1161	全身性疾患	172
摂食訓練	648	セメント	224, 411, 655, 765	全身性接触皮膚炎	292
接触性皮膚炎	292	セメント-エナメル境	140	前装冠	666
接触点	649	セメント合着	516, 589, 659, 794, 795, 822, 1033	453, 589, 681, 819, 995,	1033
510 付録 157		セメント固定式	659	前装鑄造冠	1078
切歯路	650	セラミック冠	841	前装部	666
212, 539, 540, 651, 776		セラミックス	113, 114, 655	前装用材料	493, 589, 597, 666, 1078
切歯路角	892, 1016	セラミング	273	栓塞部	667
切歯路調節機構	651 364	セラモメタルクラウン	660 819 付録 194	178, 766, 803	
切歯路描記法	付録 106	線維型	259	選択割合	668 554
舌接触補助床	652	線維腫	452	選択的加圧印象	669
舌尖	640, 1181	線維性増生	983	剪断咬頭	670 932 付録 220
舌側縁	640	線維部	252	全調節性咬合器	671
舌側化咬合	付録 272	全運動軸	661 206	364, 776, 912	
舌側咬頭内斜面	989	尖型	70	先天奇形	176, 178, 180, 188, 189, 237, 240, 244, 331
舌側床縁	184	線鈎	662	331	
舌側床翼	583	303, 451, 1163, 1165		先天性欠如	498
舌側面	7, 445, 658	付録 160		蠕動運動	645
切端咬合	653 付録 158	先行期	645	前頭面	672
切端咬合位	654	前後調節彎曲	663 777	71, 212, 471, 609, 735, 777	
接着 [修復物の]	655 411	前後的歯牙彎曲	664 665 付録 161	セントラルベアリングスク リュー	673 676, 947
接着機能性モノマー	87	前後的歯列彎曲	665	セントラルベアリングデバ イス	674
接着性	411	1105 付録 161		セントラルベアリングト レーシング	674
接着性材料	655	センサーアレイ	1084		
接着性セメント	656 655	前歯型アプライアンス	1140		
接着性ブリッジ	付録 159	前歯欠損	949		
接着性レジン	484, 1122				
接着ブリッジ	657 付録 159				

セントラルベアリングト レーシングデバイス	675	540, 554, 827, 990, 1087	装着材料	87	
セントラルベアリングプ レート	676	35, 221, 424, 606, 781, 953, 962, 963	装着方向	1151	
セントラルポイント	675	前方基準点	684	相補運動論の顎頭点	74
セントリックストップ	677	前方咬合位	685 654	相補下顎位	696 163
前パラタルバー	895	前方咬合小面	686	相補下顎運動	697 74, 164
腺部	252	前方指導要素	33	相補下顎運動検査	165
全部冠	付録 165	前方整位型アプライアンス	1132	即時加重	698 699 付録 168
全部金属冠	678 付録 162	前方チェックバイト	756	即時荷重	699 付録 168
全部欠損	593	前方転位	100, 102	即時義歯	700 483, 812
全部床義歯	679	前方誘導 (指導)	687 33 付録 6	即時暫間修復	701
198, 248, 252, 328, 347, 385, 452, 554, 593, 680, 777, 805, 853, 876, 882, 892, 901, 990, 1023, 1040, 1091, 1102, 1112, 1136, 1137, 1143	付録 163	全面均衡咬合	付録 268	即時暫間補綴	702 701 付録 169
全部床義歯学	付録 164	全面平衡咬合	付録 268	即時負荷	703 699 付録 168
全部床義歯補綴学	680 付録 164	そ			
全部鑄造冠	678	早期加重	688 689 689 付録 166	測色法 [歯冠色の]	704
全部陶材架橋義歯	付録 248	早期荷重	689 付録 166	即時離開咬合	282
全部陶材架工義歯	付録 248	早期型	469	測定杆	477
全部陶材橋義歯	付録 248	総義歯	690 679 付録 163	側頭筋	291
全部被覆冠	681	総義歯学	付録 164	側頭筋触診法	291
113, 125, 301, 564, 678, 946, 1046, 1047, 1155, 1157	付録 165	総義歯補綴学	691 680 付録 164	側頭筋前部	291
全部ポーセレンブリッジ	1047	早期接触	692	側頭筋把握法	291
前方位 [下顎の]	682	357, 359, 363, 381, 383, 749, 775, 1162	早期加重	側貌	81, 709, 938
756, 1132		早期負荷	693 689 付録 166	側方位 [下顎の]	705 756
前方運動 [下顎の]	683	装具	694	側方運動 [下顎の]	706 74, 205, 707, 960, 1030
767, 960		象牙細管	1081	側貌エックス線写真	234
前方滑走運動	194, 306, 308, 385, 537, 538, 539,	象牙質	17, 426, 655, 958	側方下顎限界運動路	18
		相互保護咬合	付録 260	側方滑走運動	194, 306, 308, 321, 385, 425, 469, 470, 471, 537, 538, 554, 714, 715, 933, 935, 989, 990, 1020, 1023, 1087, 1143
		増歯	37		
		双子鉤	695 227 付録 167		

126 付録 177	付録 200	チタン 190, 277, 279, 678,
ダイナミックナビゲーション 744	ダブルリンガルバー 317	918
ダイナミックパラトグラム 898	付録 83	チタン合金 11
第二象牙質 1081	ダミー 付録 257	窒息 93
大脳皮質 92	単一印象 750	着脱方向 30, 136, 477,
体部 54, 364, 579, 869	単一式模型 751 519	478, 479, 499, 556, 1088
耐摩耗性 294, 403, 821,	付録 126	着力点 454
1046, 1155, 1156	単位面積 349, 719, 916	チャンネル 761
ダイヤモンドポイント 668	単冠 445, 977, 1059	チャンネルシオルダーピン
大連結子 745	単斜面形態 456	761 496
39, 132, 299, 317, 429,	短縮歯列 752	チューイングサイクル
584, 619, 620, 625, 863,	単純鉤 753 227 付録 178	付録 172
865, 889, 894, 895, 896,	炭素棒 477	チューイン法 762
917, 971, 1144, 1145, 1146,	単歯冠補綴 819	422, 673
1167	単歯型 754 755	中間型 259
ダウエル 付録 252	付録 179	中間義歯 763 付録 180
ダウエルクラウン 付録 253	単歯型式模型 755	中間欠損 764 752, 967
ダウエルピン 746 518	付録 179	中間欠損義歯 付録 180
唾液 718	弾撥音 171, 307 付録 79	中間構造 (体) [インプラン
唾液嚙下 913	彈筆 304	トの] 765 582
唾液検査 747	単腕鉤 付録 178	中空型栓塞部 766 803
唾液分泌能検査 475		中心位 767
多官能性メタクリレート 453		682, 683, 705, 1019, 1037
濁音 357		中心窩 7, 399
タッピング 748		中心咬合位 768
359, 899, 978		144, 168, 370, 545, 668,
タッピング運動 749		1019, 1143
タッピングポイント 749		中枢神経 92
ダブルアームクラスプ 付録 243		鑄接 190
ダブル Akers クラスプ 付録 167		中切歯切縁間距離 464
ダブルクラウン 付録 189		鑄接法 543
ダブルミックス印象		鑄造 125, 273, 294, 482,
		496, 553, 666, 678, 819,
		867, 1074, 1182
		鑄造冠 10, 125, 822
		鑄造鉤 769
		77, 303, 451, 856, 1013,

ち

チェックバイト 756 365		
チェックバイト法 757		
遅延荷重 758 741		
付録 176		
遅延型アレルギー 292		
遅延負荷 759 741		
付録 176		
遅延離開咬合 282		
知覚異常 760 223		
223 付録 55		
築盛 25, 113, 114, 279,		
597, 789, 818, 1048, 1078		
築造 553		
築造体 1008		

1152, 1163 付録 181	蝶番型アタッチメント	T型分割腕鉤	856
鑄造コーピング 543	付録 226	低位咬合	787 96
鑄造収縮 125, 274, 1182	蝶番咬合器 779	低位歯	106
鑄造床 770 295, 970	923 付録 183	T字クラスプ	788 90
鑄造操作 279	蝶番軸 780	付録 20	
鑄造体 192, 553, 1088,	111, 513, 573, 781	Tスキャン	394
1089, 1097, 1129, 1179	付録 184	ディープシャンファー型	
鑄造バー 771 863	蝶番点 781		565
鑄造歪み 789	206, 424, 606, 951, 953	ディープバイト	付録 37
鑄造ピン 956	直後型 469	ディギャッシング	789
鑄造法 293, 769, 771, 794,	直接維持装置 782 783	抵抗	801
1109	付録 185	抵抗力	1063
鑄造ポスト 553	直接訓練 648	停止部	939
鑄造用リング 274	直接支台装置 783	ディスクルージョン	
中パラタルバー 895	1115 付録 185	790 282 付録 72	
チューブ陶歯 772	直接法 1139, 1179	低舌圧	341
調音 325	治療義歯 付録 186	ティッシュコンディショ	
調音検査 773 325	治療計画 599	ナー 791 1068	
付録 86	治療用義歯 784	ティッシュコンディショニ	
調音点 898	483, 969 付録 186	ング 791	
超音波洗浄 809	治療用器具 694	ティッシュストップ 792	
蝶形骨翼状突起内側板 893	沈下 4, 250, 530, 534, 971,	ディッピング法 1179	
超高齢社会 774	1013, 1144, 1161	ティナージョイント 793	
彫刻法 1179	沈殿法 818	Davis クラウン 794	
聴診 775		Davis 陶歯 794	
聴診器 357	つ	Tinker 型 1119	
聴診法 775 358	追跡管理 785 838	テーパー 795	
長石系陶材 505	付録 198	516, 795, 1027 付録 187	
長石-石英系陶材 25, 26	ツインステージ咬合器 786	テーパーツール 477	
調節機能 364	継ぎ手接合 589	適応反応 570	
調節性咬合器 776	坪根式バイトゲージ 871	適合 597, 794, 802	
215, 651, 671, 910	艶焼き 付録 80	適合検査材 796 996	
調節彎曲 777		付録 240	
396, 805, 892	て	適合試験 797	
蝶番 217, 779	Tアタッチメント 506	適合試験材 798 996	
蝶番運動 778	TMJ 咬合器 762	付録 240	
572, 573, 952 付録 182	T型クラスプ 1175	適合状態 797, 996	

適合性	30, 565, 812, 995, 1121	天然歯	86, 116, 140, 141, 381, 594, 719, 736, 808, 809, 821, 924, 1018, 1035		付録 194
デジタルインプレッション	799 <u>333</u> 付録 88	天然歯列	71, 396, 593, 1019	陶材溶着鑄造冠	付録 194
デジタルデンチャー	800 付録 188	転覆	549, 1041	陶歯	821
Duchange の指数	801	転覆試験	811		294, 594, 772, 794, 822
テレスコープクラウン	802 5, 127, 431, 496, 841, 930, 1022, 1165 付録 189	テンプレート	812	陶歯前装鑄造冠	822
転位	909	テンポラリーアバットメン ト	813 付録 192	陶歯前装ポストクラウン	
天蓋	803	テンポラリークラウン	814 <u>1003</u> 付録 241		1059
天蓋開放型栓塞部	803	テンポラリーシリンドー	815 <u>813</u> 付録 192	動側	付録 113
展開角	715			働側	付録 113
電氣的記録法	358			疼痛	88, 109, 173, 174, 179, 291, 383, 823, 1021, 1139, 1142
電氣的測定法	147			疼痛誘発テスト	823
電気メス	555			動的印象	付録 177
電極	898			動的嚥下障害	824 <u>267</u> 付録 68
Dentatus 咬合器	384, 910				
デンタルインプラント	804 <u>339</u> 付録 89			糖尿病	340
デンタルサバイヤー	付録 116			銅板	436
デンタルフロス	510			頭部後屈法	825 <u>826</u> 付録 195
デンタルミラー	1027			頭部後傾法	826 付録 195
Tench の間隙	805			DUML の法則	827
Tench のコア	806 365, 1134 付録 190			動揺	484, 627, 828, 1166
Tench の歯型	807 <u>806</u> 付録 190			東洋医学	1086
デンチャースペース	808 921			動揺歯	75, 445, 954, 956, 977
デンチャーブラーク	809 260			動揺度	828
デンチャーマーキング	810 付録 191			動揺度検査 [歯の]	828
デンティン用陶材	25			動力部	1022
				トップダウントリートメン ト	829 付録 196
				凸面形態	456
				トライポッドマーク	830 <u>817</u> 付録 193
				ドライマウス	831 <u>340</u> 付録 90
				トライメット	148

と

ドイツ水平線	984
投影距離	150
頭蓋	145, 364, 366, 672, 781, 962
瞳孔	221, 926
瞳孔・口裂	238
瞳孔・口裂間距離	238
瞳孔線	816
等高点	817 付録 193
陶材	13, 210, 279, 309, 564, 666, 789, 794, 818, 819, 821, 946, 1046, 1077, 1097, 1108
陶材ジャケットクラウン	付録 247
陶材築盛法	818
陶材ブリッジ	付録 248
陶材焼付冠	819 13, 210, 789, 822, 1077, 1097, 1098 付録 194
陶材焼付金属冠	820 <u>819</u>

トランスファー
574, 781, 953
トランスファーインデック
ス 832 834 付録 197
トランスファーキャップ
833 834 付録 197
トランスファーコーピング
834 942 付録 197
トランスファージグ
835 834 付録 197
取り囲み鉤 付録 57
取り込み印象 836 942
付録 223
Dolder バー 837 864
トレー 231, 232, 350, 397,
743, 1011
トレーサビリティ 838
付録 198
ドロップオンテクニク
1179
Donders の空隙 839
遁路 840
669 付録 199
な
内冠 841
5, 127, 430, 431, 802
内斜線 842 130
内斜面 421
内側フィニッシュライン
961
ナイトガード 843
ナイフエッジ型 844
520, 964
流し込み 1158
ナソヘキサグラフ 148
ナソロジー 845

ナソロジー学派 111, 1087
ぬい加工 113
軟口蓋 1, 325, 423, 446,
621, 808, 839, 846, 903
軟口蓋挙上型 621
軟口蓋挙上装置 846 621
軟質リライン材 1139
軟性樹脂 597
軟性レジン 560
軟組織 119, 129, 138, 914,
1026

に

ニアゾーン 847
4, 1015, 1147
肉芽型 259
二ケイ酸リチウム 1014
二ケイ酸リチウムガラス
505
二酸化ジルコニウム
848 591 付録 147
二次印象 付録 154
二次齶蝕 457, 1119
二次固定 849 276
二次固定効果 695
二重金冠 付録 189
二重同時印象 850
付録 200
二重埋没法 851
日常生活動作 542
ニッチ 956
日本補綴歯科学会 580
二面形成 852
乳頭状過形成 452
ニュートラルゾーン 853
243
二腕鉤 854

99, 227, 263 付録 201
認知期 645
認知行動療法 855

ね

Ney 社 856, 1013
Ney のクラスプ 856
熱可塑性 1101
熱可塑性樹脂 631, 862
ネック部 993
熱処理 789
熱膨張率 1048
粘液腺 1164
粘着力 246
捻髪音 171, 311 付録 81
粘膜 12, 61, 187, 249
粘膜下組織 187, 983
粘膜支持 857 859
付録 202
粘膜支持義歯 858 860
付録 203
粘膜上皮 413
粘膜静態印象 付録 261
粘膜調整 791
粘膜負担 859
669, 896, 1165
付録 202
粘膜負担義歯 860
679 付録 203
粘膜面 576
年齢 84, 598
の
脳梗塞 846
能力低下 647
ノギス 1026, 1027
ノンクラスプデンチャー

862
 ノンパラレルピンテック
 ク 861 954
 ノンメタルクラスブデン
 チャー 862

は

バー 863
 619, 771, 837, 864, 865,
 867, 895, 1022, 1054,
 1161
 バーアタッチメント 864
 8, 632, 837, 865, 867
 バー義歯 865
 バークラスブ 866
 303, 429, 451, 1175
 パーシャルカバリッジクラ
 ウン 付録 232
 バージョイントタイプ 864
 Hader バーアタッチメント
 867 864
 パーティカルピン 861
 ハードブローイング 868
 1000
 ハーフアンドハーフクラス
 プ 869
 ハーフクラウン 870
 ハーフバンド 456
 バーユニットタイプ 864
 バー用線 299
 肺活量検査 920
 排出路 840
 バイトアプライアンス
 付録 27
 バイトゲージ 871
 バイトトレイ 872 355
 バイトフォーク

275, 962, 1075
 バイトプレート 付録 27
 ハイドロコロイド印象
 付録 59
 ハイブリッド型コンポジット
 トレジクラウン
 873 1157 付録 275
 廃用症候群 874 付録 204
 廃用 (性) 萎縮 874
 ハウジング 875
 Pound 三角 876 付録 205
 Pound ライン 876
 歯ぎしり 付録 233
 破碎 730
 Passavant 隆起 877
 缺状咬合 878
 106 付録 206
 把持 879
 3, 8, 77, 303, 346, 409,
 429, 547, 548, 864
 把持力 327
 把持腕 880 263 付録 67
 8 インチ球面学説 付録 264
 7/8 冠 977
 発育異常 172
 発音 1, 83, 181, 207, 272,
 433, 486, 559, 652, 882,
 898, 921, 972, 978, 1072
 発音間隙 881 882
 付録 207
 発音機能 598, 907, 936,
 1171
 発音空隙 882 付録 207
 発音検査法 433
 発音試験 883
 発音利用法 884
 バッカルシエルフ 付録 73

白金 1046
 バックアクションクラスプ
 885 856
 発語 237, 240
 抜歯 37, 106, 700, 1068
 パッシブフィット 886
 発声 887 877
 バットジョイント 888
 961
 馬蹄形 1091
 馬蹄形バー 889 付録 208
 パトリックス 890
 8, 112, 241, 761, 1079
 付録 209
 Hanau の咬合 5 辺形
 891 892 付録 210
 Hanau の咬合 5 要素 892
 付録 210
 ハミュラーノッチ 893
 943 付録 211
 パラタルストラップ 894
 619, 745
 パラタルバー 895
 745, 863, 894 付録 212
 パラタルプレート 896
 745
 パラタルランプ 897 118
 118 付録 28
 パラトグラム 898
 325, 883
 パラファンクション 899
 付録 213
 パラフィンワックス 722
 パラレルテレスコープクラ
 ウン 802
 パラレルピン 900
 パラレルピンテック

900 954
 パラレロメーター 496
 バランシングランプ〔義歯
 の〕 901 1092, 1102
 はりがね鉤 付録 160
 Balkwill 角 902 1016
 バルブ 877, 903
 バルブ型鼻咽腔補綴装置
 903
 板金加工 964
 板金加工法 293
 半径 4 インチの球面
 717, 1105
 半固定性ブリッジ 904
 905 986 付録 214
 半固定性補綴装置 905
 241, 442 付録 214
 半固定性連結 906
 付録 215
 半自浄型ポンティック 907
 反射運動 645
 反射性嚥下障害 92
 反射的 568, 570
 半焼結型ブロック 592
 絆創膏 226
 半側麻痺 908 1044
 付録 246
 反対咬合 909 398
 反対咬合用人工白歯
 付録 100
 反対咬合用人工歯 付録 100
 半調節性咬合器 910
 364, 624, 757, 776
 パントグラフ 911
 673, 912
 パントグラフ法 912 330
 反復唾液嚥下テスト 913

ひ

微圧印象 付録 261
 被圧縮性 914
 被圧縮度 255
 被圧縮量 付録 216
 被圧変位 915
 被圧変位量 916
 186, 265, 917, 1005, 1142
 付録 216
 非アンダーカット 429
 非アンダーカット域
 30, 499
 Peeso クラウン 10
 ビーディング 917
 ヒーリングアバットメント
 918
 鼻咽腔内視鏡 95
 鼻咽腔閉鎖 846
 鼻咽腔閉鎖型 621
 鼻咽腔閉鎖機能 919
 621, 903, 920, 940
 鼻咽腔閉鎖機能検査 920
 鼻咽腔閉鎖機能検査法
 1000
 鼻咽腔閉鎖不全 877
 ビエゾグラフィー 921
 ビエゾグラフィックスペー
 ス 921
 被蓋 922 105, 107
 非解剖学的咬合器 923
 付録 217
 非解剖学的人工白歯
 付録 218
 非解剖学的人工歯 924
 901, 994, 1092 付録 218
 非解剖的人工白歯 付録 218

非解剖的人工歯 付録 218
 鼻下点 925
 606, 684, 926, 938
 鼻下点・オトガイ間距離
 926 238
 光重合 1158
 光照射 453
 非顆路型咬合器 927 923
 364 付録 217
 非緩圧型 454, 500, 864
 非緩圧型アタッチメント
 928 506, 930
 非緩圧型維持装置
 929 930 付録 219
 非緩圧型支台装置 930
 付録 219
 引き抜き試験用箱 369
 非機能運動 931 899
 付録 213
 非機能咬頭 932 付録 220
 非機能側 付録 221
 鼻棘点 234
 鼻腔 180
 非結晶質 273
 肥厚 983
 非作業側 933
 308, 385, 469, 537, 671,
 707, 708, 910, 934, 935,
 941, 990, 1020, 1023,
 1041, 1136, 1137
 付録 221
 非作業側顆路 960
 非作業側咬頭接触 934
 非作業側側方顆路 935
 付録 222
 非自浄型ポンティック 936
 197

微小機械的結合	655	330, 422, 675, 762, 911,	
微笑線	937	948	付録 224
微小動揺	699	描記装置	435
鼻唇角	938	描記釘	付録 224
鼻唇溝	939	描記板	948
非生体材料	58	330, 422, 675, 697, 911,	
微生物	260	947	
非接触型	1084	描記法	147
鼻尖	81, 709	標示線	949 付録 225
鼻息鏡	940	標準線	付録 225
鼻息鏡検査	940	表情筋	1100
非咀嚼側	941	表面精度	638
左片麻痺	1044	表面着色剤	273
非弾性印象材	1005	病理学	845
鼻聴道線	234, 984	鼻翼	939, 950
鼻聴道平面	付録 60	鼻翼下縁	234, 606, 684,
ピックアップ印象	942	984	
	15	鼻翼幅	950
	付録 223	び爛	250
ピックアップ印象 [インプ		疲労	801, 1063
ラントの]	942	鼻漏出気流計検査	920
ピックアップ印象 [クラウ		ピン	746, 761, 772, 861,
ンブリッジの]	942	900, 955	
ピックアップ印象 [有床義		ヒンジアキシス	付録 184
歯の]	942	ヒンジアキシスロケーター	
HIP プレーン	943	951	
ビデオ嚙下造影	944 93	ヒンジ型アタッチメント	
	付録 21	952	付録 226
ビデオレントゲン検査		ヒンジボウ	953
945 93	付録 21	ヒンジムーブメント	
鼻背	709	付録 182	
被曝	95	ピンテクニック	954
皮膚移植	239	ピン陶歯	955 付録 227
皮膚感覚	223	ピンホール	900, 954, 956,
被覆冠	946 301, 553, 564	1027, 1053	
鼻幅線	949, 950	ピンレー	755
被膜厚さ	797	ピンレッジ	956 977, 1018
描記針	947		

ふ

ファーゾーン	957
	885, 1130
ファイバースコープ検査	920
ファイバーポスト	958
ファイバーリボン	484
ファイルフォーマット	80
ファインセラミックス	113, 114
フィクスチャー	959 63
	付録 13
Fischer 角	960
フィニッシングライン	
	付録 228
フィニッシュライン	961
	277, 637, 965, 1121
	付録 228
フィメール	付録 258
フェイスボウ	962
	35, 203, 365, 366, 951,
	953, 963 付録 229
フェイスボウトランス	
ファー	963
	35, 221, 275, 1017
フェザーエッジ型	964
	520, 844
フェルール	965
フォッサ・ボックス	875
不可逆性ハイドロコロイド	
印象材	22
付加重合型	590
複印象	966
複合欠損	967
副歯型	519, 968
副歯型式模型	968

複製	192	フライス盤	1088	657, 755, 772, 801, 819,
複製義歯	969	ブラキシズム	978	900, 905, 906, 942, 956,
複製模型	970		272, 300, 312, 383, 426,	968, 977, 1001, 1003, 1004,
複腕鉤	付録 243		748, 823, 843, 1140	1007, 1012, 1018, 1026,
不潔域	500, 1119	付録 233		1027, 1042, 1047, 1063,
不随意運動	109	フラスク	19, 20, 851, 985	1072, 1108, 1123, 1182
不正咬合	398, 726, 787	フラスク埋没法		付録 238
不整紡錘型	721		19, 20, 985	不良補綴装置 602, 726
付線	付録 228	プラスチックサドル	867	Bruno 法 238
負担域	付録 92	プラスチックパターン	496	フルカバリッジクラウン
負担軽減	1150	ブラックトライアングル		付録 165
負担能力	1063		979	フルカントウアジルコニア
負担様式	679	ブラッシュ法	818	クラウン 987 1103
フック	971 1056	ブラッシング	1081	付録 263
浮動性歯肉	付録 236	ブラットフォーム [インプ		フルクラウン 付録 165
不動粘膜	972 561	ラントの]	980	フルジルコニアクラウン
船底型	907		付録 234	988 1103 付録 263
船底型ポンティック	973	ブラットフォームシフティ		フルデンチャー 付録 163
部分義歯	974	ング	981 付録 235	BULL の法則 989
部分欠損	967	ブラットフォームスイッチ		フルバランストオクルー
部分床義歯	975	ング	982 981	ジョン 990
	43, 198, 229, 262, 303,	付録 235		378, 425, 686, 1020
	452, 477, 480, 549, 619,	フラビーガム	983	フルメタルクラウン
	620, 763, 783, 802, 862,		452, 1005 付録 236	991 678 付録 162
	863, 865, 942, 971, 974,	フラビー組織	付録 236	フレアアウト 992
	976, 1026, 1040, 1056,	フラビーティッシュ		ブレード 994
	1112, 1124, 1125, 1135,	付録 236		プレート 619
	1153, 1161, 1167	フランクフルト線	984	ブレードインプラント 993
	付録 230	フランクフルト平面	984	ブレード人工歯 994 924
部分床義歯学	付録 231		606, 1017 付録 237	ブレード部 993
部分床義歯補綴学	976	フランス式埋没法	985	ブレードメタル臼歯 994
	付録 231	フリーウェイスペース		フレーム
部分焼結型ブロック	592		付録 5	113, 114, 339, 440
部分被覆冠	977	ブリッジ	986	フレーム構造 582
	301, 445, 946, 956, 1001,		7, 56, 98, 114, 123, 197,	フレームワーク 995
	1119, 1151 付録 232		302, 411, 441, 442, 445,	39, 657, 792, 942, 961,
ブラーク	809		477, 516, 518, 549, 597,	1097, 1098, 1109

付録 239	1010 1012 付録 242	平行測定器	1027 1026
フレキシブルデンチャー	分割トレー 1011 1005	平行測定装置	477
862	分割復位式模型 1012	平行模型	1028
ブレスケール 394	746 付録 242	閉口路	568
ブレス成形 113, 114	分割模型 付録 242	平斜面形態	456
ブレッシャー・インディケ	分割腕鉤 1013	閉磁路	242
イティング・ペースト	分光測色計 704	平線咬合器	1029 779
996 797 付録 240	粉碎 266, 720, 730	付録 183	
フレミタス 997	粉碎能力 562	閉塞型睡眠時無呼吸症候群	
フレンジ 998 583	分散型 469		158
999 付録 146	分散強化型ガラスセラミッ	柄部	54
フレンジテクニク 999	クス 1014	平面形態	456
243	分子間引力 655	併用トレー	436
ブローイングテスト 1000		ペースト	22, 797
920		Vest 型	1119
プロキシマルハーフクラウ	ヘアピンクラスプ 1015	ヘッド部	993
ン 1001 977	227 付録 243	Bennett 運動	1030 471
プロキシマルプレート	平均値咬合器 1016	Bennett 角	1031 708
付録 274	364, 388, 651	付録 170	
ブロックアウト 1002 4	平均的顆頭点 1017	ヘビーシャンファー型	
プロビジョナルクラウン	206, 424, 606	565, 1032	
1003	平行運動 706, 1018	ベベル	1032, 1033
193, 486, 519, 1155	平行形成器 1018 900	ベベル型	1032 520
付録 241	平衡咬合 1019 347, 1023	ベベルドシャンファー型	
プロビジョナルブリッジ	平衡咬合小面 1020	1032	
123, 486, 1003	閉口障害 1021	ベベルドショルダー型	
プロビジョナルレストレー	平衡状態 1041	1033 520, 1032	
ション 1004 1003	平行性 906, 1027	偏位防止板	361, 376
分割印象 1005 1011	平行切削器 1022	辺縁形成	1034 288
分割可撤式模型	496, 1089	付録 74	
1006 1012 付録 242	平衡接触 1023	辺縁形態	589, 964, 1121
分割義歯 1007 1005	閉口相 721, 725	辺縁骨レベル	1035 980
分割コア 1008	平衡側 1024 933	辺縁部	54, 964, 1033, 1051
分割式模型 1009 1012	付録 221	辺縁封鎖	1036
付録 242	平衡側側方顆路 1025 935	246, 328, 342, 447, 1062	
分割歯型 1012	付録 222	辺縁隆線	
分割歯型式模型	平行測定 1026	266, 532, 695, 736, 885	

片顎義歯	付録 148	膨隆	578	794, 958, 1061, 1097
変形性関節症	172, 173	ホースシューバー		付録 252
変質性	1157	1045 889	付録 208	ポストクラウン 1059
変色	1156	ポーセレン		301, 456, 794 付録 253
変色性	1157	273, 1047, 1048		ポストコア 1060
偏心位 [下顎の]	1037	ポーセレンジャケットクラ		ポスト孔 1061
141, 369, 385, 392, 473,		ウン	1046 793	1027, 1058 付録 254
696, 777, 1019			付録 247	ポストダム 1062 328, 414
偏心運動	282, 347, 567	ポーセレンブリッジ	1047	補足疲労 1063 801
偏心咬合位	1038 668		付録 248	ボックス型 214, 364
偏側型	907	ポーセレンラミネートベニ		ボックス型顎路 875
偏側型ポンティック	1039	ア	1122	発赤 250
片側性均衡	付録 244	ポーセレンレイヤリングジ		Posselt の図形 1064 151
片側性均衡咬合	付録 245	ルコニアクラウン	1048	補綴 1065 32
片側性咬合均衡	付録 244	ボンアンカードブリッジ		補綴学 1066
片側性咬合平衡	1040	1049 付録 249		補綴学的平面 付録 60
545 付録 244		補強鞘	477	補綴修復物 付録 255
片側性中間義歯	763	補強線	1050	補綴主導型インプラント治
片側性中間欠損 [Ⅲ級]		ボクシング	1051	療 1067 829 付録 196
316		保持	1052 38	補綴処置 486, 536, 717
片側性平衡	付録 244	374, 375, 516, 547, 548	付録 7	補綴前処置 1068
片側性平衡咬合	1041			123, 1124
1019 付録 245		保持機構	411	補綴装置 1069
片側性遊離端義歯	1115	保持形態	1053	38, 42, 65, 85, 97, 106, 116,
片側性遊離端欠損 [Ⅱ級]		保磁子	242	178, 198, 240, 244, 279,
316		補助アタッチメント	1054	297, 339, 364, 365, 366,
片側離脱 [ブリッジの]		補助維持装置	1055 1056	372, 373, 442, 460, 472,
1042			付録 250	486, 512, 516, 519, 526,
偏咀嚼	1043	補助形態	1053	528, 530, 534, 543, 547,
片麻痺	1044 付録 246	補助鉤腕	1147	548, 551, 552, 582, 595,
		補助支台装置	1056	614, 621, 626, 638, 641,
		620, 971 付録 250		652, 659, 797, 812, 828,
		補助装置	618	839, 840, 843, 859, 861,
		保持力	42, 795, 1053	905, 911, 920, 942, 946,
		ポステリアガイダンス		954, 966, 986, 996, 1007,
		1057 33 付録 251		1049, 1068, 1088, 1118,
		ポスト	1058	1123, 1166, 1173, 1182

ほ

方型	70
放射線照射治療	340, 618
萌出	1001, 1149
包埋	1074
豊隆	233, 939

付録 255
 補綴物 付録 255
 ポリアミド系 862
 ポリエステル系 862
 ポリカーボネート 1158
 ポリカーボネート系 862
 ポリサルファイドゴム印象 1070
 ポリサルファイドゴム印象材 1070
 ポリスルホン 1158
 ホリゾンタルスクリュー 765
 ホリゾンタルピン 861
 ポリプロピレン系 862
 ポリマー 87
 本印象 付録 154
 Bonwill 三角 1071
 203, 902, 1075 付録 256
 本設計 479
 ポンティック 1072
 28, 98, 123, 230, 441, 443,
 907, 973, 986, 1039, 1047,
 1063, 1108, 1111, 1126,
 1128 付録 257
 ポンティック形態 936
 ポンティック部 241

ま

マージン 1073
 210, 519, 597, 637, 1026,
 1119
 マイカ 1014
 埋没 1074
 埋没材 192, 274, 491, 851
 埋没法 851
 マウンティング 付録 95

マウンティングジグ 1075
 マウンティングプレート 1076
 マウント 付録 95
 前ろう (鑢) 付け法 1077
 曲げ強度 1145
 摩擦音 171, 311
 摩擦抵抗要素 761
 摩擦力 127, 431, 802
 McCollum T アタッチメン
 ト 506
 McGee 法 238
 末梢神経 92
 末梢入力 109
 窓開け 1078
 マトリックス 1079
 8, 112, 125, 241, 632,
 761, 875, 890 付録 258
 マトリックス箔 793
 マトリックス法 1046
 麻痺性嚥下障害 1080
 麻痺性構音障害 326
 摩耗 [歯の] 1081
 426, 821
 摩耗性 1157
 Munsell 色票系 1082 1083
 付録 259
 Munsell 表色系 1083
 付録 259
 マンディブラーキネジオグ
 ラフ (MKG) 1084

み

右片麻痺 1044
 眉間・鼻下点 238
 水飲みテスト 1085 133
 ミニダルボ 500

未病 1086
 ミューチュアリープロテクト
 テッドオクルージョン
 1087 付録 260
 Müller 法 399
 ミリング 1088
 496, 592, 1022
 ミリングバー 1089
 ミリングマシン 1088

む

無圧印象 1090
 50, 138 付録 261
 無圧印象法 72
 無汗型外胚葉異形成症 1173
 無機質フィラー 453
 無口蓋義歯 1091
 無咬頭歯 付録 218
 無咬頭人工歯 1092
 924, 1102
 無歯顎 1093
 91, 96, 452, 590, 593, 709,
 853, 939, 950, 1070, 1110,
 1112, 1164, 1181
 無歯症 1173
 無歯症様顔貌 1173
 むせ 133
 MUDL の法則 1094

め

迷走神経 92
 明度 1095 1083
 メール 付録 209
 メジャリングデバイス 1096
 メタルインサーテッド

ティース 994
 メタルコア 553
 メタルコーピング 1097
 819, 995
 メタルバックング 1098
 メタルフレーム 付録 239
 メチルメタクリレート
 87, 1156
 メッシュ型 39
 メリーランドブリッジ
 付録 159
 免疫検査 747
 免荷期間 741

も
 網様体 92
 モールドガイド 1099
 模型 517
 模型改造法 付録 31
 模型固定台 1022
 模型修正法 付録 31
 模型台 477
 モダイオラス 1100
 付録 262
 モデリングコンパウンド
 288, 1005, 1101
 モデリングコンパウンド印
 象 1101
 モデルスキャナー
 333, 334, 612, 613
 モノプレーンオクルージュ
 ン 1102
 モノマー 87
 モノリシックジルコニアク
 ラウン 1103 付録 263
 Morrison クラウン
 1104 10 付録 2

Monson カーブ 1105 396
 Monson 球面説 1106
 389, 717 付録 264

ゆ

有孔陶歯 1107
 有根型ポンティック 1108
 UCLA (型) アバットメン
 ト 1109 190
 有歯顎 1110
 590, 709, 717, 1070, 1176,
 1177
 有歯顎者 308
 U字形 837, 889, 1091
 有床型 936
 有床型ポンティック 1111
 28, 197
 有床義歯 1112
 72, 126, 161, 184, 196, 288,
 351, 679, 791, 800, 810,
 860, 955, 966, 974, 1098,
 1107, 1159
 有髄歯 956, 977, 1155
 有釘陶歯 1113 955
 付録 227

誘導面 1114 136 付録 34
 雄部 付録 209
 遊離端義歯 1115
 3, 763, 1165
 遊離端欠損 1116
 752, 967, 1115
 遊離端ブリッジ 1117 98
 付録 22
 湯だまり 1123

よ

溶接法 443

ヨーク 535
 翼突鉤 893
 翼突上顎切痕 付録 211
 予後 1118
 予備印象 付録 32
 予備サベイング 479
 4 インチ球面学説 付録 264
 IV型アレルギー 292
 3/4冠 1119
 977, 1151 付録 265
 3/4クラウン 1120 1119
 付録 265

ら

ライトボディタイプ 850
 ラウンデッドショルダー型
 1121 520
 ラミネートベニア 1122
 卵円型 70
 ランナーバー 1123

り

リカントゥアリング 1124
 力学的安定性 399, 549
 リジッドコネクター 1125
 リジッドサポート 1125
 431
 裏装 付録 269
 リッジラップ型 907
 リッジラップ型ポンティッ
 ク 1126
 立体モデル 631
 リップサポート 1127
 81, 938, 1173
 離底型ポンティック 1128
 230
 リテイナー 付録 136

リテンション	付録 7	付録 201	隣接面	9, 90, 241, 445, 519, 885, 1151, 1152	
リテンションアーム	付録 8	両隣接面	1119	隣接面溝	1151 1119
リテンションピース	1129	リライニング	付録 269	隣接面鉤	1152 付録 273
リバースバックアクション クラスプ	1130 856	リライニングジグ	1139	隣接面接触点	434
リバースループクラスプ	付録 243	リライン	1139 付録 269	隣接面板	1153 3, 136 付録 274
リベージング	付録 266	リラクセーションアプライ アンス	1140		
リベース	1131 付録 266		115 付録 270	る	
リポジショニングアプライ アンス	1132	リラクセーションスプリン ト	1141 1140 付録 270	類型	6
	115 付録 267	リリーフ	1142	涙骨	622
リポジショニングスプリン ト	1133 1132 付録 267		184, 226, 255, 578	流ろう	1154 985
リマウンティング	付録 94		付録 271	れ	
リマウンティングジグ	1134	履歴情報	838	冷電法	36
リマウント	付録 94	リンガライズドオクルー ジョン	1143	レイヤリングセラミックス	113, 114
リムーバルノブ	1135		1041 付録 272	レーザー光	612
リモデリング	119	リンガルエプロン	1144	レギュラーボディタイプ	850
リユーサイト	1014		745	レジストレーションアーム	951
流涎	239	リンガルバー	1145	レシプロカルアーム	付録 67
隆線	415		317, 745, 863	レシプロケイション	付録 66
両斜面形態	456	リンガルプレート	1146	レジン	453, 484, 564, 666, 762, 946, 961, 1129, 1158
両側性均衡咬合	付録 268		745, 1144	レジンキャップ	1155
両側性咬合平衡	1136	リングクラスプ	1147	レジンコーピング	543
両側性全面平衡咬合	990		227, 856	レジン歯	1156 294, 403, 594
両側性中間義歯	763	リングライナー	1148 274	レジンジャケットクラウン	1157 付録 275
両側性平衡咬合	1137		付録 70	レジン床	1158 248
	892, 1019, 1102	リン酸亜鉛セメント	224, 411	レジン床義歯	1159 1050
	付録 268		192	レジン前装冠	1160 1098
両側性遊離端義歯	1115	リン酸塩系	498		
両側性遊離端欠損	889	臨床歯科医学	911		
両側性遊離端欠損〔I級〕	316	臨床システム	1149		
両側にまたがる前歯中間欠 損〔IV級〕	316	臨床の歯冠	1149		
両翼鉤	1138 854	臨床の歯冠長	1149		
		臨床の歯根	1150		
		隣接歯	509, 968		
		隣接接触部	508		

外国語索引

#1-#2 combination clasp	aging society	427	anodontia appearance	1173
856	air abrasion	491	antagonist	738
#1 clasp	airborne-particle abrasion		anterior cross-bar	951
856		491	anterior guidance	33
#2 clasp	Akers clasp	77	anterior guide pin	642
856	ala-tragus line	234	anterior guide table	643
3D printer	alginat impression	22	anterior mandibular	
	all ceramic crown	113	positioner	158
a	all ceramic fixed partial		anterior reference point	684
abfraction	denture	114	anterior reference pointer	
17	altered cast technique	124		35
ability of mastication	aluminous porcelain	26	anteroposterior curve	665
730	aluminous porcelain jacket		Ante's Law	32
abnormality of basal seat	crown	25	anti-Monson curve	1105
mucosa	alveolar arch	185	apex [of gothic arch	
250	alveolar ridge line	546	tracing]	18
abutment	American flasking		appliance for defected jaw	
14, 547	technique	19		189
abutment analogue	American-French flasking		arbitrary hinge position	
(analog)	technique	20		1017
15	amount of tissue		arcon articulator	21
abutment positioning jig	displacement	916	arrangement of cross-bite	
834	analyzing rod	477	tooth	399
abutment screw	anatomic artificial teeth	141	arrangement of reverse	
16	anatomic crown	140	articulation tooth	399
abutment teeth	anatomic impression	138	articulating paper	373
548	anatomic teeth	141	articulation	324, 347, 348
abutment tooth form	anatomical articulator	139	articulation test	325
551	angle between buccal and		articulator	364
access hole	lingual internal cusp		artificial crown	681
7	slope	421	artificial gum	596
acrylic resin teeth	angle of lateral condylar		artificial teeth	594
1156	path	708	artificial tooth root	595
Adams clasp	angle of lateral incisal path		ASL	542
9		715	attached mucous	
add-on technique				
1179				
adhesion				
655				
adjustable anterior				
guidance				
651				
adjustable articulator				
776				
adjustable posterior				
guidance				
215				
ADL				
542				
agar alginat combined				
impression				
231				
agar impression				
232				
age				
84				
aged society				
428				

central bearing plate	676	arches	1116	movement	697
central bearing point	673	classification system [for		complementary mandibular	
central bearing screw	673	prosthodontic treatment]		position	696
central bearing tracing	674		580	complete crown	681
central bearing tracing		clearance	305	complete denture	679
device	675	clenching	312	complete denture prosth-	
centric occlusion	768	clicking	307	odontics	680
centric relation	767	clinical crown	1149	complete metal crown	678
centric stop	677	clinical root	1150	composite resin	453
ceramic crown	113	closest speaking space		composite resin teeth	403
cervical margin form	520		83, 882	compress	36
chamfer	565	closure of the interdental		computer-aided design	
channel	761	space	5		277, 279
channel shoulder pin	761	cognitive behavioral		computer-aided	
check bite	756	therapy	855	manufacturing	277, 279
check bite method	757	collarless metal ceramic		condylar articulator	448
check bite technique	757	restoration	210	condylar axis	204
cheek bite	405	combination clasp	451	condylar ball	205
chewing cycle	724	combination impression		condylar guidance	
chew-in technique	762		1169		214, 1057
Christensen's phenomenon		Combination of Class III		condylar path	212
	306	and Class II or I of the		condylar path articulator	
chroma	468	Kennedy's classification			213
CIE	89	of partially edentulous		condylar point	206
CIELAB	89	arches	967	condylar position	160
cingulum rest	1161	combination syndrome	452	cone angle	430
circumferential clasp	227	Commission Internationale		cone crown telescope	431
C. I. S.	5	de l'Eclairage	89		430, 444
clasp	303	Commission Internationale		connecting rigidity	1165
clasp arm	429	de l'Eclairage 1976 (L*,		connector	1167
clasp body	409	a*, b*) color space	89	contact area	649
clasp shoulder	346	communication disorders		contact gauge	449
clasp tang	338		326	contact point	649
clasp tip	408	compensation curve	777	continuous clasp	1170
Class II or Class I of the		complementary kinematic		continuous positive airway	
Kennedy's classification		condylar point	74	pressure	314
of partially edentulous		complementary mandibular		contour [of tooth]	233

coping	457, 841	deep bite	142	denture propulsion	603
coping impression	432 942	deep chamfer type	565	denture space	808
coping pick-up impression		definitive cast	472	denture stabilizer	246
	432	definitive cast with artificial		denture stomatitis	258
coping preparation	455	gum	597	denture ulcer	256
core	322	definitive cast with divided		determination of masticatory efficiency	729
cosmetic disturbance	602	die	1012	diagnostic cast	319
coverage crown	946	definitive cast with individual die	968	diagnostic denture	599
crepitation	311	definitive denture	459	diagnostic waxing	601
crepitus	310	definitive prosthesis	460	diastema	508
cross-bite	398	deflective occlusal contact		diatoric teeth	1107
cross-bite teeth	400		363, 417, 692	DICOM	739
crown	301, 507	degassing	789	die	517
crown and bridge		degree of food pulverization		die investing method	192
prosthodontics	302	delayed disocclusion	282	diet modification	586
crown-root ratio	503	delayed loading	741	difficulty in closing mouth	1021
C. S. P.	761	Denar SE articulator	671	digital denture	800
curve of Monson	1105	dental abrasion	1081	digital imaging and communications in medicine	739
curve of Spee	622	dental antagonist	738	digital impression	333
curve of Wilson	71	dental implant	339 58	digital scan	333, 334
cusp angle	418	dental prosthesis	1069	digitally fabricated denture	800
cuspal interference	417	dentulous jaw	1110		
cusp-fossa articulation		denture	245	dipping wax technique	1179
scheme	420	denture basal surface	254		
cusp-marginal ridge		denture base	248	direct retainer	783
articulation scheme	419	denture base outline	577	disc derangement	101
cuspid line	336	denture bearing area	255	disc displacement	101
cuspid protected articulation (occlusion)	321	denture border	576	disc recapturing	100
cusplless teeth	1092	denture cleanser	260	disc reduction	102
custom attachment	496	denture flange	583	disc repositioning	100
custom made abutment	190	denture for defected jaw		disclusion	282
cut-back	1078		178	disocclusion	282
cutting knife	477	denture foundation	255	disorders of articulation	326
		denture marking	810		
		denture plaque	809		

d

Davis crown 794

finger pressure impression	566	fully adjustable articulator	671
finish line	961	fully balanced occlusion	
Fischer's angle	960	(articulation)	990
fitness test	797	fully bilateral balanced	
fixed connection	443	occlusion	990
fixed dental prosthesis	442	functional artificial teeth	
fixed partial denture			269
	441, 986	functional cusp	266
	974	functional dysphagia	267
fixed partial denture with		functional impression	265
rigid and nonrigid		functional malocclusion	271
connectors	905	functionally generated path	
fixed prosthesis with rigid		technique	85
and nonrigid connectors	905	fundamental mandibular	
flabby gum	983	movement	272
flabby tissue	983		
flange technique	999		
flare out	992		
floor of the mouth	413		
fomentation	36		
food impaction	587		
form of root surface	456		
forward propulsion	603		
foundation restoration	553		
framework	995		
Frankfort horizontal plane			
	984		
free joint articulator	567		
fremitus	997		
French flasking technique			
	985		
frontal plane	672		
fulcrum line	549		
full coverage crown	681		
full denture	679		
full veneer crown	681		

h

habitual masticatory side	570
habitual occlusal position	569
habitual opening and	
closing movement	568
Hader bar attachment	867
hairpin clasp	1015
half and half clasp	869
half crown	870
hamular notch	893
hamular notch incisive	
papilla plane	943
Hanau H2	910
Hanau Twin-Stage	
Occluder	786
Hanau's Quint	892
head tilting method for	
taking maxillomandibular	
registration	826
healing abutment	918
heavy chamfer type	565
height of contour	466
hemiplegia	1044
hinge articulator	779
hinge attachment	952
hinge axis	780
hinge axis locator	951
hinge axis point	781
hinge bow	953
hinge movement	778
HIP plane	943
hollow obturator	766
home-visit dental care	497
hook	971

horizontal mandibular position	607	implant prosthesis	60	interdental separation	509
horizontal overlap	105	implant-supported	64	Interdentalraumverschluss (独語)	5
horizontal plane	609	impression	49	interim denture	483
horizontal plane of reference	606	impression area	51	interim prosthesis	486
horseshoe plate	889	impression coping	53	interlocking core	1008
housing	875	impression pressure	50	interlocking force	224
hue	511	impression surface of denture	254	intermediary defect	764
hybrid composite resin crown	873	impression taking	52	internal connection	56
hygienic pontic	230, 1128	impression tray	54	internal derangement	101
hypernasality	137	incisal guide pin	642	internal derangement of temporomandibular joint	175
i					
immediate denture	700	incisal guide table	643	internal finish line	961
immediate disocclusion	282	incisal path	650	internal oblique line	842
immediate loading	699	incisal point	644	interocclusal clearance	305
immediate provisional restoration	701	incisal rest	1161	interocclusal distance	390
immediate side shift	469	indentation of tongue	640	interocclusal free way space	29
immediate surgical obturator	575	indirect retainer	229	interocclusal record	55, 368, 756
immediate type	469	individual die	968	interocclusal relationship	362, 736
impaction of food debris	587	individual tray	437	interocclusal rest space	29
implant	58	individual tray for abutment impression	436	intracoronary attachment	506
implant analogue (analog)	59	infrabulge area	30, 556	intraoral prosthesis	177
implant and tissue-supported	65	infrabulge clasp	557	intraoral scanner	344
implant-assisted and tissue-supported	65	infraocclusion	787	intraoral tracing	422
implant body	63	infraorbital point	221	investing	1074
implant platform	980	initial occlusal contact	585	irreversible hydrocolloid impression	22
implant platform shifting		inner cap	841	I. R. V.	5 496
		inner crown	841	isometric point	817
		intaglio surface	254	j	
		interalveolar crest line	545	jacket crown	564
		interalveolar ridge line	545		
		intercondylar axis	204		
		intercondylar distance	203		
		intercuspatation	415		
		interdental gingival space	979		

Jackson crib clasp	563	lateral mandibular move- ment	706	Mandibular Kinesiograph (商品名)	1084
jaw defect	180	lateral occlusal curve	710	mandibular lateral transla- tion	706
jaw movement	164	lateral occlusal position	710	mandibular movement	146, 164
jaw position	163	lateral position [of mandible]	705	mandibular movement disorders	149
junction of hard and soft palate	423	latero propulsion	603	mandibular movement record	147
k		laterotrusion	1030	mandibular movement recording device	148
keel	243	ledge	956	mandibular position	145, 163
keeper	242	limitation of mouth opening	129	mandibular prosthesis	178
Kennedy bar	317	limited mouth opening	129	mandibular retruded position	152
Kennedy classification of removable partial dentures	316	line of reference	949	mandibular torus	161
key and keyway	241	lingual apron	1144	mandibular tracing	147
kinematic axis	661	lingual bar	1145	mandibular translation	194
kinematic condylar point	74	Lingual of the Lower	989	mandibular trismus	129
knife edge type	844	lingual plate	1146	margin	1073
Kolben	447	lingualized occlusion	1143	marginal bone level	1035
Kolbenähnlich Form (独語)	447	lip support	1127	master cast	472
Konometer (商品名)	444	long centric articulation (occlusion)	1176	masticating cycle	725
Konuskronen Teleskop (独語)	431, 430, 444	low lip line	406	mastication	718
Konuswinkel (独語)	430	lower bow [of articulator]	162	masticatory disturbance	726
l		luting agent	412	masticatory efficiency	728
labial bar	132	luting cement	412	masticatory force	732
laminate veneer	1122	m		masticatory movements	720
lateral check bite	756	magnetic assembly	535	masticatory performance	729
lateral condylar path	707	magnetic attachment	543	masticatory pressure	719
lateral condylar path on balancing sidenn	935	major connector	745	masticatory rhythm	731
lateral condylar path on working side	471	malocclusion	353	masticatory side	727
lateral incisal path	714	mandibular advancement splint	103		
		mandibular border movement [path]	151		
		mandibular condyle	159		

masticatory system	181	mesiodistal clasp	1152	monolithic zirconia crown	
matrix	1079	mesostructure [of implant prosthesis]	765	monoplane occlusion	1102
maxillary prosthesis	178, 189	metal allergy	292	Monson curve	1105
maxillary tuberosity	578	metal backing	1098	Monson's spherical theory	1106
maxillofacial prosthesis	177	metal base	295 248	most anterior (occlusal) position	461
maxillofacial prosthetics	176	metal base denture	296	most lateral occlusal position	462
maxillomandibular registration	372	metal-ceramic restoration	819	most protrusive occlusal position	461
maxillomandibular registration by measuring maximal occlusal force	395	metal coping	1097	most retruded contact position	157
maxillomandibular registra- tion using physiologic rest position	144	metal core	553	mounting frame	1076
maxillomandibular relation- ship	166	metal crown	293	mounting jig	1075
maxillomandibular relation- ship record	169, 372	metal crown with swaged cusp	10	mounting on articulator	366
maximal intercuspal position	416	metal insert teeth	994	mounting plate	1076
maximal mouth opening	464	metal occlusal surface	294	mounting ring	1076
maximal occlusal force	465	metal plate denture	296	MPD syndrome	88
maximal opening position	463	metal teeth	294	mucobuccal fold	558
maximum convexity	467	method of color measure- ment [of tooth color]	704	mucolabial fold	561
Measuring Device (商品名)	1096	micromovement	699	mucostatic impression	1090
median line	635	milling	1088	MUDL rule	1094
median plane	636	milling bar	1089	Munsell color system	1083
mentolabial sulcus	122	milling in	554	muscle palpating method	291
Mesial of the Lower	827	minor connector	584	muscle trimming	288
Mesial of the Upper	1094	MKG	148	muscular contact position [of mandible]	298
mesial rest	1161	MMA	87	muscular retention	287
		MMA-based luting agent	87	mutually protected occlusion	1087
		MM-J2	148	MWST	133
		modeling plastic impression compound	1101	myalsia	88
		modified water swallowing test	133		
		modiolus	1100		
		mold guide	1099		

mylohyoid ridge	184	contact	1023	occlusal prematurity	692
myofascial pain dysfunction syndrome	88	normal contour	233	occlusal pressure	349
n					
nasal width	950	normal functioning occlusion	270	occlusal ramp	118
nasolabial angle	938	NST	76	occlusal reconstruction of denture	391
nasolabial groove	939	nutrition support team	76	occlusal relationship	362
nasolabial sulcus	939	o			
near zone	847	O-ring attachment	112	occlusal reshaping	381
neuromuscular dysfunction	88	obturator	178	occlusal reshaping [of artificial teeth]	473
neutral zone	853	obturator prosthesis	667	occlusal rest	<i>1161</i>
Ney Chayes	<i>506</i>	occlusal adjustment	381	occlusal scheme	392
Ney clasp	856	occlusal analysis	384	occlusal sound	357
Ney Surveyor System	<i>856</i>	occlusal appliance	115	occlusal sound analyzer	359
Ney's clasp	856	occlusal balance	385	occlusal sound test	358
niche	<i>956</i>	occlusal cone	499	occlusal support	374
nonanatomic teeth	924, 1092	occlusal contact	380	occlusal-supporting area	375
nonanatomical articulator	923	occlusal curvature	396	occlusal table	116
nonfunctional cusp	932	occlusal device	115, 616, 843, 1132, 1140	occlusal trauma	379
nonhygienic pontic	936	occlusal discomfort syndrome	354	occlusal unit	<i>752</i>
nonmasticatory side	941	occlusal disease	383	occlusal vertical dimension	370
non-metal clasp denture	862	occlusal dysesthesia	<i>354</i>	occlusion	348
non parallel pin technique	861	occlusal equilibration	381	occlusion rim	382
non-pressure impression	1090	occlusal examination	369	one-piece cast method	1182
nonrigid connection	906	occlusal facet	378	open lock	<i>1021</i>
nonundercut area	<i>30</i>	occlusal facet of protrusion	686	optical maxillomandibular registration	334
non-vertical stop occlusion	633	occlusal force	393	oral cavity proper	446
nonworking side	933	occlusal force test	394	oral device	345
nonworking side occlusal		occlusal interference	363	oral diadochokinesis	108
		occlusal plane	386	oral dyskinesia	109
		occlusal plane analyzer	389	oral frailty	110
		occlusal plane guide	387	oral hypofunction	341
		occlusal plane table	388	oral rehabilitation	111
		occlusal position	352		

oral vestibule	342	palatogram	898	phonetic method of measuring occlusal vertical dimension	884
orbitale	221, 984	palatopharyngeal closure	919	phonetic test	883
orientation groove	134	pantograph	911	physiologic rest position	143
orientation plate for compensating curve	717	pantographic recordings	912		
orthotic device	694	PAP	652	pickup impression	942
Orton crown	125	parafunction	899	piezography	921
OSAS	103, 314, 610	parallel cast	1028	pin	761
osseointegrated implant	120	parallel check	1026	pin porcelain teeth	955
osseointegration	119	parallel pin technique	900	pin technique	954
OU	752	parallelometer	1018, 1022, 1027	pinledge	956
outer cap	127	paresthesia	223	PIP	996
outer crown	127	partial coverage crown	445, 977, 1119	plane line articulator	1029
outline of clasp	327	partial coverage retainer	1119	plane of occlusion	386
ovate pontic	123	partial denture	974	plaster core	641
overbite	107	partial loss of retention [of fixed partial denture (bridge)]	1042	plaster index	641
overclosure	104	partial veneer crown	977	plate denture	1112
over contour	233	partially edentulous arch	315	PLP	846 621
overdenture	106	Passavant's pad	877	polished denture surface	251
overjet	105	Passavant's ridge	877	polysulfide rubber impression	1070
overlap	922	passive fit	886	pontic	1072
overlay prosthesis	106	path of masticatory movement	721	porcelain bridge	1047
ovoid	70	patrix	890	porcelain build up	818
oxide film	482	peri-implant mucositis	61	porcelain-faced cast crown	822
		peri-implantitis	61	porcelain fixed partial denture	1047
p		periodontal prosthesis	536	porcelain-fused-to-metal restoration	819
palatal augmentation prosthesis	652	permanent splinting	75	porcelain jacket crown	1046
palatal bar	895	personality	84	porcelain layering zirconia crown	1048
palatal lift prosthesis	846	pharyngeal bulb type	621	porcelain teeth	821
palatal lift type	621			porion	984
palatal plate	329, 896				
palatal prosthetics	331				
palatal ramp	118				
palatal strap	894				
palatal torus	332				
palatine torus	332				

Posselt's envelope of motion	1064	pressure mark on cheek mucosa	284	pupillary line	816
Posselt's three dimensional representation	1064	presymptomatic disease	1086	q	
post	1058	primary splinting	44	QOL	1086
post-and-core	1060	profile	709	r	
post-and-core crown	1059	profile record	709	radicular attachment	454
post ceramic soldering method	13	prognosis	1118	ransitional denture	37
post dam	1062	progressive and distributed type	469	rare-earth magnet	264
post damming	414	progressive side shift	469	rebase	1131
posterior border position of mandible	155	progressive type	469	reciprocal arm	263
posterior denture border	252	prosthesis	1065, 1069	reciprocal clasp	263
posterior guidance	1057	prosthesis for defected jaw	189	reciprocation	262
posterior palatal seal	328, 1062	prosthetic appliance for swallowing disorder	97	recontouring	1124
posterior reference points	424	prosthetic dentistry	498	record base	261
postpalatal seal	1062	prosthetics	1066	record base with occlusion rim	377
poultice	36	prosthetics for defected jaw	188	record rim	382
Pound	1041	prosthodontics	498	registration arm	951
Pound's triangle	876	protrusive check bite	756	reinforcing wire	1050
pre-ceramic soldering	1077	protrusive movement [of mandible]	683	relaxation appliance	1140
precise impression	638	protrusive occlusal position	685		115
preliminary impression	128	protrusive position [of mandible]	682	relief	1142
premature contact	692	provisional bridge	486	relief area	226
preparation of lingual wall	658	provisional cementation	193	reline	1139
prepared root canal for dowel	1061	provisional crown	1003	relining jig	1139
preprosthetic treatment	1068	provisional restoration	1004	remount cast jig	1134
pressure impression	126	proximal groove	1151	remounting jig	1134
pressure indicating paste	996	proximal half crown	1001	remounting on articulator	365
		proximal plate	1153	removable connection	199
				removable dental prosthesis	197, 198
				removable denture	196, 1112
				removable die	518
				removable die system	518

shade guide	493	split bar	625	subnasal point	925
shade selection	512	split cast	624	subnasion	925
shortened dental arch	752	splitpole	535	subperiosteal implant	440
shoulder	589 761	spoon denture	623	substructure [of implant prosthesis]	208
side shift	469	spur	620	super-aged society	774
sieving test [of masticatory efficiency]	562	square	70	superstructure [of implant prosthesis]	582
silicone rubber impression		stabilization appliance	616	support	530
	590	stabilized condylar position		supporting ability	534
single-arm clasp	753		201	supporting cusps	532
single complete denture		standard tessellation		supporting tissue	533
	593	language	80	suprabulge area	30, 499
single die	755	standard triangulated		suprabulge clasp	501
single impression	750	language	80	supracrestal tissue	
sleep apnea syndrome	610	stent	618	attachment	637
sleeve	632	stereolithography	80	survey line	478
smile line	581	Stern G/L	506	surveying	479
smiling line	937	stethoscopy	775	surveyor	477
snort mirror	940	STL	80	swaged plate	11 295
so-called denture fibroma		stomatognathic system	181	swallowing disorder	92
	259	strap	619	swallowing method	
soft relining material	1139	stress-bearing ability	12	[of vertical relation]	96
solid working cast	519		255, 351	swallowing position	91
SPA factor	84	stress breaker	220	Swedish banana	1064
space of Donders	839	stress-breaking attachment		symptom provoking test	
speaking space	882		217		823
speech aid	621	stress-breaking retainer			
speech articulation	324		219		
speech articulation test	433	stress director	220		
speech bulb	903	stress supporting region			
speech discrimination test			351		
	433	Stuart articulator	671		
spheroid pontic	973	stud attachment	454		
spillway	840	study cast	319		
splint	627	stylus	947		
splinting	626	sublingual bar	1145		
splinting [of teeth]	1166				

t

taper	795
taper tool	477
tapering	70
tapping	748
tapping movement	749
telescopic crown	802
template	812
template for defected jaw	

	244	tongue bite	405		
temporary abutment	813	tooth and tissue-support	526		
temporary cementation	193				
temporary splinting	484	tooth and tissue-supported			
temporomandibular		denture	527		
arthralgia	174	tooth arrangement	598		
temporomandibular		tooth axis	531		
disorders	173, 179	tooth borne denture	763		
temporomandibular joint		tooth-colored material	505		
diseases	172	tooth crown axis	502		
temporomandibular joint		tooth mobility test	828		
noise	171	tooth preparation	550		
temporomandibular joint		tooth preparation in two			
radiography	170	planes	852		
Tench's core	806	tooth-support	528		
Tench's space	805	tooth-supported denture			
tentative occlusal plane	191		529		
terminal hinge axis	573	top down treatment	829		
terminal hinge axis point		torus palatinus	332		
	574	traceability	838		
terminal hinge movement		tracing plate	948		
	572	transfer cap	833		
terminal hinge position	571	transfer coping	834		
test for chewing ability	722	transfer index	832		
three fundamental anterior		transfer jig	835		
tooth contours classified		transverse horizontal axis			
by Williams	70		780		
three quarter crown	1119	traumatic occlusion	131		
tilting test	811	treatment denture	784		
tinner's joint	793	tube teeth	772		
tissue borne	859	Twin Hoby articulator	786		
tissue borne denture	860	twin-stage articulator	786		
tissue conditioner	791	two-arm clasp	854		
tissue displaceability	914	two-arm clasp with occlusal			
tissue displacement	915	rest	1163		
tissue stop	792				
TMJ articulator	671				

U

UCLA abutment	1109
unattached mucous	
membrane	207
under contour	233
undercut	30
undercut area	30
undercut gauge	31 477
unilateral balanced articula-	
tion [occlusion]	1041
unilateral bounded saddle	
denture	763
unilateral chewing	1043
unilateral extension base	
denture	1115
unilateral occlusal balance	
	1040
unloaded period	741
upper bow [of articulator]	
	579
utterance	887

V

value	1095
VE	95
velopharyngeal closure	919
vener crown	946
vertical dimension	168
vertical dimension increase	
	367
vertical mandibular position	
	604
vertical overlap	107
Verticulator	786
VF	93
vibrating line	1

videoendoscopic evaluation
of swallowing 95
videoendoscopic examina-
tion of swallowing 95
videofluorography 93

W

Walkhoff palatal ball 1181
wash impression technique
72
water swallowing test 1085
wax adaptation technique
1179
wax cone technique 1180
wax denture 1171

wax elimination 1154
wax pattern 1179
wax pattern fabrication
1179
wax trimmer 477
waxing 1179
Whip-Mix 910
wide centric articulation
(occlusion) 1177
wire clasp 662
working side 470
wrought bar 299
wrought wire clasp 662
WST 1085

X

xerostomia 340

Z

zerodegree teeth 1092
zinc oxide eugenol
impression 480
zirconia 591
zirconia block 592
zirconium oxide 591

人名索引

【日本人名】

石原寿郎	562
大石忠雄	201
尾花甚一	633
草刈 玄	509
河野正司	661
坪根政治	871
藤田恒太郎	531
保母須弥也	786
矢崎正方	397

【外国人名】

Adams	9
Akers	77
Amsterdam	536
Ante	32
Bennett	1030
Blatterfein	847, 957
Bonwill	203, 1071
Boos	395
Brill	298
Carmichael	1119
Christensen	306, 757
Clark	354
Cooperman	943
Davis	794

Denar	911
Donders	839
Duchange	801
Eichner	6
Elbrecht	90
Fisher	84
Frush	84
Gaerny	5
Gottlieb	1149
Green	291
Guichet	383, 469, 1177
Gysi	291, 378, 435, 675, 1017
Hanau	1017
Hardy	1092
Heartwell	593
Jackson	563
Jankelson	1084
Jelenko	786
Käyser	752
Kelly	452
Kennedy	316, 317
Klein	921
Körber	430, 431, 1165
Krogh-Poulsen	291
Lauritzen	384, 951, 1094
Levin	994, 999

Lott	999
Luce	762
Lundeen	1017
Manly	562
McCollum	845
Monson	389, 1106
Munsell	1083
Payne	1180
Posselt	155, 1064
Pound	1143
Roach	1015, 1152, 1175
Schuyler	989, 1176, 1177
Sears	901, 1092
Simmons	354
Snow	962
Solberg	464
Sosin	994
Spee	622
Stallard	845
Steiger	761
Stuart	911, 953
Tench	805
Thomas	1180
Watt	358
Williams	70



歯科補綴学専門用語集 第6版

ISBN978-4-263-45671-2

2001年2月20日 第1版第1刷発行
2004年10月25日 第2版第1刷発行
2009年3月10日 第3版第1刷発行
2015年2月10日 第4版第1刷発行
2019年3月25日 第5版第1刷発行
2023年5月25日 第6版第1刷発行

公益社団法人
編者 日本補綴歯科学会

発行者 白石 泰 夫

発行所 医歯薬出版株式会社

〒113-8612 東京都文京区本駒込1-7-10

TEL. (03) 5395-7638(編集)・7630(販売)

FAX. (03) 5395-7639(編集)・7633(販売)

<https://www.ishiyaku.co.jp/>

郵便振替番号 00190-5-13816

乱丁、落丁の際はお取り替えいたします

印刷・三報社印刷／製本・榎本製本

© Ishiyaku Publishers, Inc., 2001, 2023. Printed in Japan

本書の複製権・翻訳権・翻案権・上映権・譲渡権・貸与権・公衆送信権（送信可能化権を含む）・口述権は、医歯薬出版(株)が保有します。

本書を無断で複製する行為（コピー、スキャン、デジタルデータ化など）は、「私的使用のための複製」などの著作権法上の限られた例外を除き禁じられています。また私的使用に該当する場合であっても、請負業者等の第三者に依頼し上記の行為を行うことは違法となります。

JCOPY < 出版者著作権管理機構 委託出版物 >

本書をコピーやスキャン等により複製される場合は、そのつど事前に出版者著作権管理機構（電話03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail: info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。